

令和元年度
沖縄子供の貧困緊急対策事業
分析・評価・普及事業
アンケート調査報告書

令和2年3月

沖縄県

調査研究業務 受託者

公立大学法人大阪 大阪府立大学 山野則子研究室

目次

| | |
|---------------------------|-----|
| はじめに | 1 |
| I 調査概要 | 2 |
| 1. 調査の目的 | 2 |
| 2. 調査種別 | 2 |
| 3. 調査結果の提示方法 | 3 |
| 4. 調査実施主体 | 3 |
| 5. 研究者一覧 | 4 |
| 6. データの扱い | 4 |
| II 社会資源量調査 調査結果 | 5 |
| 第1章 社会資源量調査 | 6 |
| 1. 調査結果（単純集計） | 6 |
| 2. 調査結果（クロス集計） | 29 |
| 3. 調査結果（自由記述） | 69 |
| 4. 小学校区別に見た社会資源一覧 | 79 |
| III 支援状況等調査 調査結果 | 82 |
| 第2章 支援状況等調査 | 83 |
| 第1節 保護者に関する分析 | 83 |
| 第2節 子どもに関する分析 | 181 |
| IV 考察 | 281 |
| 第1章 社会資源量調査のまとめ及び考察 | 281 |
| 第2章 支援状況等調査のまとめ及び考察 | 287 |
| 1. 保護者に関する分析結果まとめ | 287 |
| 2. 子どもに関する分析結果まとめ | 294 |
| 第3章 総合総括 | 302 |
| V 資料 | 313 |
| 1. アンケート調査票 | 313 |

はじめに

子どもの貧困対策を総合的に推進するにあたり、講ずべき施策の基本となる事項およびその他事項を定めた「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が、2014年1月に施行され、さらに、「子供の貧困対策に関する大綱」が2014年8月に打ち出された。2019年6月、5年後の見直しとして、「子どもの貧困対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」が可決され、目的規定に、①子どもの「将来」だけでなく「現在」に向けた対策であること、②貧困解消に向けて、児童の権利条約の精神に則り推進すること、が追加された。また、基本理念に、①子どもの年齢等に応じて、その意見が尊重され、その最善の利益が優先考慮され、健やかに育成されること、②各施策を子どもの状況に応じ包括的かつ早期に講ずること、③貧困の背景に様々な社会的要因があることを踏まえることが示された。さらに、第14条では、国及び地方公共団体は、子どもの貧困対策を適正に策定し、及び実施するため、子どもの貧困に関する指標に関する研究その他の子どもの貧困に関する調査及び研究その他の必要な施策を講ずるものとする、とされており、2019年11月に策定された新たな大綱においても、子どもの貧困に関する指標に、本調査でも経済状況を測る指標として分析に用いたはく奪指標（山野 2019）が提示されたところである。

このように、子どもの貧困が、広く知られ社会問題化されつつある今、子どもを主語に生活を見直し、子どもの最善の利益を理念に、まさに社会の課題として引き受け、親を勇気づけられ再生できる地域共生社会の実現に進むことができる重要なタームではないかと考える。このような動きのなかで、沖縄子供の貧困緊急対策事業の事業評価は、対策の評価のモデルになり、指標の検討においても一石を投じる位置づけとなることができるであろう。

沖縄県は、1人当たりの県民所得が全国で最も低く、母子世帯の出現率が全国1位である。このように、沖縄の子どもたちを取り巻く環境は全国の中でも極めて深刻である。こうしたことを背景として、①寄り添い型支援を行う「支援員」の配置、②安心して過ごせる「居場所」の確保、が実施されることとなった。2017年度からその評価を行うべく分析を実施しており、2019年度は就学援助と社会資源量を関連させた貴重な調査となっている。

本調査では、子どもの貧困に関するタウンゼントの定義を元に Child Poverty Action Group (CPAG) が示している、①所得や資産など経済的資本 (capital) の欠如、②健康や教育など人的資本 (human capital : ヒューマンキャピタル) の欠如、③つながりやネットワークなど社会関係資本 (social capital : ソーシャルキャピタル) の欠如からなる3つの資本の欠如・欠落を基本的な枠組みとし、「沖縄子供の貧困緊急対策事業」の効果的実施に向けた貧困の把握に努めるものである。

I 調査概要

1. 調査の目的

沖縄県における、子どもの居場所を含む社会資源の整備状況を調査・集計するとともに、支援を必要とする家庭における当該社会資源の活用状況及び支援状況を把握し、今後の沖縄子供の貧困緊急対策事業の優先度等の整理に活用することを目的とする。

2. 調査種別

(1) 社会資源量調査

① 調査内容：地域において、放課後等で生活や教育等の支援を行う場所や一般的に集会場所として利用されている場所等を含む社会資源がどの程度設置されているか調査を行う。

② 調査対象

モデル市町村として下記の2か所(※)を選定し、選定した市町村の子どもの居場所を含む社会資源(の担当職員)を対象とする。

※モデル市町村概要(うるま市・糸満市) ※平成30年度10月現在

うるま市：就学援助率が沖縄県平均20.39%(平成27年度)より高い市

(人口：120,557人 面積：87.02km²)

糸満市：就学援助率が沖縄県平均20.39%(平成27年度)より低い市

(人口：60,093人 面積：46.63km²)

③ 調査実施日：令和元年11月

④ 収集方法・回収状況

調査スプレッドシート(Excel形式)を市(うるま市・糸満市)の担当者に送付し、市を通して市内の各社会資源に直接配付し、社会資源ごとに回答してもらったスプレッドシートを回収、受託者が集計した。

【うるま市】

173カ所の社会資源のうち回答の得られた社会資源は116ヶ所

(回収した116件すべて集計に使用)

(児童館：7ヶ所、学童保育：44ヶ所、放課後子ども教室：19ヶ所、地域未来塾：5ヶ所、図書館・博物館：3カ所、公民館：24ヶ所、子どもの居場所：14ヶ所、地域の集まり：0ヶ所、その他：0ヶ所)

【糸満市】

95カ所の社会資源のうち回答の得られた社会資源は77ヶ所(回収した82件のうち、無効データ5件を除いた77件を集計に使用)

(児童館：3ヶ所、学童保育：15ヶ所、放課後子ども教室：4ヶ所、地域未来塾：0ヶ所、図書館・博物館：1カ所、公民館：46ヶ所、子どもの居場所：6ヶ所、地域の集

まり：2ヶ所、その他：0ヶ所)

※上記件数は実際の施設数（実件数）ではなく、社会資源の件数（延べ件数）として集計。
（一つの施設で社会資源の種類（児童館、学童、子どもの居場所等）が複数ある場合、社会資源の種類数で集計）

（2）支援状況等調査

① 調査内容：社会資源が困窮世帯に活用されているか、その活用状況を把握する。

② 調査対象：就学援助制度を受給している世帯の児童・生徒とその保護者

※社会資源量調査と同じモデル市町村において実施

③ 調査実施日：令和元年10月～11月

④ 収集方法・回収状況

【うるま市】

市が調査票を世帯に郵送・回収し、受託者が集計。

保護者用 配付数：2,314件 回収数（回収率）：260件（11.2%）

子ども用 配付数：4,064件 回収数（回収率）：401件（9.9%）

【糸満市】

市が調査票を学校経由で配布・回収し、受託者が集計。

保護者用 配付数：557件 回収数（回収率）：234件（42.0%）

子ども用 配付数：1,040件 回収数（回収率）：413件（39.7%）

3. 調査結果の提示方法

社会資源量調査：モデル市町村ごとの調査結果を分析項目ごとに並べて提示する。

支援状況等調査：モデル市町村ごとの分析を行った場合、サンプル数の関係から有意差のある結果が得られないため、モデル市町村ごとの調査結果ではなく全体として、保護者に関する分析、子どもに関する分析の調査結果を提示する。

4. 調査実施主体

沖縄県（子ども生活福祉部子ども未来政策課）

調査研究業務受託者

公立大学法人大阪 大阪府立大学 人間社会システム科学研究科

5. 研究者一覧

| | | | | |
|-----|----------|--------|--------|-------------------|
| 担当者 | 公立大学法人大阪 | 大阪府立大学 | 教授 | 山野 則子 (業務責任者) |
| | 公立大学法人大阪 | 大阪府立大学 | 非常勤研究員 | 松田 郁乃 (主担当者) |
| | 公立大学法人大阪 | 大阪府立大学 | 非常勤研究員 | 段 杰一 |
| | 公立大学法人大阪 | 大阪府立大学 | 非常勤研究員 | 佐藤 友香(2019年10月まで) |

| | | | |
|-------|--------|---------------|------------|
| 研究補助者 | 大阪府立大学 | 人間社会システム科学研究科 | 石田 まり |
| | 大阪府立大学 | 人間社会システム科学研究科 | 田中 佑典 |
| | 大阪府立大学 | 人間社会システム科学研究科 | 福森 亜季 |
| | 大阪府立大学 | 工学域 物質科学系学類 | 平井 大輝 |
| | 大阪府立大学 | 山野則子研究室 | 事務補助員 菅原 恵 |

6. データの扱い

本報告書のデータについては、「I. 調査概要」で述べた方法で収集したものである。調査票では、保護者用 33 問 (子ども 3 人分の回答設問含む)、子ども用 20 問を調査項目として設計した。なお、報告書においてはパーセンテージを用いて記述する。この中で、パーセンテージで示される数値同士の加・減・除を行う (合計する、差を把握する、何倍かに着目する) ことがあるが、実際に示された数値で算出しても結果が異なる場合がある。これは、示されている数値は小数点第二位以下を四捨五入しているものであり、算出には四捨五入前の厳密な数値を用いていることによるものである。

また、データ入力の関係上、保護者に関する分析のうち経済状況、社会資源の利用状況別にみたクロス分析、子どもに関する分析のうち経済状況、世帯状況、社会資源の利用状況別にみたクロス分析では無回答を除いた割合を算出している (多重回答項目は除く)。

II 社会資源量調査 調査結果

第1章 社会資源量調査

1. 調査結果（単純集計）

（1）社会資源の種類

回答して頂く事業・機関の種類について、下記の番号の中から選び、あてはまる番号の欄に「1」を入力してください。

【うるま市】

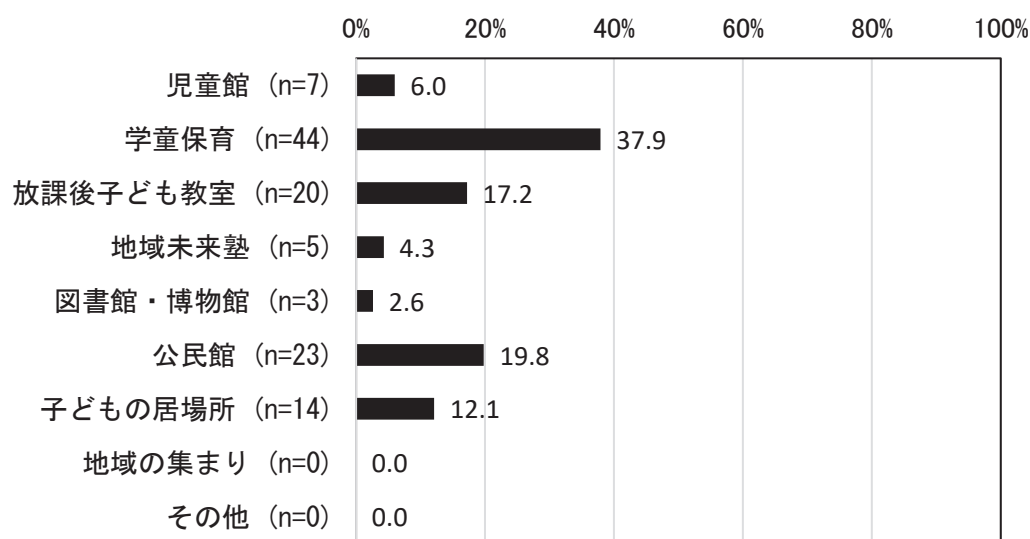


図1 社会資源の種類（うるま市）

うるま市における社会資源の種類を見ると、「学童保育」が37.9%ともっとも多く、次いで「公民館」が19.8%、「放課後子ども教室」が17.2%となっている。また、今回の調査では「地域の集まり」及び「その他」に回答した社会資源は見られなかった。

【糸満市】

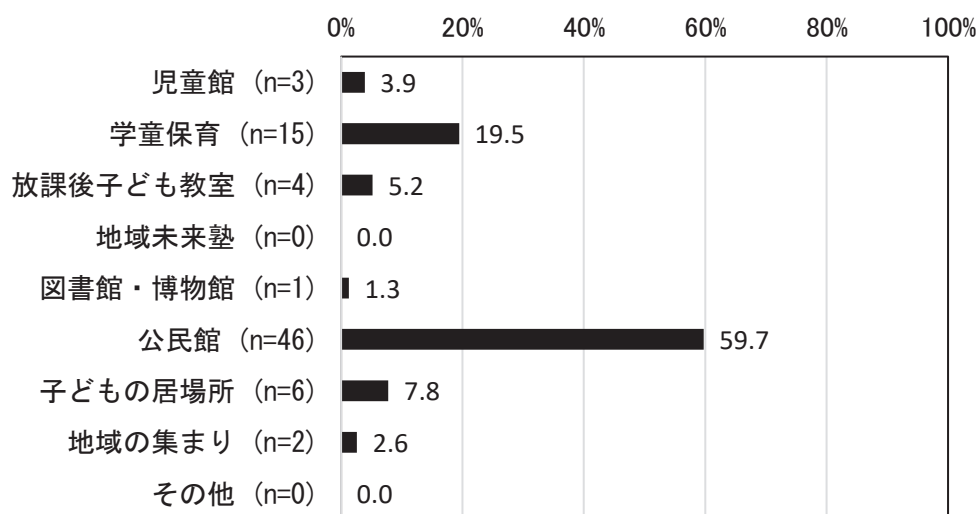


図 2 社会資源の種類（糸満市）

糸満市における社会資源の種類を見ると、「公民館」が 59.7%と最も多く、次いで「学童保育」が 19.5%、「子どもの居場所」が 7.8%となっている。また、今回の調査では「地域未来塾」及び「その他」に回答した社会資源は見られなかった。

(2) 対象者

問2-1) 事業・機関の対象者について、下記の番号の中から選び、あてはまる番号の欄に「1」を入力してください。(複数回答可)

問2-2) 事業・機関の対象者に関して問2-1の対象者以外に、対象世帯を特定している場合は、下記の番号の中から選び、あてはまる番号の欄に「1」を入力してください。(複数回答可)

【うるま市】

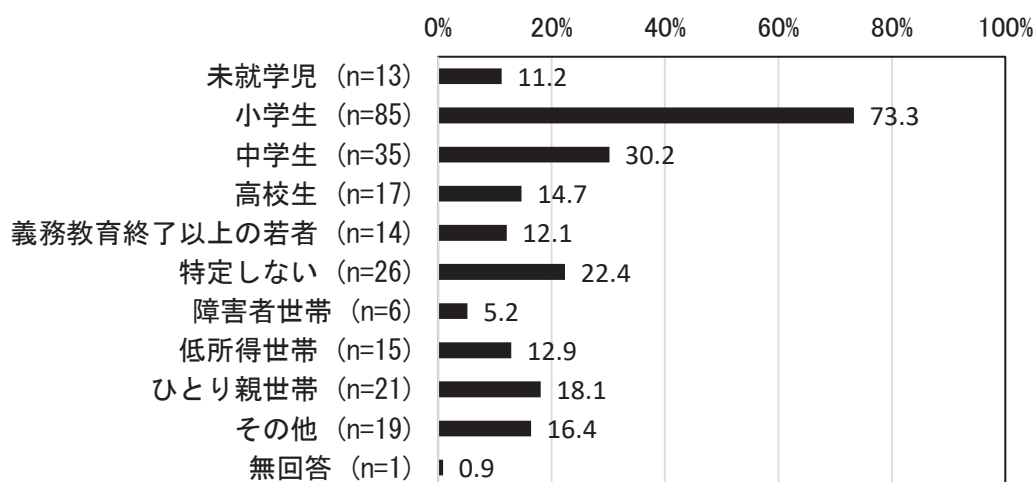


図 3 対象者 (うるま市)

うるま市における社会資源の対象者を見ると、「小学生」が73.3%ともっとも多く、次いで「中学生」が30.2%、「特定しない」が22.4%となっている。

また、対象を特定している世帯としては、「ひとり親世帯」が18.1%ともっとも多く、「障害者世帯」が5.2%ともっとも低い割合となっている。

【糸満市】

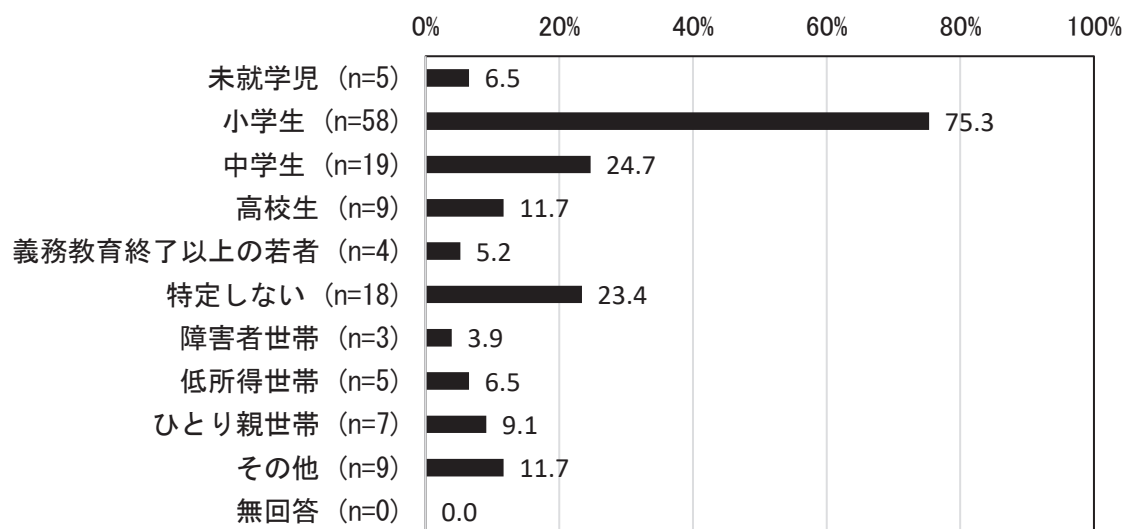


図 4 対象者（糸満市）

糸満市における社会資源の対象者を見ると、「小学生」が75.3%ともっとも多く、次いで「中学生」が24.7%、「特定しない」が23.4%となっている。

また、対象を特定している世帯としては、「その他」が11.7%ともっとも多く、「障害者世帯」が3.9%ともっとも低い割合となっている。

(3) 対象エリア

i. 対象エリアの有無

問3-1) 事業・機関がサービスの対象と想定しているエリアの有無について、あてはまる番号の欄に「1」を入力してください。エリアがある場合は、そのエリアを対象とする理由もお答えください。

【うるま市】

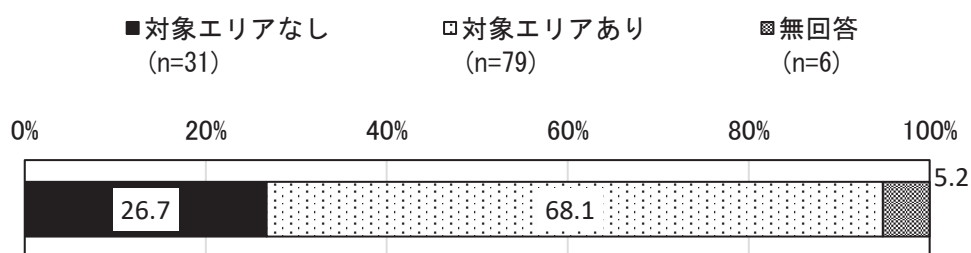


図 5 対象エリアの有無 (うるま市)

うるま市における社会資源の対象エリアの有無を見ると、「対象エリアあり」が68.1%に対して、「対象エリアなし」が26.7%となり、対象エリアがある社会資源が、対象エリアがない社会資源より高い割合となっている。

【糸満市】

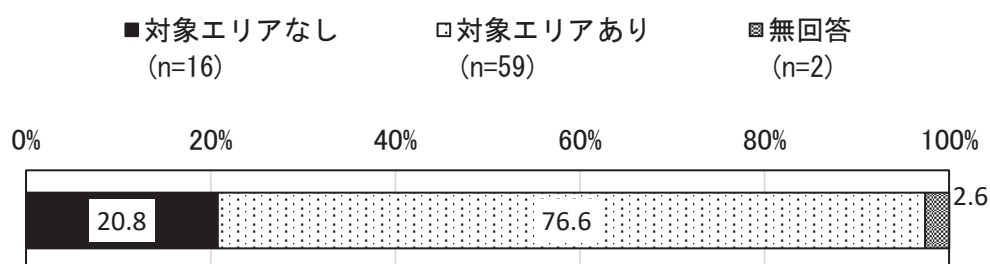


図 6 対象エリアの有無 (糸満市)

糸満市における社会資源の対象エリアの有無を見ると、「対象エリアあり」が76.6%に対して、「対象エリアなし」が20.8%となり、対象エリアがある社会資源が、対象エリアがない社会資源より高い割合となっている。

ii. 対象エリアの範囲

問3-2) 問3-1で対象とするエリアがある場合は、エリアの範囲について、下記の番号の中から選び、あてはまる番号の欄に「1」を入力してください。(市内全域より対象エリアが広い場合は、「④市内全域」を選択してください。)

【うるま市】

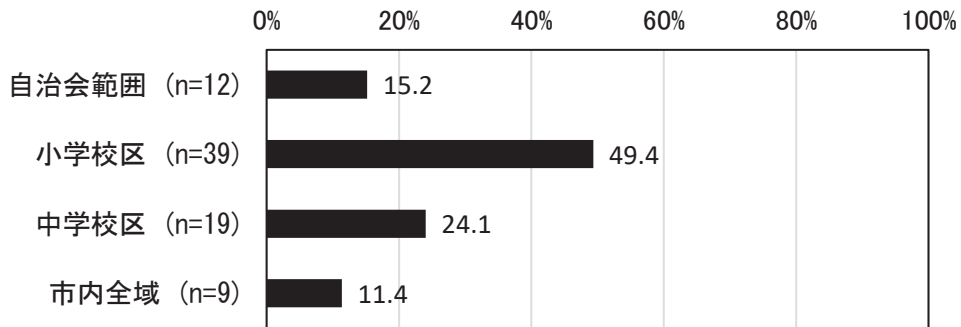


図 7 対象エリアの範囲 (うるま市)

うるま市における社会資源の対象エリアの範囲を見ると、「小学校区」が49.4%と最も多く、次いで「中学校区」が24.1%、「自治会範囲」が15.2%となっている。また、「市内全域」が11.4%と最も低い割合となっている。

【糸満市】

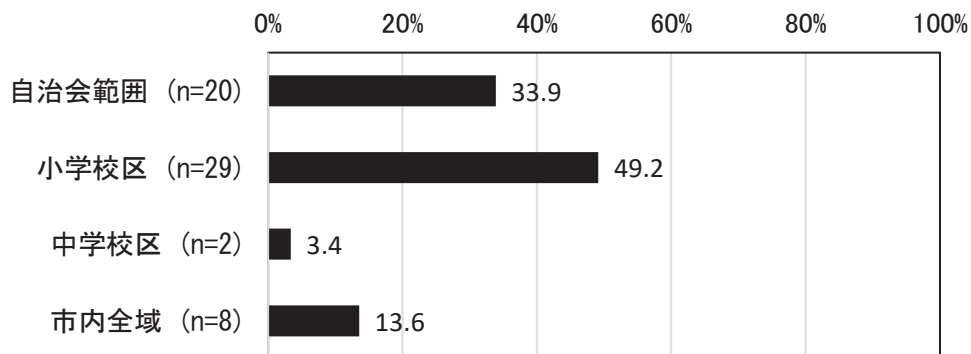


図 8 対象エリアの範囲 (糸満市)

糸満市における社会資源の対象エリアの範囲を見ると、「小学校区」が49.2%と最も多く、次いで「自治会範囲」が33.9%、「市内全域」が13.6%となっている。また、「中学校区」が3.4%と最も低い割合となっている。

(4) 送迎サービスの有無

問3-3) 事業・機関を利用するための送迎サービスについて、あてはまる番号の欄に「1」を入力してください。

【うるま市】

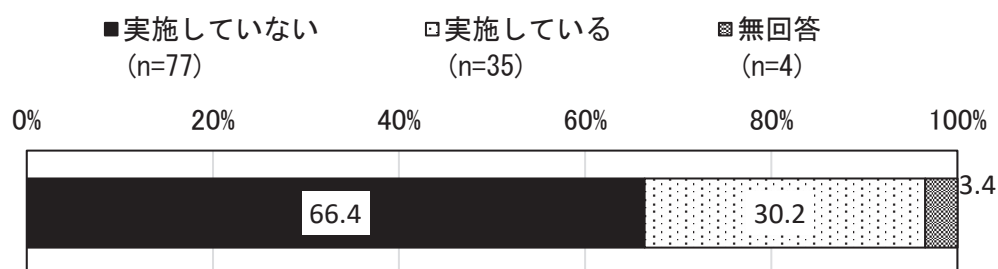


図 9 送迎サービスの有無 (うるま市)

うるま市における社会資源の送迎サービスの有無を見ると、「実施していない」が66.4%に対して、「実施している」が30.2%となり、送迎サービスを実施していない社会資源の方が実施している社会資源より高い割合となっている。

【糸満市】

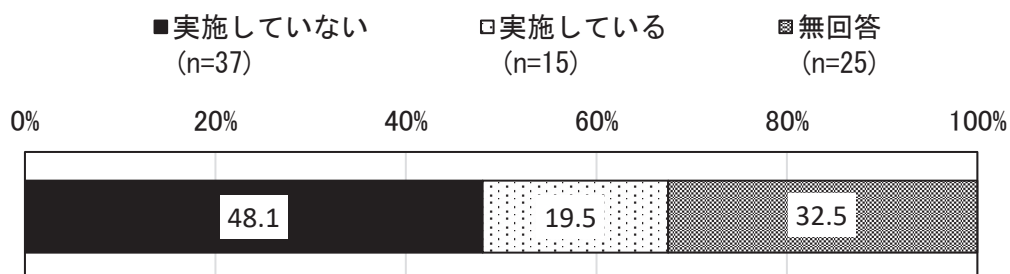


図 10 送迎サービスの有無 (糸満市)

糸満市における社会資源の送迎サービスの有無を見ると、「実施していない」が48.1%に対して、「実施している」が19.5%となり、送迎サービスを実施していない社会資源の方が実施している社会資源より高い割合となっている。

(5) 開設状況

i. 開設頻度

問4-1) 事業・機関の開設頻度について、あてはまる番号の欄に「1」を入力してください。

【うるま市】

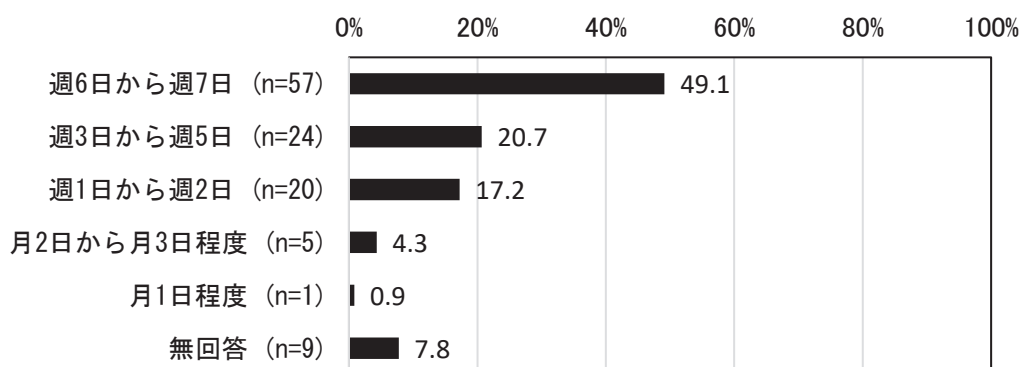


図 11 開設頻度 (うるま市)

うるま市における社会資源の開設頻度を見ると、「週6日から週7日」が49.1%ともっとも多く、次いで「週3日から週5日」が20.7%、「週1日から週2日」が17.2%となっている。また、「月1日程度」が0.9%ともっとも低い割合となっており、開設頻度が多くなるほど回答割合が高くなっている。

【糸満市】

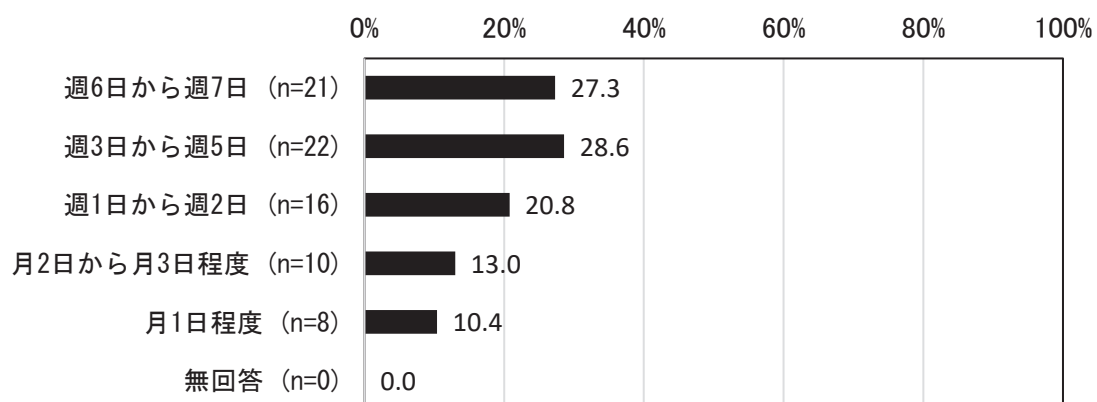


図 12 開設頻度（糸満市）

糸満市における社会資源の開設頻度を見ると、「週3日から週5日」が28.6%ともっとも多く、次いで「週6日から週7日」が27.3%、「週1日から週2日」が20.8%となっている。また、「月1日程度」が10.4%ともっとも低い割合となっている。

ii. 開設日

問4-2) 事業・機関の開設日について、あてはまる番号の欄に「1」を入力してください。
(複数回答可)

【うるま市】

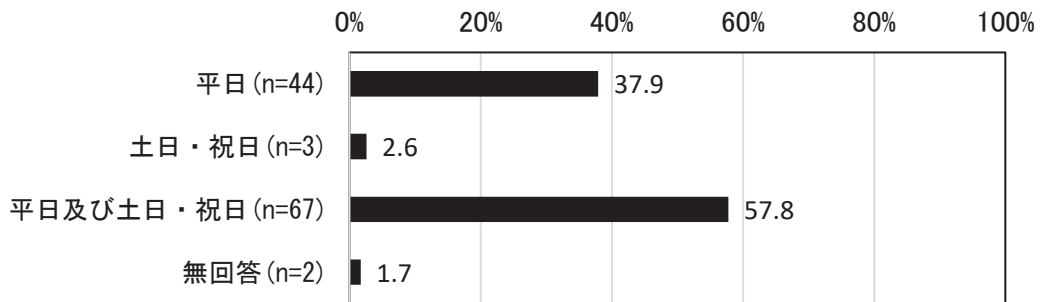


図 13 開設日 (うるま市)

うるま市における社会資源の開設日を見ると、「平日及び土日・祝日」が57.8%ともっとも多く、次いで「平日」が37.9%となっている。また、「土日・祝日」が2.6%ともっとも低い割合となっている。

【糸満市】

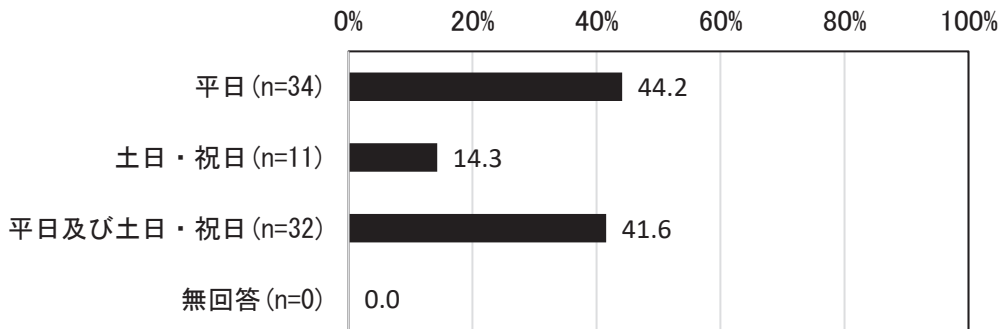


図 14 開設日 (糸満市)

糸満市における社会資源の開設日を見ると、「平日」が44.2%ともっとも多く、次いで「平日及び土日・祝日」が41.6%となっている。また、「土日・祝日」が14.3%ともっとも低い割合となっている。

iii. 開設時間

問4-3) 事業・機関の開設日の時間帯について、あてはまる番号の欄に「1」を入力してください。(複数回答可)

【うるま市】

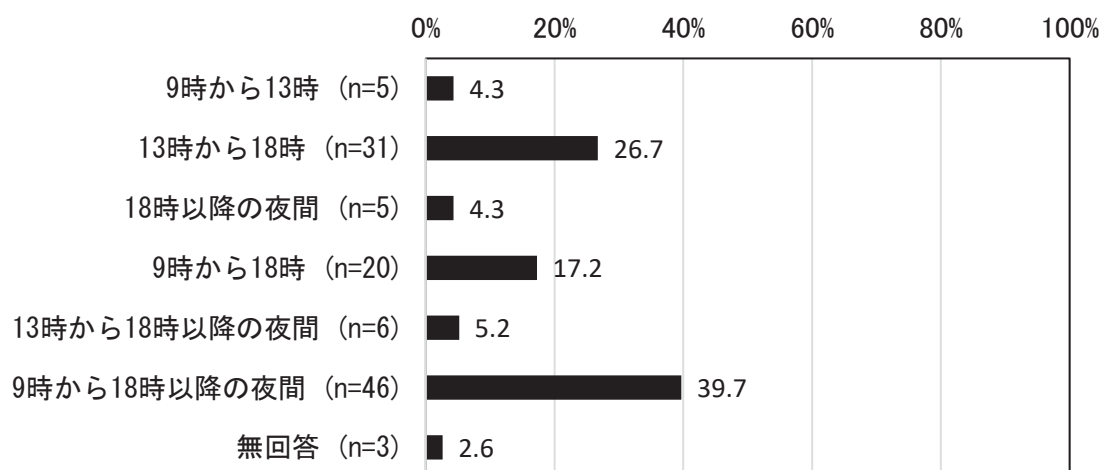


図 15 開設時間 (うるま市)

うるま市における社会資源の開設時間を見ると、「9時から18時以降の夜間」が39.7%ともっとも多く、次いで「13時から18時」が26.7%となっている。また、「9時から13時」及び「18時以降の夜間」が4.3%ともっとも低い割合となっており、朝から夜間の時間帯で開設している社会資源の割合が高いことがわかる。

【糸満市】

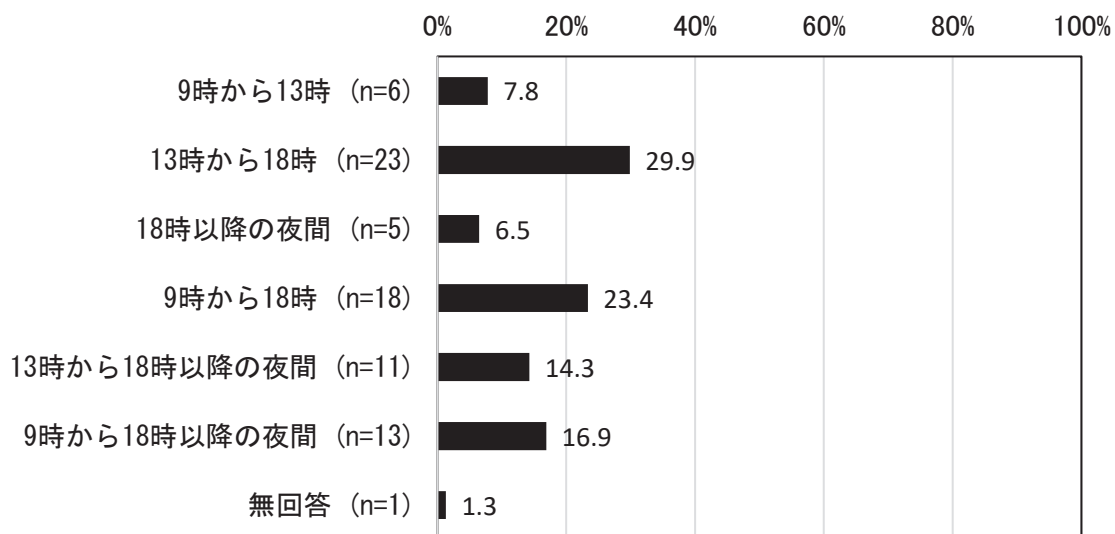


図 16 開設時間（糸満市）

糸満市における社会資源の開設時間を見ると、「13時から18時」が29.9%ともっとも多く、次いで「9時から18時」が23.4%となっている。また、「18時以降の夜間」が6.5%ともっとも低い割合となっており、午後から夕方時間帯で開設している社会資源の割合が高いことがわかる。

(6) 定員

i. 定員の有無

問5) 事業・機関を利用する際に想定される子どもの定員の有無について、あてはまる番号の欄に「1」を入力してください。

【うるま市】

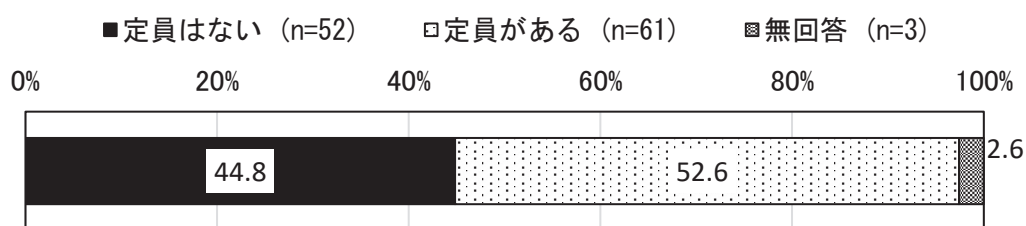


図 17 定員の有無（うるま市）

うるま市における社会資源の定員の有無を見ると、「定員がある」が 52.6%に対して、「定員はない」が 44.8%となり、定員を設定している社会資源の方が定員を設定していない社会資源より高い割合となっている。

【糸満市】

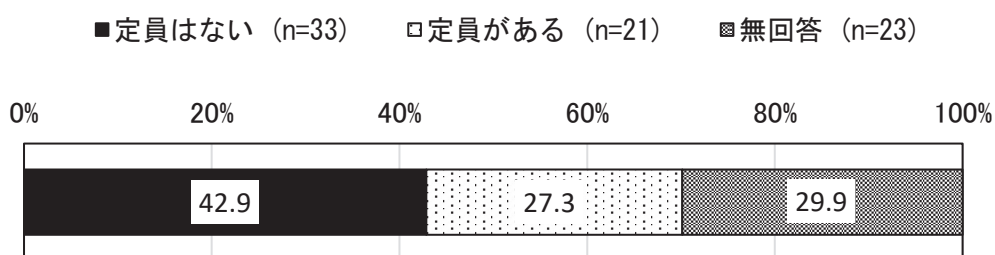


図 18 定員の有無（糸満市）

糸満市における社会資源の定員の有無を見ると、「定員はない」が 42.9%に対して、「定員がある」が 27.3%となり、定員を設定していない社会資源の方が定員を設定している社会資源より高い割合となっている。

ii. 定員数

問5) 定員がある場合は人数もお答えください。

【うるま市】

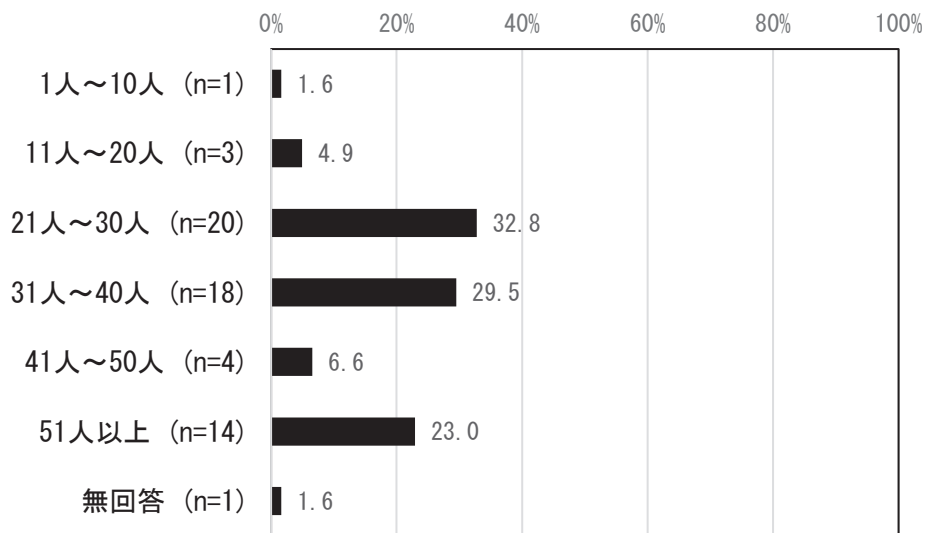


図 19 定員数 (うるま市)

うるま市における社会資源の定員数を10人ごとに分類して見ると、「21人～30人」が32.8%ともっとも多く、次いで「31人～40人」が29.5%、「51人以上」が23.0%となっている。また、「1人～10人」が1.6%ともっとも低い割合となっている。定員数の最大値は117名で、最小値は5名となっている。

【糸満市】

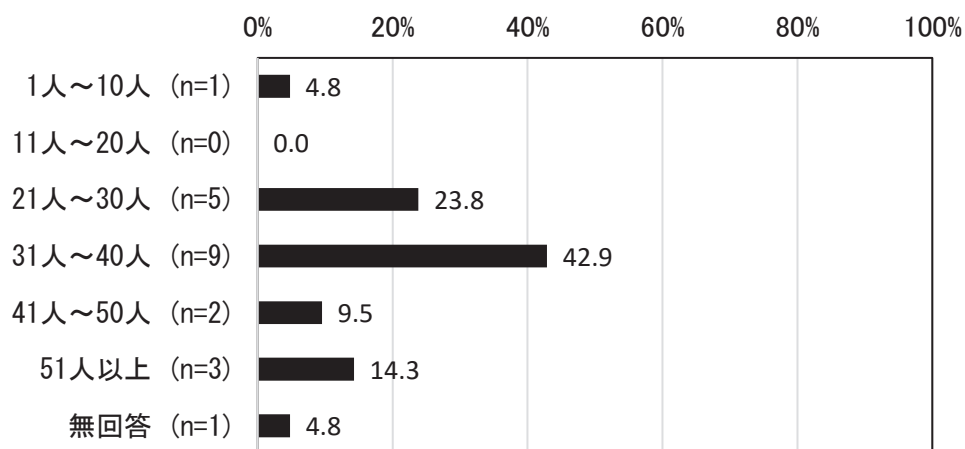


図 20 定員数（糸満市）

糸満市における社会資源の定員数を10人ごとに分類して見ると、「31人～40人」が42.9%ともっとも多く、次いで「21人～30人」が23.8%、「51人以上」が14.3%となっている。また、「11人～20人」が0%となっている。定員数の最大値は79名で、最小値は10名となっている。

(7) 一日当たりの平均利用人数

問6) 事業・機関の2019年4月から9月までの一日当たりの子どもの平均利用人数をお答えください。

【うるま市】

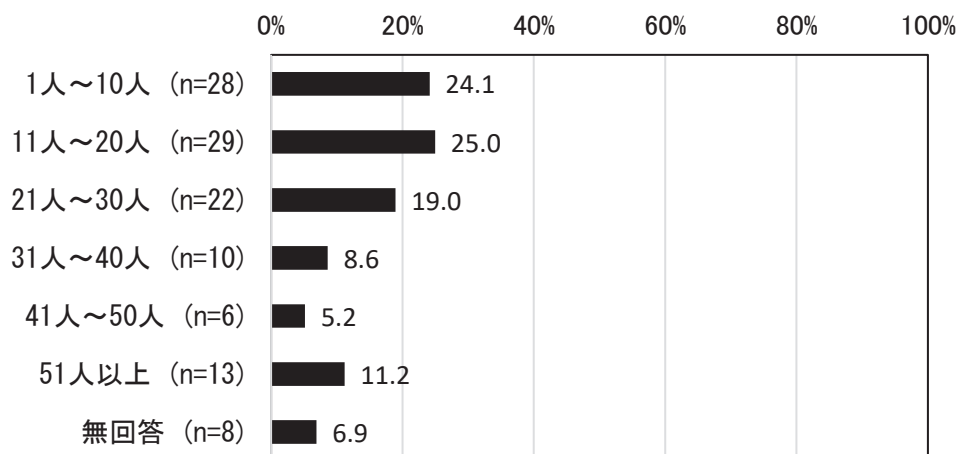


図 21 一日当たりの平均利用人数 (うるま市)

うるま市における社会資源の一日当たりの平均利用人数を10人ごとに分類して見ると、「11人～20人」が25.0%ともっとも多く、次いで「1人～10人」が24.1%、「21人～30人」が19.0%となっている。また、「41人から50人」が5.2%ともっとも低い割合となっている。一日当たりの平均利用人数の最大値は90名で、最小値は2名となっている。

【糸満市】

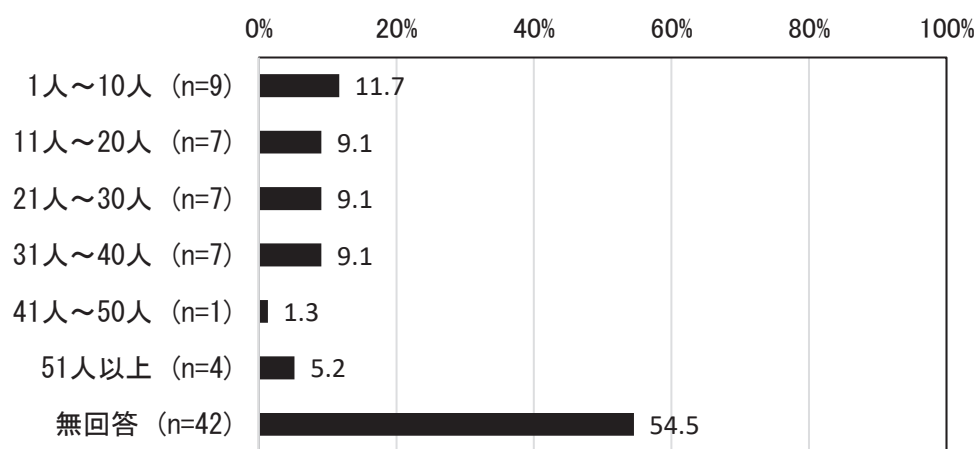


図 22 一日当たりの平均利用人数（糸満市）

糸満市における社会資源の一日当たりの平均利用人数を10人ごとに分類して見ると、「1人～10人」が11.7%ともっとも多く、次いで「11人～20人」、「21人～30人」、「31人～40人」が同率で9.1%となっている。また、「41人から50人」が1.3%ともっとも低い割合となっている。一日当たりの平均利用人数の最大値は75名で、最小値は0名となっている。

(8) 利用料

i. 利用料の有無

問7-1) 事業・機関を利用する際の利用料の有無について、あてはまる番号の欄に「1」を入力してください。

【うるま市】

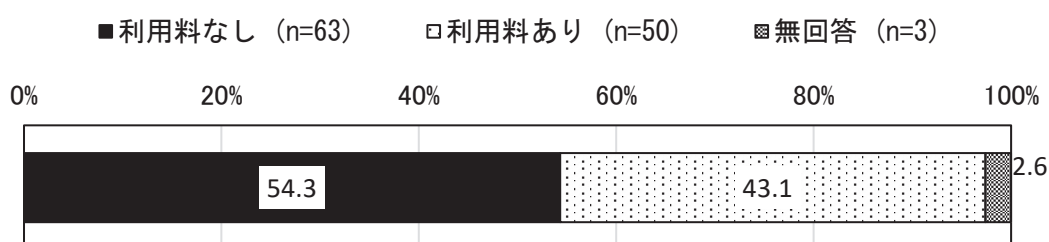


図 23 利用料の有無 (うるま市)

うるま市における社会資源の利用料の有無を見ると、「利用料なし」が 54.3%に対して、「利用料あり」が 43.1%となり、利用料がない社会資源は利用料がある社会資源より高い割合となっている。

【糸満市】

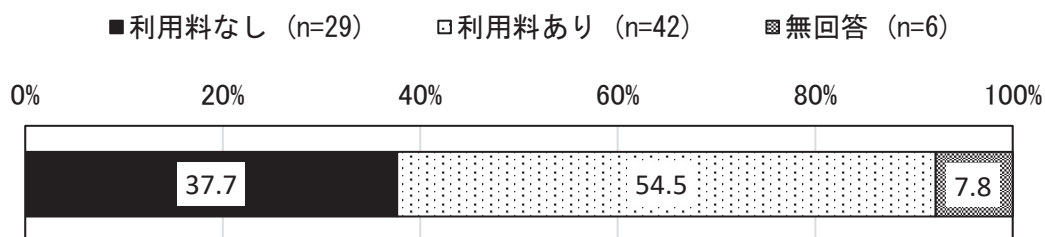


図 24 利用料の有無 (糸満市)

糸満市における社会資源の利用料の有無を見ると、「利用料あり」が 54.5%に対して、「利用料なし」が 37.7%となり、利用料がある社会資源は利用料がない社会資源より高い割合となっている。

ii. 利用料の妥当性

問7-2) 事業・機関を利用する際に利用料がある場合は、その金額が利用者にとって妥当だと思う場合はさらに‘金額の妥当性’欄に「1」を入力してください。

【うるま市】

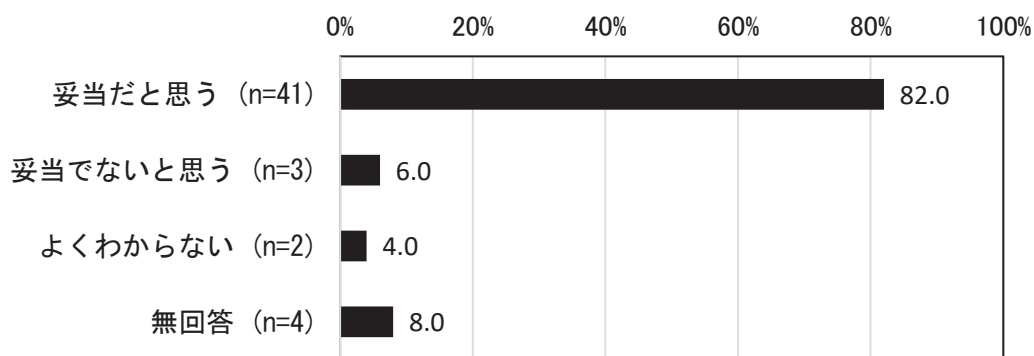


図 25 利用料の妥当性 (うるま市)

うるま市における社会資源の利用料の妥当性を見ると、「妥当だと思う」が82.0%ともっとも多く、次いで「妥当でないと思う」が6.0%となっている。利用料の妥当性に関しては、8割以上の社会資源において妥当だと考えられていることがわかる。

【糸満市】

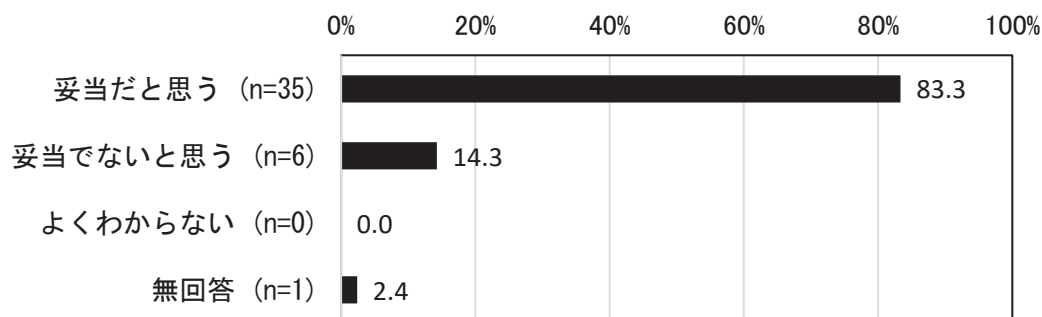


図 26 利用料の妥当性 (糸満市)

糸満市における社会資源の利用料の妥当性を見ると、「妥当だと思う」が83.3%ともっとも多く、次いで「妥当でないと思う」が14.3%、「よくわからない」が0%となっている。利用料の妥当性に関しては、8割以上の社会資源において妥当だと考えられていることがわかる。

(9) 提供サービス

i. 提供サービスの内容

問8) 事業・機関が提供しているサービスについて、下記の番号の中から選び、あてはまる番号の欄に「1」を入力してください。(複数回答可)

【うるま市】

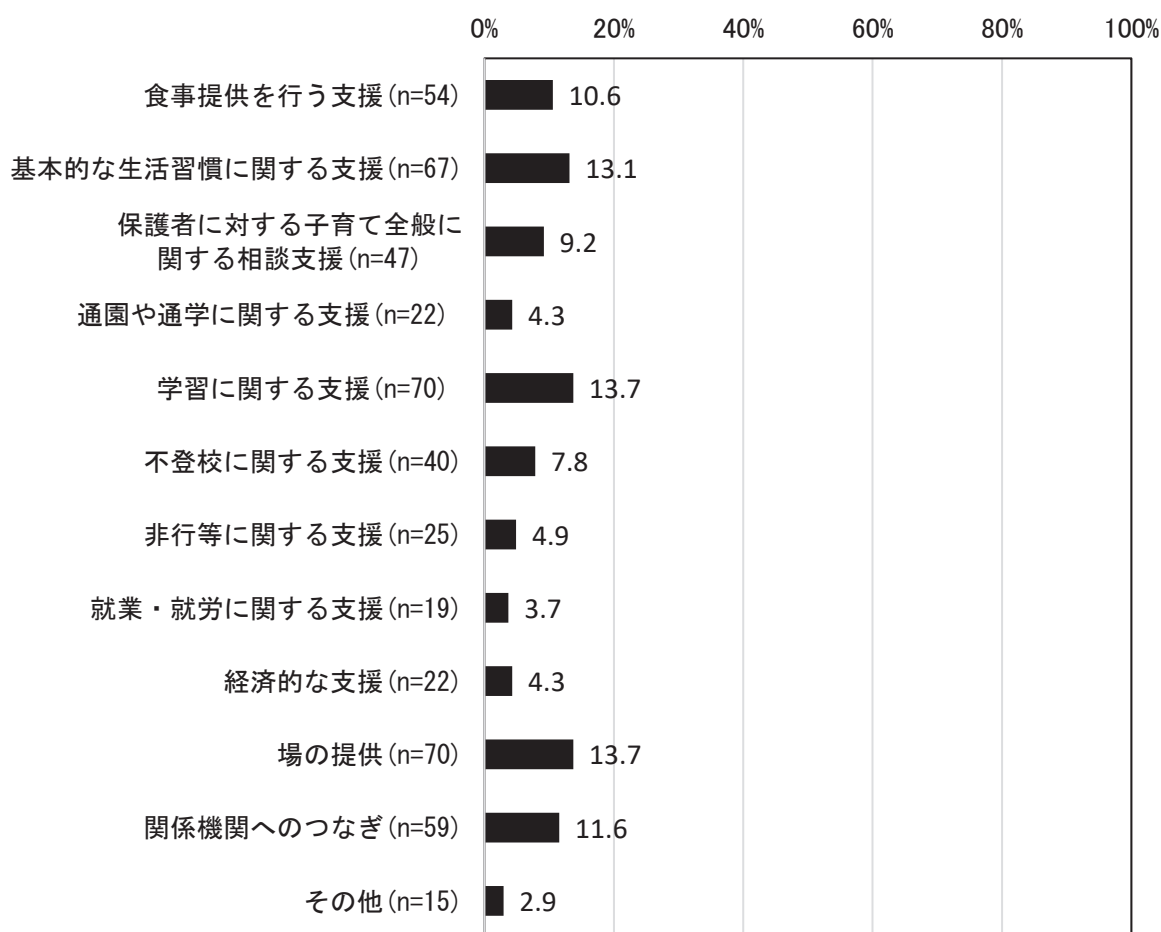


図 27 提供サービスの内容 (うるま市)

うるま市における社会資源の提供サービスの内容を見ると、「学習に関する支援」、「場の提供」が同率で、13.7%ともっとも多く、次いで「基本的な生活習慣に関する支援」が13.1%、「関係機関へのつなぎ」が11.6%となっている。また、「その他」を除くと「就業・就労に関する支援」が3.7%ともっとも低い割合となっている。

【糸満市】

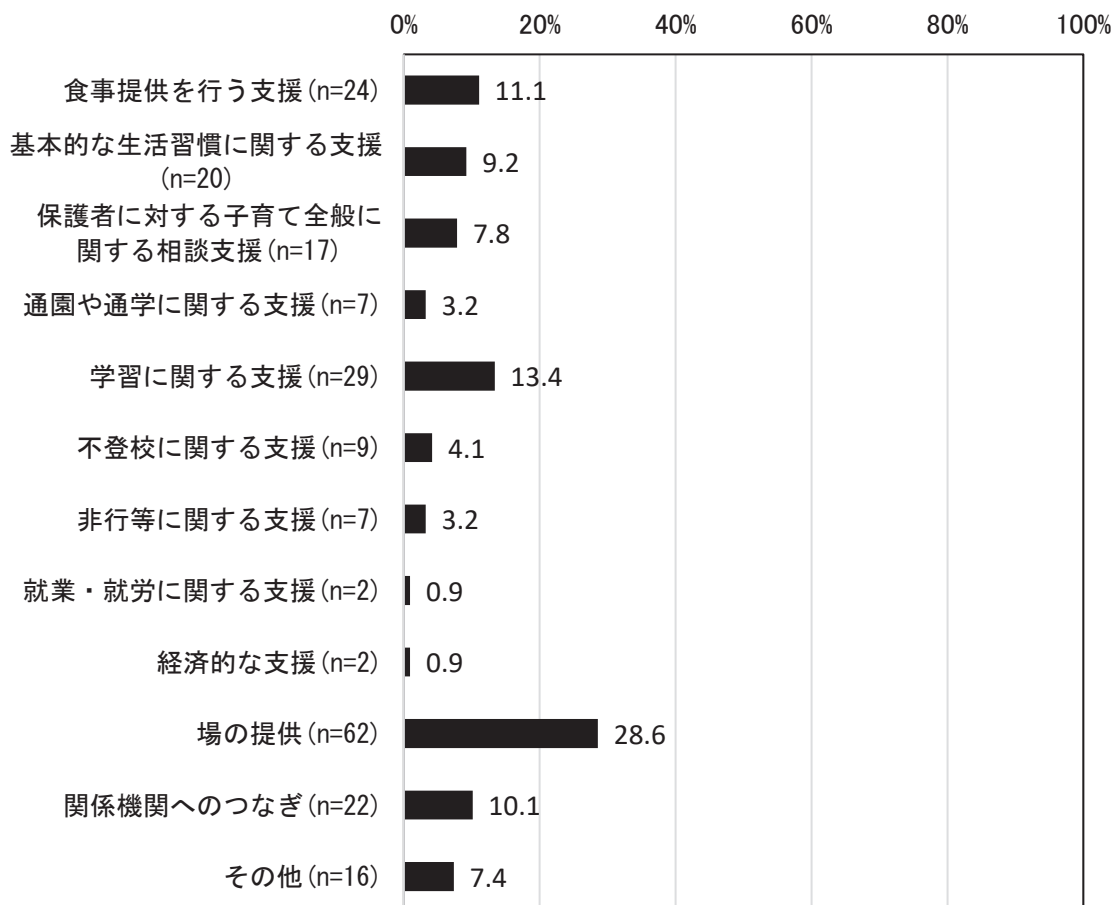


図 28 提供サービスの内容（糸満市）

糸満市における社会資源の提供サービスの内容を見ると、「場の提供」が28.6%ともっとも多く、次いで「学習に関する支援」が13.4%、「食事提供を行う支援」が11.1%となっている。また、「就業・就労に関する支援」、「経済的な支援」が同率で0.9%ともっとも低い割合となっている。

ii. サービス実施に対する評価（4段階）

問9) 問8の事業・機関が提供しているサービスが十分に実施されていると思いますか。問8で回答したそれぞれのサービスについて、以下の4段階の中から評価し、あてはまる数字を問8の番号に沿った①～⑫の下に入力してください。

【うるま市】

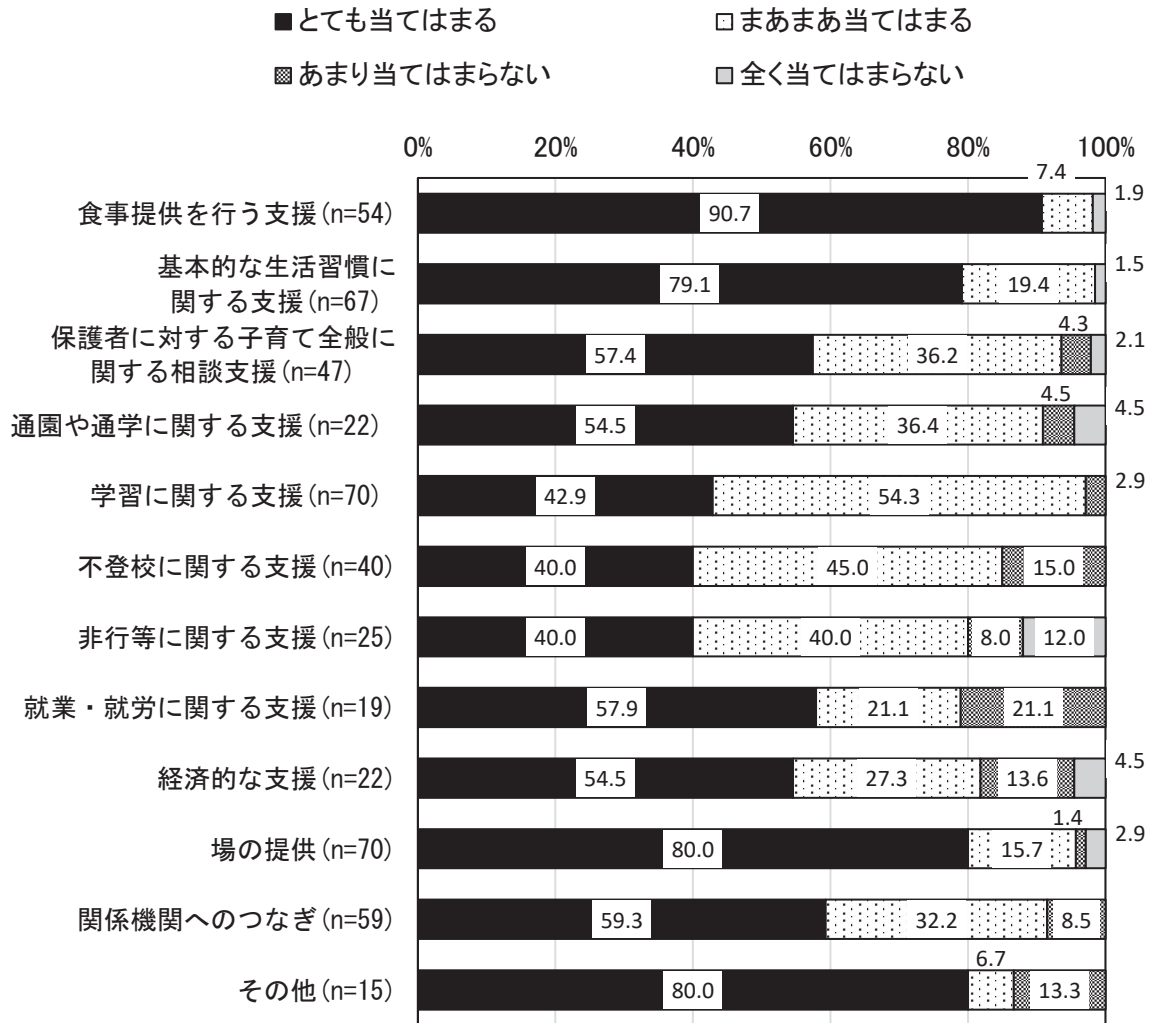


図 29 サービス実施に対する評価（うるま市）

うるま市における社会資源のサービス実施に対する評価（4段階）を見ると、「就業・就労に関する支援」を除きすべての社会資源の種類において、「とても当てはまる」または「まあまあ当てはまる」と回答した割合が8割以上を占めている。「就業・就労に関する支援」においても、「とても当てはまる」または「まあまあ当てはまる」と回答した割合が79.0%となっており、うるま市における社会資源のサービス実施に対しては回答の得られたすべての社会資源においておおむね高い評価となっていることがわかる。

【糸満市】

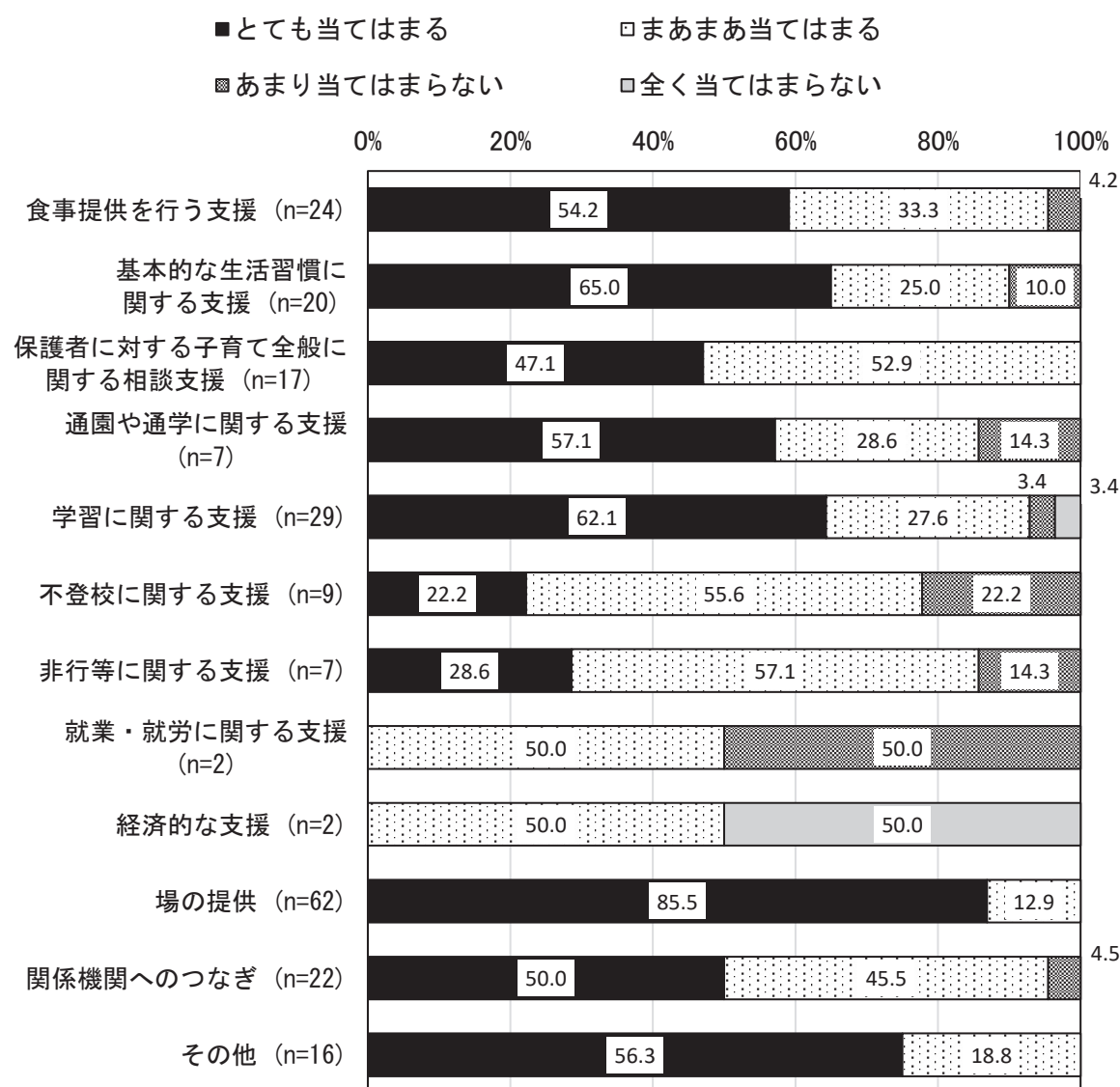


図 30 サービス実施に対する評価（糸満市）

糸満市における社会資源のサービス実施に対する評価（4段階）を見ると、「不登校に関する支援」、「就業・就労に関する支援」、「経済的な支援」を除く社会資源において、「とても当てはまる」または「まあまあ当てはまる」と回答した割合が8割以上を占めている。「不登校に関する支援」では「とても当てはまる」または「まあまあ当てはまる」と回答した割合が77.8%となっている。「就業・就労に関する支援」では「あまり当てはまらない」と回答した社会資源が1件、「経済的な支援」では「全く当てはまらない」と回答した社会資源が1件ずつ見られた。

2. 調査結果（クロス集計）

（1）対象者別に見た社会資源の種類（問0×問2-1, 2-2）

【うるま市】

※社会資源のうち、「地域の集まり」及び「その他」は回答件数が0件のため、グラフには提示していない。

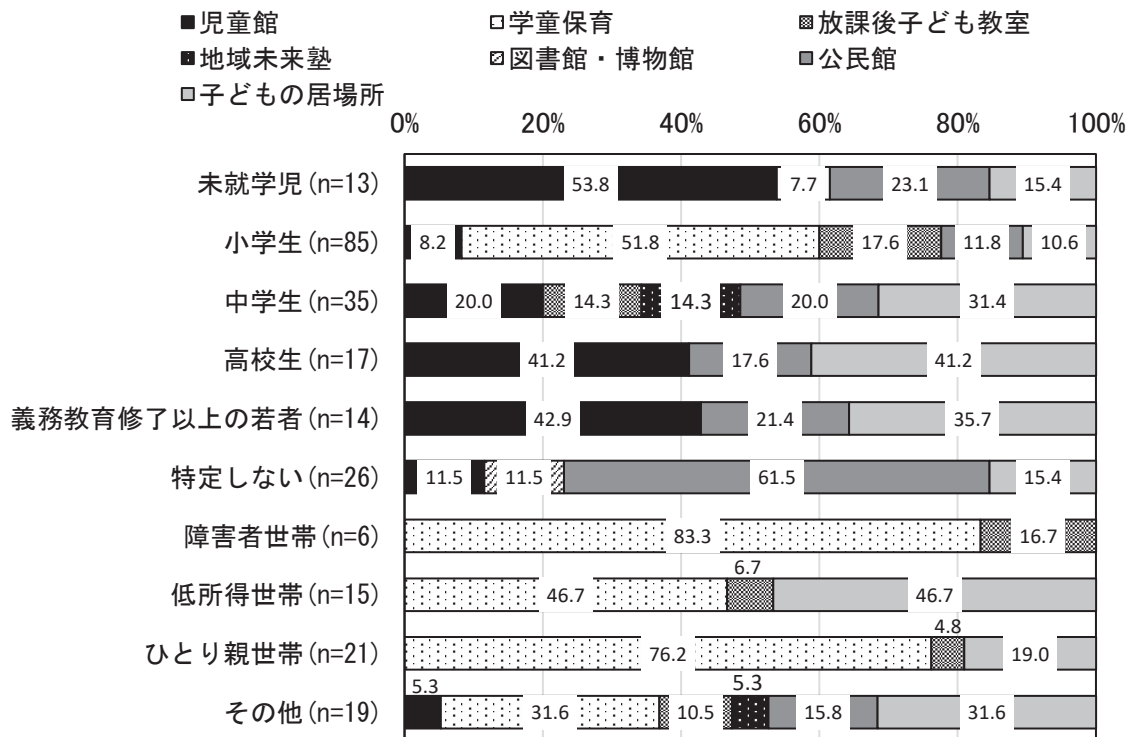


図 31 対象者別に見た社会資源の種類（うるま市）

うるま市において対象者別に社会資源の種類割合を見ると、「未就学児」を対象としている社会資源のうち「児童館」が53.8%でもっとも高く、「小学生」を対象としている社会資源では「学童保育」が51.8%、「中学生」を対象とする社会資源では「子どもの居場所」が31.4%、「高校生」を対象とする社会資源では「児童館」及び「子どもの居場所」が41.2%でもっとも高い割合となっている。さらに、「義務教育修了以上の若者」を対象とする社会資源では「児童館」が42.9%でもっとも割合が高く、対象を「特定しない」社会資源では「公民館」が61.5%となっている。

また、「障害者世帯」を対象とする社会資源では「学童保育」が83.3%、「低所得世帯」を対象とする社会資源では「学童保育」及び「子どもの居場所」が46.7%、「ひとり親世帯」を対象とする社会資源では「学童保育」が76.2%、「その他」を対象とする社会資源では「学童保育」及び「子どもの居場所」が31.6%で、それぞれもっとも高い割合となっている。

【糸満市】

※社会資源のうち、「地域未来塾」及び「その他」は回答件数が0件のため、グラフには提示していない。

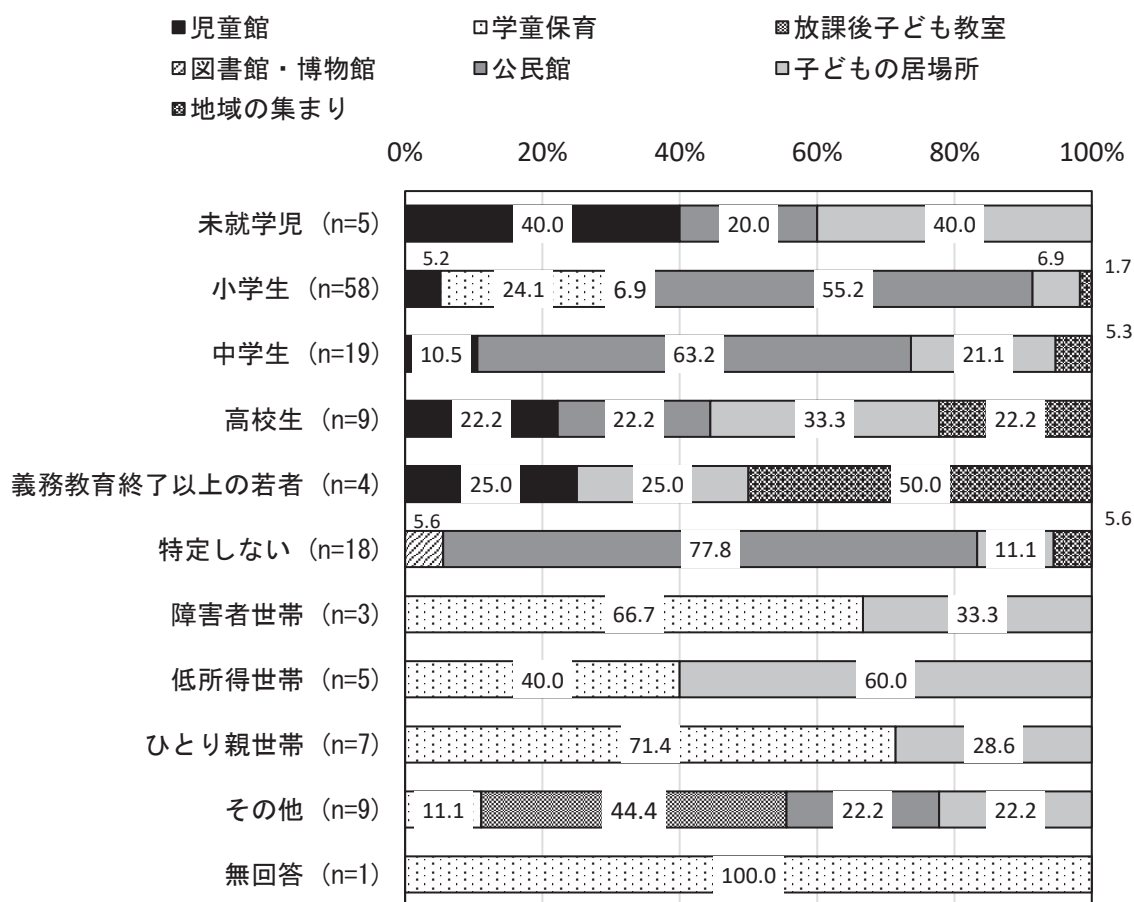


図 32 対象者別に見た社会資源の種類（糸満市）

糸満市において対象者別に社会資源の種類の割合を見ると、「未就学児」を対象としている社会資源のうち「児童館」及び「子どもの居場所」が40.0%でもっとも高く、「小学生」を対象としている社会資源では「公民館」が55.2%、「中学生」を対象とする社会資源では「公民館」が63.2%、「高校生」を対象とする社会資源では「子どもの居場所」が33.3%でもっとも高い割合となっている。さらに、「義務教育終了以上の若者」を対象とする社会資源では「地域の集まり」が50.0%でもっとも割合が高く、対象を「特定しない」社会資源では「公民館」が77.8%となっている。

また、「障害者世帯」を対象とする社会資源では「学童保育」が66.7%、「低所得世帯」を対象とする社会資源では「子どもの居場所」が60.0%、「ひとり親世帯」を対象とする社会資源では「学童保育」が71.4%、「その他」を対象とする社会資源では「放課後子ども教室」が44.4%で、それぞれもっとも高い割合となっている。

(2) 社会資源の種類別に見た対象エリア (問0×問3-1、問3-2)

i. 社会資源の種類別に見た対象エリアの有無

【うるま市】

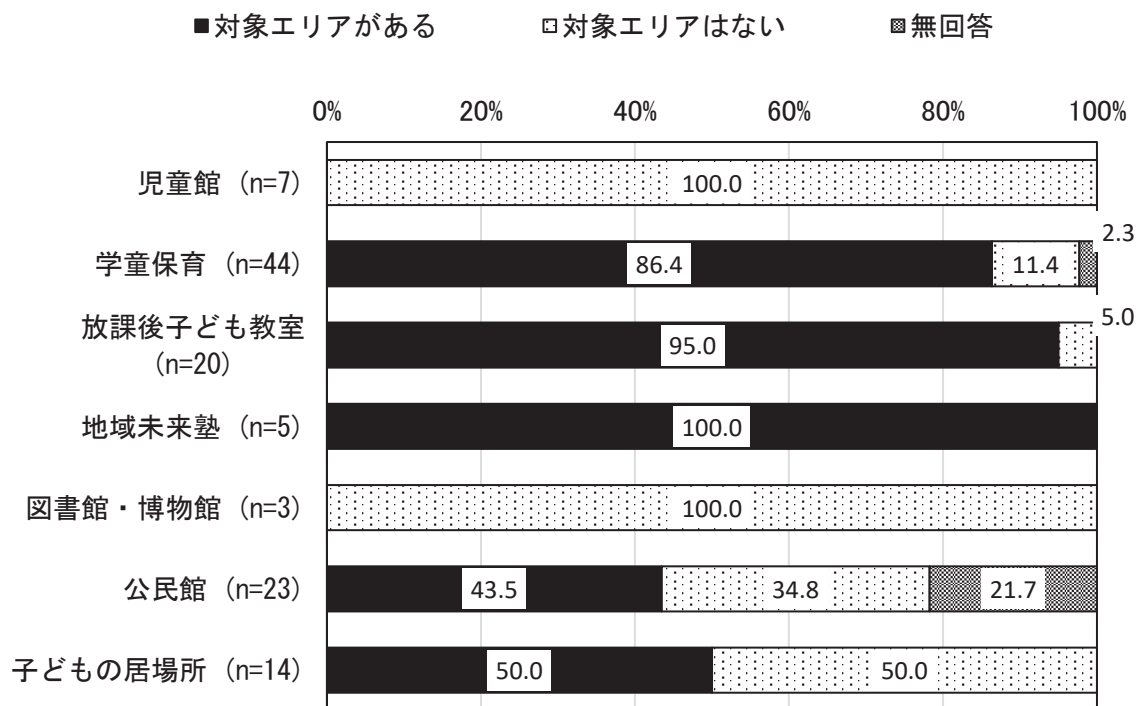


図 33 社会資源の種類別に見た対象エリアの有無 (うるま市)

うるま市において社会資源の種類別に対象エリアの有無を見ると、「児童館」及び「図書館・博物館」においては「対象エリアはない」の割合が100%となっている。対象エリアを設定している社会資源を見ると、「地域未来塾」が100%ともっとも割合が高く、次いで「放課後子ども教室」が95.0%、「学童保育」が86.4%となっている。

【糸満市】

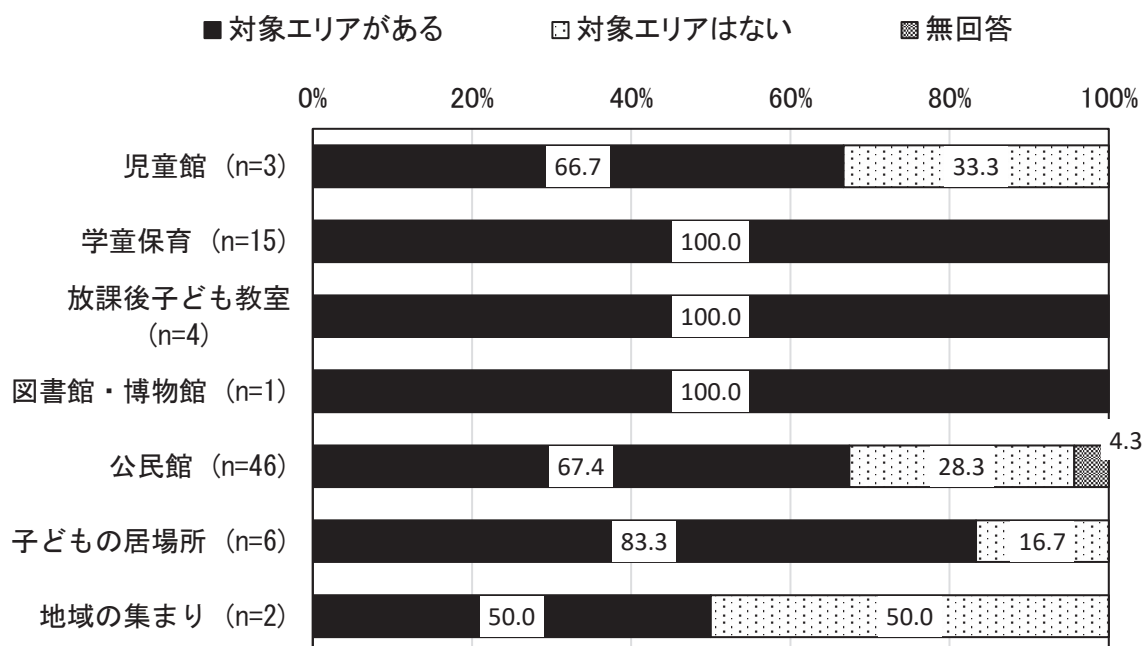


図 34 社会資源の種類別に見た対象エリアの有無（糸満市）

糸満市において社会資源の種類別に対象エリアの有無を見ると、対象エリアを設定している社会資源のうち、「学童保育」、「放課後子ども教室」、「図書館・博物館」が100%でもっとも割合が高く、次いで「子どもの居場所」が83.3%、「公民館」が67.4%となっている。

ii. 社会資源の種類別に見た対象エリアの範囲

【うるま市】

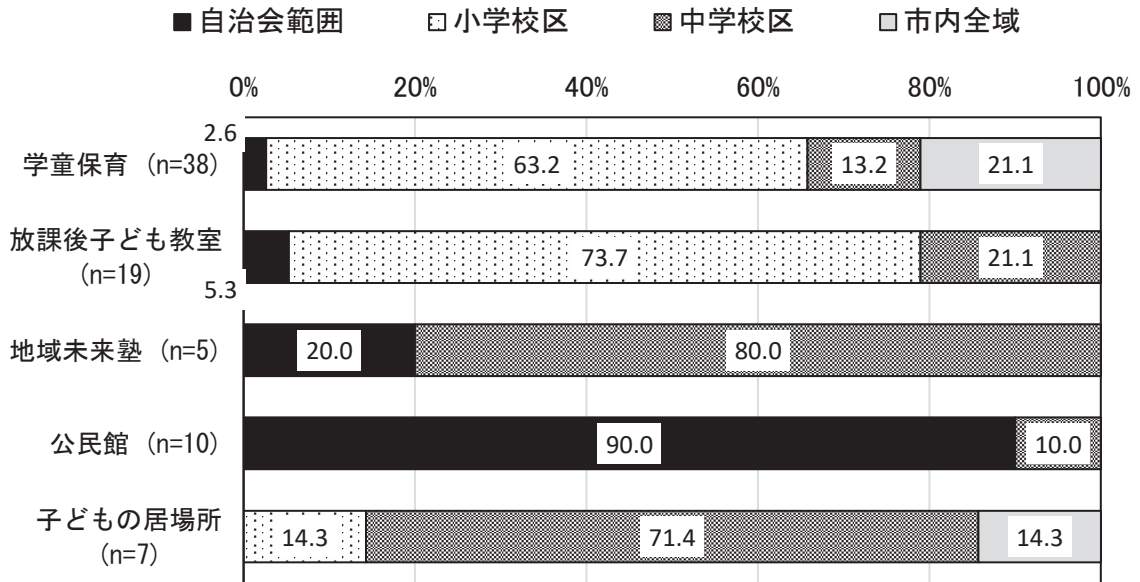


図 35 社会資源の種類別に見た対象エリアの範囲（うるま市）

うるま市において社会資源の種類別に対象エリアの範囲を見ると、「学童保育」では「小学校区」が 63.2%、「放課後子ども教室」では「小学校区」が 73.7%、「地域未来塾」では「中学校区」が 80.0%、「公民館」では「自治会範囲」が 90.0%、「子どもの居場所」では「中学校区」が 71.4%と、それぞれもっとも割合が高くなっている。

【糸満市】

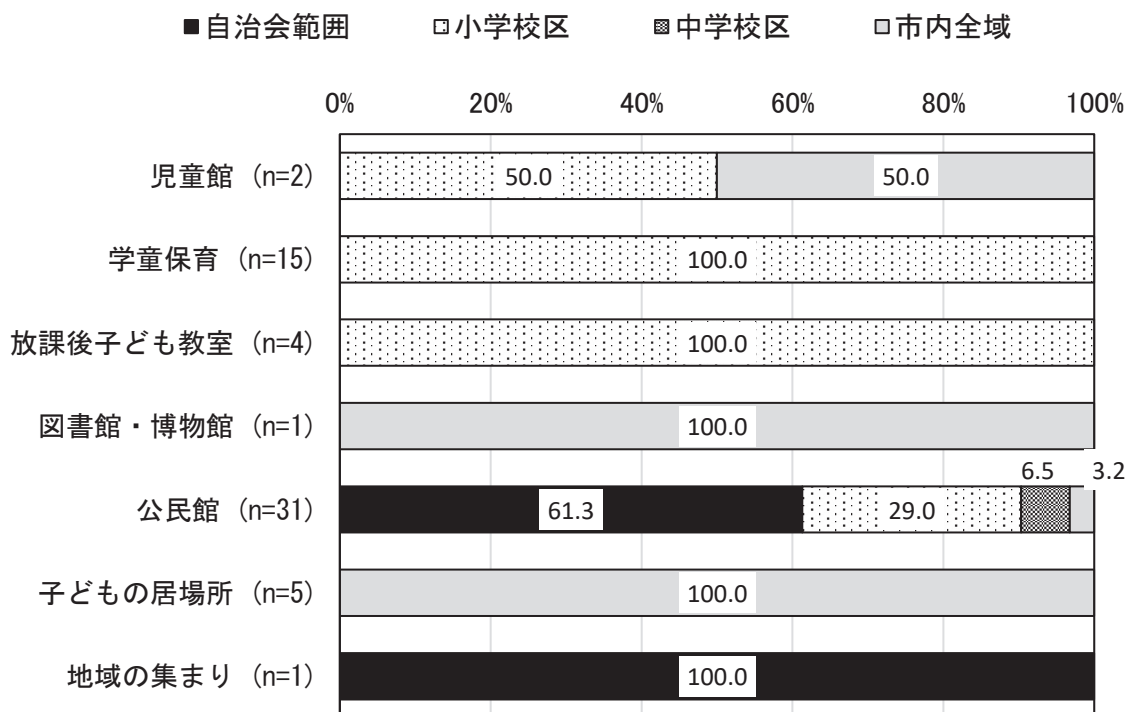


図 36 社会資源の種類別に見た対象エリアの範囲（糸満市）

糸満市において社会資源の種類別に対象エリアの範囲を見ると、「児童館」では「小学校区」及び「市内全域」が 50.0%、「学童保育」では「小学校区」が 100%、「放課後子ども教室」では「小学校区」が 100%、「図書館・博物館」では「市内全域」が 100%、「公民館」では「自治会範囲」が 61.3%、「子どもの居場所」では「市内全域」が 100%、「地域の集まり」では「自治会範囲」が 100%と、それぞれもっとも割合が高くなっている。

(2) 社会資源の種類別に見た送迎サービス実施の有無 (問0×問3-3)

【うるま市】

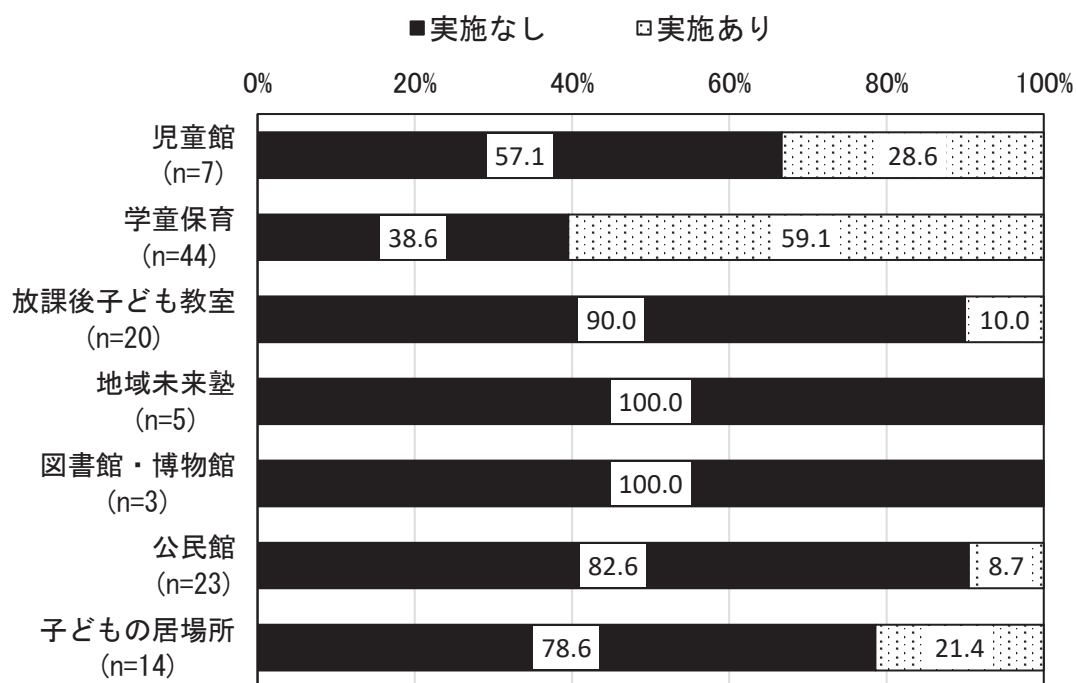


図 37 社会資源の種類別に見た送迎サービス実施の有無 (うるま市)

うるま市において社会資源の種類別に送迎サービス実施の有無を見ると、「地域未来塾」及び「図書館・博物館」においては「実施なし」が100%となっている。送迎サービスを実施している社会資源を見ると、「学童保育」が59.1%ともっとも割合が多く、次いで「児童館」が28.6%、「子どもの居場所」が21.4%となっている。全体的に見ると、「学童保育」を除きすべての社会資源において送迎サービスを実施していない割合が高くなっている。

【糸満市】

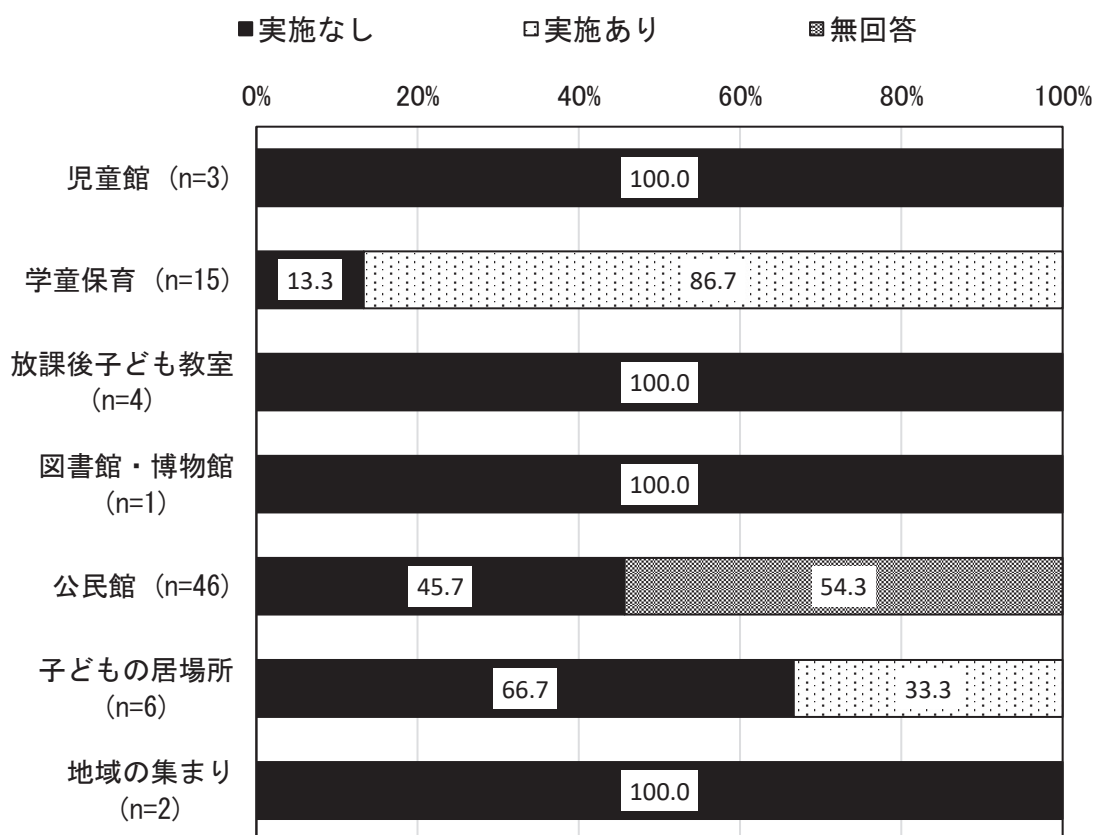


図 38 社会資源の種類別に見た送迎サービス実施の有無（糸満市）

糸満市において社会資源の種類別に送迎サービス実施の有無を見ると、「児童館」、「放課後子ども教室」、「図書館・博物館」、「地域の集まり」においては「実施なし」が100%となっている。送迎サービスを実施している社会資源を見ると、「学童保育」が86.7%ともっとも回答割合が高く、次いで「子どもの居場所」が33.3%となっている。全体的に見ると、「学童保育」を除きすべての社会資源において送迎サービスを実施していない割合が高くなっている。

(3) 社会資源の種類別に見た開設状況 (問0×問4-1, 4-2, 4-3)

開設状況に関しては、うるま市、糸満市ともに施設の開設状況の他に施設で行われている行事やイベントの開設状況としての回答が得られたことも考えられるが、今回の調査において調査スプレッドシートの設定の関係上、施設の開設状況か行事ごとの開設状況かの区別を行うには限界があり、「社会資源の開設状況」として集計結果を提示している。

i. 社会資源の種類別に見た開設頻度

【うるま市】

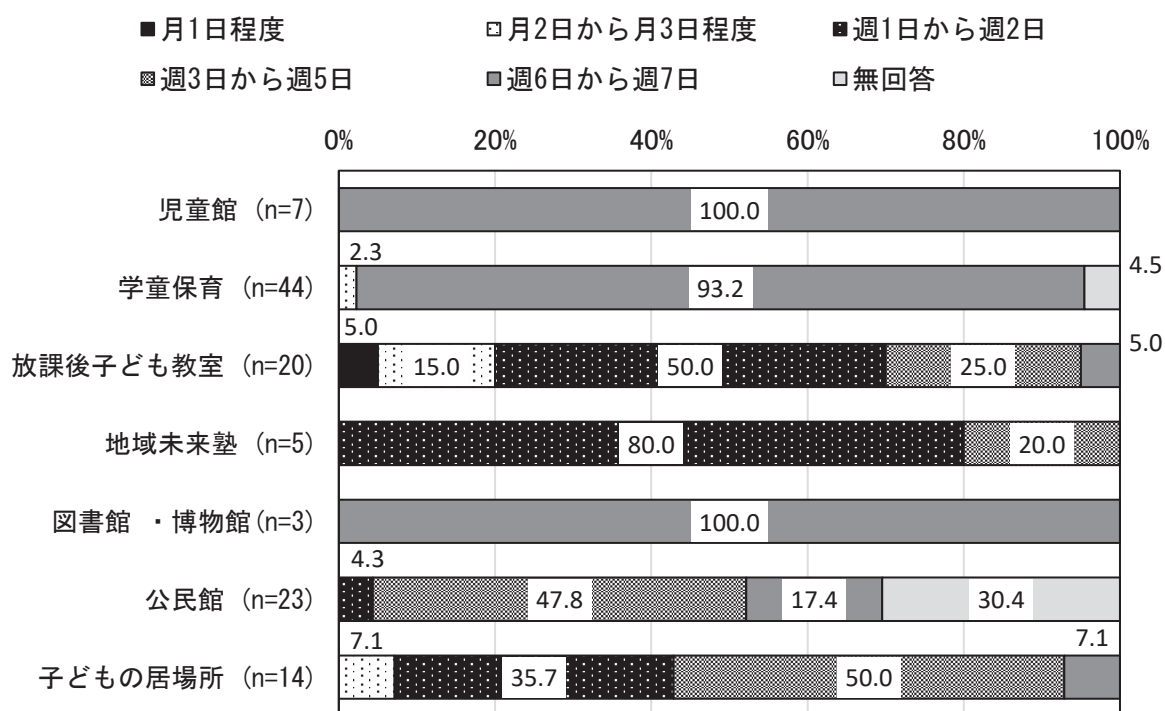


図 39 社会資源の種類別に見た開設頻度 (うるま市)

うるま市において社会資源の種類別に開設頻度を見ると、「児童館」及び「図書館・博物館」は「週6日から週7日」が100%となっており、ほぼ毎日開設していることがわかる。「学童保育」も「週6日から週7日」の割合が93.2%と高い割合で開設している。また、開設頻度が少ない社会資源としては「地域未来塾」で「週1日から週2日」の割合が80.0%となっている。

【糸満市】

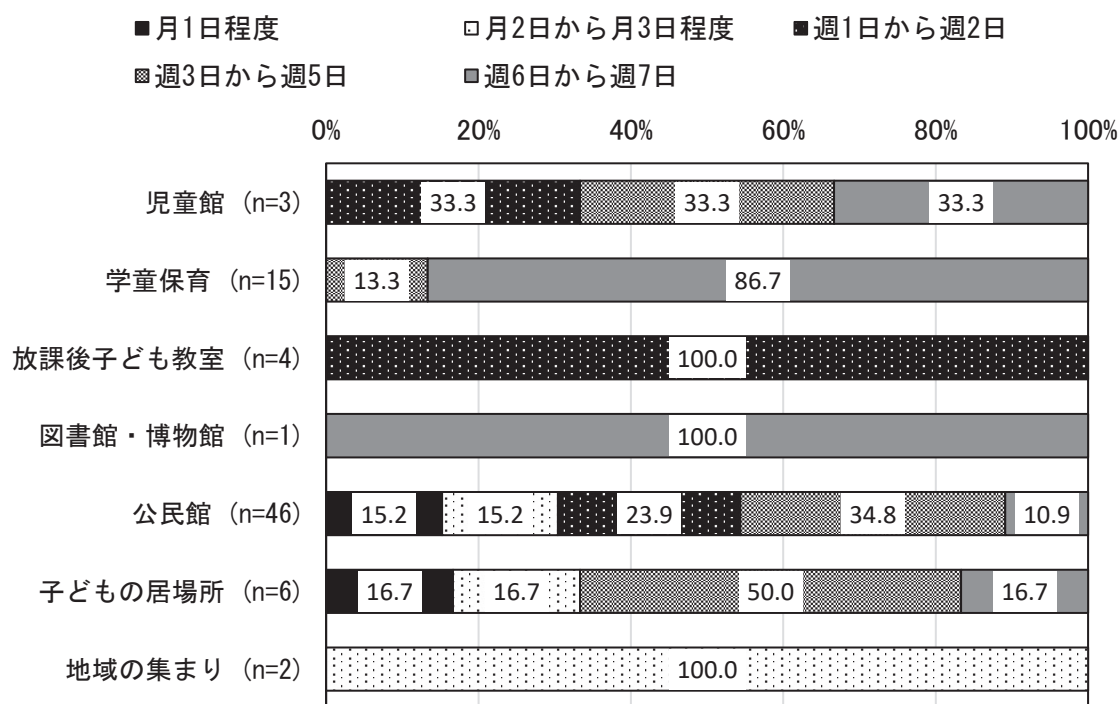


図 40 社会資源の種類別に見た開設頻度（糸満市）

糸満市において社会資源の種類別に開設頻度を見ると、「図書館・博物館」は「週6日から週7日」が100%となっており、ほぼ毎日開設している。「学童保育」も「週6日から週7日」の割合が86.7%と高い割合で開設していることがわかる。「放課後子ども教室」を見ると、「週1日から週2日」が100%となっている。「地域の集まり」は「月2日から月3日程度」が100%となっている。

ii. 社会資源の種類別に見た開設日

【うるま市】

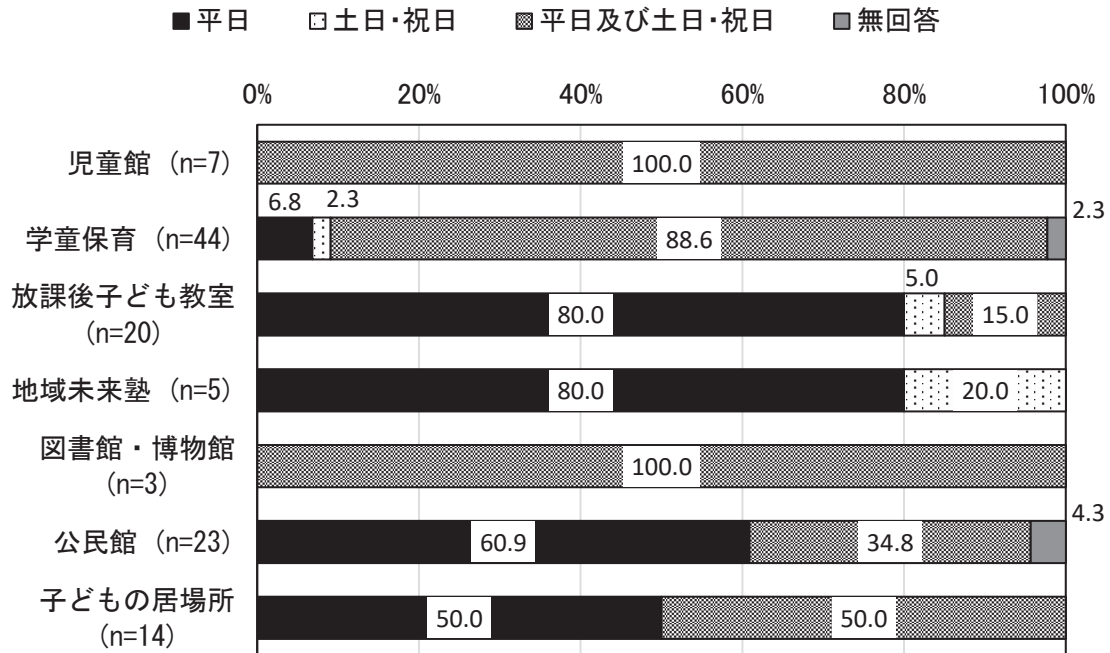


図 41 社会資源の種類別に見た開設日（うるま市）

うるま市において社会資源の種類別に見ると、「平日及び土日・祝日」に開設している社会資源が「児童館」、「図書館・博物館」では 100%、「学童保育」では 88.6%となっている。また、「放課後子ども教室」及び「地域未来塾」がそれぞれ 80%の割合で「平日」のみ開設していることがわかる。「子どもの居場所」においては、「平日」と「平日及び土日・祝日」の割合が 50%ずつとなっている。

【糸満市】

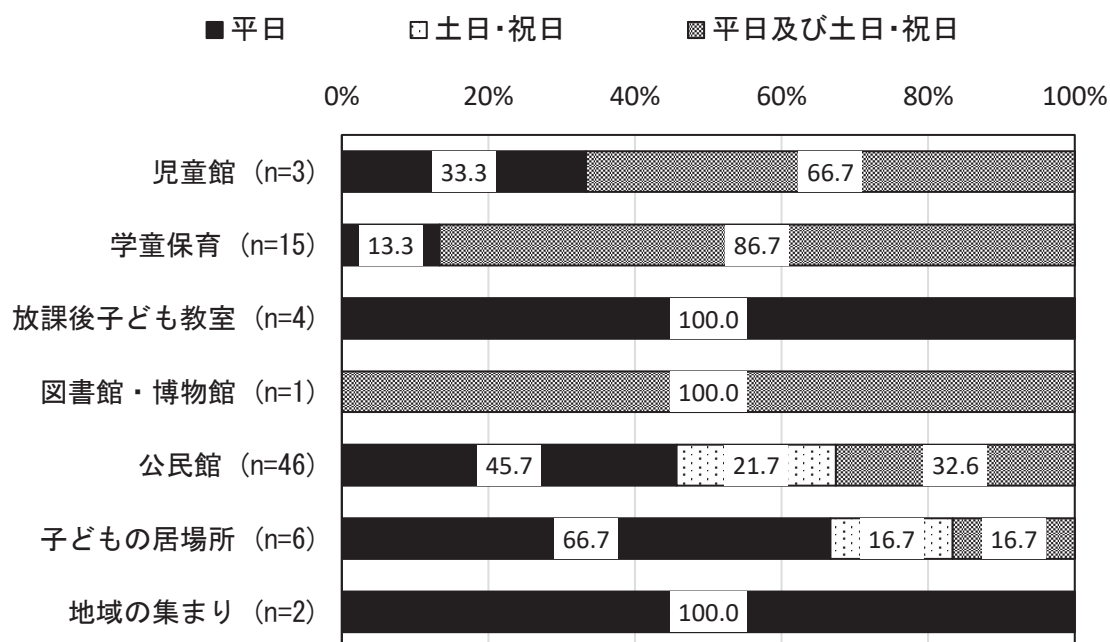


図 42 社会資源の種類別に見た開設日（糸満市）

糸満市において社会資源の種類別に開設日を見ると、「平日及び土日・祝日」に開設している社会資源が「図書館・博物館」では 100%、次いで「学童保育」が 86.7%、「児童館」が 66.7%となっている。また、「放課後子ども教室」及び「地域の集まり」がそれぞれ 100%の割合で「平日」のみ開設していることがわかる。次いで「子どもの居場所」が 66.7%の割合で「平日」のみ開設している。

iii. 社会資源の種類別に見た開設時間

【うるま市】

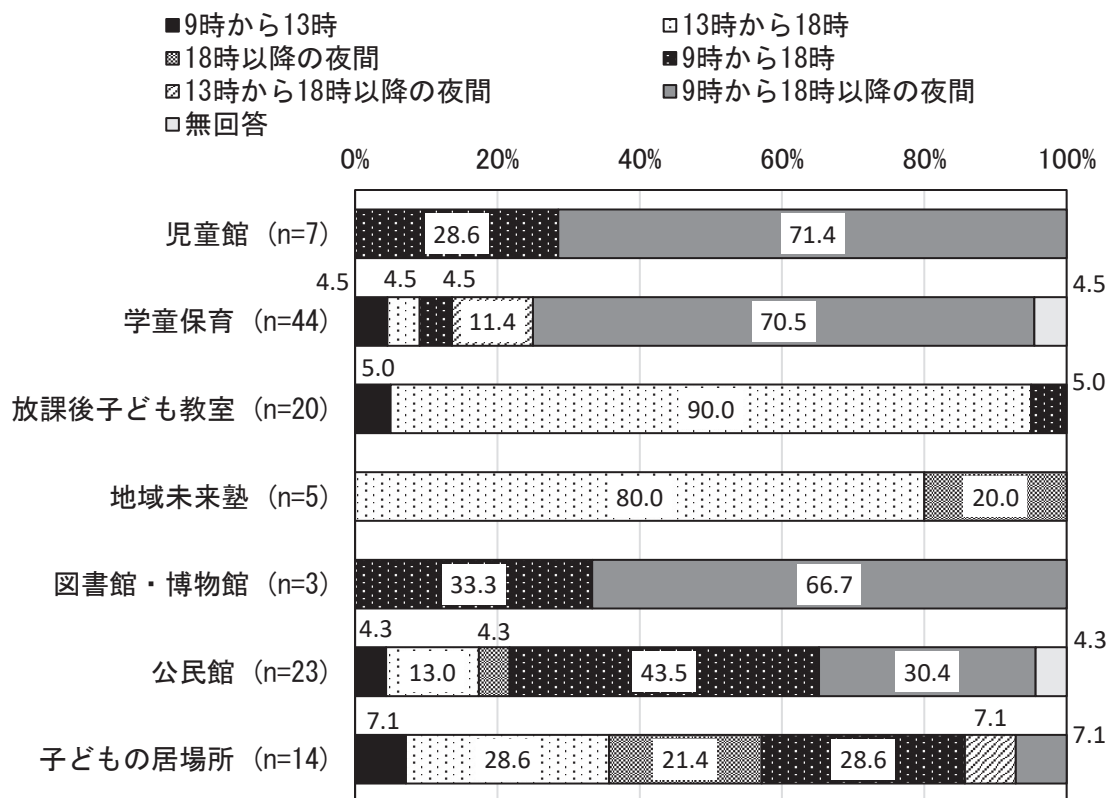


図 43 社会資源の種類別に見た開設時間（うるま市）

うるま市において社会資源の種類別に開設時間を見ると、「13時～18時」の午後のみ開設している割合が高い社会資源は「放課後子ども教室」が90.0%、次いで「地域未来塾」が80.0%となっている。また、「9時～18時以降の夜間」の長時間開設している割合が高い社会資源は、「児童館」が71.4%、次いで「学童保育」が70.5%「図書館・博物館」が66.7%となっている。

【糸満市】

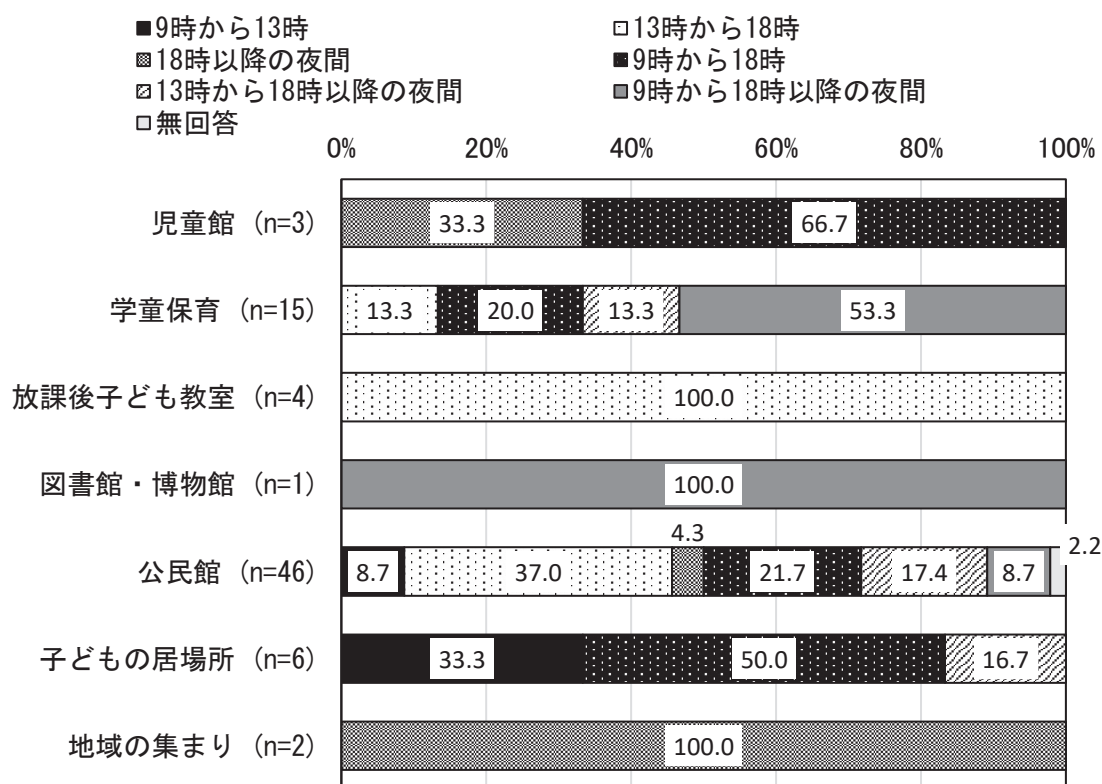


図 44 社会資源の種類別に見た開設時間（糸満市）

糸満市において社会資源の種類別に開設時間を見ると、「13時～18時」の午後のみ開設している割合が高い社会資源は「放課後子ども教室」が100%の割合となっている。「図書館・博物館」では「9時～18時以降」が100%、「地域の集まり」では「18時以降」が100%となっている。また、「児童館」では「9時～18時」が66.7%で割合が高く、次いで「子どもの居場所」が50.0%の割合で「9時～18時」の時間帯に開設していることがわかる。

(4) 社会資源の種類別に見た定員 (問0×問5)

i. 社会資源の種類別に見た定員の有無

【うるま市】

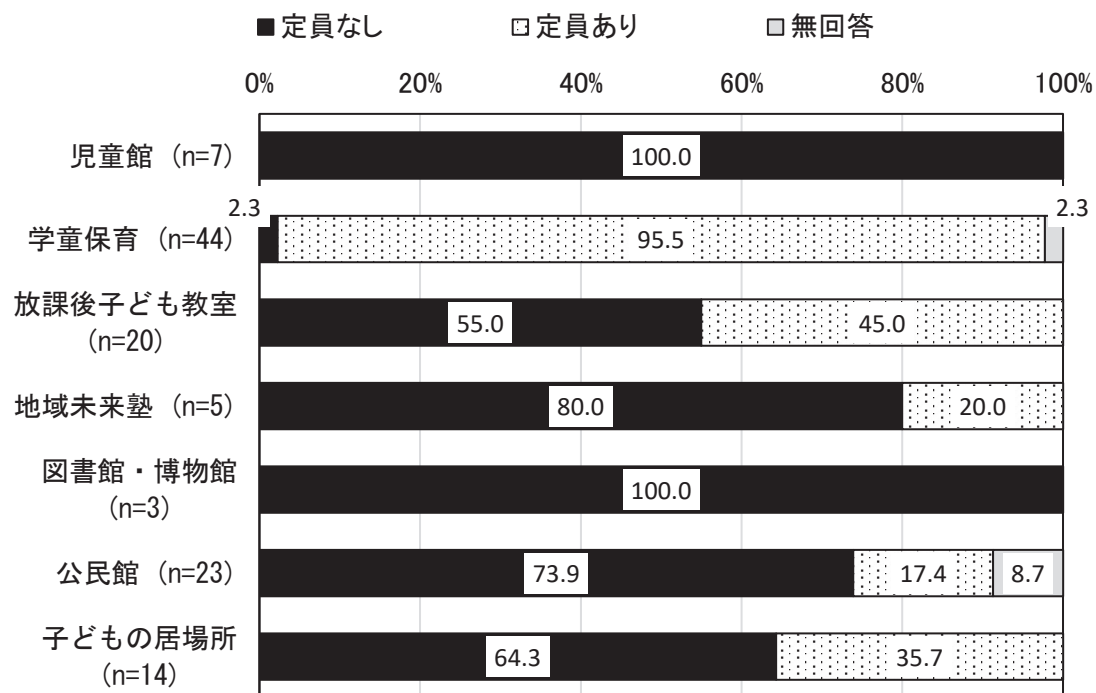


図 45 社会資源の種類別に見た定員の有無 (うるま市)

うるま市において社会資源の種類別に見た定員の有無を見ると、「学童保育」を除く全ての社会資源において「定員なし」の割合が高くなっていることがわかる。「学童保育」では95.5%の割合で「定員あり」となっている。

【糸満市】

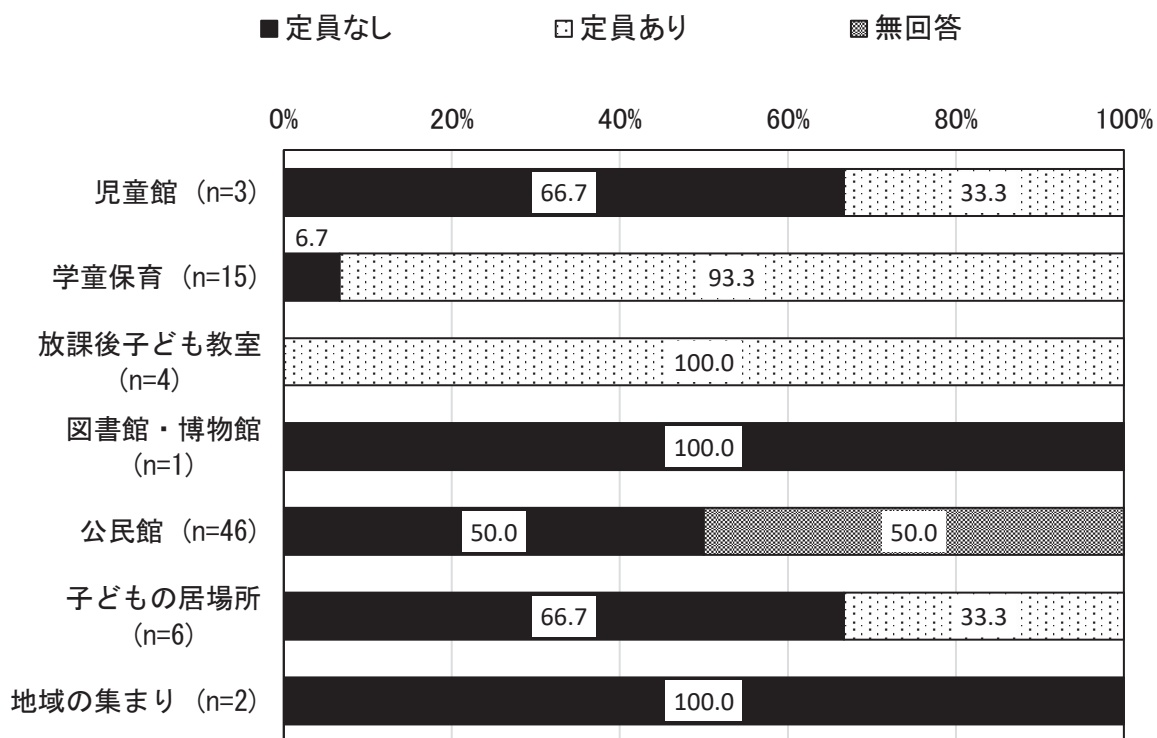


図 46 社会資源の種類別に見た定員の有無（糸満市）

糸満市において社会資源の種類別に定員の有無を見ると、「児童館」、「図書館・博物館」、「子どもの居場所」、「地域の集まり」では「定員なし」の割合が高く、「学童保育」及び「放課後子ども教室」では「定員あり」の割合が高くなっている。「公民館」では「定員なし」「定員あり」の割合がそれぞれ 50.0%となっている。

ii. 社会資源の種類別に見た定員数

【うるま市】

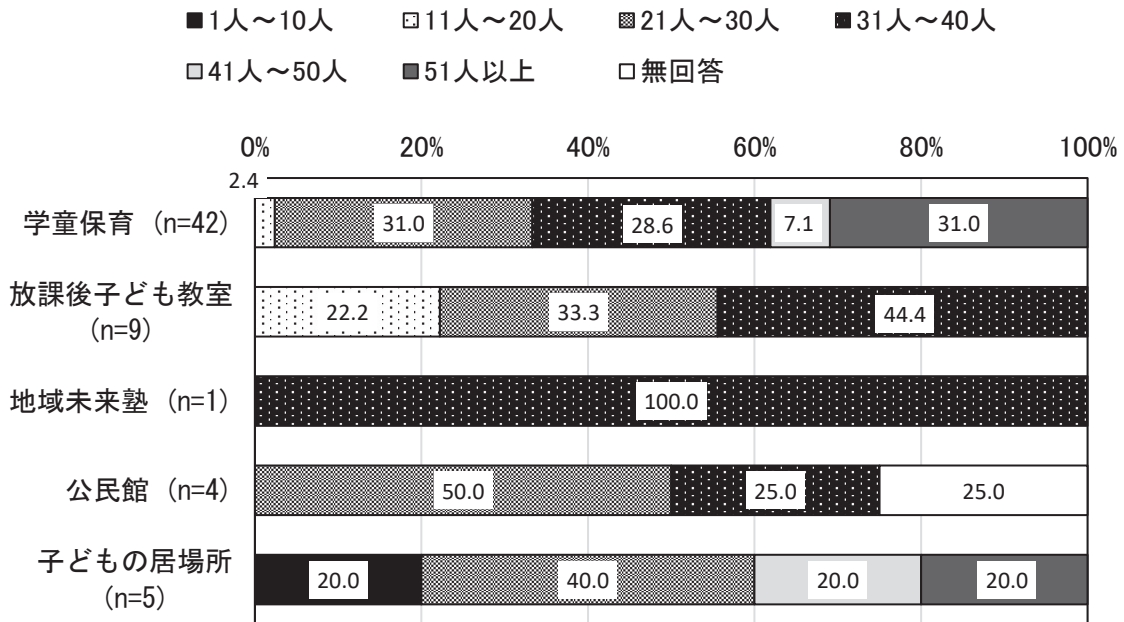


図 47 社会資源の種類別に見た定員数（うるま市）

うるま市において社会資源の種類別に定員数を見ると、「51人以上」で定員数を設定している社会資源は「学童保育」で31.0%、「子どもの居場所」で20.0%の割合となっている。「子どもの居場所」においては、20.0%が「1人～10人」の定員数を設定しており、同じ「子どもの居場所」でも施設によって幅広く定員数が設定されていることがわかる。

【糸満市】

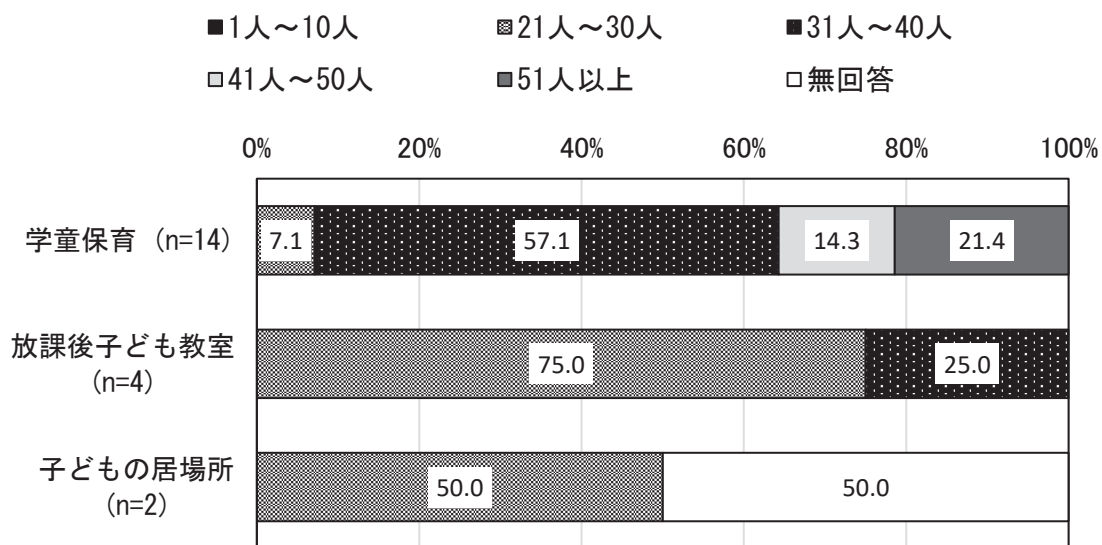


図 48 社会資源の種類別に見た定員数（糸満市）

糸満市において社会資源の種類別に定員数を見ると、「学童保育」が施設によって幅広く定員が設定されているが 31 人～40 人で設定している割合がもっとも多い。「放課後子ども教室」の定員はおおむね 21 人～40 人となっており、「子どもの居場所」では定員設定のある 2 ヶ所のうち、1 ヶ所が「21 人～30 人」、1 ヶ所は無回答であった。

(5) 社会資源の種類別に見た1日当たりの平均利用人数 (問0×問6)

【うるま市】

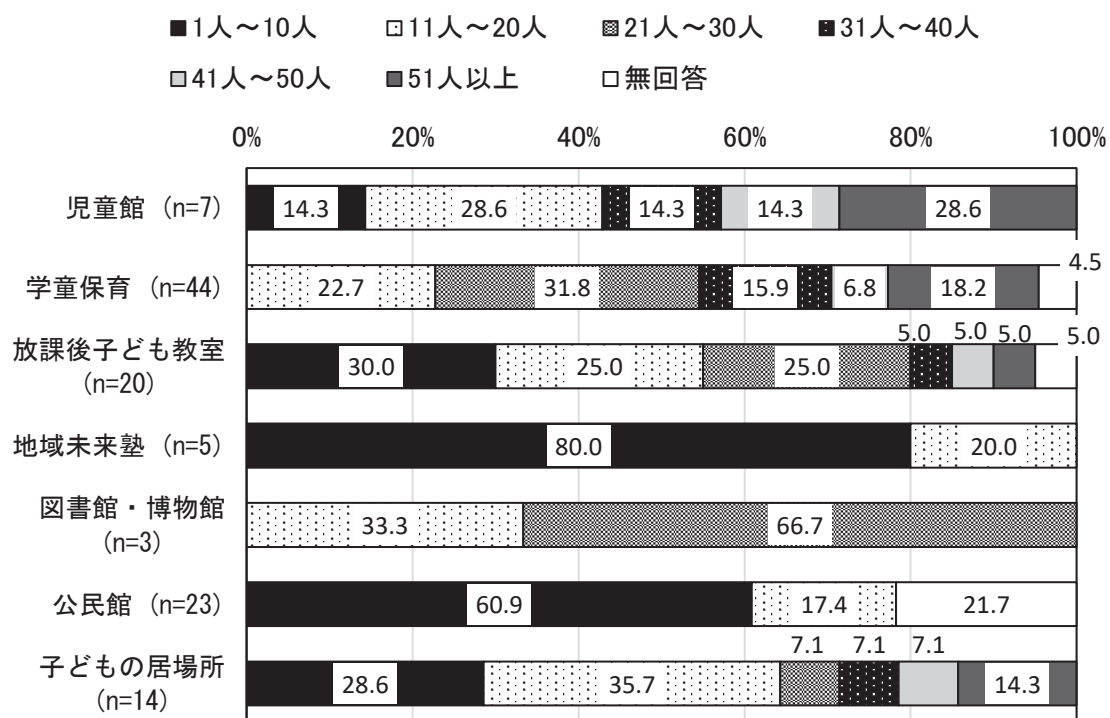


図 49 社会資源の種類別に見た1日当たりの平均利用人数 (うるま市)

うるま市において社会資源の種類別に1日当たりの平均利用人数を見ると、「児童館」が「41人～50人」の割合が14.3%、「51人以上」の割合が28.6%となり、他の社会資源と比べると1日当たりの平均利用人数が多いことがわかる。一方比較的利用人数が少ない社会資源としては、「地域未来塾」で「1人～10人」の割合が80.0%、次いで「公民館」が60.9%となっている。

【糸満市】

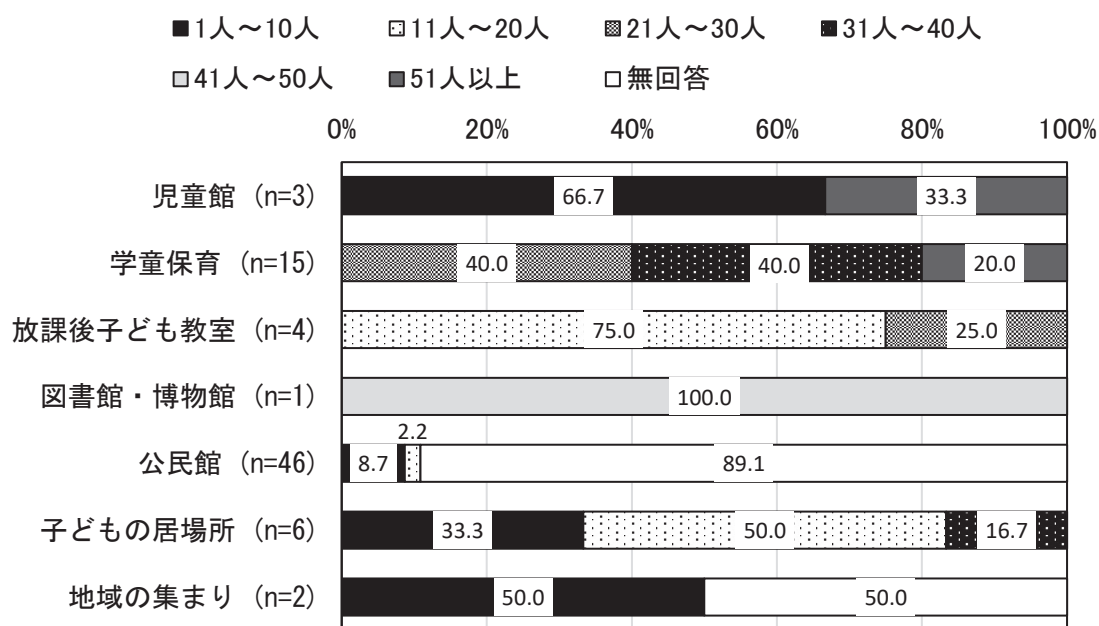


図 50 社会資源の種類別に見た 1 日当たりの平均利用人数（糸満市）

糸満市において社会資源の種類別に 1 日当たりの平均利用人数を見ると、1 日当たり「51 人以上」で比較的使用人数が多い社会資源としては「児童館」が 33.3%の割合、「学童保育」が 20.0%の割合となっている。

(6) 定員に占める一日当たりの平均利用人数の割合 (問5/問6)

i. 定員に占める一日当たりの平均利用人数の割合 (全体)

【うるま市】

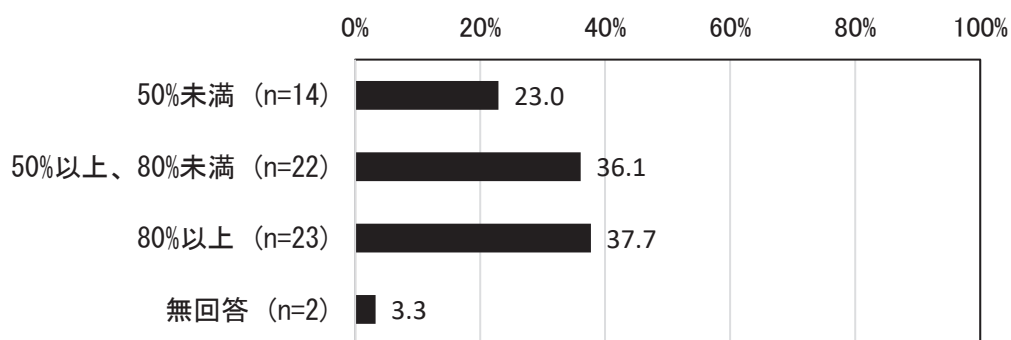


図 51 定員に占める一日当たりの平均利用人数の割合 (全体) (うるま市)

うるま市において定員を設定している社会資源で、1日当たりの利用人数が定員を満たしているかの割合を見ると、利用人数が定員の50%未満となっている社会資源は全体の23.0%となり、利用人数が定員の80%以上を満たしている社会資源は全体の37.7%となっている。

【糸満市】

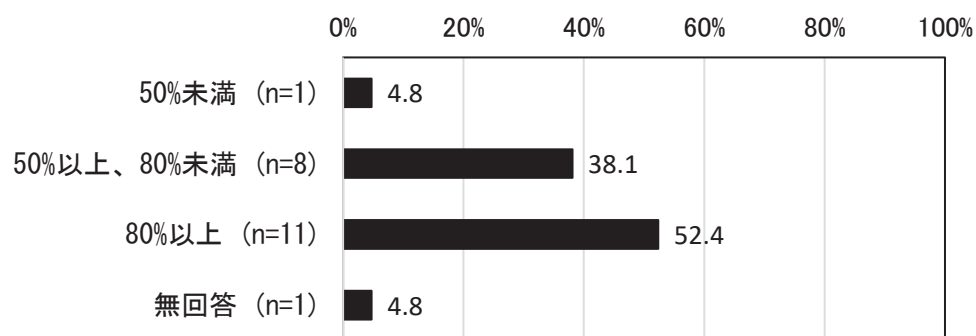


図 52 定員に占める一日当たりの平均利用人数の割合（全体）（糸満市）

糸満市において定員を設定している社会資源で、1日当たりの利用人数が定員を満たしているかの割合を見ると、利用人数が定員の50%未満となっている社会資源は全体の4.8%となっている。利用人数が定員の80%以上を満たしている社会資源は全体の52.4%となっており、全体の半数以上を占めていることがわかる。

ii. 定員に占める一日当たりの平均利用人数の割合（社会資源別）

【うるま市】

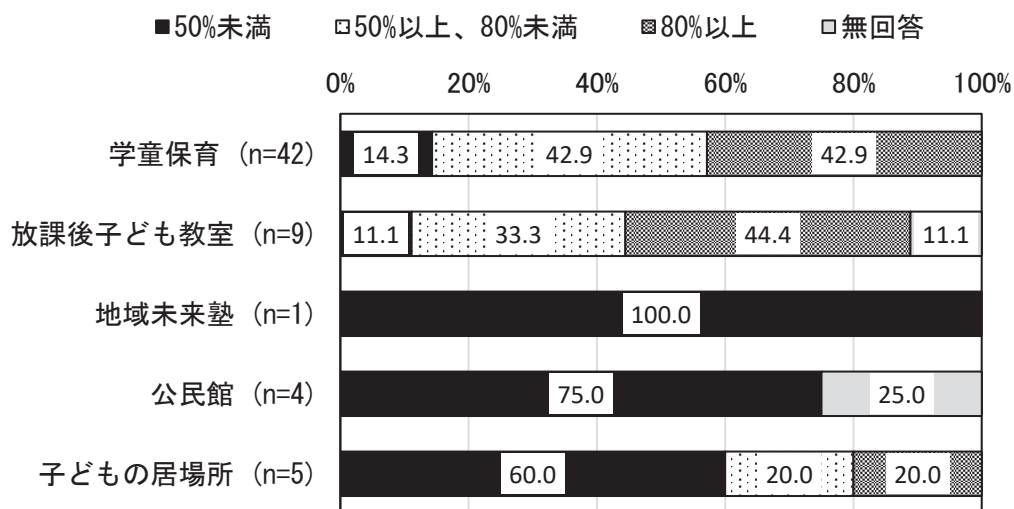


図 53 定員に占める一日当たりの平均利用人数の割合（社会資源種別）（うるま市）

うるま市において定員を設定している社会資源で、1日当たりの利用人数が定員を満たしているかの割合を社会資源別に見ると、利用人数が定員の50%未満となっている社会資源は「地域未来塾」、「公民館」、「子どもの居場所」においてその割合が高いことがわかる。利用人数が定員の80%以上を満たしている社会資源は「放課後子ども教室」が44.4%、次いで「学童保育」が42.9%の割合となっている。

【糸満市】

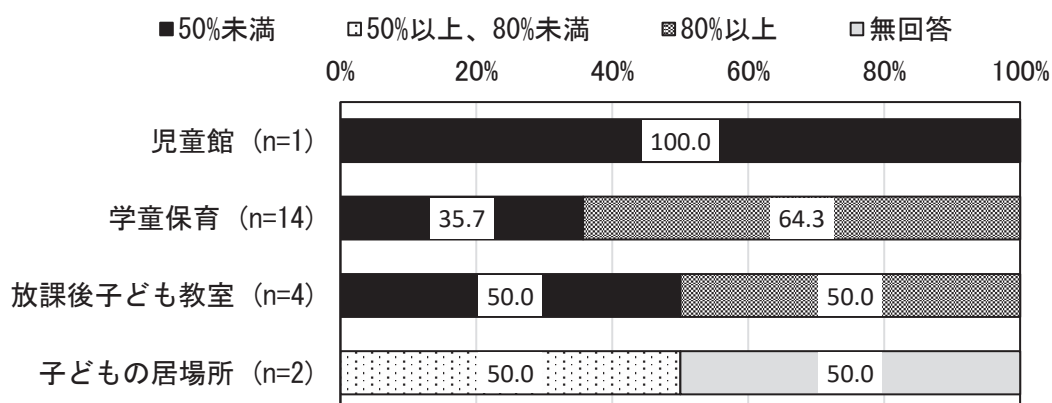


図 54 定員に占める一日当たりの平均利用人数の割合（社会資源種別）（糸満市）

糸満市において定員を設定している社会資源で、1日当たりの利用人数が定員を満たしているかの割合を社会資源別に見ると、定員を80%以上満たしている社会資源は「学童保育」が64.3%と、比較的高い割合となっていることがわかる。

(7) 社会資源の種類別に見た利用料の状況 (問0×問7-1、問7-2)

i. 社会資源の種類別に見た利用料の有無

【うるま市】

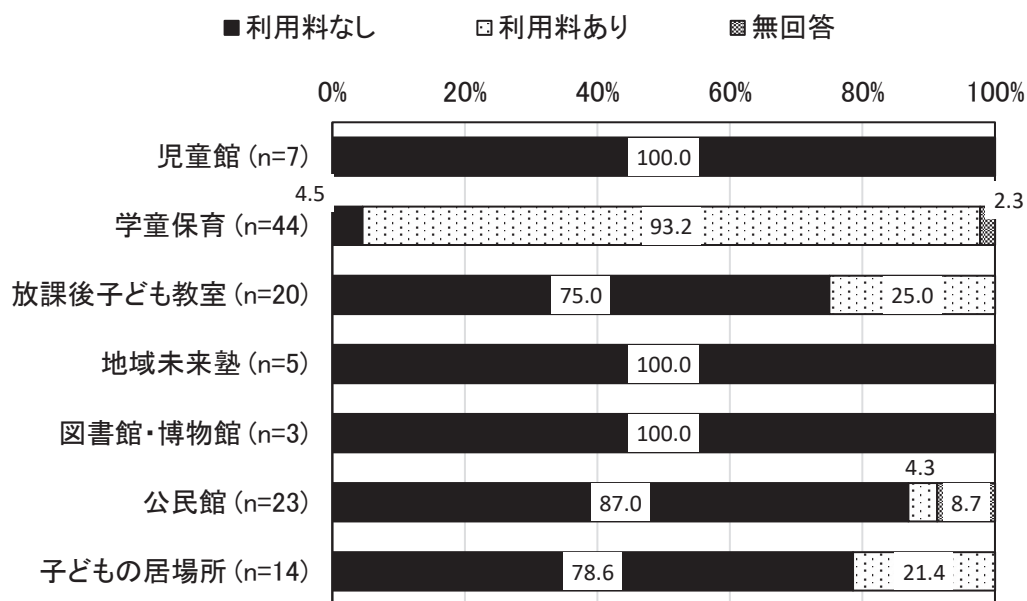


図 55 社会資源の種類別に見た利用料の有無 (うるま市)

うるま市において社会資源の種類別に見た利用料の有無を見ると、「児童館」、「地域未来塾」、「図書館・博物館」では「利用料なし」が100%となっている。その他にも「放課後子ども教室」、「公民館」、「子どもの居場所」でも75%以上の割合で「利用料なし」となっている。一方で「利用料あり」の割合が高い社会資源を見ると、「学童保育」で93.2%の割合となっている。

【糸満市】

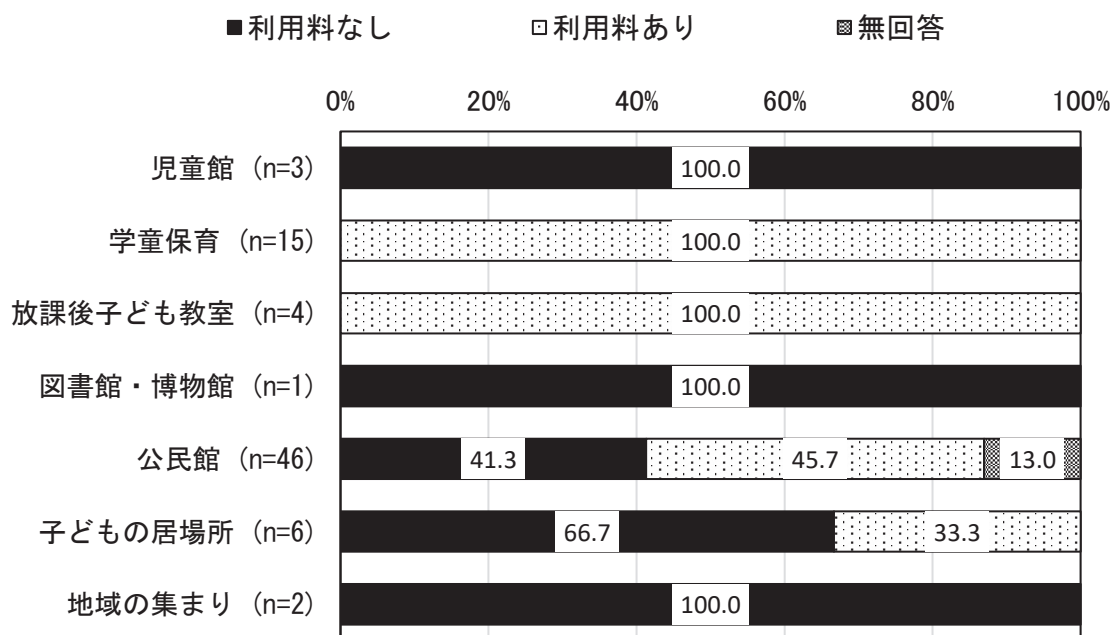


図 56 社会資源の種類別に見た利用料の有無（糸満市）

糸満市において社会資源の種類別に利用料の有無を見ると、「児童館」、「図書館・博物館」、「地域の集まり」では「利用料なし」が 100%となっている。その他にも「子どもの居場所」でも 66.7%の割合で「利用料なし」となっている。一方で「利用料あり」の割合が高い社会資源を見ると、「学童保育」及び「放課後子ども教室」で 100%の割合となっている。

(8) 社会資源の種類別に見た提供サービス (問0×問8)

ここでは各社会資源の種類別に見た提供サービスの内容とその割合を提示している。

①児童館

【うるま市】児童館 (N=7)

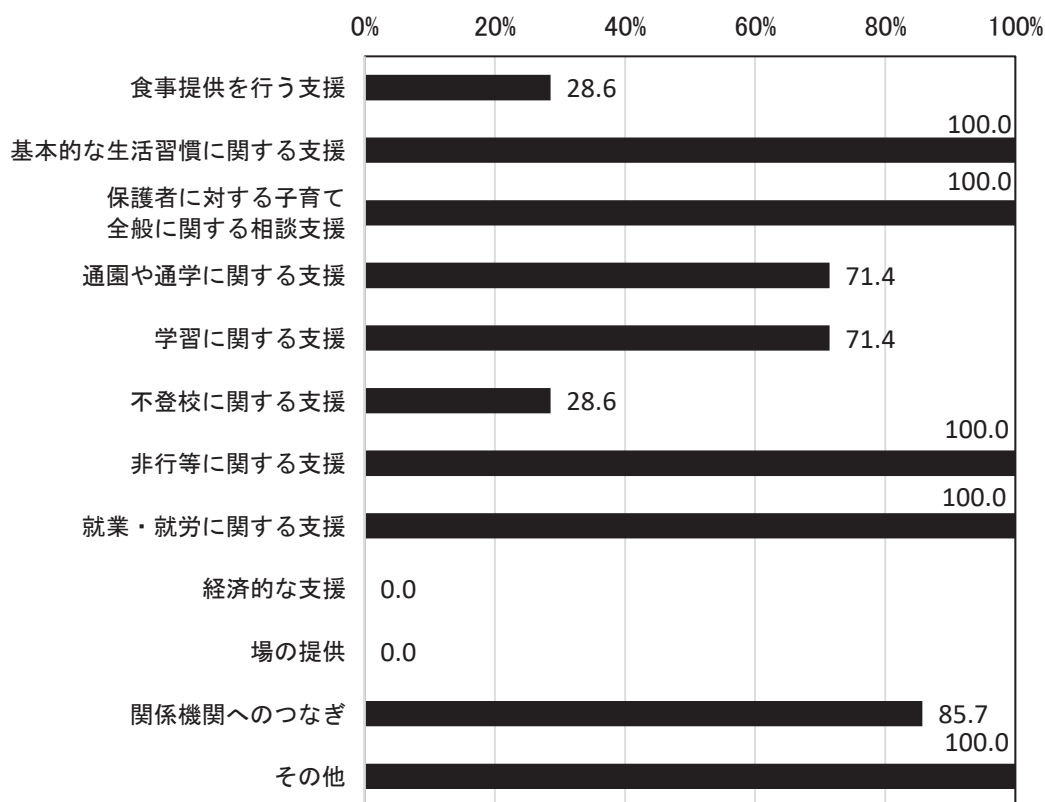


図 57 社会資源の種類別に見た提供サービス (①児童館 うるま市)

うるま市における「児童館」の提供サービスの割合を見ると、「基本的な生活習慣に関する支援」、「保護者に対する子育て全般に関する相談支援」、「非行等に関する支援」、「就業・就労に関する支援」、「その他」が100%の割合となっており、全ての児童館でこれらのサービスが提供されていることがわかる。次いで「関係機関へのつなぎ」に関するサービスを提供している児童館が85.7%、「通園や通学に関する支援」及び「学習に関する支援」が71.4%、「食事提供を行う支援」及び「不登校に関する支援」が28.6%となっている。また、「経済的な支援」及び「場の提供」は0%でもっとも低い割合となっている。

【糸満市】児童館（N=3）

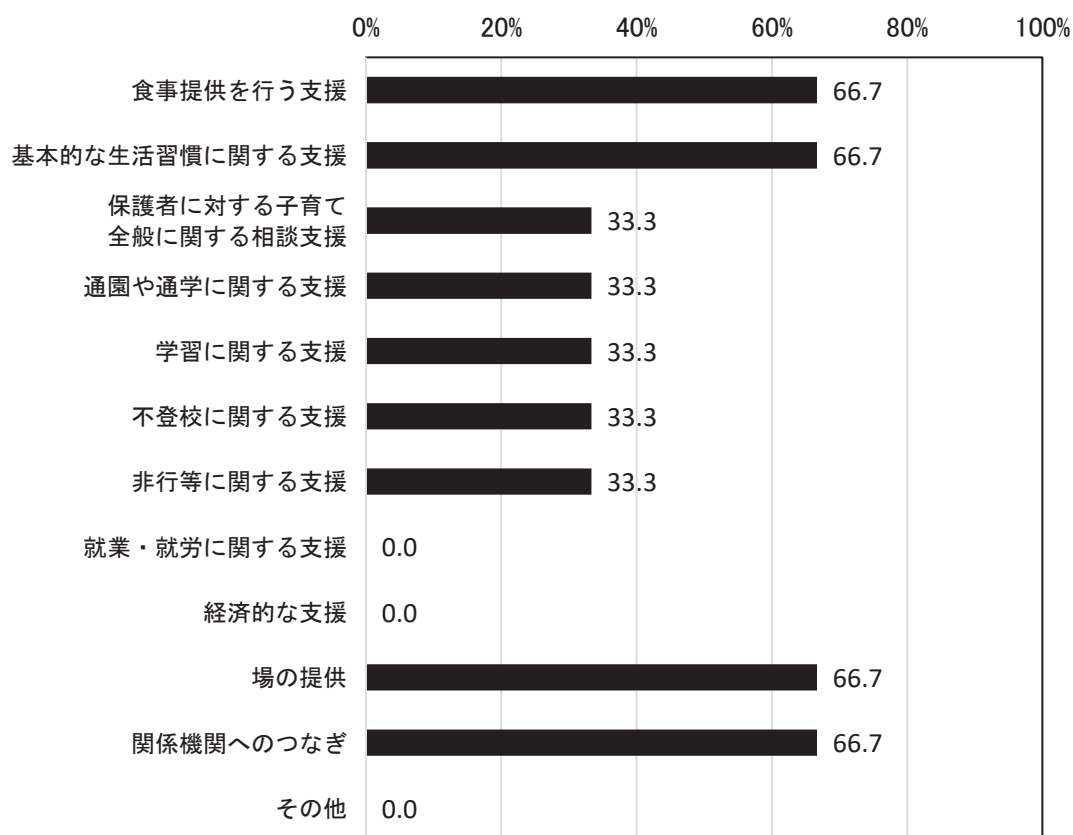


図 58 社会資源の種類別に見た提供サービス（①児童館 糸満市）

糸満市における「児童館」の提供サービスの割合を見ると、「食事提供を行う支援」、「基本的な生活習慣に関する支援」、「場の提供」、「関係機関へのつなぎ」が 66.7%の割合となっている。次いで「保護者に対する子育て全般に関する相談支援」、「通園や通学に関する支援」、「学習に関する支援」、「不登校に関する支援」、「非行等に関する支援」が 33.3%となっている。また、「就業・就労に関する支援」、「経済的な支援」、「その他」は 0%となっている。

②学童保育

【うるま市】学童保育 (N=44)

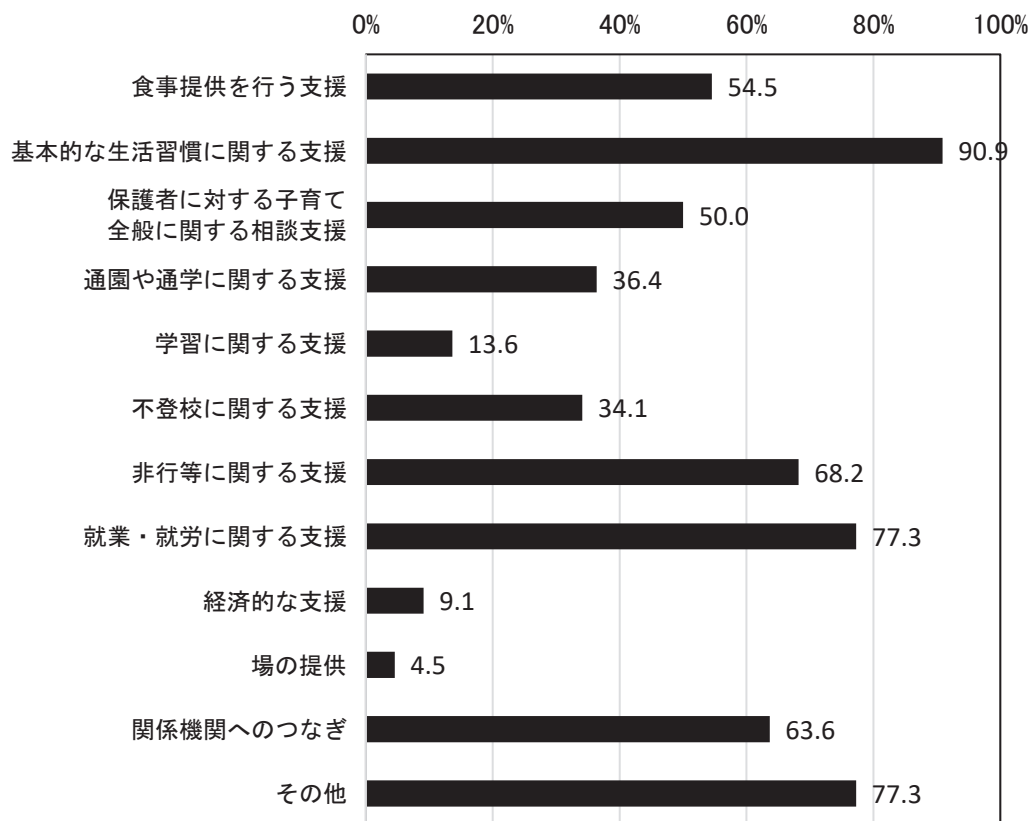


図 59 社会資源の種類別に見た提供サービス (②学童保育 うるま市)

うるま市における「学童保育」の提供サービスの割合を見ると、「基本的な生活習慣に関する支援」が 90.9%でもっとも高い割合となっており、次いで「就業・就労に関する支援」及び「その他」が 77.3%、「非行等に関する支援」が 68.2%となっている。また、「場の提供」が 4.5%でもっとも低い割合となっている。

【糸満市】学童保育（N=15）

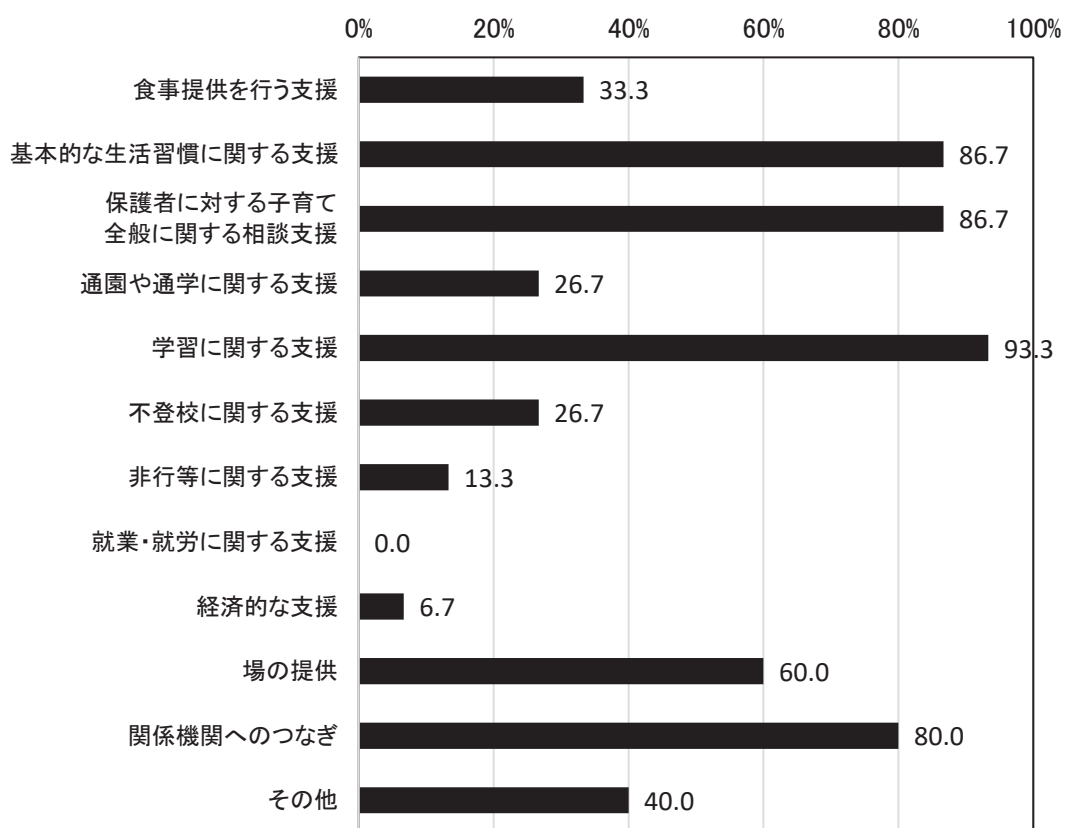


図 60 社会資源の種類別に見た提供サービス（②学童保育 糸満市）

糸満市における「学童保育」の提供サービスの割合を見ると、「学習に関する支援」が 93.3%でもっとも高い割合となっており、次いで「基本的な生活習慣に関する支援」及び「保護者に対する子育て全般に関する相談支援」が 86.7%、「関係機関へのつなぎ」が 80.0%となっている。また、「就業・就労に関する支援」が 0%でもっとも低い割合となっている。

③放課後子ども教室

【うるま市】放課後子ども教室 (N=20)

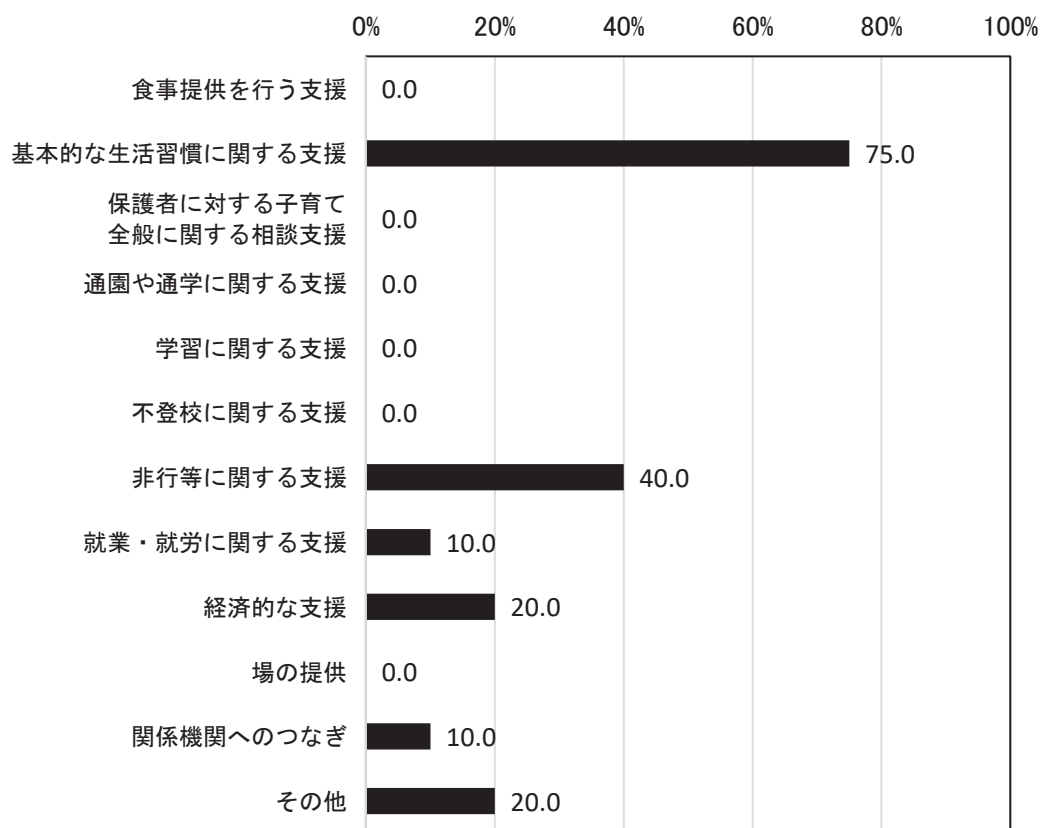


図 61 社会資源の種類別に見た提供サービス (③放課後子ども教室 うるま市)

うるま市における「放課後子ども教室」の提供サービスの割合を見ると、「基本的な生活習慣に関する支援」が 75.0%でもっとも高い割合となっている。次いで「非行等に関する支援」が 40.0%、「経済的な支援」及び「その他」が 20.0%、「就業・就労に関する支援」及び「関係機関へのつなぎ」が 10.0%となっている。これら以外のサービスは 0%となっている。

【糸満市】放課後子ども教室 (N=4)

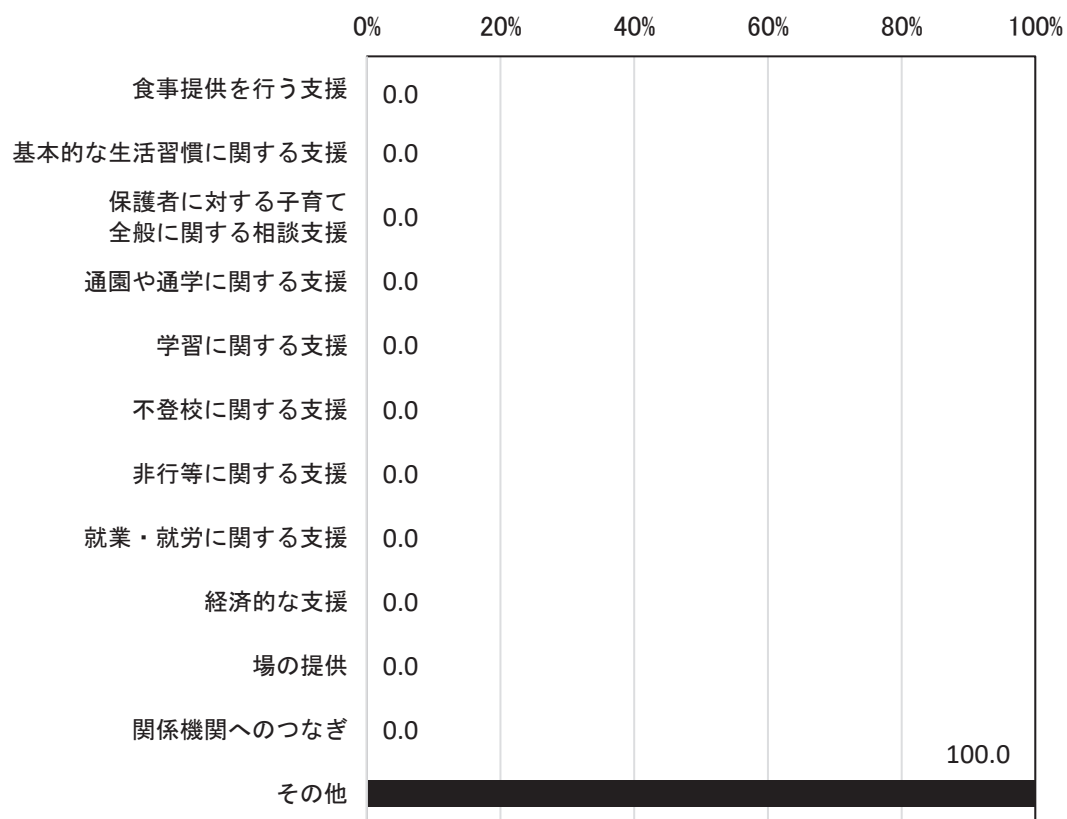


図 62 社会資源の種類別に見た提供サービス (③放課後子ども教室 糸満市)

糸満市における「放課後子ども教室」の提供サービスの割合を見ると、「その他」が100%となっており、糸満市において回答の得られたすべての「放課後子ども教室」で「その他」のサービスが提供されていることがわかる。

④地域未来塾（※糸満市では回答0件）

【うるま市】地域未来塾（N=5）

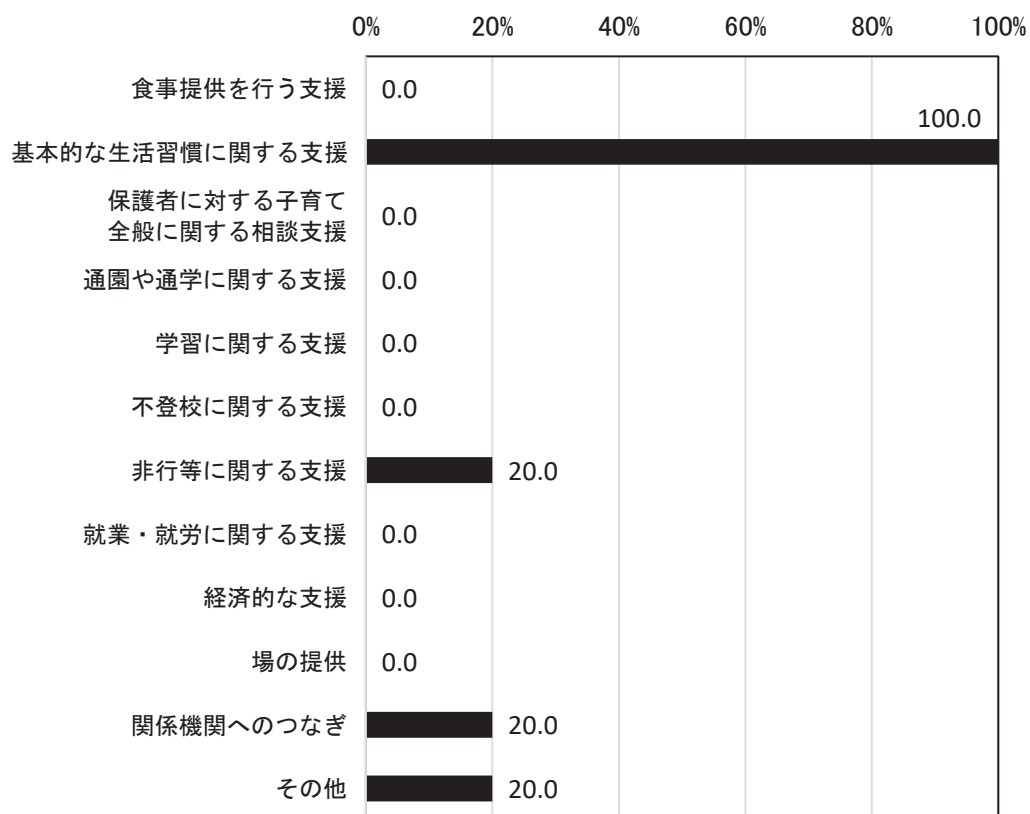


図 63 社会資源の種類別に見た提供サービス（④地域未来塾 うるま市）

うるま市における「地域未来塾」の提供サービスの割合を見ると、「基本的な生活習慣に関する支援」が100%でもっとも高い割合となっている。次いで「非行等に関する支援」、「関係機関へのつなぎ」、「その他」が20.0%の割合となっている。これら以外のサービスは0%となっている。

⑤図書館・博物館

【うるま市】図書館・博物館（N=3）

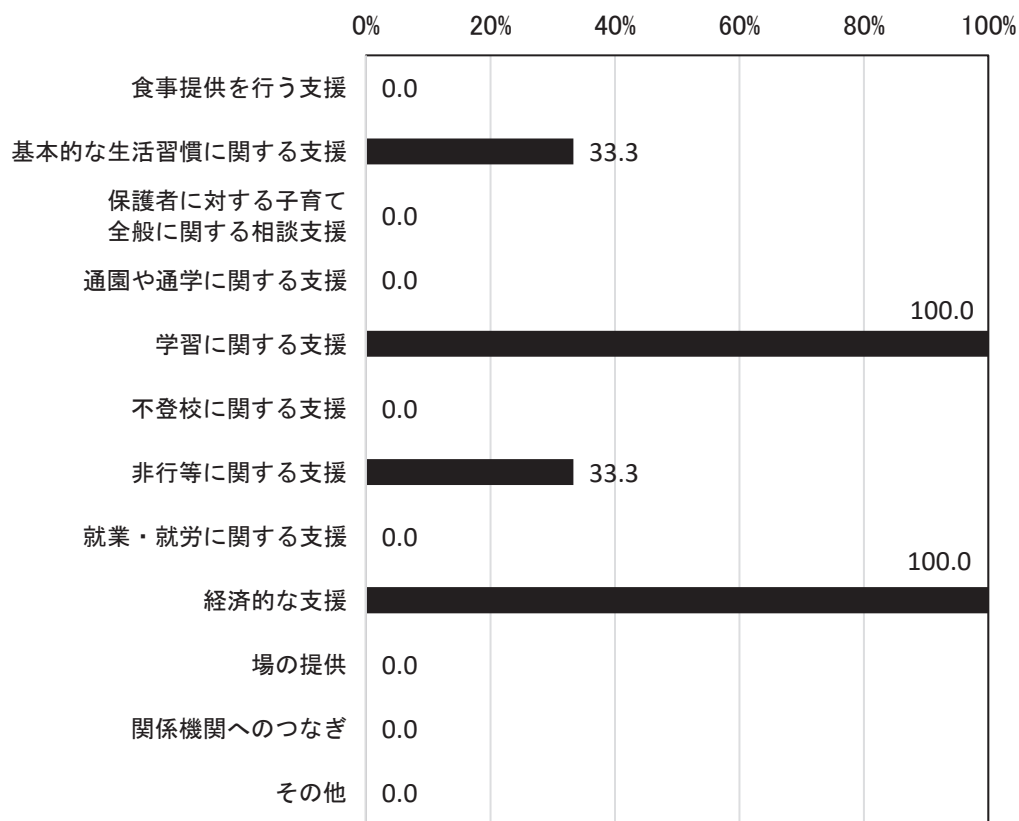


図 64 社会資源の種類別に見た提供サービス（⑤図書館・博物館 うるま市）

うるま市における「図書館・博物館」の提供サービスの割合を見ると、「学習に関する支援」及び「経済的な支援」が100%でもっとも高い割合となっている。次いで「基本的な生活習慣に関する支援」及び「非行等に関する支援」が33.3%の割合となっている。これら以外のサービスは0%となっている。

【糸満市】図書館・博物館（N=1）

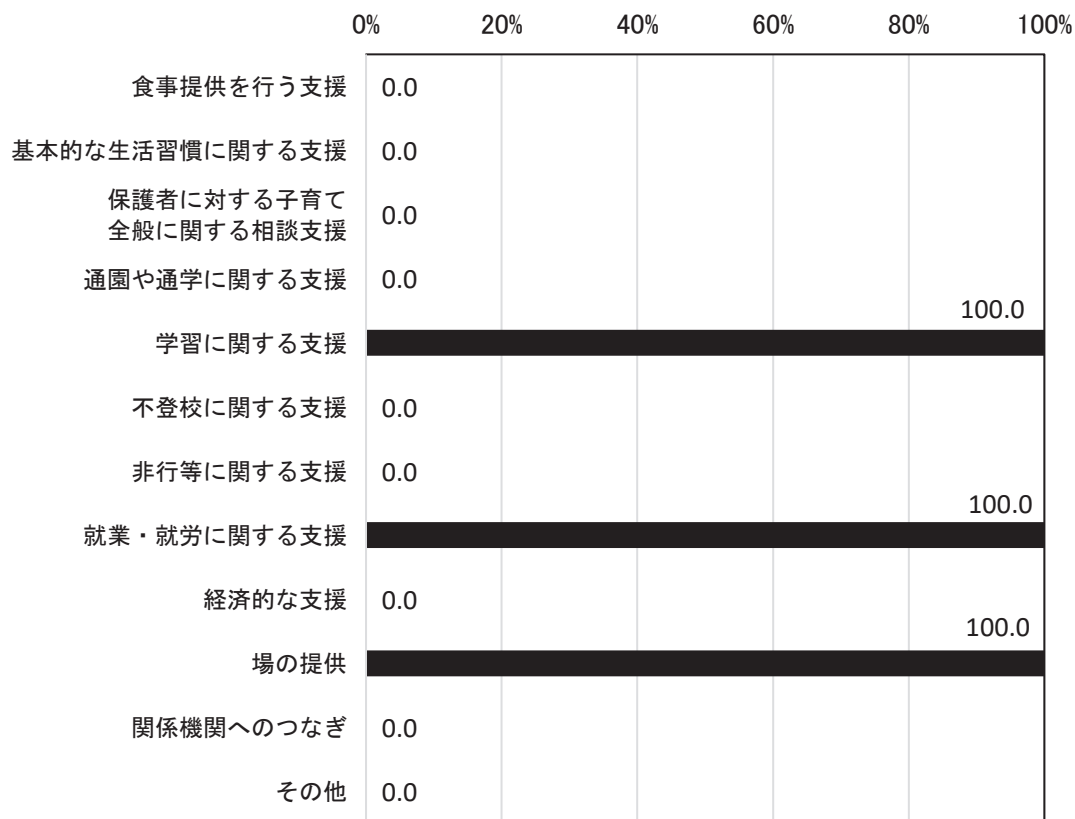


図 65 社会資源の種類別に見た提供サービス（⑤図書館・博物館 糸満市）

糸満市における「図書館・博物館」の提供サービスの割合を見ると、「学習に関する支援」、「就業・就労に関する支援」、「場の提供」が100%となっており、糸満市において回答の得られた1件の「図書館・博物館」でこれらのサービスが提供されている。

⑥公民館

【うるま市】公民館（N=23）

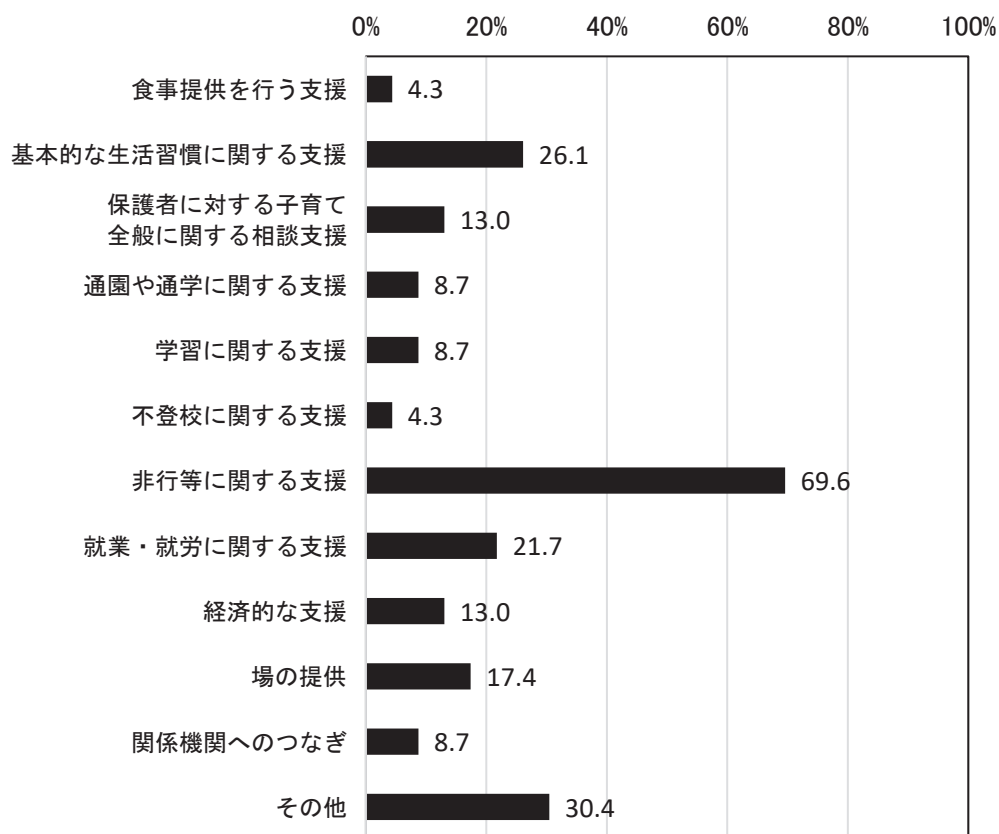


図 66 社会資源の種類別に見た提供サービス（⑥公民館 うるま市）

うるま市における「公民館」の提供サービスの割合を見ると、「非行等に関する支援」が69.6%でもっとも高い割合となっている。次いで「その他」が30.4%の割合となっており、糸満市において回答の得られた「公民館」では高い割合で「非行等に関する支援」が行われていることがわかる。

【糸満市】 公民館 (N=46)

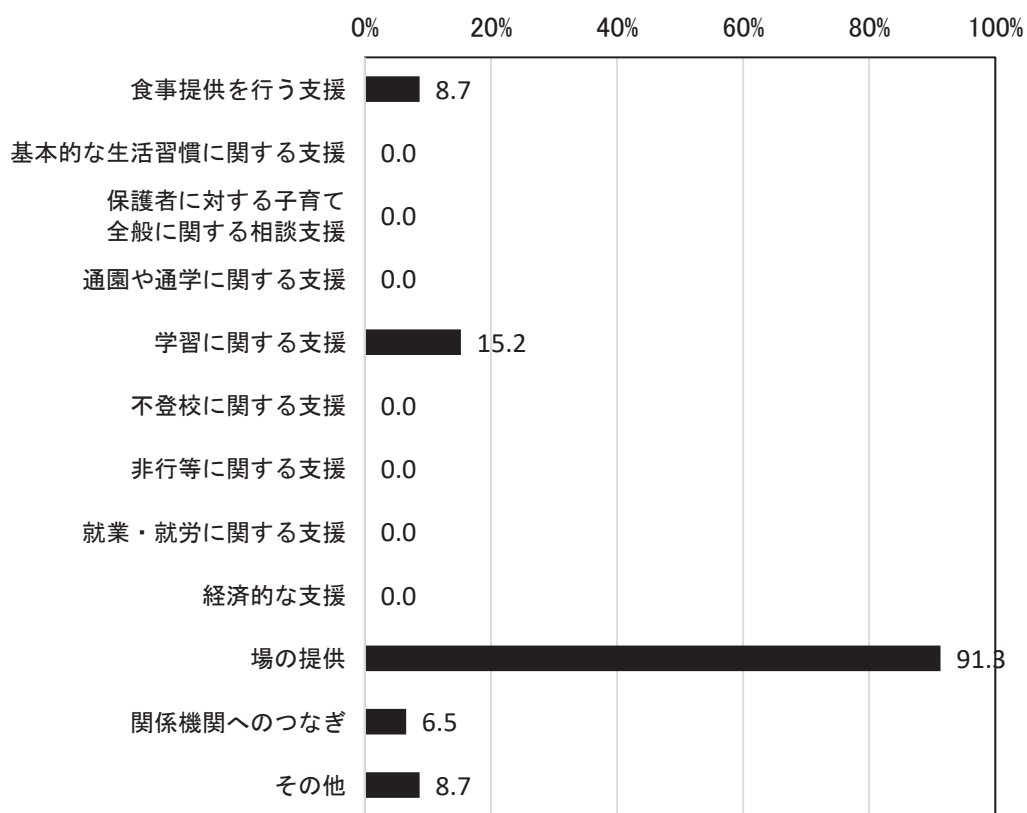


図 67 社会資源の種類別に見た提供サービス (⑥公民館 糸満市)

糸満市における「公民館」の提供サービスの割合を見ると、「場の提供」が 91.3%でもっとも高い割合となっている。次いで「学習に関する支援」が 15.2%の割合となっており、糸満市において回答の得られた「公民館」では高い割合で「場の提供」が行われていることがわかる。

⑦子どもの居場所

【うるま市】子どもの居場所 (N=14)

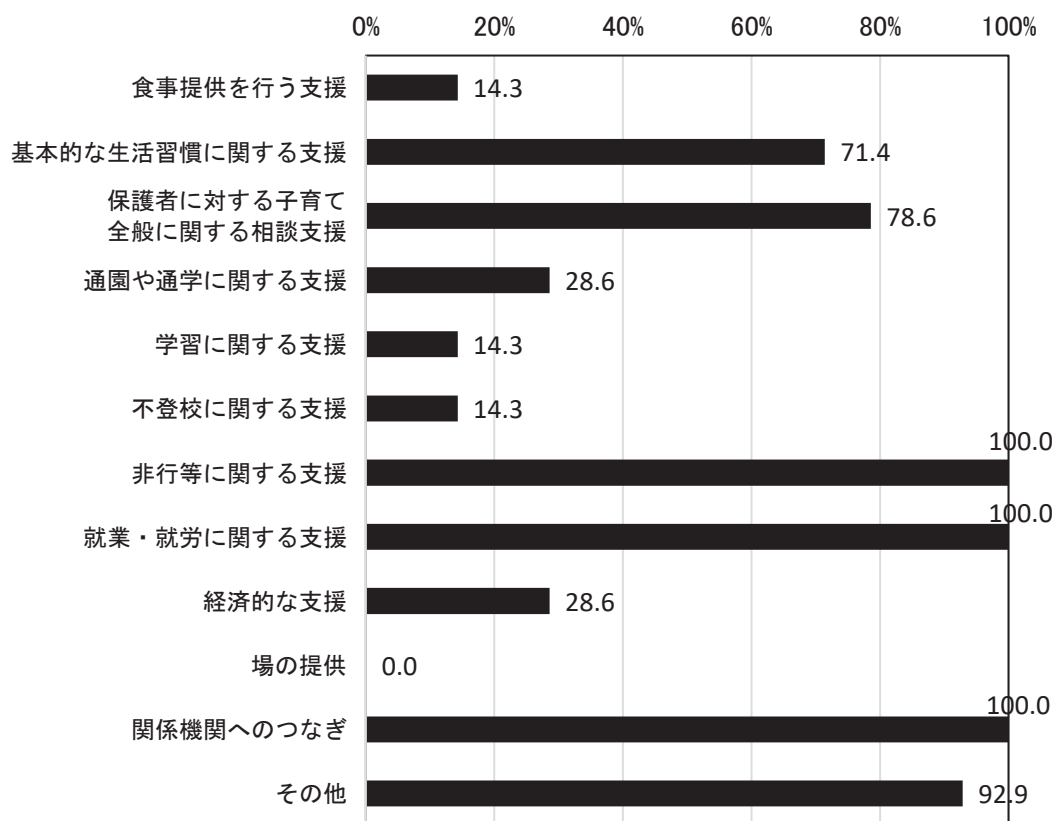


図 68 社会資源の種類別に見た提供サービス (⑦子どもの居場所 うるま市)

うるま市における「子どもの居場所」の提供サービスの割合を見ると、「非行等に関する支援」、「就業・就労に関する支援」、「関係機関へのつなぎ」が100%となっており、うるま市における回答の得られたすべての「子どもの居場所」でこれらのサービスが提供されていることがわかる。次いで「その他」が92.9%、「保護者に対する子育て全般に関する相談支援」が78.6%、「基本的な生活習慣に関する支援」が71.4%となっており、うるま市における「子どもの居場所」では、施設ごとに提供するサービスが幅広いことが予測できる。

【糸満市】子どもの居場所（N=6）

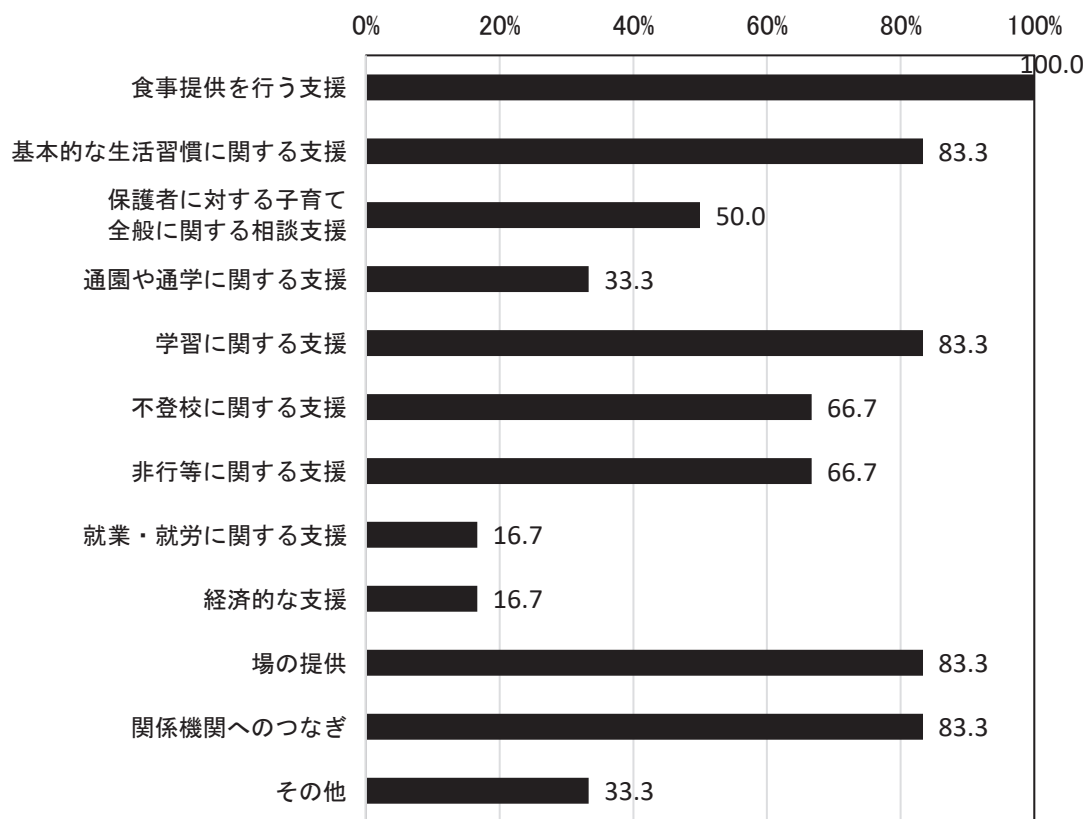


図 69 社会資源の種類別に見た提供サービス (⑦子どもの居場所 糸満市)

糸満市における「子どもの居場所」の提供サービスの割合を見ると、「食事提供を行う支援」が 100%となっており、糸満市における回答の得られたすべての「子どもの居場所」で「食事提供を行う支援」が行われていることがわかる。次いで「基本的な生活習慣に関する支援」、「学習に関する支援」、「場の提供」、「関係機関へのつなぎ」が 83.3%、「不登校に関する支援」、「非行等に関する支援」が 66.7%となっている。

⑧地域の集まり（※うるま市では回答0件）

【糸満市】地域の集まり（N=2）

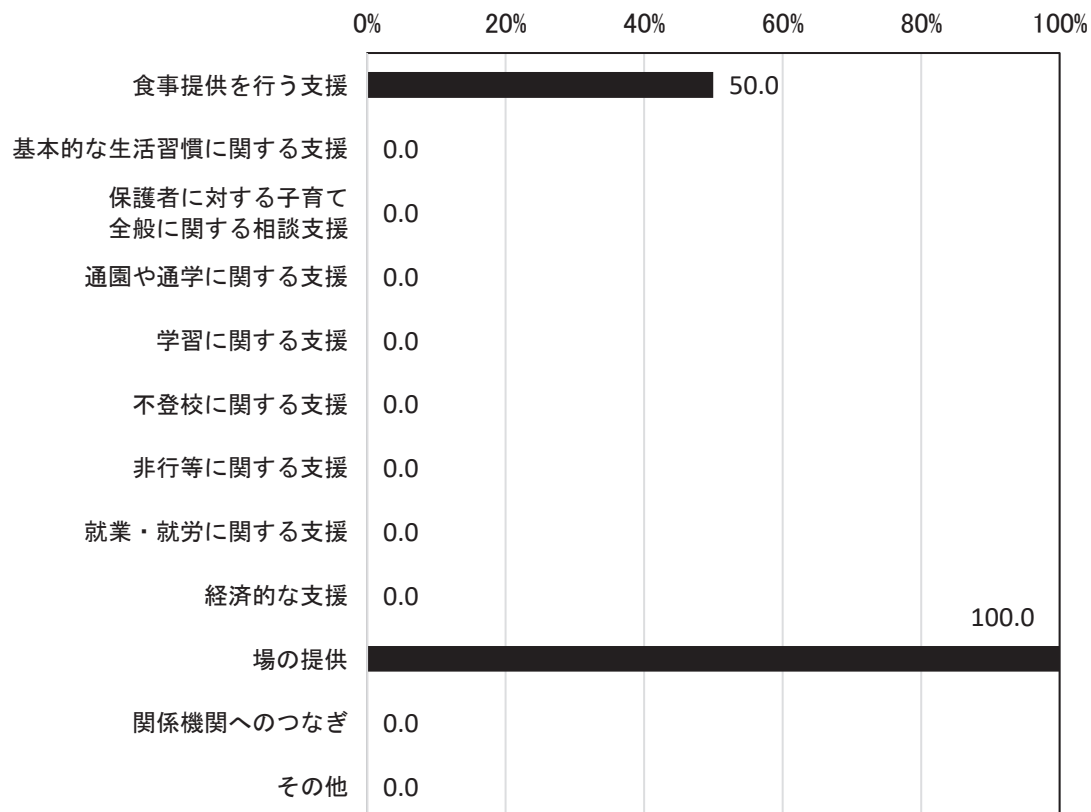


図 70 社会資源の種類別に見た提供サービス（⑧地域の集まり 糸満市）

糸満市における「地域の集まり」の提供サービスの割合を見ると、「場の提供」が100%となっており、回答の得られた2件すべての「地域の集まり」で「場の提供」が行われていることがわかる。次いで「食事提供を行う支援」が50.0%となっている。

3. 調査結果（自由記述）

※自由記述では調査票で得られた回答の原文をそのまま記載する。

（1）目的（自由記述）

問1）事業・機関の目的についてお答えください。

【うるま市】

カテゴリー1：「学習支援」

- ・地域学習等供同施設
- ・夏休み期間の学習支援
- ・住民福祉・学習
- ・学習支援「寺子屋」地域活性化・子ども育成
- ・中高生の居場所として、学習支援も兼ねている
- ・学習の習慣・社会性の育成・基本的自立を目的としている
- ・学習習慣の定着
- ・基礎学力の定着を図り、学習意欲を高める
- ・離島で塾がないため未来塾を通して生徒の役に立てればと
- ・学力向上

カテゴリー2：「健全育成・親支援」

- ・0歳から18歳までの子どもの健全育成事業
- ・食事の提供や生活指導・学習支援等を通じて、様々な困りごとを抱えている子どもたちに自己肯定感や将来のビジョンを見据えることができるように支援する。
- ・子育て支援
- ・育成事業
- ・共働き家庭の支援
- ・就労保護者支援
- ・親が安心して勤労できるための遊びや生活の場の提供
- ・保護者が迎えに来るまでの健全育成事業
- ・児童の健全育成と遊び及び生活の支援
- ・小学生の放課後の保育
- ・安全管理
- ・放課後児童預かり
- ・小学生の放課後を総合的な視点からの充実を図り、また、家庭においての家族との時間を有意義なものにするため。
- ・就労等の理由で放課後家庭にいない保護者に代わって保育をする

- ・児童の健全育成と遊び及び生活の支援
- ・放課後に子供の健全な育成を図る
- ・学校終了後の生活の場を与え、児童の健全育成を図る
- ・放課後児童の預かり、保育
- ・放課後児童健全育成支援事業
- ・放課後の安全・生活面の保障、親支援
- ・放課後の子どもの健全育成を目的とした事業
- ・遊びを通して児童の健全育成を目的とした事業
- ・児童に生きる力を培う
- ・学童保育

カテゴリー3：「困窮者支援」

- ・子ども・家庭支援が全面にあり、貧困対策でもある
- ・子どもの貧困対策事業
- ・不登校や引きこもり、非行を抱える困窮世帯の子ども・若者に対し、食事や生活支援、キャリア形成サポートなど福祉・教育技法による専門的な支援を行う。
- ・行政、NPO、大学、企業、民間、市民の方々とチームで取り組み、「みんながみんなの子どもを育てる社会」をつくることで、貧困の連鎖を断ち切ります。

カテゴリー4：「子どもの居場所提供」

- ・子ども食堂・子どもの居場所事業
- ・子どもの居場所づくり運営事業
- ・子どもたちが、生まれ育った家庭の経済社会状況にかかわらず、未来への希望を持ち、自立する力を伸ばすことのできる機会と環境を提供する。子どもの家事業は、生活困窮家庭の子どもたちに、「第三の居場所」を提供することで、人や社会と関わる力、自己肯定感、学習習慣など自立する力を伸ばし、社会的相続を補完します。
- ・居場所作り
- ・放課後の子供たちが友達と楽しく遊ぶ場の提供
- ・児童厚生施設であり、放課後の安心安全な遊びの場・居場所
- ・子どもたちの居場所作り
- ・放課後の子供の居場所作り
- ・放課後の子どもの居場所、学習環境の提供
- ・少人数のため異学年を通して仲良く楽しみながら学ぶ
- ・1～3学年児童を対象とした放課後居場所づくり（宿題・お絵描き・工作・昔遊び等）
- ・児童に安全な場所の提供

カテゴリー 5 : 「生涯学習支援」

- ・三線教室
- ・ダンスを通して表現力・意欲を養う。
- ・市民の生涯にわたる自己学習を援助し生活課題の解決を支援する。
- ・市民の生涯学習を支援し、生活課題の解決に寄与する。

カテゴリー 6 : 「地域活性」

- ・地域コミュニティー
- ・コミュニティー施設
- ・コミュニケーションによる安心安全の地域づくり
- ・地区のコミュニティー供用施設

【糸満市】

カテゴリー 1 : 「学習支援」

・様々な問題を抱える子どもたちに食事の提供、生活支援、学習支援、キャリア形成等の支援を行う

カテゴリー 2 : 「健全育成・親支援」

- ・「安全で安心して生活」できる学童保育を提供し、児童・保護者への支援を行う
- ・児童が将来、社会に出た時に役立つよう社会スキルを身につけるように支援します。又、保護者と子どもの関係がよくなるための保護者支援をします。
- ・家庭的な雰囲気の中で、児童の自主性、主体性を重んじ、自然の中でのびのびとした育成支援を行う。
- ・放課後児童健全育成事業
- ・放課後健全育成事業
- ・子供に健全な遊びを提供し、その健康を増進し、情緒を豊かにすることを目的としています。
- ・児童健全育成
- ・保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後等に適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図るものです。
- ・通常の居場所で支援が難しい子どもたちや、養育が困難な保護者及び若年妊産婦へ居場所を提供し生活指導やキャリア形成等の手厚い専門的支援等を行う。

カテゴリー 3 : 「困窮者支援」

- ・貧困対策事業の一環

カテゴリー4：「子どもの居場所提供」

- ・放課後に児童が安全に過ごせるように預かる。
- ・安全・安心な子どもの活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子供たちに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の機会を提供することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進すること
- ・子どもからお年寄りまで利用できる地域の居場所として、子供や家庭の困り感を早期発見し各関係機関にすばやく繋げる。
- ・主に非行の課題を抱える児童生徒の居場所
- ・放課後、保育に欠ける子への生活場の提供

カテゴリー5：「生涯学習支援」

- ・本等資料閲覧及び貸出

カテゴリー6：「地域活性」

- ・伝統芸能の継承、地域全体の活性化、青少年の健全育成などを目的に活動している

(2) 対象エリアの設定理由（自由記述）

問3-1) 事業・機関がサービスの対象と想定しているエリアの有無について、あてはまる番号の欄に「1」を入力してください。エリアがある場合は、そのエリアを対象とする理由もお答えください。

【うるま市】

カテゴリー1：「運営上の理由」

- ・送迎がない為。
- ・送迎ができない為。
- ・送迎可能地域限定。
- ・徒歩での利用可能範囲。
- ・市内唯一の拠点型事業の為。
- ・学校区域のため。
- ・PTAが委託を受け、実施しているため。
- ・島嶼地域の為。
- ・地域の子ども優先。
- ・時間帯が設定しやすい。
- ・運営、維持管理費が必要
- ・自治会費の問題（中学は、校区）。

カテゴリー 2 : 「連携」

- ・学校施設内で活用が比較的容易だから。
- ・他自治会と重複しない為。

カテゴリー 3 : 「サービスの向上」

- ・今後、効果測定を行うため、比較対象者限定する必要がある。
- ・コミュニティ形成も目的とする。
- ・提供サービスの質が低下する為。
- ・受入れ人数に限りがある為。
- ・中学へ進学してもつながりや交流を持てる為。
- ・限られた放課後という時間をよりよいものにする為。
- ・移動にかかる時間を最小限にとどめる事が出来る為。
- ・児童の安全管理の面。

【糸満市】

カテゴリー 1 : 「運営上の理由」

- ・糸満市からの委託事業だから
- ・市から委託を受けている事業だから
- ・送迎できない
- ・送迎の負担を減らすため
- ・送迎時間の短縮等
- ・送迎できる距離を考慮している。
- ・送迎の観点から複数エリアは厳しい
- ・小学生の授業終了後に学校まで車両で迎えに行くため、エリアを限定しないとお迎えが困難になるためです。
- ・学校区で分けている
- ・原則市民を対象にしている。調べモノは市民以外も受入している。
- ・小学校内での実施となるため、対象エリアを該当小学校の児童としている
- ・地区が他の小学校と離れているため

カテゴリー 2 : 「連携」

- ・待機児童の解消を図る為、対象エリアを他の児童クラブとの協議の元、設定した。
- ・通所している学校の行事等（運動会、学習発表会）に参加し、学校との連携を図る。
- ・学校の連携や地域連携をする際にエリアを設定していることで、全職員で関わる事ができる

- ・地域や学校との連携が行いやすい。

カテゴリー3：「サービス向上」

- ・日常の遊びと生活の場であり、長い期間で支援できるから。

(3) 効果や課題（自由記述）

問10) その他、事業・機関の実施に関して、支援の効果や課題とを感じる点があれば、お答えください。

【うるま市】

1. 効果

カテゴリー1：「子どもの居場所提供」

- ・放課後居場所がなかった子ども達が毎日来ることができるようになっている。(子供の居場所)
- ・子どもたちの居場所・異年齢交流(学童保育)
- ・子供たちの放課後の安全を確保(放課後の居場所づくり)(学童保育)
- ・子供達が安心して過ごせる場所が提供されている。(放課後子ども教室)
- ・児童と支援員、児童同士の信頼関係が築かれ、悩みや相談ができるようになった。苦手な問題があれば支援員と一緒に取り組むようになった。(児童館)

カテゴリー2：「地域活性」

- ・地域のボランティアが活躍(公民館)
- ・子ども達が地域と関わりを持てた。(放課後子ども教室)

カテゴリー3：「利用増加」

- ・自治会の行事に多数の子どもや保護者等が参加が増えている(公民館)
- ・年々利用者が増加し、支援が広がった。(学童保育)
- ・お話し会や図書館行事を通して、子ども達の興味や関心が高まり、利用増加に繋がっている。(図書館・博物館)
- ・学童の認知度も上がり、年々待機児童が多くなっている。(学童保育)

カテゴリー4：「家庭(保護者)支援」

- ・働く親にとっての支援につながっている。(学童保育)
- ・ひとり親世帯の生活支援ができるようになった。(子どもの居場所)
- ・保護者様から、お子様がよく笑うようになったと教えて頂いた。(学童保育)
- ・行事を通して、保護者の協力が得られた(学童保育)

・児童の変化や成長が家庭で見られるようになり、保護者の理解が得られ、各家庭との連携がしやすくなった（児童館）

カテゴリー5：「健全育成」

- ・食事が提供でき、孤食が減り、子や家庭支援に繋がるっている。（子どもの居場所）
- ・基本的な生活習慣の改善（学童保育）
- ・子供のコミュニケーション能力が高まった（放課後子ども教室）
- ・自分の意見や考えが発表できるようになり、行動力がでてきている。運動遊びが活発になってきている。（学童保育）
- ・体験活動や遊びを軸とした活動によって、利用者の自尊感情が高まっている。（子どもの居場所）
- ・学びに向かう雰囲気づくりに貢献している（地域未来塾）
- ・学習面でわからない時は講師やお互い同士聞きながら集中して学べる（地域未来塾）

カテゴリー6：「他機関との連携」

- ・課題のある子への支援を学校や行政と連携をとりながら支援できた（子どもの居場所）
- ・8月に始まった事業だが、アウトリーチを実施し10名の登録と居場所への繋がりが出来ている。（子どもの居場所）
- ・幼稚園からの不登校、学童生活支援、母子相談支援、学校側(8名)と情報交換会をお願いし、2学期より一人で登校するようになった。（学童保育）

2. 課題

カテゴリー1：「運営面（資金・人材不足）」

- ・自治会運営費等が参加希望者（自治会未加入世帯）の妨げ。自治会への補助金や助成金額を充実させ参加を促す。（公民館）
- ・運営費の用途制限の緩和（学童保育）
- ・長期休み期間の人材確保（学童保育）
- ・事業予算が厳しく人材が確保できない（学童保育）
- ・今までの保育の質を維持・向上しつつ、いかに職員の負担を軽減していくかだと思ふ。（学童保育）
- ・指導員不足で待機児童がいる（学童保育）
- ・保護者のボランティアで行っているため、継続的支援委員の確保（放課後児童クラブ）
- ・合併に伴い校区が遠い（児童館）

カテゴリー2：「施設・設備面」

- ・公民館が狭く充実した活動が困難（公民館）

- ・人材不足、屋外広場面積不足、設備不足（公民館）
- ・駐車場の確保（学童保育）
- ・面積の問題で受け入れられない。（学童保育）

カテゴリー 3 : 「支援面」

- ・発達の気になる子への対応。（学童保育）
- ・職員のスキル（学童保育）
- ・低所得者家庭の支援（学童保育）
- ・食事のマナーや生活習慣に対する支援（学童保育）
- ・生活習慣に対する家庭との連携。（学童保育）
- ・学校との情報共有、（子どもの居場所）

カテゴリー 4 : 「利用者の確保」

- ・子ども会の会員が少ない（公民館）
- ・定員割れ（学童保育）
- ・乳幼児親子の利用が減少している周知が必要（児童館）
- ・思うように生徒が集まらない。ムラがある。（放課後子ども教室）

【糸満市】

1. 効果

カテゴリー 1 : 「子どもの居場所提供」

- ・子供 110 番（集会所）
- ・子どもたちの活動の幅が広がる（例：プログラムでクッキングを実施したら家庭でも家事を手伝うようになった）（放課後子ども教室）

カテゴリー 2 : 「地域活性」

- ・老人クラブ、子ども会が利用（公民館）
- ・申請があれば誰でも利用できる（公民館）
- ・畑にゴミ捨てられてたのを注意して見回り、ゴミ捨てが減った（公民館）

カテゴリー 3 : 「利用者増加」

- ・子どもの年度内退所者が減った（学童保育）
- ・居場所活動が周知され、利用者への啓発がいきわたりつつある。（子どもの居場所）

カテゴリー 4 : 「家庭（保護者）支援」

- ・ボーイズタウンコモンセンスペアレンティングの技法を用いて、よりよい親子関係を築く

ための保護者向け講座をしている。保護者の支援になっている。(学童保育)

- ・児童が将来、社会に出た時に役立つよう社会スキルを身につけるように支援します。又、保護者と子どもの関係がよくなるための保護者支援をします。(学童保育)
- ・保護者の困り感等を聞く機会が増え、解消出来る様に携れている。(学童保育)
- ・貧困対策事業の一環 (児童館)

カテゴリー 5 : 「健全育成」

- ・他者との関わりが少ない子どもも意欲的に来所するようになってきている。(子どもの居場所)

カテゴリー 6 : 「他機関との連携」

- ・兄弟事業所である放課後デイサービスとの連携が取れている為、障がい児の受け入れ体制が整ったと感じる。(学童保育)
- ・関係機関と連携が図られ、効果の現れる支援を行うことができた (子どもの居場所)

2. 課題

カテゴリー 1 : 「運営面 (資金・人材不足)」

- ・施設利用の際は必ず監視する大人がいる (公民館)
- ・学習支援ボランティア (学生) が定着しない。(児童館)
- ・有資格者の人材不足 (学童保育)
- ・待機児童が増え消化できない (学童保育)
- ・施設の家賃、維持費が高い (学童保育)
- ・サポーターの確保 (県の補助金の謝礼金補助上限額が少なく、サポーターに支払う額が限られている) (放課後子ども教室)

カテゴリー 2 : 「施設・設備面」

- ・施設的环境が整っていない (学童保育)

カテゴリー 3 : 「支援面」

- ・さらに連携・相談・継続した支援を。(児童館)
- ・受け入れ口が広いため、困難事例が複数ある。その中には専門性が問われるケースがある。(子どもの居場所)
- ・関係機関との連携の取り方がむずかしい。専門的な支援が必要なケースについて、対応に困っている。(子どもの居場所)

カテゴリー 4 : 「利用者の確保」

- ・児童の利用なし (公民館)

- ・自治会内に住む人の孫が利用、母子で体操を週1回のみ（公民館）
- ・施設内は大人のみ利用、子どもはグランドゴルフをする広場で遊ぶぐらい（公民館）
- ・主に大人・高齢者が利用、子どもはイベントごとに参加する程度（公民館）
- ・夏休みの平日に勉強室を開放したが利用者が1日5人程度、基本的に太陽児童センターを利用しているため（公民館）
- ・子ども会などにもっと利用してほしい（公民館）
- ・4月から8月までは、待機ができるほどであるが9月からは利用者が退所が始まり3月まで定員割れがあり、経営的にバランスが悪い。（学童保育）
- ・集会所を利用できていない、子ども会も活動していない状態（公民館）
- ・公民館で遊ぶ風習がない、そもそも子供の数が少ない（公民館）
- ・子ども会がないので、公民館の利用が少ない（公民館）
- ・子供が少ない、近くの広場で遊んでいる（公民館）
- ・新規の参加者が少ない（地域の集まり）

カテゴリー5：「地域理解」

- ・地域住民等の理解不足（非行性と対応のため）（子どもの居場所）

4. 小学校区別に見た社会資源一覧

【うるま市】

| 社会資源種類 小学校区 | 児童館 | 学童保育 | 放課後子ども教室 | 地域未来塾 | 図書館・博物館 | 公民館 | 子どもの居場所 | 地域の集まり | その他 | 合計 |
|----------------|-----|------|----------|-------|---------|------|---------|--------|-----|-------|
| 川崎小学校 | | 5箇所 | 1箇所 | | | 3箇所 | | | | 8箇所 |
| 天願小学校 | 1箇所 | 7箇所 | | | | 5箇所 | 3箇所 | | | 16箇所 |
| あげな小学校 | | 2箇所 | 1箇所 | 1箇所 | | 2箇所 | | | | 6箇所 |
| 田場小学校 | | 3箇所 | 2箇所 | | | 4箇所 | 2箇所 | | | 11箇所 |
| 具志川小学校 | | 1箇所 | 1箇所 | | | 1箇所 | | | | 3箇所 |
| 兼原小学校 | | 8箇所 | 2箇所 | 1箇所 | 1箇所 | 4箇所 | 1箇所 | | | 17箇所 |
| 赤道小学校 | | 3箇所 | 1箇所 | | | 3箇所 | | | | 7箇所 |
| 中原小学校 | | 3箇所 | 1箇所 | | | 3箇所 | | | | 7箇所 |
| 高江洲小学校 | 1箇所 | 2箇所 | 2箇所 | 1箇所 | | 5箇所 | 2箇所 | | | 13箇所 |
| 宮森小学校 | | 2箇所 | 1箇所 | | | 5箇所 | 1箇所 | | | 9箇所 |
| 城前小学校 | 1箇所 | 2箇所 | 2箇所 | 1箇所 | 1箇所 | 4箇所 | 4箇所 | | | 15箇所 |
| 伊波小学校 | | 3箇所 | 2箇所 | 1箇所 | | 6箇所 | 1箇所 | | | 13箇所 |
| 南原小学校 | | 2箇所 | 2箇所 | 1箇所 | | 1箇所 | | | | 6箇所 |
| 勝連小学校 | | 2箇所 | | | 1箇所 | 2箇所 | | | | 5箇所 |
| 与那城小学校 | 1箇所 | 1箇所 | 1箇所 | 1箇所 | | 5箇所 | 3箇所 | | | 13箇所 |
| 平敷屋小学校 | 1箇所 | 1箇所 | 1箇所 | | | 1箇所 | 2箇所 | | | 6箇所 |
| 津堅小学校 | | | 1箇所 | 1箇所 | | 1箇所 | | | | 3箇所 |
| 彩橋小学校 | 1箇所 | 1箇所 | 1箇所 | 1箇所 | | 8箇所 | 2箇所 | | | 14箇所 |
| 校区なし | | 1箇所 | | | | | | | | 1箇所 |
| 合計 | 6箇所 | 49箇所 | 22箇所 | 9箇所 | 3箇所 | 63箇所 | 21箇所 | 0箇所 | 0箇所 | 173箇所 |

図 71 小学校区別社会資源一覧（うるま市）

【糸満市】

| 社会資源種類 小学校区 | 児童館 | 学童保育 | 放課後子ども教室 | 地域未来塾 | 図書館・博物館 | 公民館 | 子どもの居場所 | 地域の集まり | その他 | 合計 |
|----------------|-----|------|----------|-------|---------|------|---------|--------|-----|------|
| 兼城小学校 | | 1箇所 | | | | 8箇所 | 2箇所 | | | 11箇所 |
| 糸満小学校 | 1箇所 | 1箇所 | | | | 6箇所 | 2箇所 | | | 10箇所 |
| 糸満南小学校 | | 1箇所 | 1箇所 | | 1箇所 | 5箇所 | 1箇所 | 1箇所 | | 10箇所 |
| 高嶺小学校 | | 2箇所 | | | | 6箇所 | | 1箇所 | | 9箇所 |
| 真壁小学校 | | 1箇所 | 1箇所 | | | 10箇所 | | | | 12箇所 |
| 喜屋武小学校 | | | 1箇所 | | | 5箇所 | | | | 6箇所 |
| 米須小学校 | | 1箇所 | | | | 6箇所 | 1箇所 | | | 8箇所 |
| 西崎小学校 | 1箇所 | 2箇所 | | | | 5箇所 | 2箇所 | 1箇所 | | 11箇所 |
| 潮平小学校 | | 2箇所 | | | | 3箇所 | 1箇所 | | | 6箇所 |
| 光洋小学校 | | 4箇所 | 1箇所 | | | 6箇所 | 1箇所 | | | 12箇所 |
| 合計 | 2箇所 | 15箇所 | 4箇所 | 0箇所 | 1箇所 | 60箇所 | 10箇所 | 3箇所 | 0箇所 | 95箇所 |

図 72 小学校区別社会資源一覧（糸満市）

Ⅲ 支援状況等調査 調査結果

第2章 支援状況等調査

第1節 保護者に関する分析

1. 回答者の属性（単純集計）

1) 基本情報

【保護者】子どもとの続柄

問 27. この調査票にお答えになっている方は、お子さんからみてどなたにあたりますか。
(あてはまる番号1つに○をしてください。)

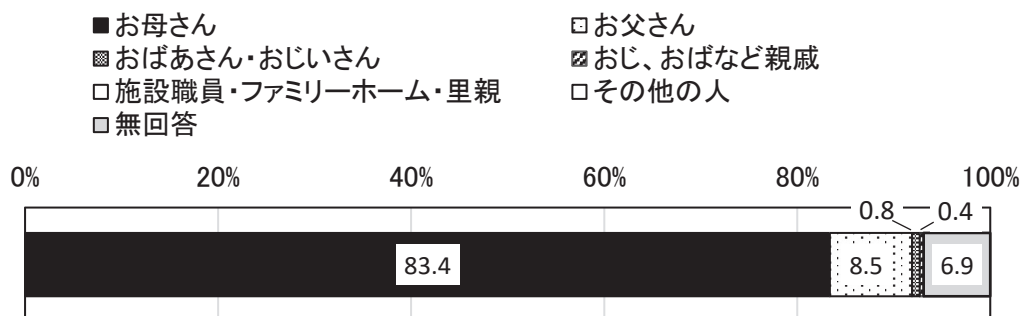


図 73 子どもとの続柄

回答者の有効サンプルは 493 名である。回答者と子どもとの続柄は、「お母さん」が 83.4% でもっとも割合が高く、次いで「お父さん」が 8.5%、「おばあさん・おじいさん」が 0.8% となっている。

【保護者】年齢

問 27-1. あなたの年齢を教えてください。

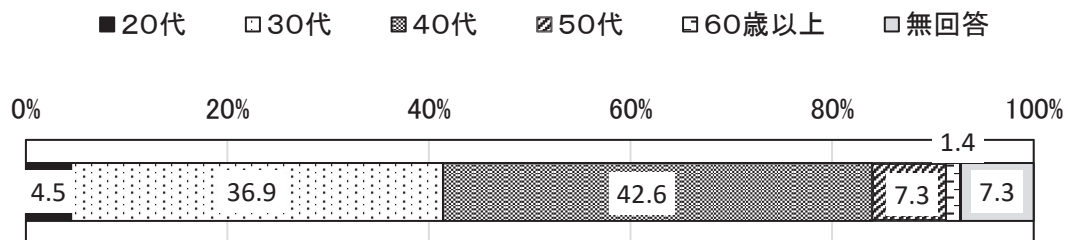


図 74 年齢

回答者の年齢は、「40代」が 42.6%でもっとも回答割合が高く、次いで「30代」が 36.9%、「50代」が 7.3%となっている。

【保護者】家族構成

i. 家族の人数

問 27-2. お子さんの家族の人数を教えてください。あなたとお子さんも含みます。(枠内に数字で記入してください)

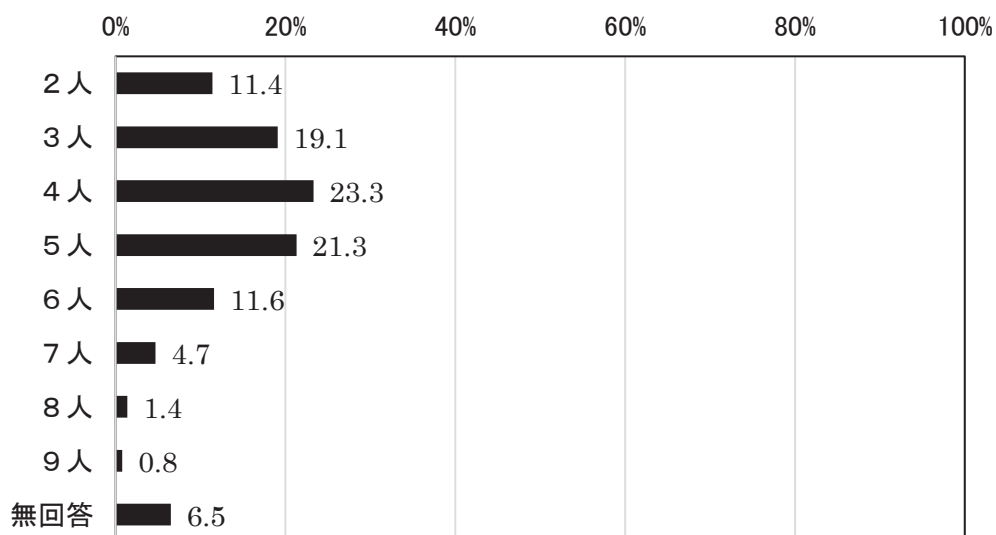


図 75 家族の人数

回答者の家族の人数は、「4人」が23.3%でもっとも回答割合が高く、次いで「5人」が21.3%、「3人」が19.1%、「6人」が11.6%、「2人」が11.4%となっている。

ii. 家族構成

問 27-3. お子さんから見た同居家族の構成について教えてください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

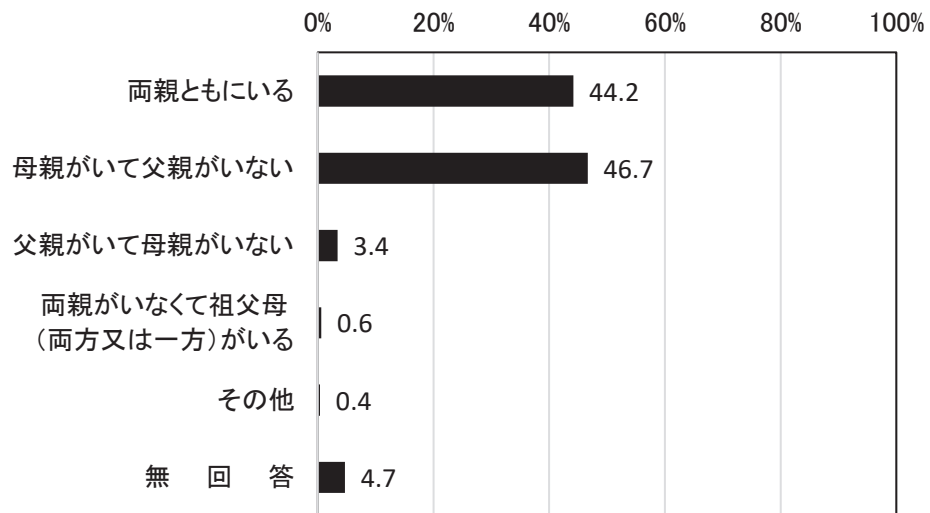


図 76 家族構成

回答者の家族構成は、「母親がいて父親がいない」が 46.7%でもっとも回答割合が高く、次いで「両親ともにいる」が 44.2%、「父親がいて母親がいない」が 3.4%、「両親がいなくて祖父母（両方又は一方）がいる」が 0.6%となっている。

2) 経済状況

【保護者】経済的理由によるはく奪経験

i. 経済的理由によるはく奪経験（生活全般に関する経験）

問 28. あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。
（おおむねこの半年の間でお考えください。）（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

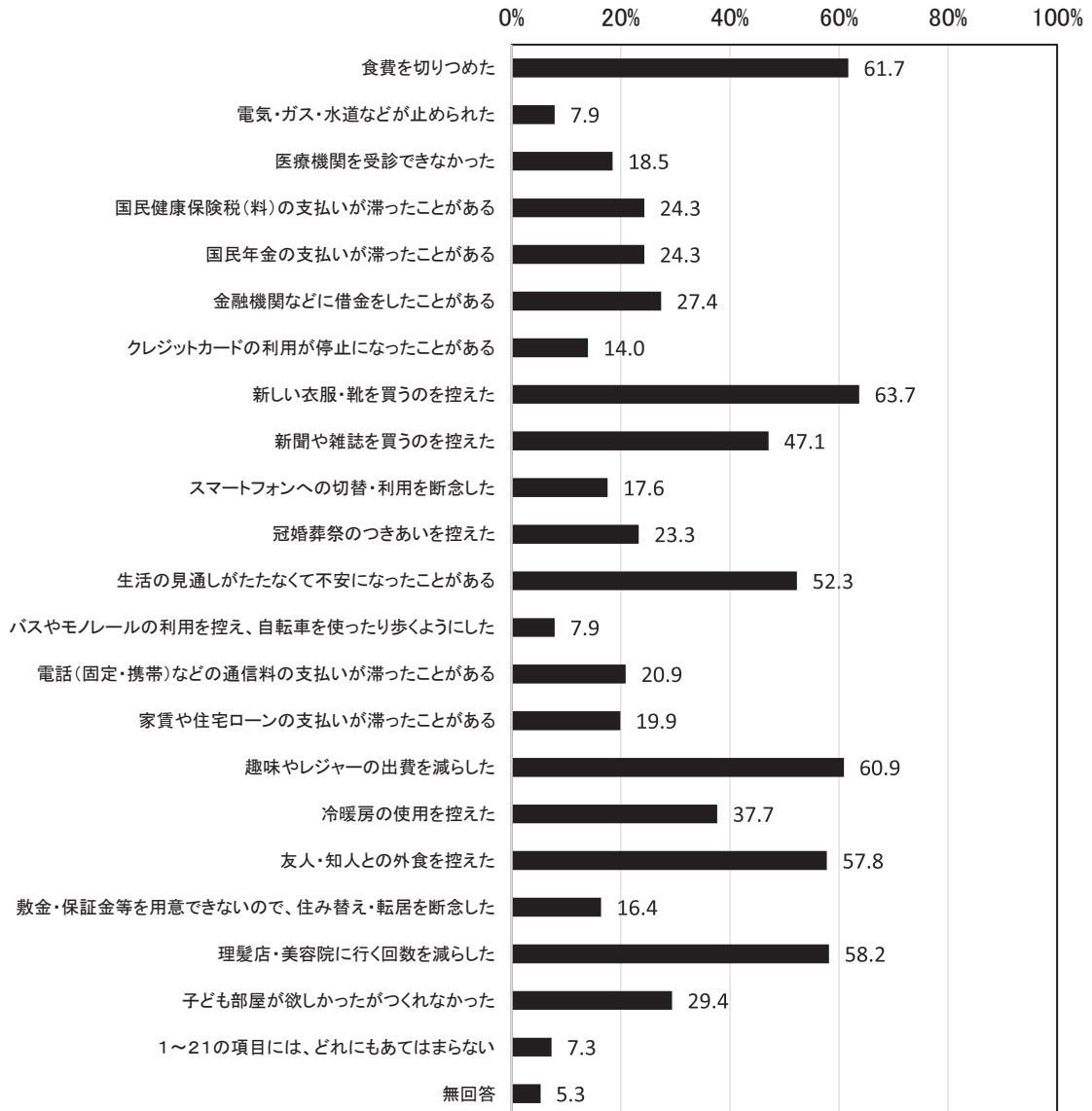


図 77 経済的理由によるはく奪経験（生活全般に関する経験）

経済的理由によるはく奪経験のうち、生活全般に関して経験したことは、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が 63.7%でもっとも回答割合が高く、次いで「食費を切りつめた」が 61.7%、「趣味やレジャーの出費を減らした」が 60.9%となっている。

ii. 経済的理由によるはく奪経験（子どもに関する経験）

問 29. あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。
（おおむねこの 1 年の間でお考えください。）（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

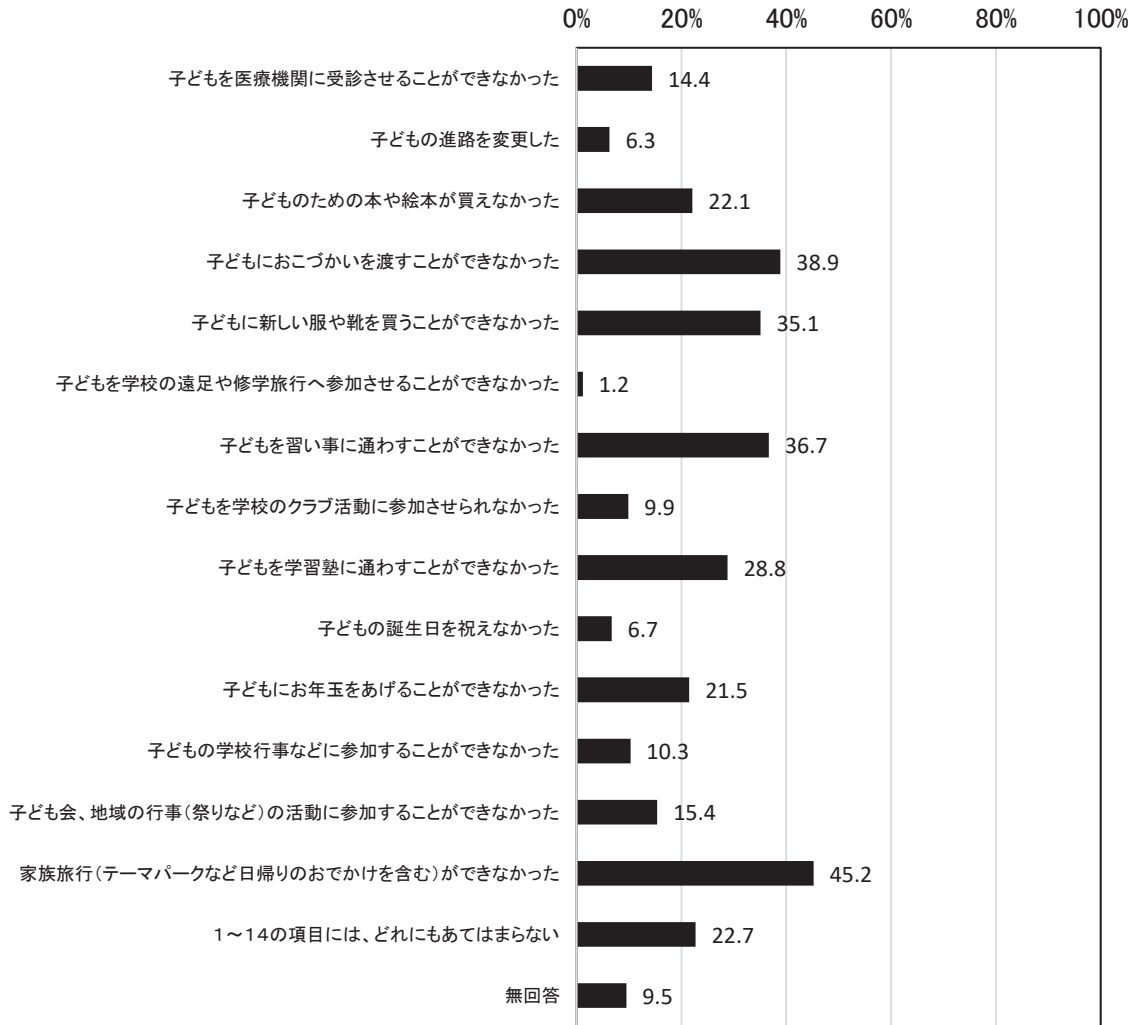


図 78 経済的理由によるはく奪経験（子どもに関する経験）

経済的理由によるはく奪経験のうち、子どもに関して経験したことは、「家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった」が 45.2%でもっとも回答割合が高く、次いで「子どもにおこづかいを渡すことができなかった」が 38.9%、「子どもを習い事に通わすことができなかった」が 36.7%となっている。

【保護者】就労状況

i. 生計を支えている方の就労状況

問 30-1. お子さんの世帯で主に生計を支えている方の現在のお仕事の状況を教えてください。(あてはまる番号1つに○をしてください)

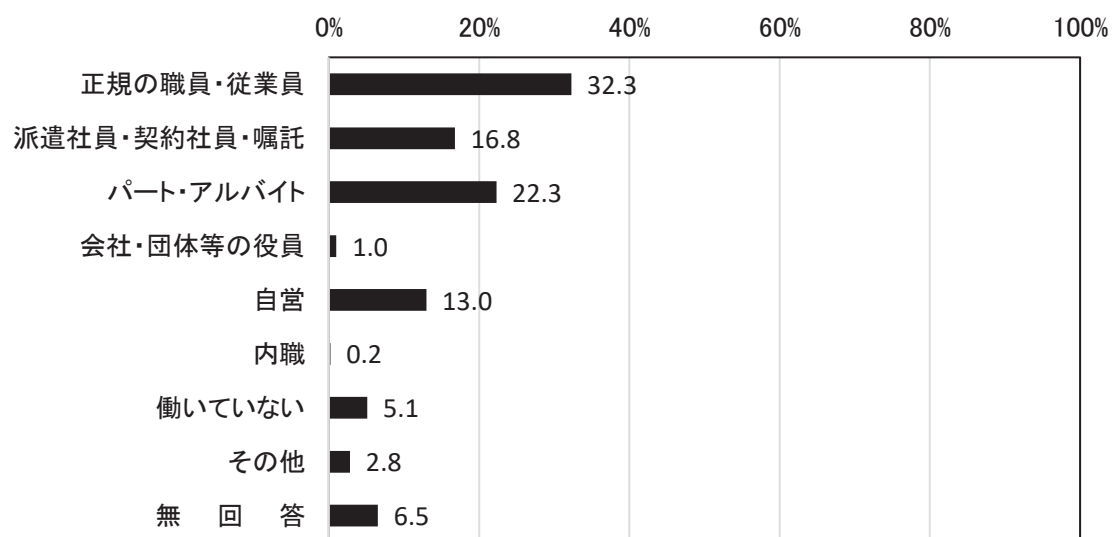


図 79 生計を支えている方の就労状況

就労状況は、「正規の職員・従業員」が 32.3%でもっとも回答割合が高く、次いで「パート・アルバイト」が 22.3%、「派遣社員・契約社員・嘱託」が 16.8%となっている。

ii. 就労していない理由

問 30-2. 問 30-1 で「7. 働いていない」と答えた方にお聞きします。働いていない理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○をつけてください)

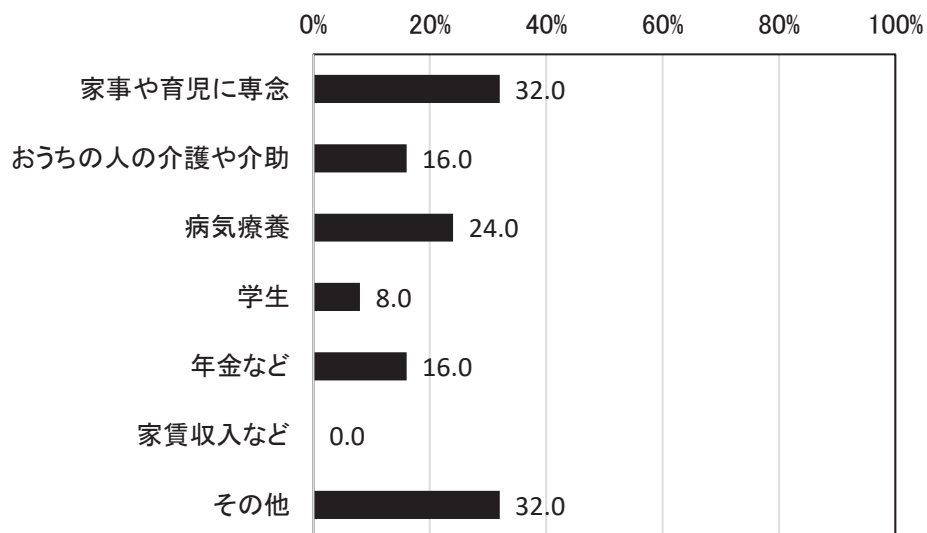


図 80 就労していない理由

就労していない理由は、「家事や育児に専念」及び「その他」が 32.0%でもっとも回答割合が高く、次いで「病気療養」が 24.0%、「おうちの人の介護や介助」及び「年金など」が 16.0%となっている。

2. 単純集計から見た分析結果

1) 社会資源の利用状況（問 2-1～問 3-2）

【保護者】社会資源の認知度

問 2-1（問 10-1、問 19-1）-A. 表 1 にあげた、それぞれの場所をあなたは知っていますか。左の表の「知らない」、もしくは「知っている」のどちらかに○をつけてください。

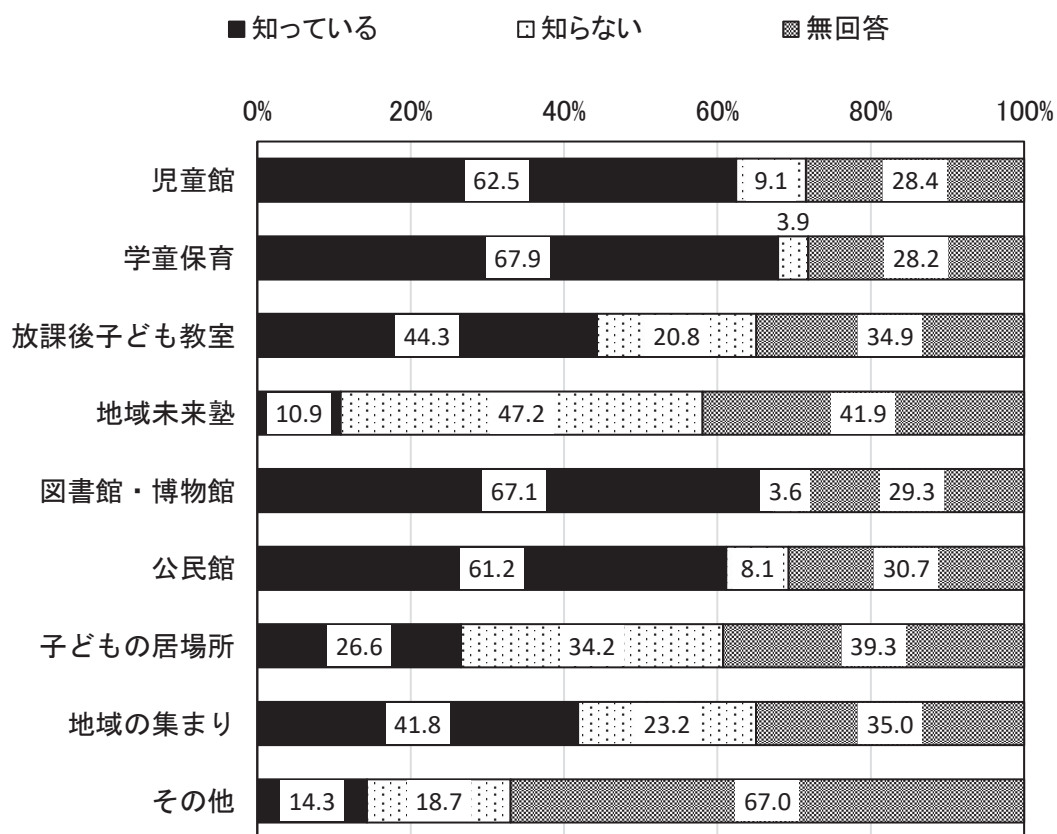


図 81 社会資源の認知度（全体）

社会資源の認知度を見ると、回答者が「知っている」と答えた割合が高い社会資源は「学童保育」が 67.9% ともっとも高く、次いで「図書館・博物館」が 67.1%、「児童館」が 62.5%、「公民館」が 61.2% となっている。一方「知らない」と答えた割合が高い社会資源は「地域未来塾」が 47.2% ともっとも高く¹、次いで「子どもの居場所」が 34.2%、「地域の集まり」が 23.2% となっている。

¹ 「地域未来塾」は中学校でのみ開設され、中学生が対象となる社会資源であるため、中学生以上の子どもがいない世帯では認知度が低いと考えられる。

【保護者】社会資源の利用状況

問 2-1 (問 10-1、問 19-1) -B. また、知っているに○をつけた場合で、お子さんの 1 人目 (2 人目、3 人目) がその場所を利用したことがあれば右の表に○をつけてください。

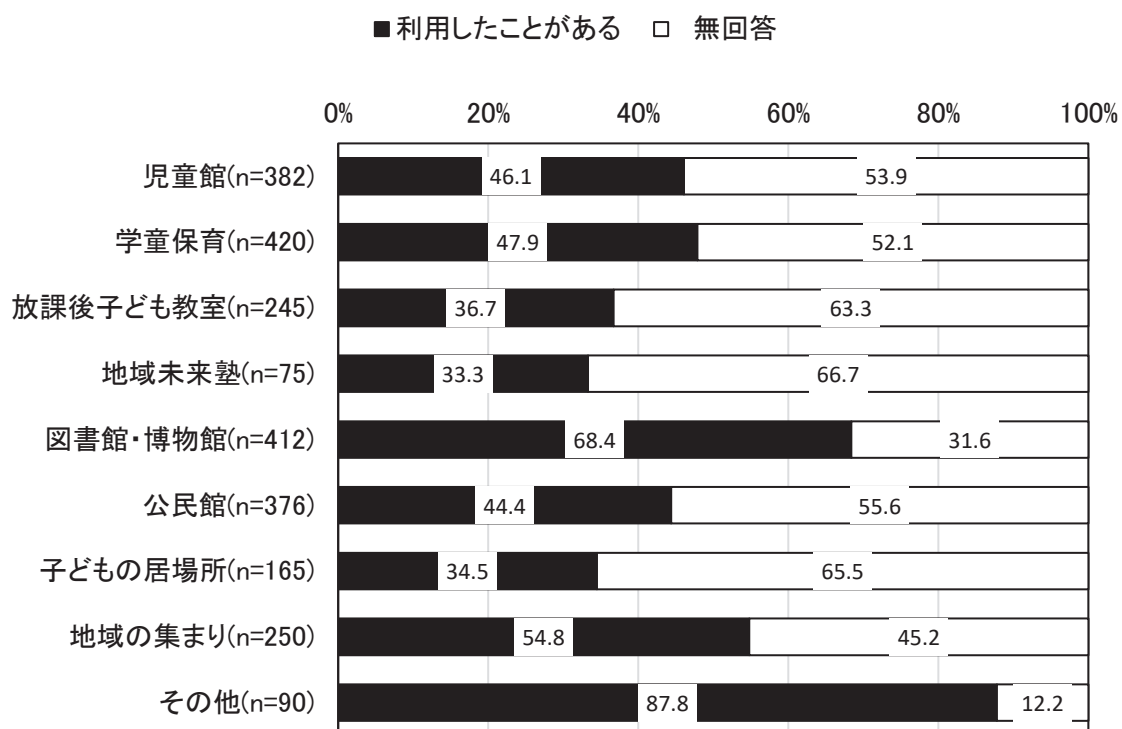


図 82 社会資源の利用状況 (1 人目)

回答者の 1 人目の子どもが利用したことがある社会資源を見ると、「その他」が 87.8%で最も回答割合が高く、次いで「図書館・博物館」が 68.4%、「地域の集まり」が 54.8%となっている。

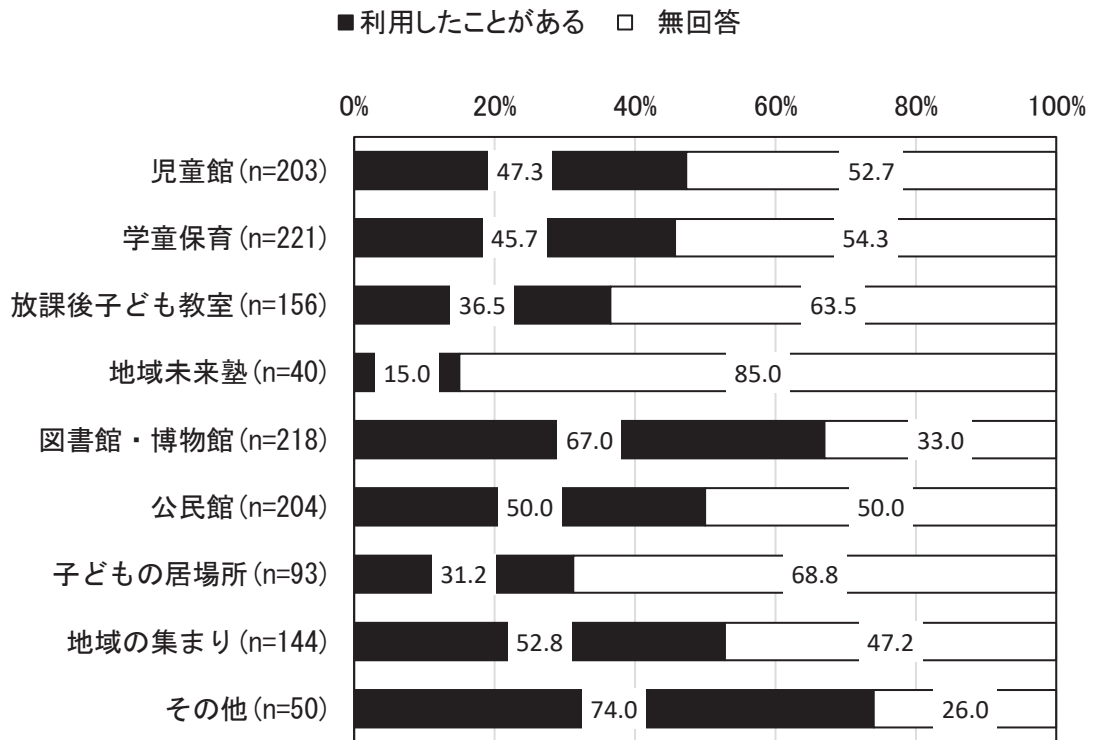


図 83 社会資源の利用状況 (2 人目)

回答者の 2 人目の子どもが利用したことがある社会資源を見ると、「その他」が 74.0%で最も回答割合が高く、次いで「図書館・博物館」が 67.0%、「地域の集まり」が 52.8%となっている。

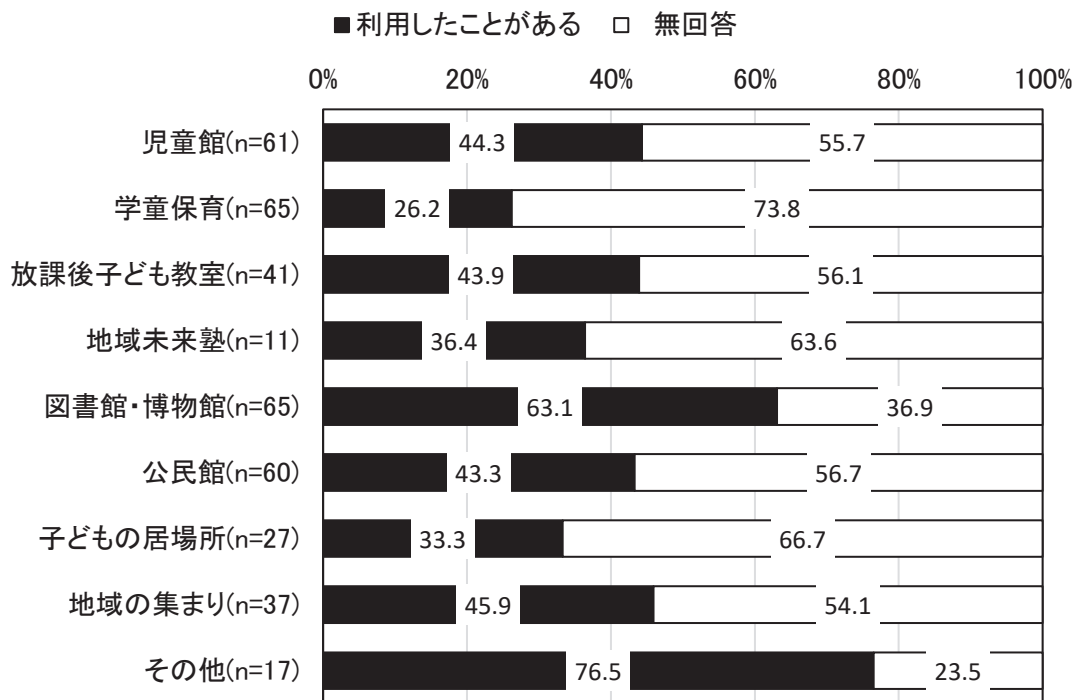


図 84 社会資源の利用状況 (3人目)

回答者の3人目の子どもが利用したことがある社会資源を見ると、「その他」が76.5%でもっとも回答割合が高く、次いで「図書館・博物館」が63.1%、「地域の集まり」が45.9%となっている。

【保護者】 行ったことがある社会資源の数

問 2-1 (問 10-1、問 19-1) -C. その下に利用したことのある場所の合計の数も書いてください。

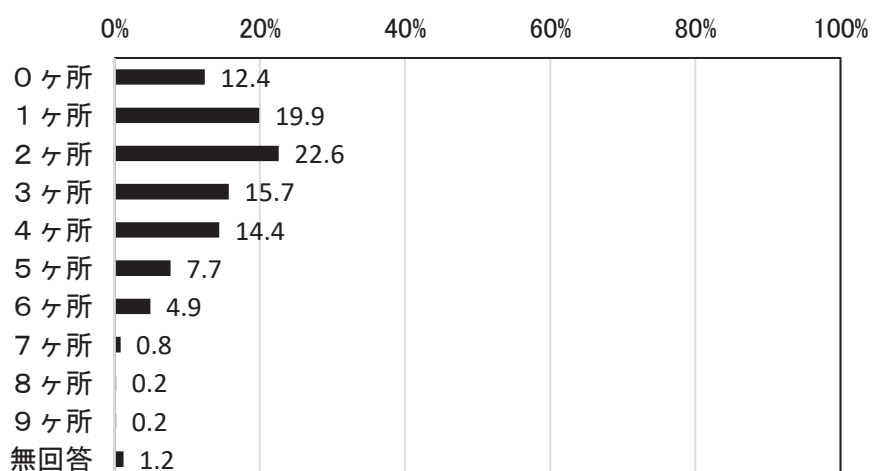


図 85 行ったことがある社会資源の数 (1人目)

回答者の1人目の子どもが行ったことがある社会資源の数を見ると、「2ヶ所」が22.6%でもっとも回答割合が高く、次いで「1ヶ所」が19.9%、「3ヶ所」が15.7%となっている。

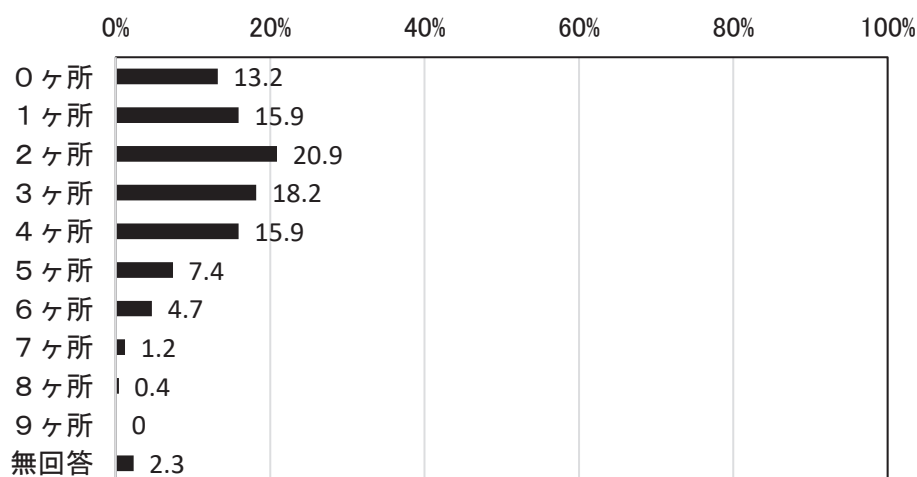


図 86 行ったことがある社会資源の数 (2人目)

回答者の2人目の子どもが行ったことがある社会資源の数を見ると、「2ヶ所」が20.9%でもっとも回答割合が高く、次いで「3ヶ所」が18.2%、「1ヶ所」及び「4ヶ所」が15.9%となっている。

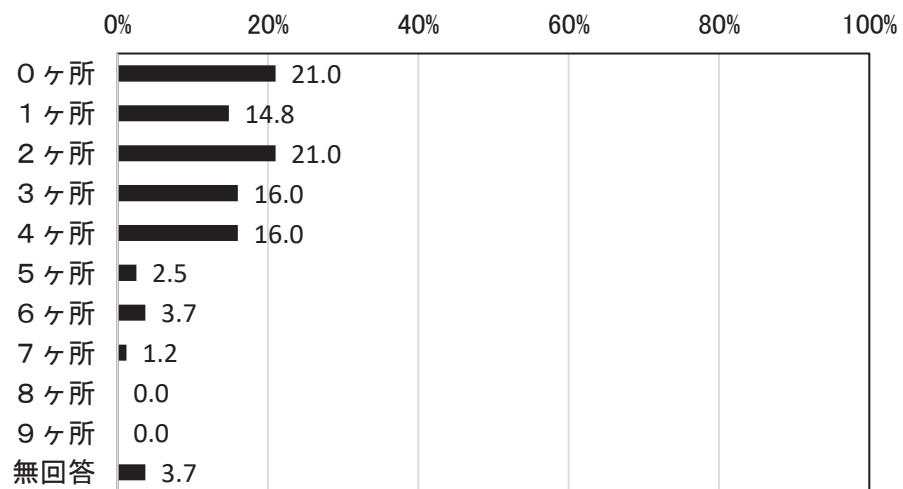


図 87 行ったことがある社会資源の数（3人目）

回答者の3人目の子どもが行ったことがある社会資源の数を見ると、「0ヶ所」及び「2ヶ所」が21.0%でもっとも回答割合が高く、次いで「3ヶ所」及び「4ヶ所」が16.0%となっている。

【保護者】知っているが利用しない理由

問 2-2 (問 10-2、問 19-2)．問 2-1 (問 10-1、問 19-1) で、その場所を「知っている」に○をつけたが、お子さんの 1 人目 (2 人目、3 人目) が「利用したことがある」に○をつけなかった (利用したことがない) 場合は、その理由を教えてください。(理由として近い数字すべてに○をつけて下さい)

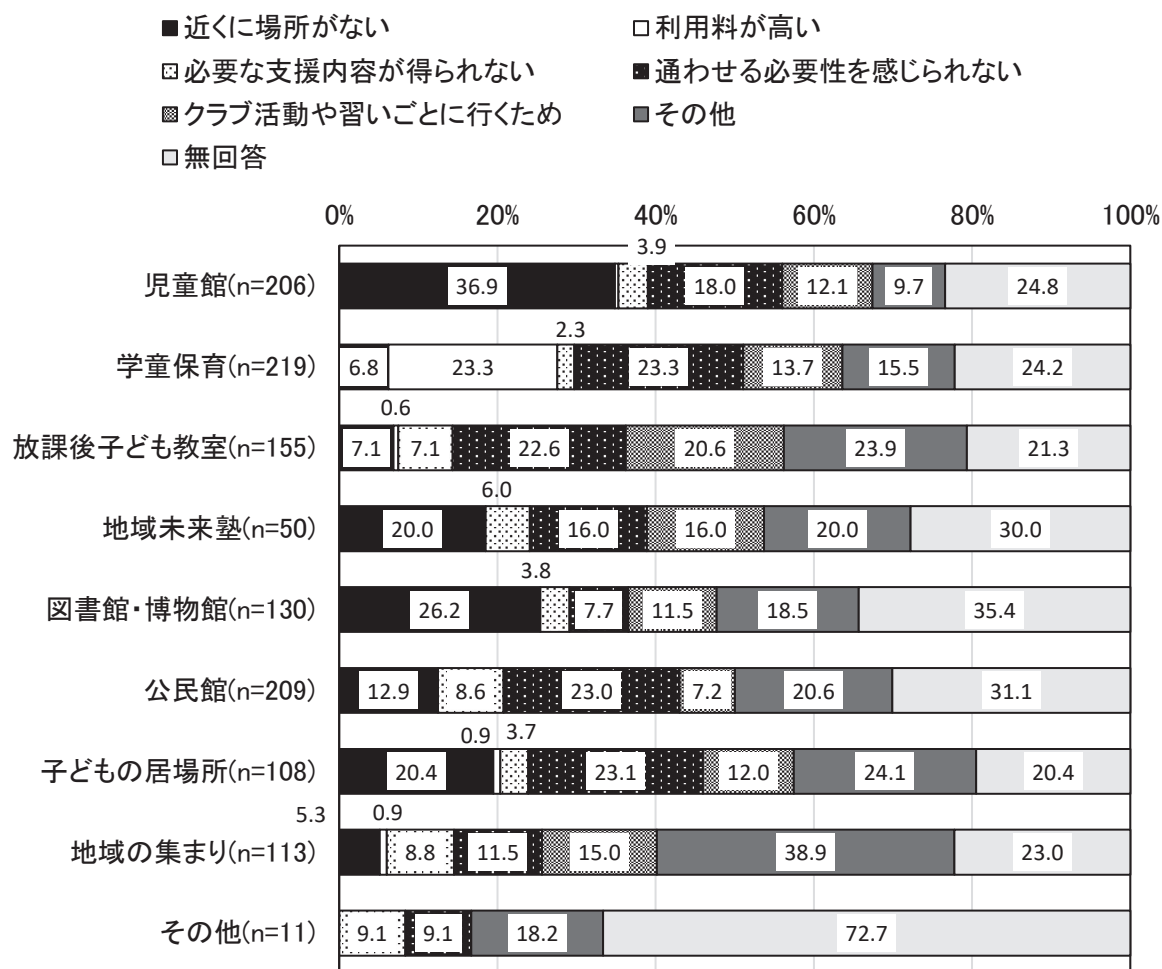


図 88 知っているが利用しない理由 (1 人目)

回答者の 1 人目の子どもが社会資源を知っているが利用しない理由を社会資源別に見ると、「児童館」では「近くに場所がない」が 36.9%でもっとも回答割合が高く、「学童保育」では「利用料が高い」及び「通わせる必要性を感じられない」が 23.3%、「放課後子ども教室」では「その他」が 23.9%、「地域未来塾」では「近くに場所がない」及び「その他」が 20.0%、「図書館・博物館」では「近くに場所がない」が 26.2%、「公民館」では「通わせる必要性を感じられない」が 23.0%、「子どもの居場所」では「その他」が 24.1%、「地域の集まり」では「その他」が 38.9%と、それぞれもっとも回答割合が高くなっている。

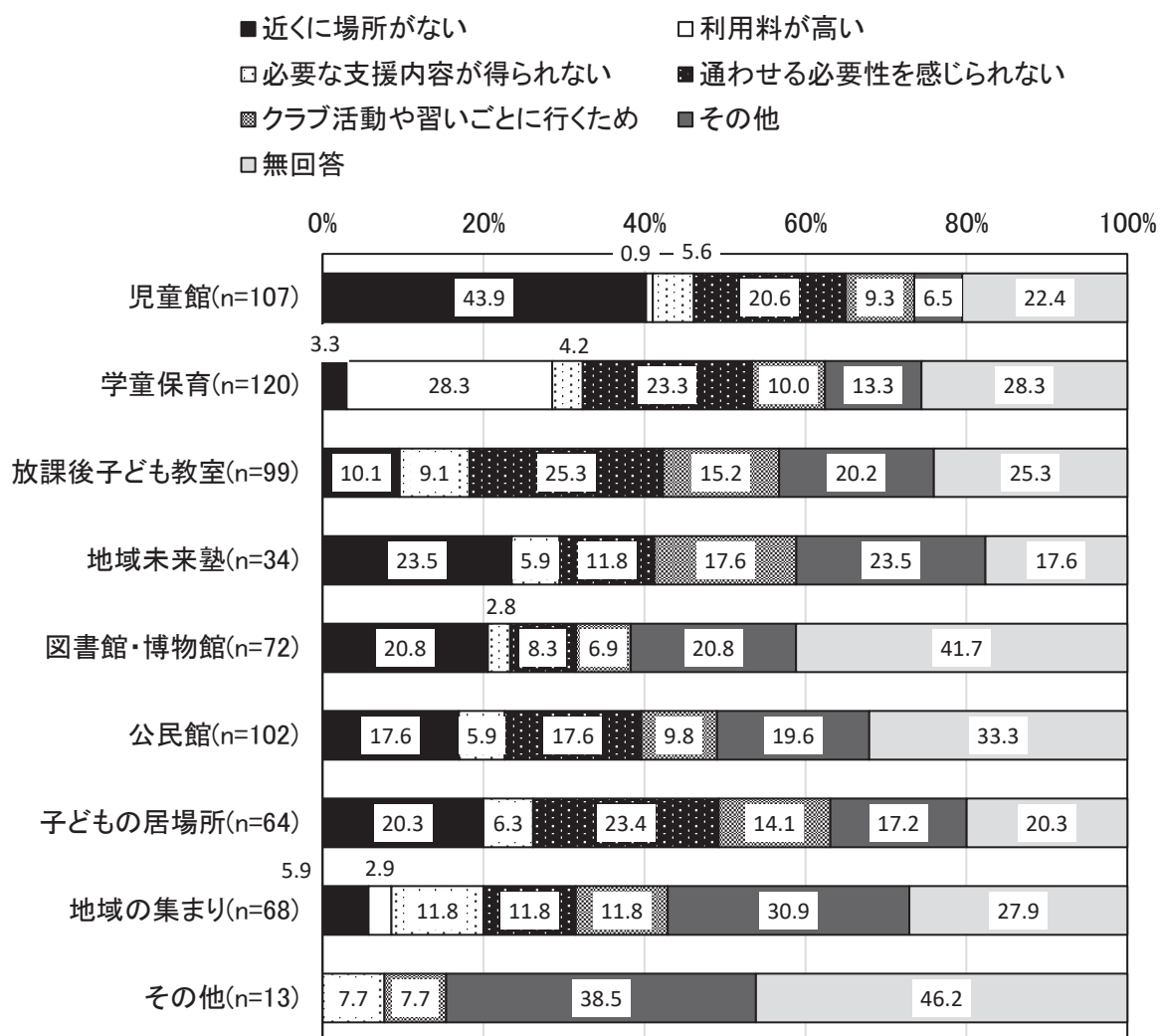


図 89 知っているが利用しない理由（2人目）

回答者の2人目の子どもが社会資源を知っているが利用しない理由を社会資源別に見ると、「児童館」では「近くに場所がない」が43.9%でもっとも回答割合が高く、「学童保育」では「利用料が高い」が28.3%、「放課後子ども教室」では「通わせる必要性を感じられない」が25.3%、「地域未来塾」では「近くに場所がない」及び「その他」が23.5%、「図書館・博物館」では「近くに場所がない」及び「その他」が20.8%、「公民館」では「その他」が19.6%、「子どもの居場所」では「通わせる必要性を感じられない」が23.4%、「地域の集まり」では「その他」が30.9%と、それぞれもっとも回答割合が高くなっている。

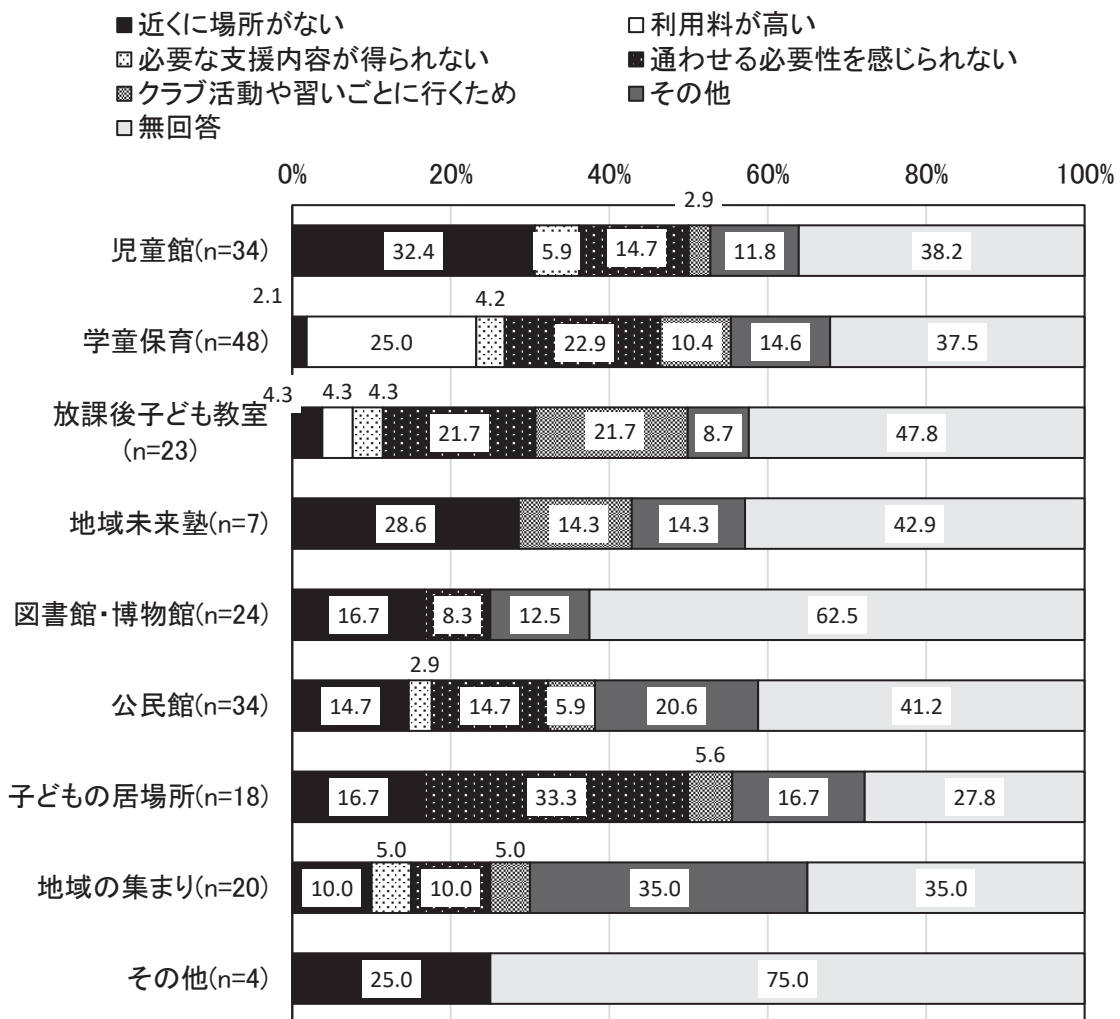


図 90 知っているが利用しない理由 (3 人目)

回答者の 3 人目の子どもが社会資源を知っているが利用しない理由を社会資源別に見ると、「児童館」では「近くに場所がない」が 32.4%でもっとも回答割合が高く、「学童保育」では「利用料が高い」が 25.0%、「放課後子ども教室」では「通わせる必要性を感じられない」及び「クラブ活動や習いごとに行くため」が 21.7%、「地域未来塾」では「近くに場所がない」が 28.6%、「図書館・博物館」では「近くに場所がない」が 16.7%、「公民館」では「その他」が 20.6%、「子どもの居場所」では「通わせる必要性を感じられない」が 33.3%、「地域の集まり」では「その他」が 35.0%と、それぞれもっとも回答割合が高くなっている。

【保護者】子どもがふだん1番よく行く場所

問 3-1 (問 11-1、問 20-1). 【表 1】 にあげた場所をいずれか利用している場合、あなたのお子さんの1人目(2人目、3人目)がふだん1番よく行く場所の番号を書いてください。

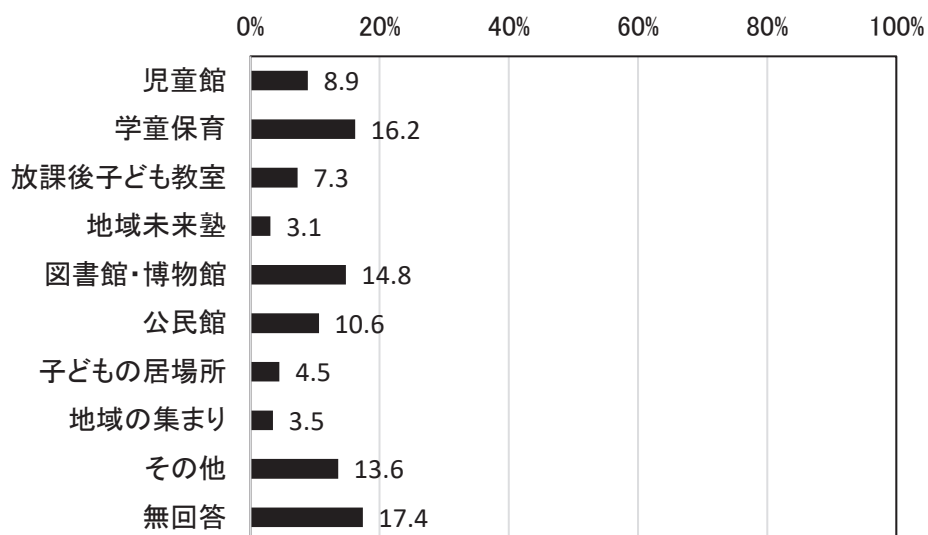


図 91 子どもがふだん1番よく行く場所 (1人目)

回答者の1人目の子どもが普段1番よく行く社会資源を見ると、「学童保育」が16.2%でもっとも回答割合が高く、次いで「図書館・博物館」が14.8%、「その他」が13.6%となっている。

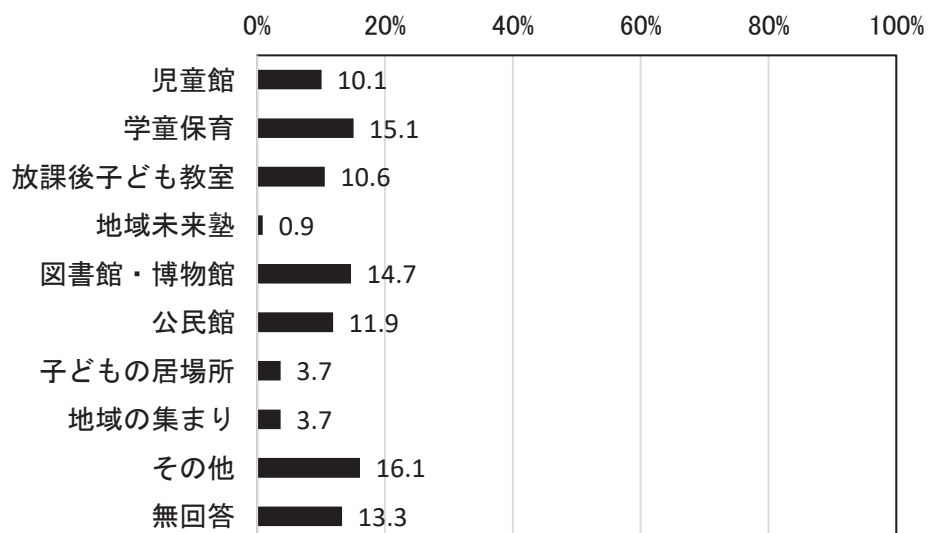


図 92 子どもがふだん 1 番よく行く場所 (2 人目)

回答者の 2 人目の子どもが普段 1 番よく行く社会資源を見ると、「その他」が 16.1%でもっとも回答割合が高く、次いで「学童保育」が 15.1%、「図書館・博物館」が 14.7%となっている。

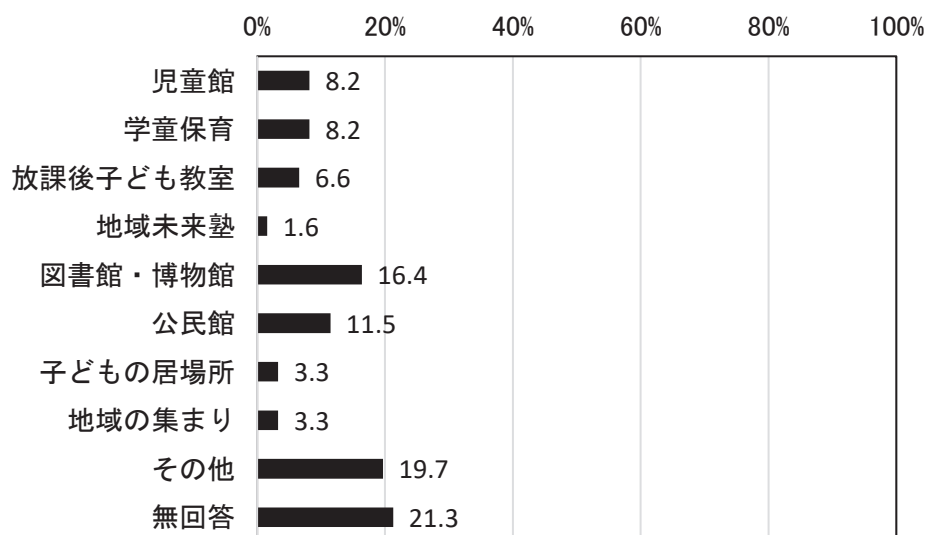


図 93 子どもがふだん 1 番よく行く場所 (3 人目)

回答者の 3 人目の子どもが普段 1 番よく行く社会資源を見ると、「その他」が 19.7%でもっとも回答割合が高く、次いで「図書館・博物館」が 16.4%、「公民館」が 11.5%となっている。

【保護者】1番よく行く場所を利用する理由

問 3-2 (問 11-2、問 20-2)．問 3-1 (問 11-1、問 20-1) のあなたのお子さんの1人目(2人目、3人目)がふだん1番よく行く場所について、そこに行く理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○をつけて下さい)

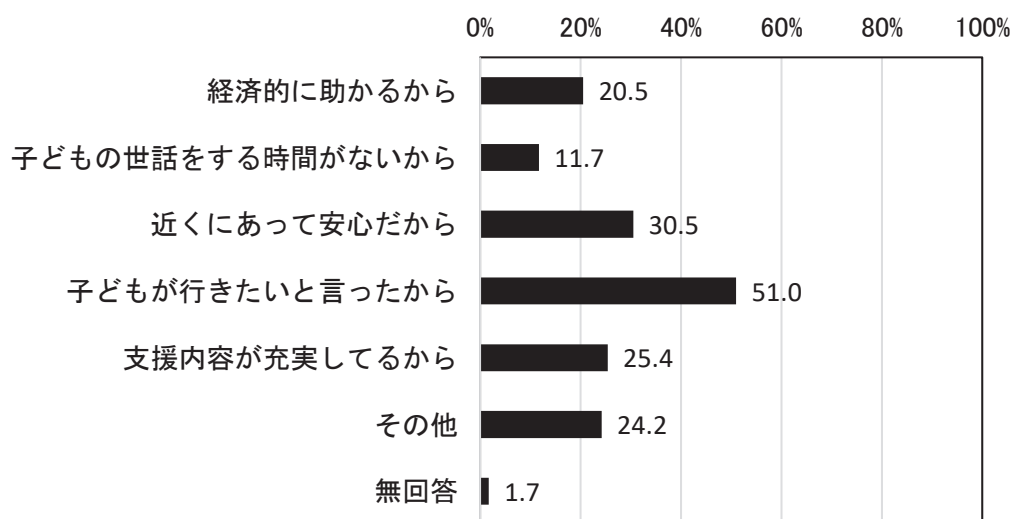


図 94 1番よく行く場所を利用する理由 (1人目)

回答者の1人目の子どもが普段1番よく行く社会資源を利用する理由を見ると、「子どもが行きたいと言ったから」が51.0%でもっとも回答割合が高く、次いで「近くにあって安心だから」が30.5%、「支援内容が充実してるから」が25.4%となっている。

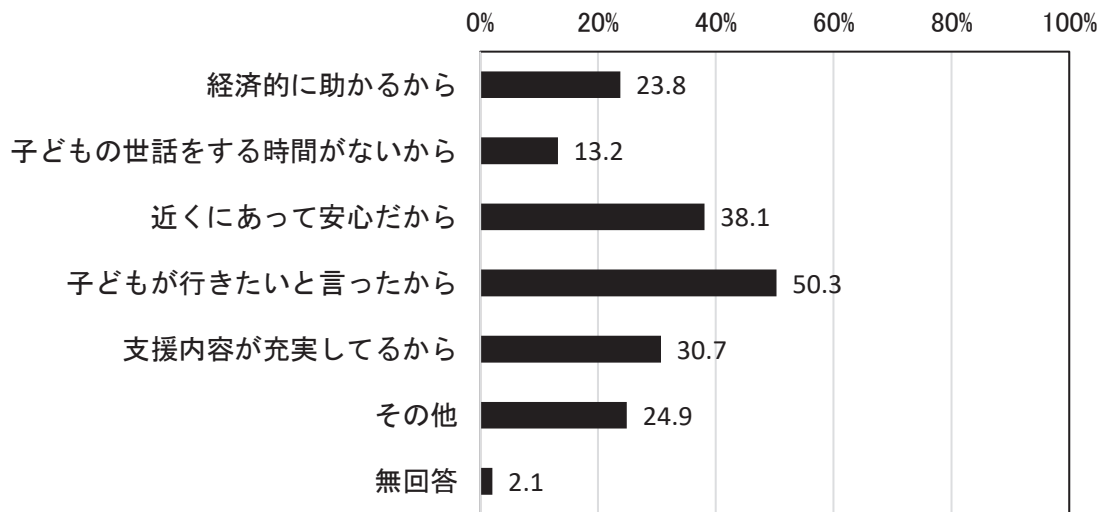


図 95 1番よく行く場所を利用する理由（2人目）

回答者の2人目の子どもがふだん1番よく行く社会資源を利用する理由を見ると、「子どもが行きたいと言ったから」が50.3%でもっとも回答割合が高く、次いで「近くにあって安心だから」が38.1%、「支援内容が充実してるから」が30.7%となっている。

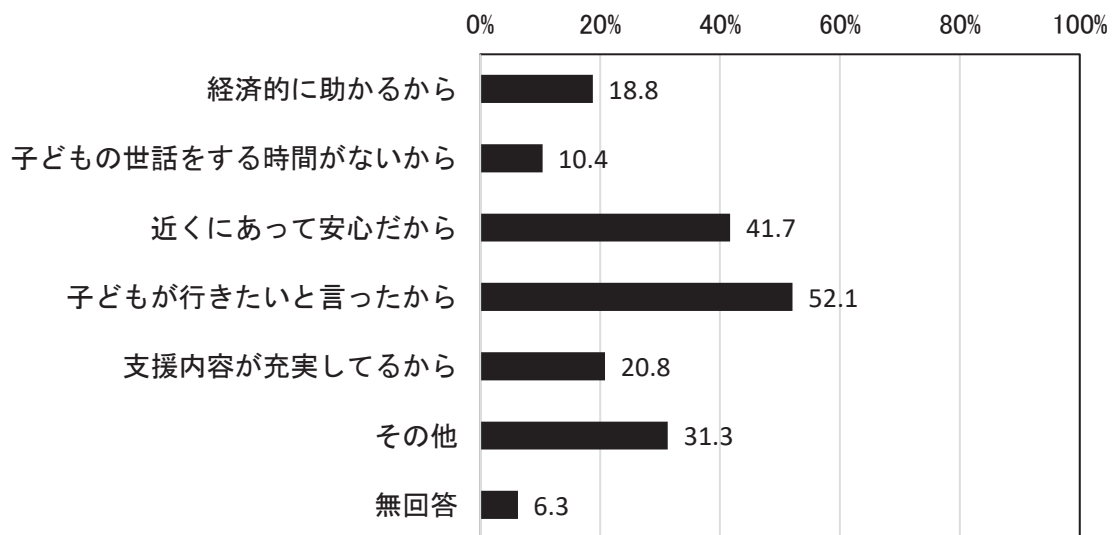


図 96 1番よく行く場所を利用する理由（3人目）

回答者の3人目の子どもがふだん1番よく行く社会資源を利用する理由を見ると、「子どもが行きたいと言ったから」が52.1%でもっとも回答割合が高く、次いで「近くにあって安心だから」が41.7%、「その他」が31.3%となっている。

2) 子どもの生活・教育・社会的環境（問 4～問 6）

【保護者】よく行く場所を利用するようになってからの子どもの行動範囲や積極性

問 4（問 12、問 21）、問 3-1（問 11-1、問 20-1）で「ふだん 1 番よく行く場所」と答えた場所を利用するようになってから、あなたのお子さんの 1 人目（2 人目、3 人目）の行動範囲が広がったり、積極的になったと思いますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけて下さい）

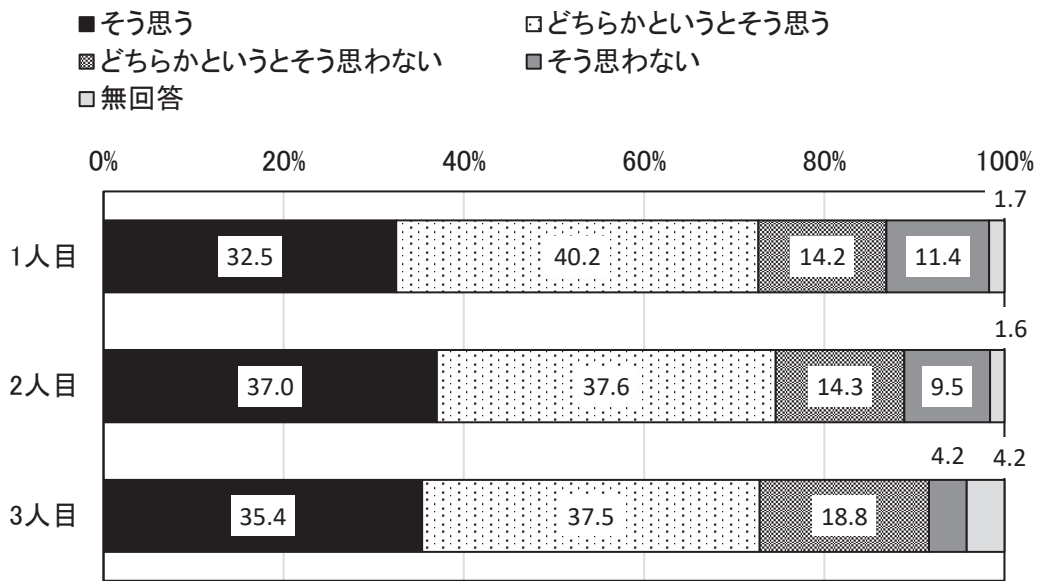


図 97 よく行く場所を利用するようになってからの子どもの行動範囲や積極性

1 人目の子どもに対しては「どちらかというと思う」が 40.2%、次いで「そう思う」が 32.5%。2 人目の子どもに対しては「どちらかというと思う」が 37.6%、次いで「そう思う」が 37.0%、3 人目の子どもに対しては「どちらかというと思う」が 37.5%、次いで「そう思う」が 35.4%となっており、1 人目、2 人目、3 人目ともに「そう思う」及び「どちらかというと思う」が 7 割以上を占めている。

【保護者】子どもがよく行く場所を利用するようになって良かったと思うか

問5（問13、問22）. 問3-1（問11-1、問20-1）で「ふだん1番よく行く場所」と答えた場所をあなたのお子さんの1人目（2人目、3人目）が利用するようになって、あなたは良かったと思いますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

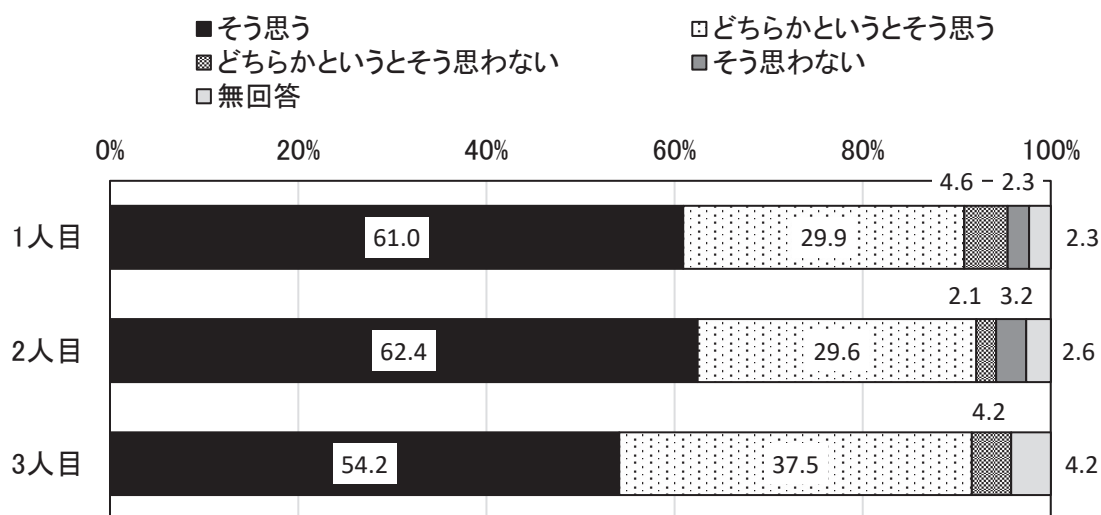


図 98 子どもがよく行く場所を利用するようになって良かったと思うか

1人目の子どもに対しては「そう思う」が61.0%、次いで「どちらかというと思う」が29.9%。2人目の子どもに対しては「そう思う」が62.4%、次いで「どちらかというと思う」が29.6%、3人目の子どもに対しては「そう思う」が54.2%、次いで「どちらかというと思う」が37.5%となっており、1人目、2人目、3人目ともに「そう思う」及び「どちらかというと思う」が9割以上を占めている。

【保護者】子どもの状況の変化

問6（問14、問23）. お子さんの1人目（2人目、3人目）について、もっとも近いものを選んでください。（①～④について、＜利用する前＞と＜現在＞でそれぞれあてはまる番号1つに○をつけてください）

① 同じ時刻に起きる

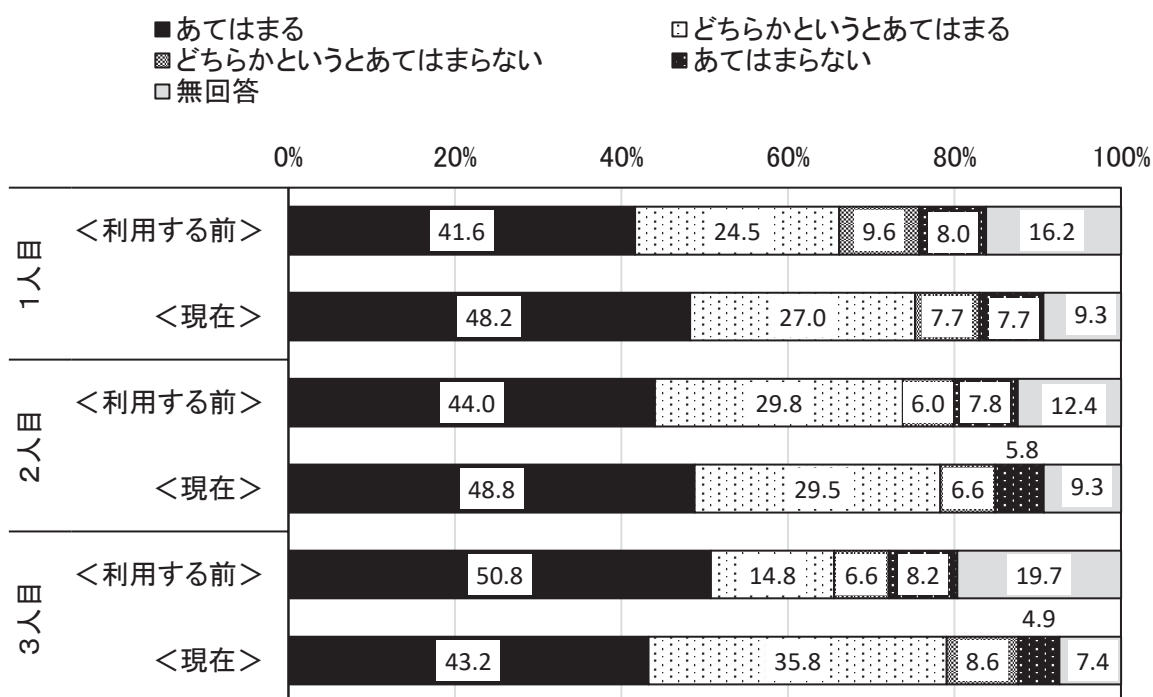


図 99 問6-① 同じ時刻に起きる

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者の子どもが「同じ時刻に起きる」かどうかの変化を見ると、1人目、2人目、3人目の利用前、利用後（現在）ともに「あてはまる」がもっとも回答割合が高くなっている。1人目の場合「あてはまる」が利用前41.6%から利用後（現在）48.2%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が24.5%から27.0%へとどちらも増加していることがわかる。2人目も同様に、「あてはまる」が44.0%から48.8%へと増加しているが、「どちらかというにあてはまる」は29.8%から29.5%へとやや減少している。ただ、3人目の場合は「あてはまる」は50.8%から43.2%へと減少しているが、「どちらかというにあてはまる」は14.8%から35.8%へと増加している。

② 朝食を食べる

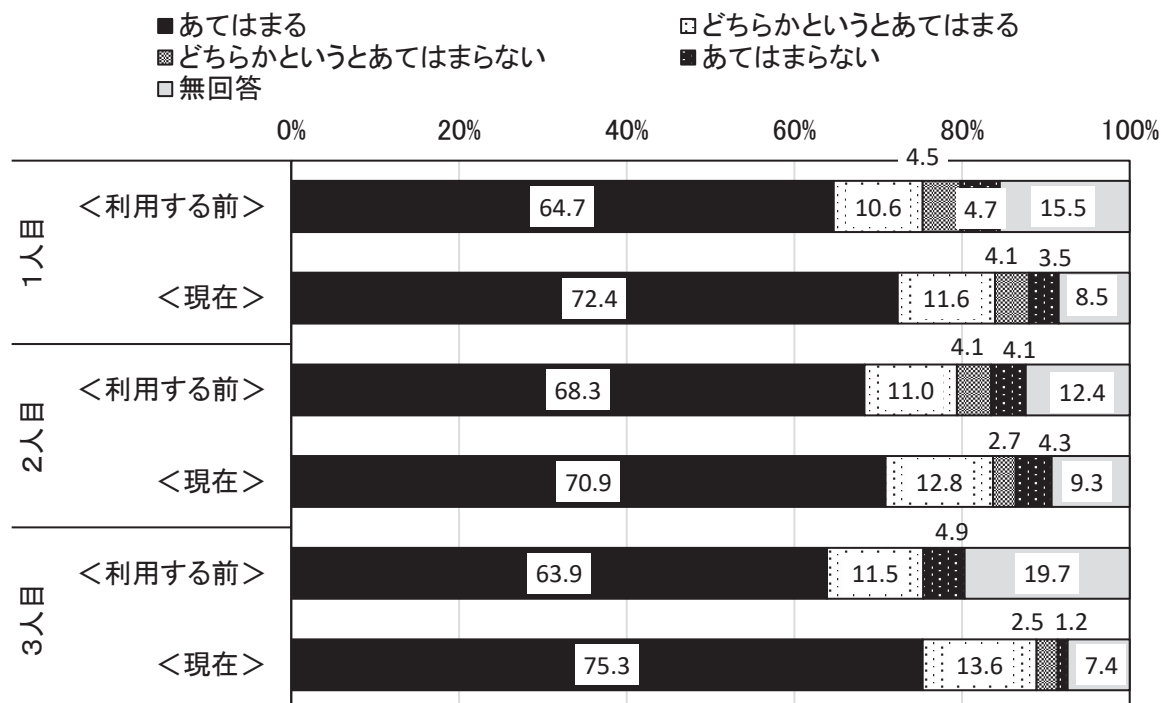


図 100 問 6-② 朝食を食べる

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者の子どもが「朝食を食べる」かどうかの変化を見ると、1人目、2人目、3人目の利用前、利用後（現在）ともに「あてはまる」がもっとも回答割合が高くなっている。1人目の場合「あてはまる」が利用前64.7%から利用後（現在）72.4%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が10.6%から11.6%へとどちらも増加していることがわかる。2人目も同様に、「あてはまる」が68.3%から70.9%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が11.0%から12.8%へとどちらも増加している。3人目も「あてはまる」が63.9%から75.3%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が11.5%から13.6%へと増加している。

③健康状態がよい

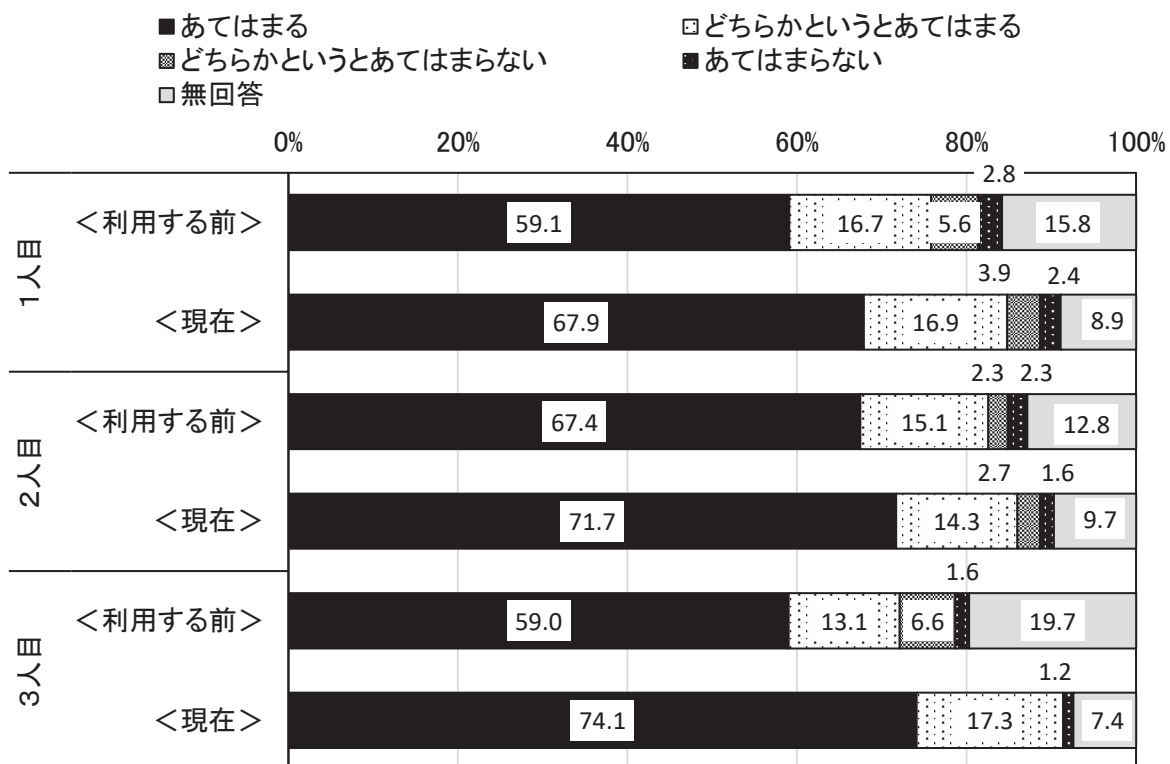


図 101 問 6-③ 健康状態がよい

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者の子どもの「健康状態がよい」かどうかの変化を見ると、1人目、2人目、3人目の利用前、利用後（現在）ともに「あてはまる」がもっとも回答割合が高くなっている。1人目の場合「あてはまる」が利用前 59.1%から利用後（現在） 67.9%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が 16.7%から 16.9%へとどちらも増加していることがわかる。2人目も同様に、「あてはまる」が 67.4%から 71.7%へと増加しているが、「どちらかというにあてはまる」は 15.1%から 14.3%へと減少している。3人目の場合は「あてはまる」が 59.0%から 74.1%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が 13.1%から 17.3%へとどちらも増加している。

④授業時間以外にも勉強する

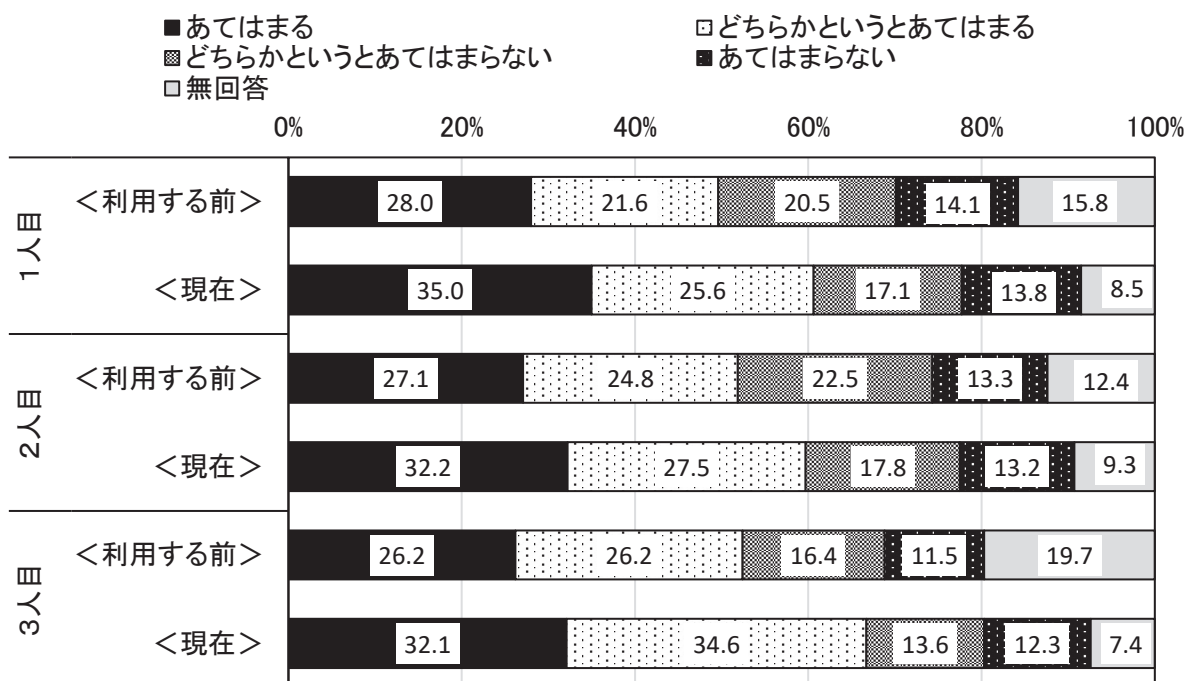


図 102 問 6-④ 授業時間以外にも勉強する

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者の子どもが「授業時間以外にも勉強する」かどうかの変化を見ると、1人目の場合「あてはまる」が利用前28.0%から利用後（現在）35.0%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が21.6%から25.6%へとどちらも増加していることがわかる。2人目も同様に、「あてはまる」が27.1%から32.2%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が24.8%から27.5%へと増加している。3人目も「あてはまる」が26.2%から32.1%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が26.2%から34.6%へと増加している。

⑤授業が楽しい、勉強がおもしろいと思う、やる気が出る

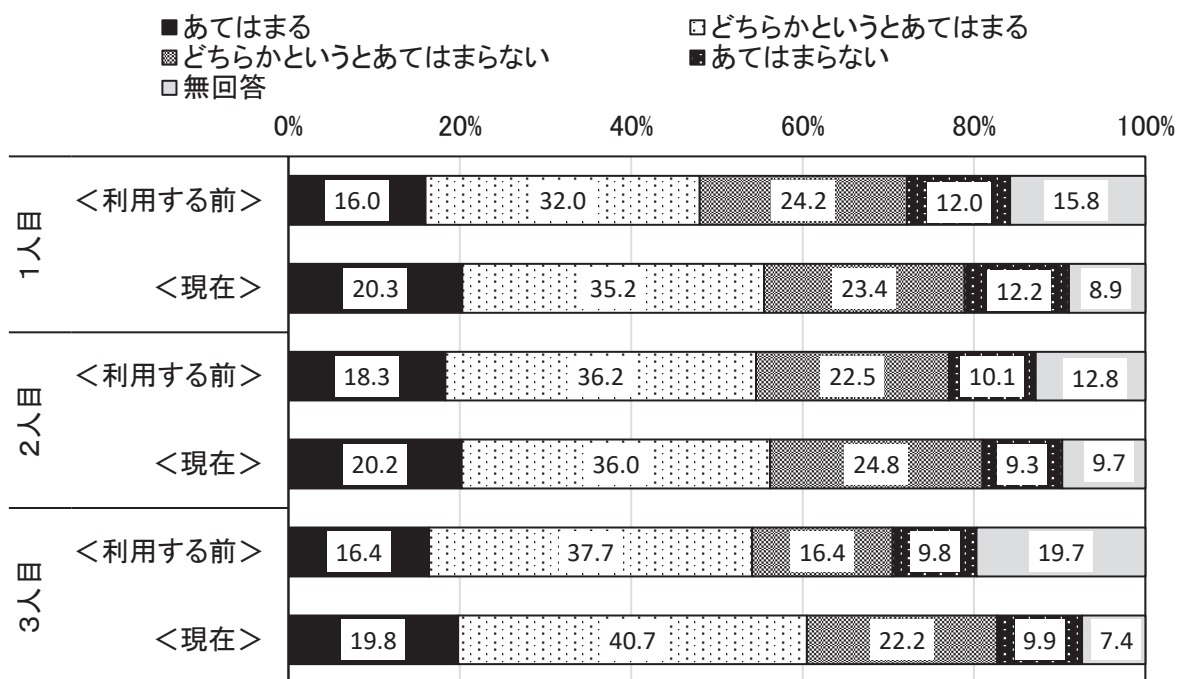


図 103 問 6-⑤ 授業が楽しい、勉強がおもしろいと思う、やる気が出る

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者の子どもが「授業が楽しい、勉強がおもしろいと思う、やる気が出る」かどうかの変化を見ると、1人目、2人目、3人目の利用前、利用後（現在）ともに「どちらかというにあてはまる」がもっとも回答割合が高くなっている。1人目の場合「あてはまる」が利用前16.0%から利用後（現在）20.3%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が32.0%から35.2%へとどちらも増加していることがわかる。2人目も同様に、「あてはまる」が18.3%から20.2%へと増加しているが、「どちらかというにあてはまる」は36.2%から36.0%へとやや減少している。3人目の場合は「あてはまる」が16.4%から19.8%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が37.7%から40.7%へとどちらも増加している。

⑥お祭りやボランティア活動など、地域の行事に参加する

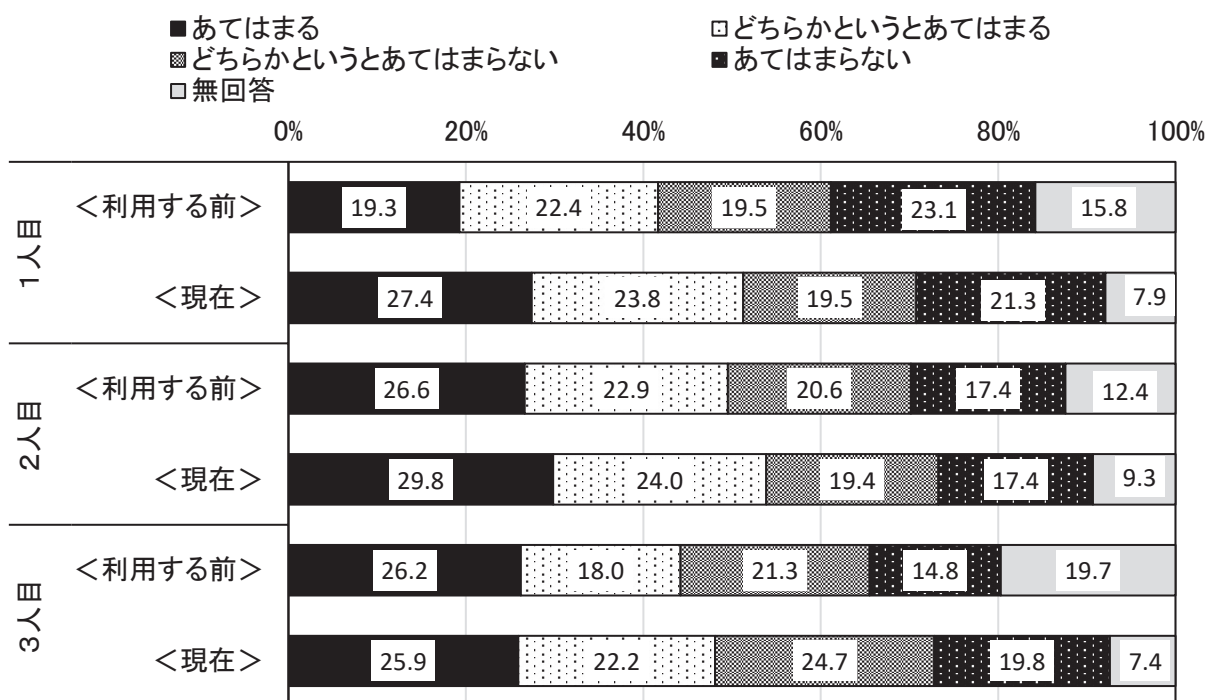


図 104 問 6-⑥ お祭りやボランティア活動など、地域の行事に参加する

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者の子どもが「お祭りやボランティア活動など、地域の行事に参加する」かどうかの変化を見ると、1人目、2人目、3人目の利用後（現在）は「あてはまる」がもっとも回答割合が高くなっている。1人目の場合「あてはまる」が利用前19.3%から利用後（現在）27.4%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が22.4%から23.8%へとどちらも増加していることがわかる。2人目も同様に、「あてはまる」が26.6%から29.8%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が22.9%から24.0%へと増加していることがわかる。3人目の場合は「あてはまる」が26.2%から25.9%へとやや減少しているが、「どちらかというにあてはまる」は18.0%から22.2%へと増加している。

⑦勉強やスポーツでがんばったときに、ほめてくれる人がいる

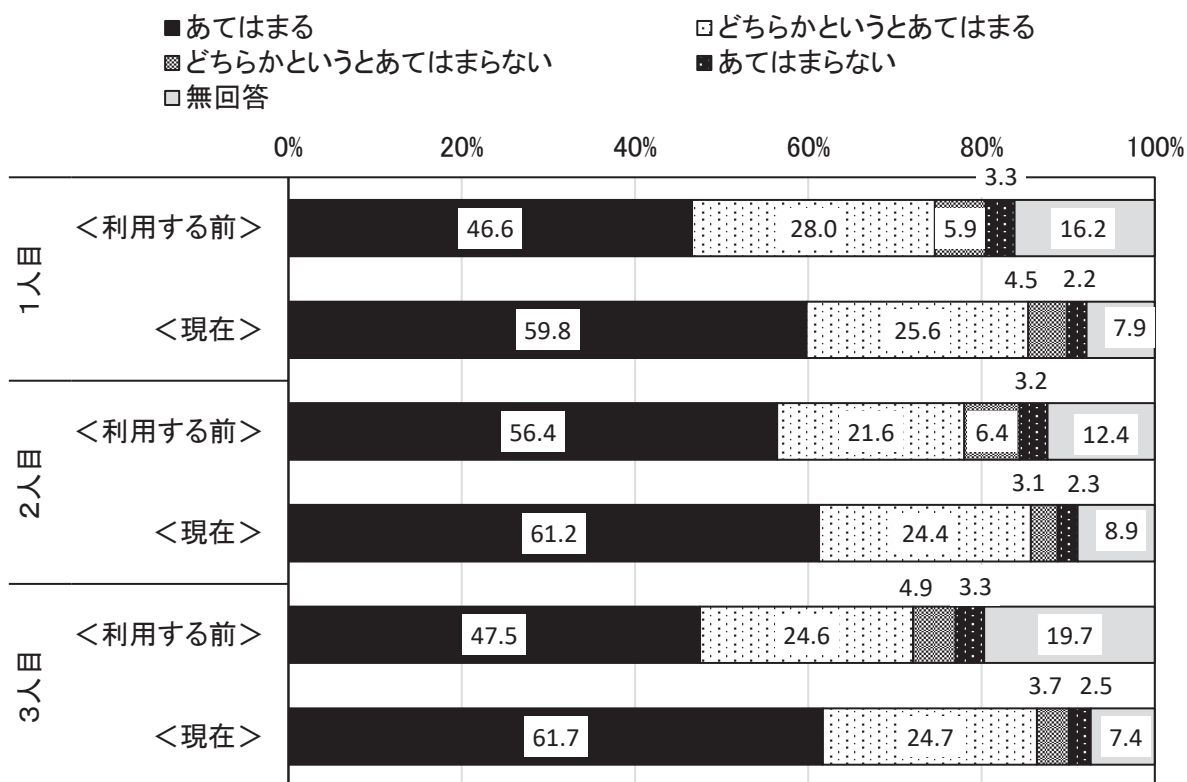


図 105 問 6・⑦ 勉強やスポーツでがんばったときに、ほめてくれる人がいる

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者の子どもが「勉強やスポーツでがんばったときに、ほめてくれる人がいる」かどうかの変化を見ると、1人目、2人目、3人目の利用前、利用後（現在）ともに「あてはまる」がもっとも回答割合が高くなっている。1人目の場合「あてはまる」が利用前46.6%から利用後（現在）59.8%へと増加しているが、「どちらかというにあてはまる」は28.0%から25.6%へと減少している。2人目の場合は「あてはまる」が56.4%から61.2%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が21.6%から24.4%へとどちらも増加している。3人目の場合は「あてはまる」が47.5%から61.7%へと増加しており、次いで「どちらかというにあてはまる」が24.6%から24.7%へとやや増加している。

⑧自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

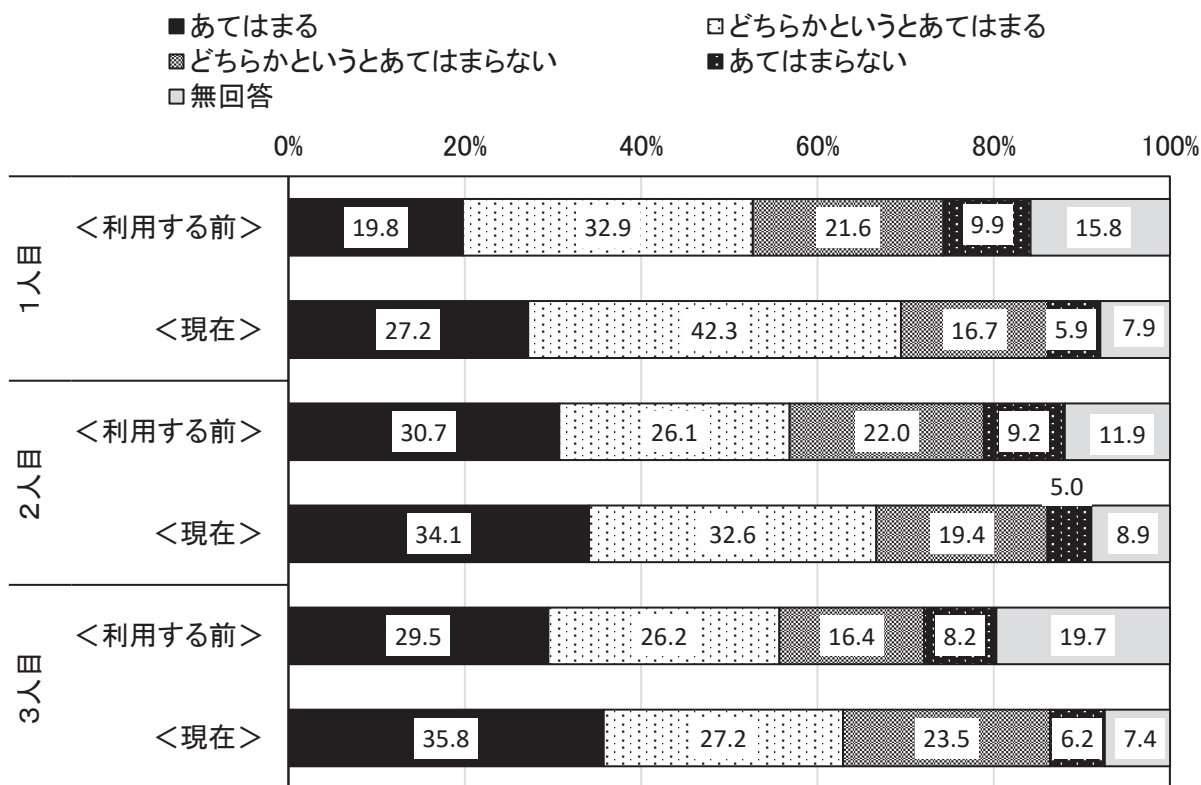


図 106 問 6-⑧ 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者の子どもが「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」かどうかの変化を見ると、1人目の場合「あてはまる」が利用前19.8%から利用後（現在）27.2%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が32.9%から42.3%へとどちらも増加している。2人目も同様に、「あてはまる」が30.7%から34.1%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が26.1%から32.6%へと増加している。3人目の場合は「あてはまる」が29.5%から35.8%へと増加しており、次いで「どちらかというにあてはまる」が26.2%から27.2%へとやや増加している。

⑨自分の将来の夢や目標を持っている

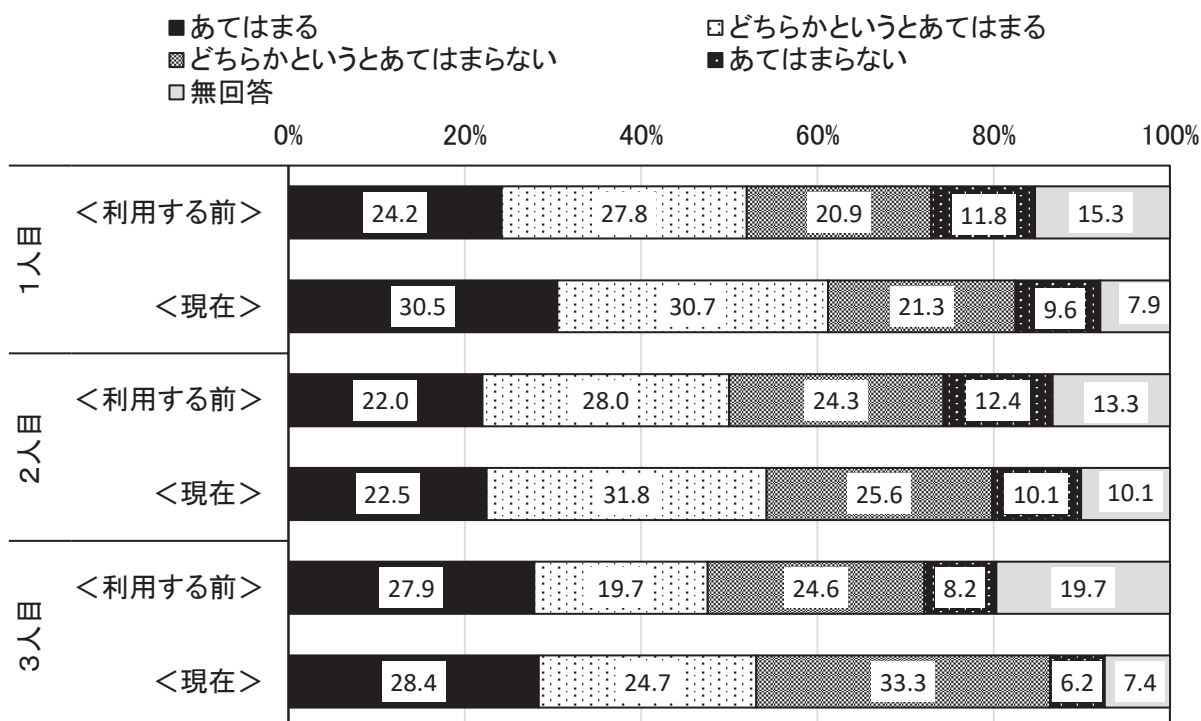


図 107 問 6-⑨ 自分の将来の夢や目標を持っている

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者の子どもが「自分の将来の夢や目標を持っている」かどうかの変化を見ると、1人目の場合「あてはまる」が利用前 24.2%から利用後（現在）30.5%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が 27.8%から 30.7%へとどちらも増加している。2人目の場合は「あてはまる」が 22.0%から 22.5%へとやや増加しており、「どちらかというにあてはまる」は 28.0%から 31.8%へと増加している。3人目の場合は「あてはまる」が 27.9%から 28.4%へとやや増加しており、「どちらかというにあてはまる」は 19.7%から 24.7%へと増加している。

⑩年下の子どもたちに対してやさしい

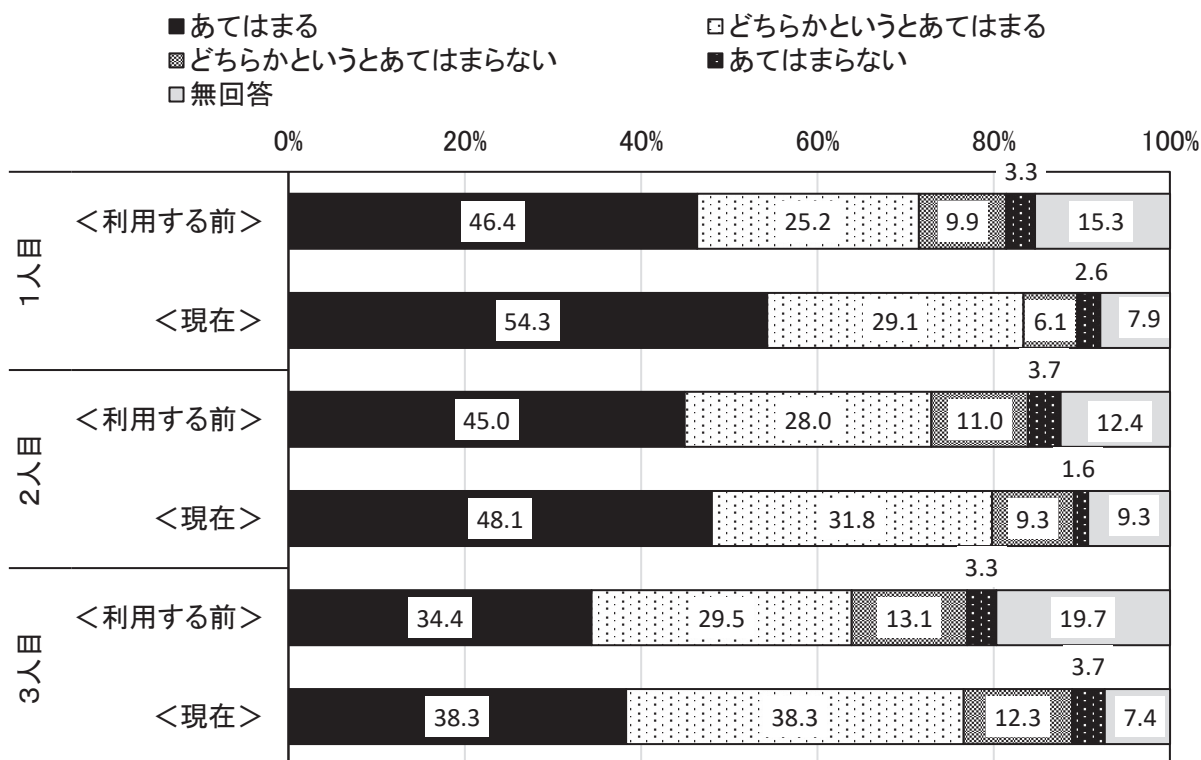


図 108 問 6-⑩ 年下の子どもたちに対してやさしい

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者の子どもが「年下の子どもたちに対してやさしい」かどうかの変化を見ると、1人目、2人目、3人目の利用前、利用後（現在）ともに「あてはまる」がもっとも回答割合が高くなっている（3人目の利用後（現在）では「どちらかというにあてはまる」と同率）。1人目の場合「あてはまる」が利用前46.4%から利用後（現在）54.3%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」は25.2%から29.1%へとどちらも増加している。2人目も同様に、「あてはまる」が45.0%から48.1%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が28.0%から31.8%へと増加している。3人目も「あてはまる」が34.4%から38.3%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が29.5%から38.3%へと増加している。

⑪誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける

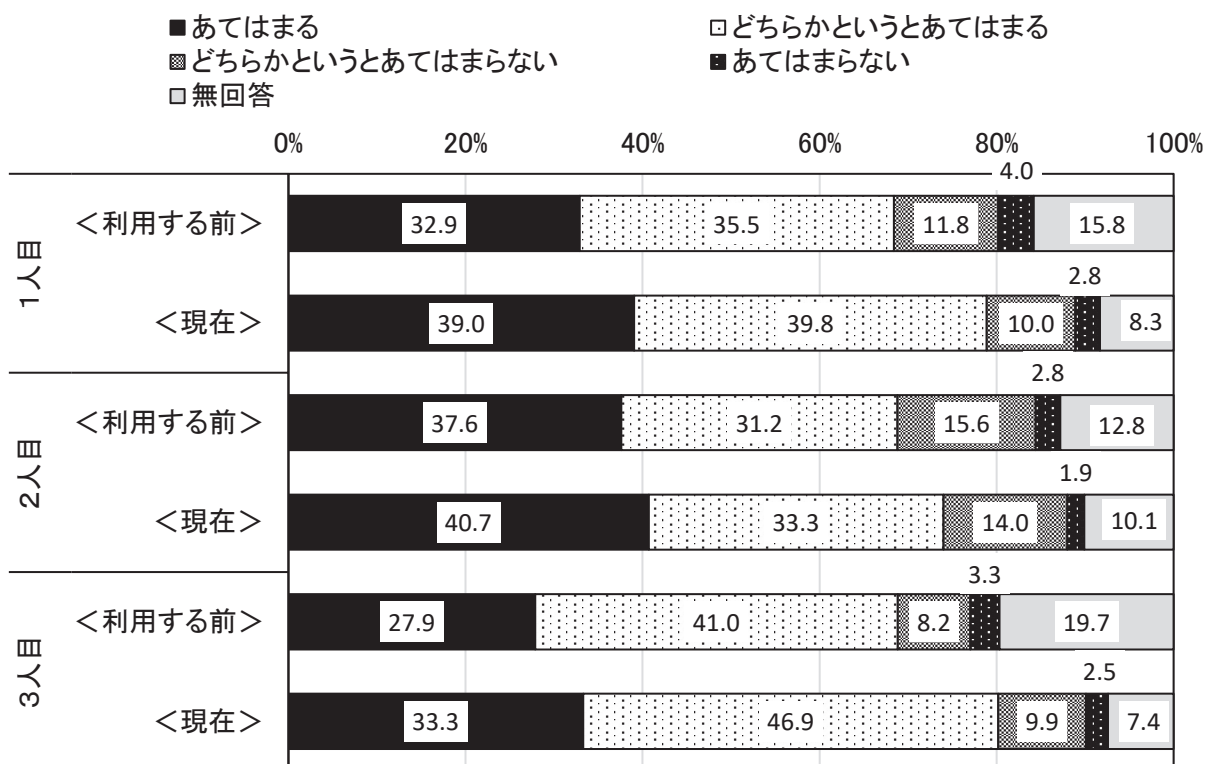


図 109 問 6-⑪ 誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者の子どもが「誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける」かどうかの変化を見ると、1人目の場合「あてはまる」が利用前32.9%から利用後（現在）39.0%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が35.5%から39.8%へとどちらも増加している。2人目も同様に、「あてはまる」が37.6%から40.7%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が31.2%から33.3%へと増加している。3人目も「あてはまる」が27.9%から33.3%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が41.0%から46.9%へと増加している。

⑫自分からすすんでよく他人を手伝う（親・先生・子どもたちなど）

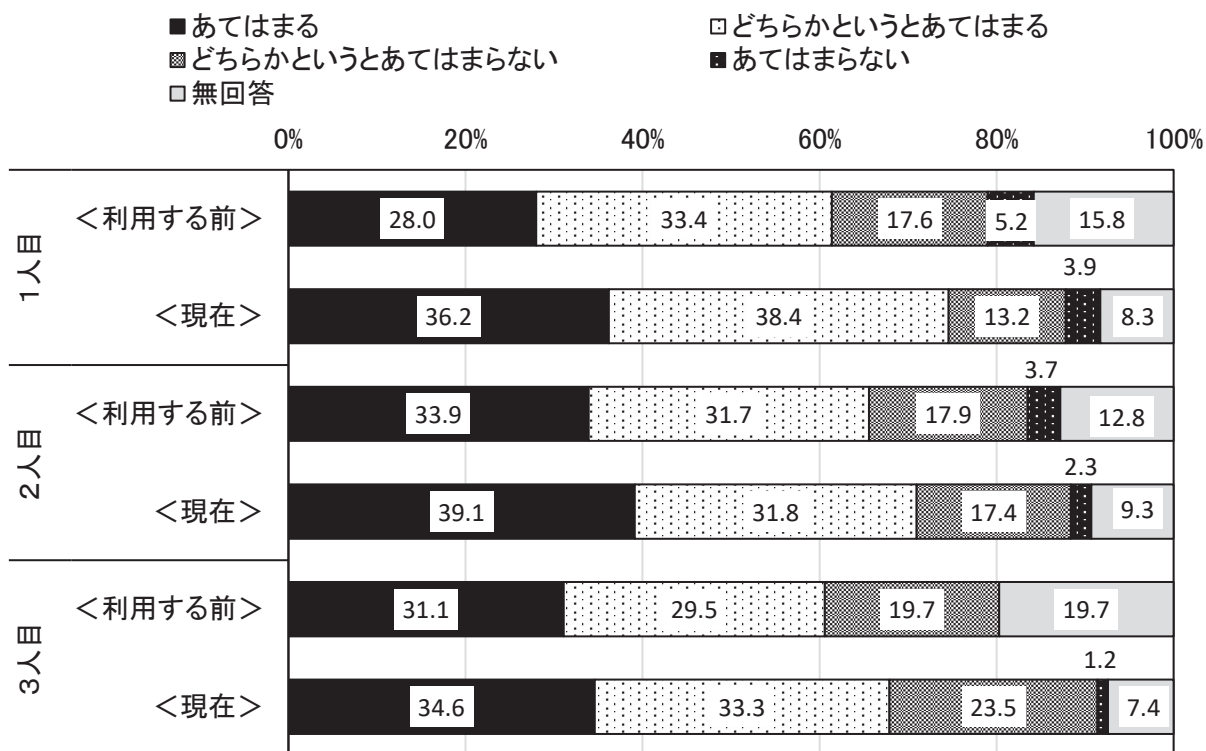


図 110 問 6-⑫ 自分からすすんでよく他人を手伝う（親・先生・子どもたちなど）

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者の子どもが「自分からすすんでよく他人を手伝う（親・先生・子どもたちなど）」かどうかの変化を見ると、1人目の場合「あてはまる」が利用前28.0%から利用後（現在）36.2%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が33.4%から38.4%へとどちらも増加している。2人目も同様に、「あてはまる」が33.9%から39.1%へと増加しており、次いで「どちらかというにあてはまる」が31.7%から31.8%へとやや増加している。3人目も「あてはまる」が31.1%から34.6%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が29.5%から33.3%へと増加している。

⑬他の子どもたちと、よく分け合う（おやつ・おもちゃ・鉛筆など）

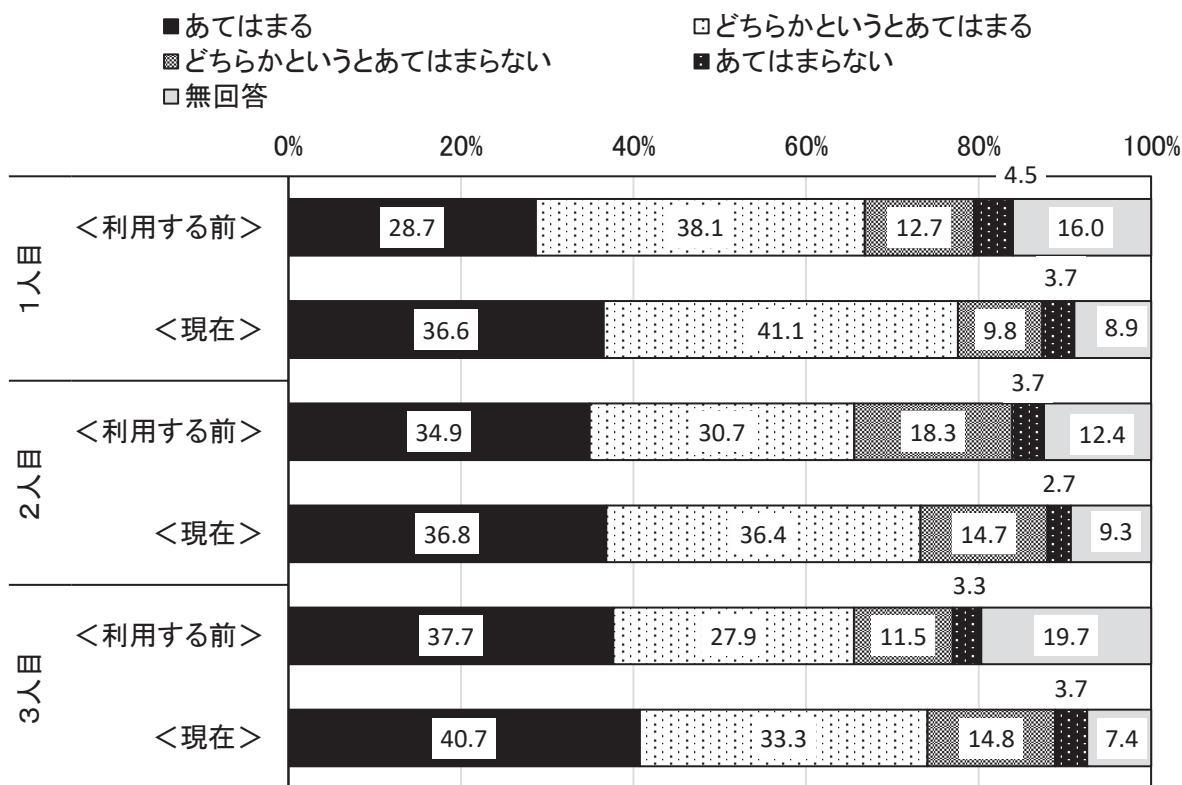


図 111 問 6-⑬ 他の子どもたちと、よく分け合う（おやつ・おもちゃ・鉛筆など）

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者の子どもが「他の子どもたちと、よく分け合う（おやつ・おもちゃ・鉛筆など）」かどうかの変化を見ると、1人目の場合「あてはまる」が利用前28.7%から利用後（現在）36.6%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が38.1%から41.1%へとどちらも増加している。2人目も同様に、「あてはまる」が34.9%から36.8%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が30.7%から36.4%へと増加している。3人目も「あてはまる」が37.7%から40.7%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が27.9%から33.3%へと増加している。

⑭他人の気持ちをよく気づかう

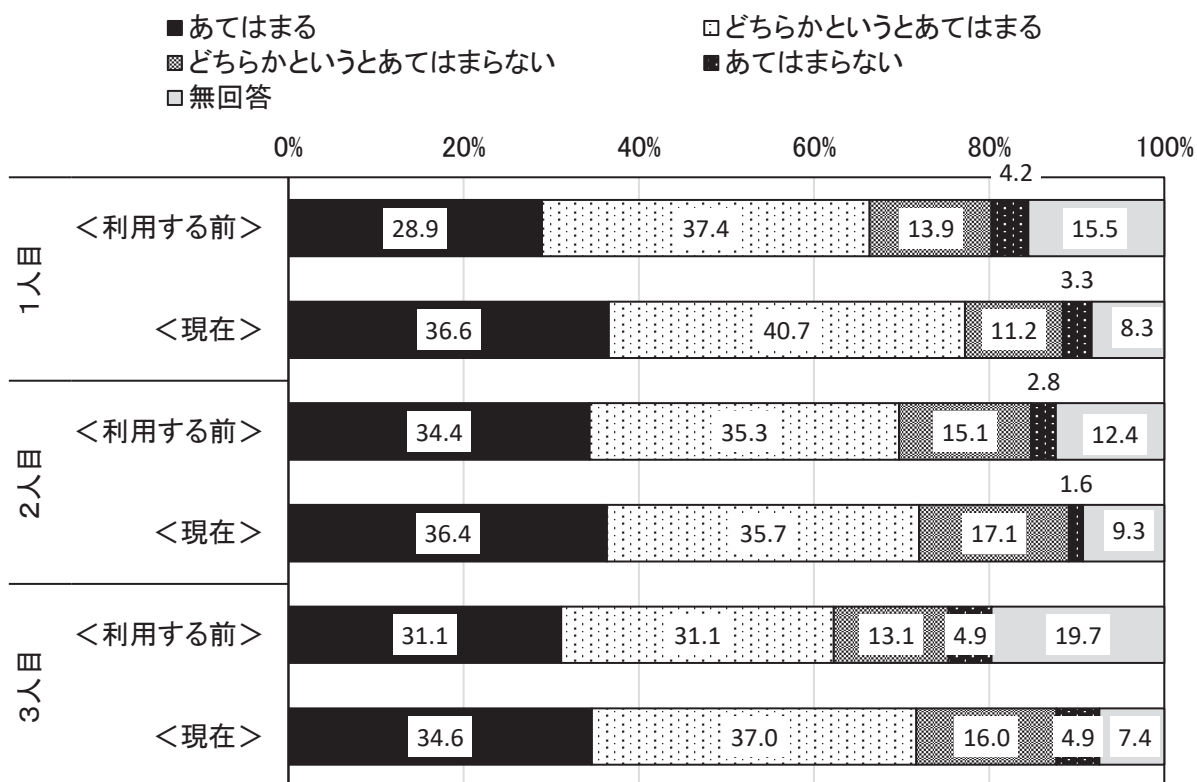


図 112 問 6-⑭ 他人の気持ちをよく気づかう

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者の子どもが「他人の気持ちをよく気づかう」かどうかの変化を見ると、1人目の場合「あてはまる」が利用前28.9%から利用後（現在）36.6%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が37.4%から40.7%へとどちらも増加している。2人目も同様に、「あてはまる」が34.4%から36.4%へと増加しており、次いで「どちらかというにあてはまる」が35.3%から35.7%へとやや増加している。3人目も「あてはまる」が31.1%から34.6%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が31.1%から37.0%へと増加している。

3) 社会資源利用前後の保護者の状況（子との関係、子育て、教育）（問7～問9）

【保護者】子どもとの関係性の変化

問7（問15、問24）. あなたとお子さんの1人目（2人目、3人目）との関係について、お聞かせください。（①～⑥について、＜利用する前＞と＜現在＞でそれぞれあてはまる番号1つに○をつけてください）

①お子さんと会話をしますか

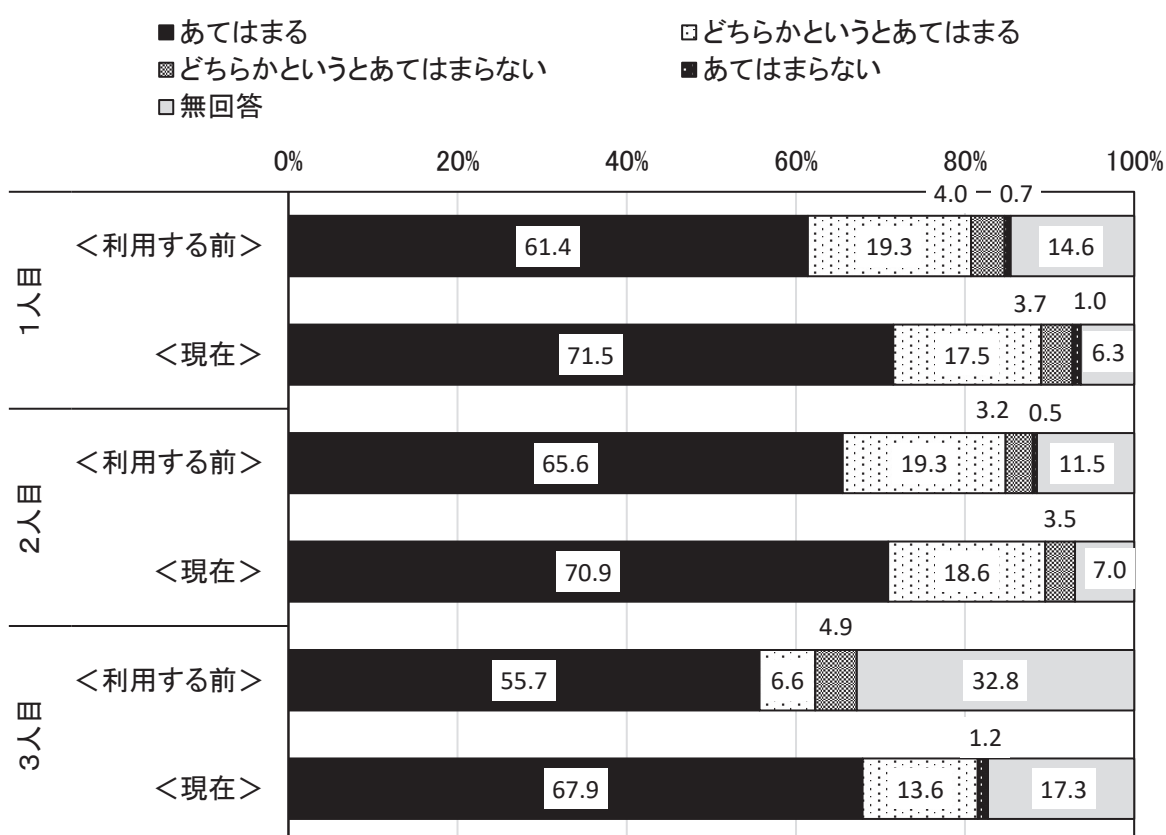


図 113 問7-① お子さんと会話をしますか

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者が子どもと会話をするかどうかの変化を見ると、1人目、2人目、3人目の利用前、利用後（現在）ともに「あてはまる」がもっとも回答割合が高くなっている。1人目の場合「あてはまる」が利用前61.4%から利用後（現在）71.5%へと増加している。2人目も同様に、「あてはまる」が65.6%から70.9%へと増加している。3人目も「あてはまる」が55.7%から67.9%へと増加している。

②お子さんと十分時間を過ごしていますか

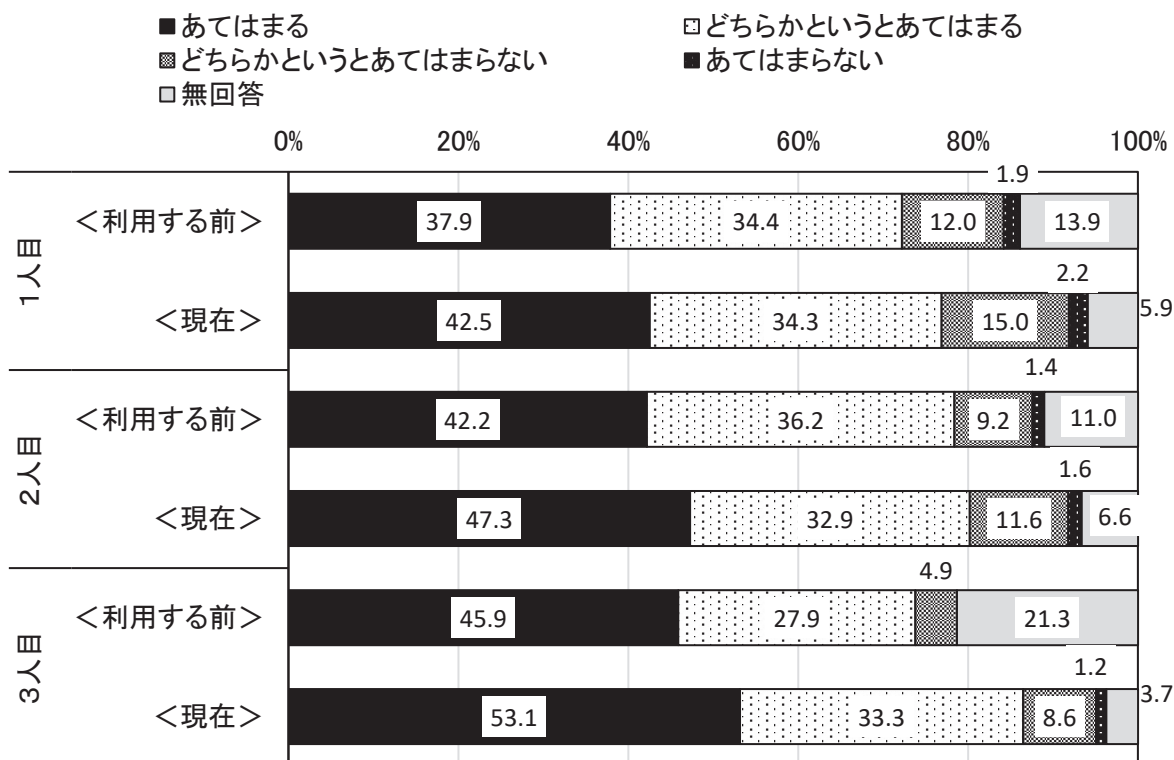


図 114 問 7-② お子さんと十分時間を過ごしていますか

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者が子どもと十分時間を過ごしているかどうかの変化を見ると、1人目、2人目、3人目の利用前、利用後（現在）ともに「あてはまる」がもっとも回答割合が高くなっている。1人目の場合「あてはまる」が利用前 37.9%から利用後（現在）42.5%へと増加しているが、「どちらかというにあてはまる」は 34.4%から 34.3%へとやや減少している。2人目の場合は「あてはまる」が 42.2%から 47.3%へと増加しているが、「どちらかというにあてはまる」は 36.2%から 32.9%へとやや減少している。3人目の場合は「あてはまる」が 45.9%から 53.1%へと、次いで「どちらかというにあてはまる」が 27.9%から 33.3%へとどちらも増加している。

③お子さんと読んだ本の感想を話し合ったりしていますか

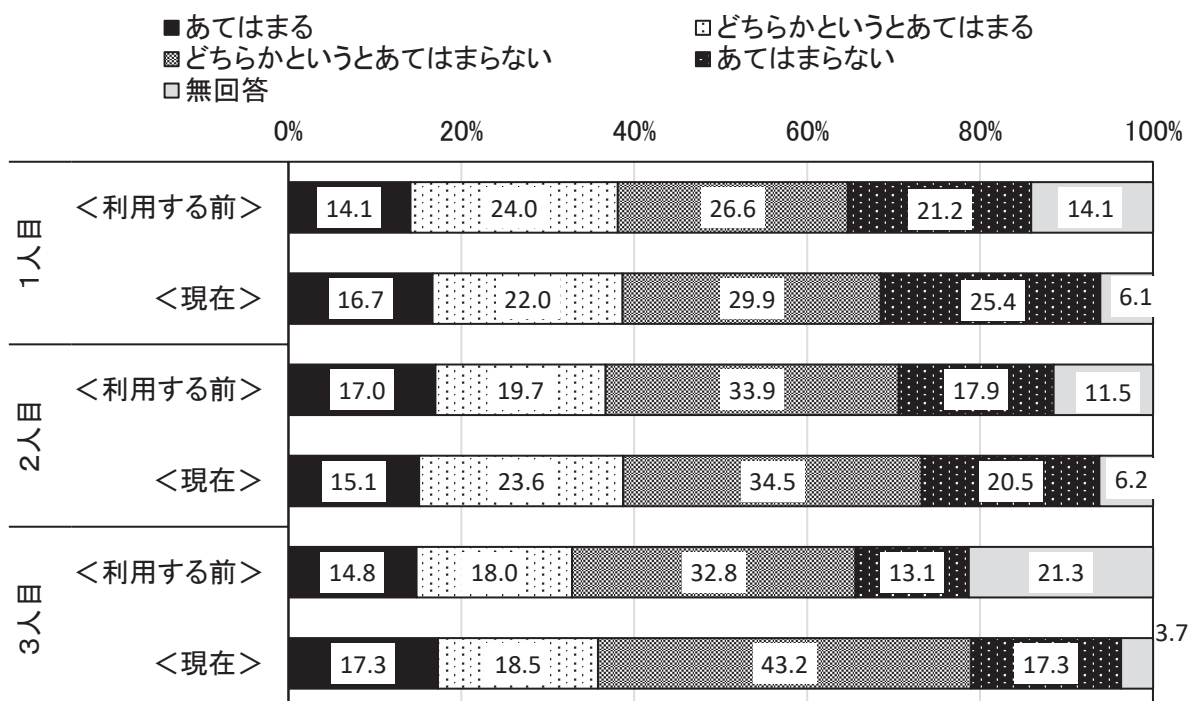


図 115 問 7-③ お子さんと読んだ本の感想を話し合ったりしていますか

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者が子どもと読んだ本の感想を話し合っているかどうかの変化を見ると、1人目、2人目、3人目の利用前、利用後（現在）ともに「どちらかというにあてはまらない」がもっとも回答割合が高くなっている。1人目の場合「どちらかというにあてはまらない」が利用前26.6%から利用後（現在）29.9%へと、次いで「あてはまらない」が21.2%から25.4%へと増加している。2人目も同様に、「どちらかというにあてはまらない」が33.9%から34.5%へと、次いで「あてはまらない」が17.9%から20.5%へと増加している。3人目も「どちらかというにあてはまらない」が32.8%から43.2%へと、次いで「あてはまらない」が13.1%から17.3%へと増加している。

④お子さんと一緒に図書館に行きますか

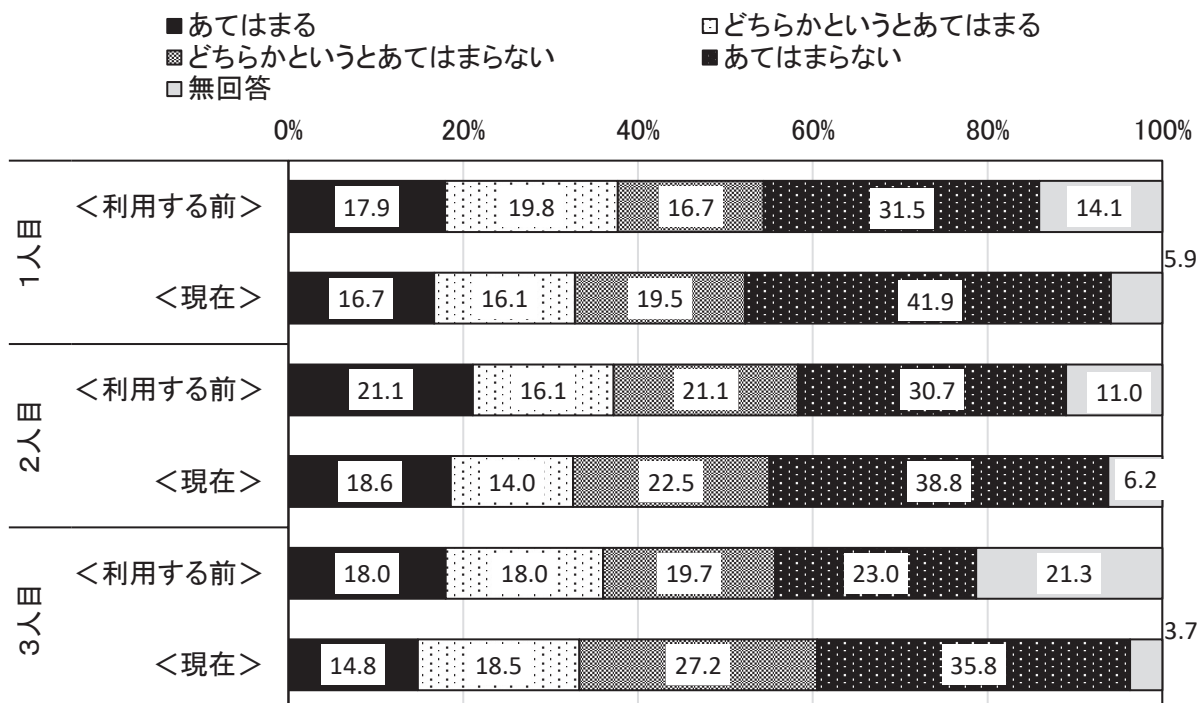


図 116 問 7-④ お子さんと一緒に図書館に行きますか

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者が子どもと一緒に図書館に行くかどうかの変化を見ると、1人目、2人目、3人目の利用前、利用後（現在）ともに「あてはまらない」がもっとも回答割合が高くなっており、また、利用前より利用後が「あてはまらない」の回答割合が高くなっている。1人目の場合「あてはまらない」が利用前31.5%から利用後（現在）41.9%へと増加している。2人目の場合、「あてはまらない」が30.7%から38.8%へと増加している。3人目の場合は「あてはまらない」が23.0%から35.8%へと増加している。

⑤お子さんの将来の夢について話し合っていますか

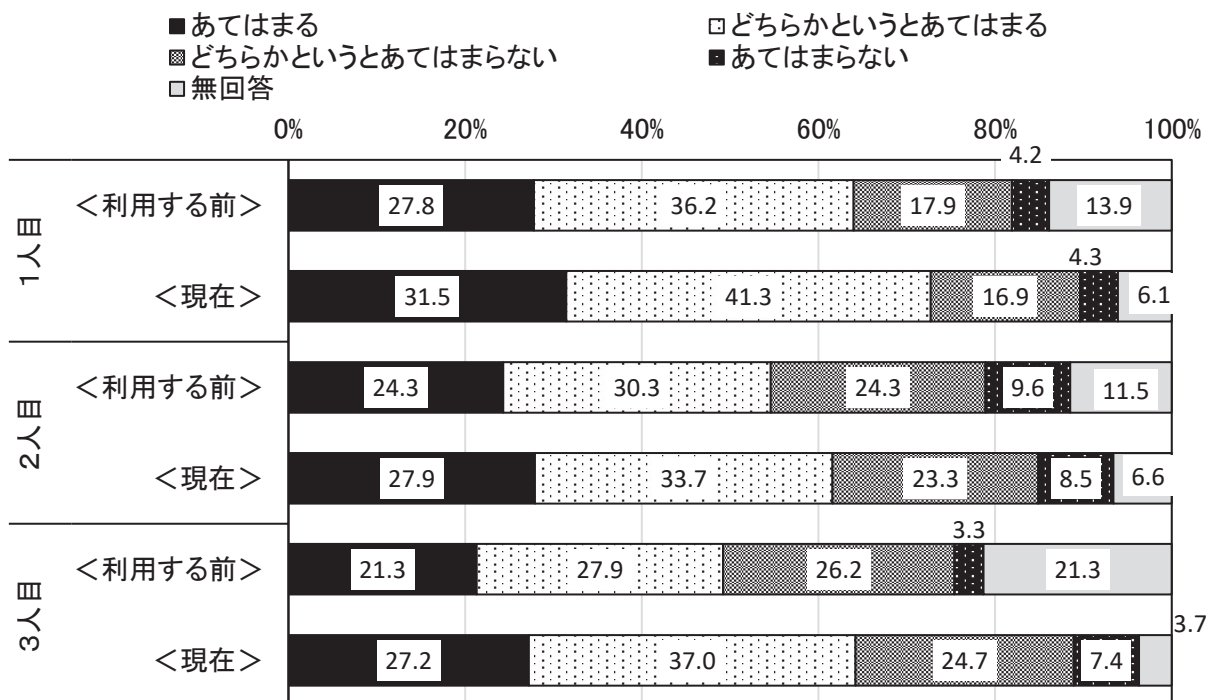


図 117 問 7-⑤ お子さんの将来の夢について話し合っていますか

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者が子どもと将来の夢について話し合うどうかの変化を見ると、1人目、2人目、3人目の利用前、利用後（現在）ともに「どちらかというにあてはまる」がもっとも回答割合が高くなっており、また、利用前より利用後（現在）の回答割合が高くなっている。1人目の場合「あてはまる」が利用前27.8%から利用後（現在）31.5%へと、「どちらかというにあてはまる」が36.2%から41.3%へとどちらも増加している。2人目も同様に、「あてはまる」が24.3%から27.9%へと、「どちらかというにあてはまる」が30.3%から33.7%へと増加している。3人目も「あてはまる」が21.3%から27.2%へと、「どちらかというにあてはまる」が27.9%から37.0%へと増加している。

⑥お子さんを信頼していますか

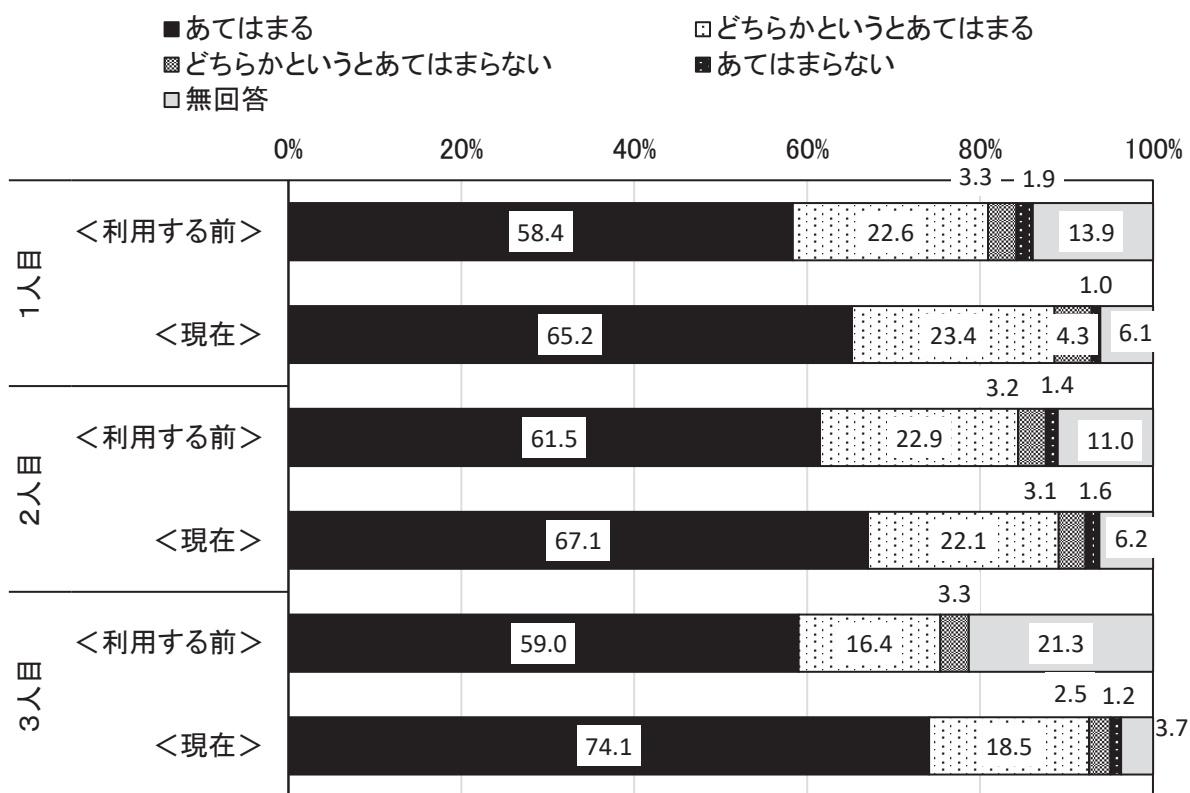


図 118 問 7-⑥ お子さんを信頼していますか

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者の子どもに対する信頼感の変化を見ると、1人目、2人目、3人目の利用前、利用後（現在）ともに「あてはまる」がもっとも回答割合が高くなっており、また、利用前より利用後の回答割合が高くなっている。1人目の場合「あてはまる」が利用前58.4%から利用後（現在）65.2%へと増加している。2人目も同様に、「あてはまる」が61.5%から67.1%へと増加している。3人目も「あてはまる」が59.0%から74.1%へと増加している。

【保護者】子育てに関すること

問 8 (問 16、問 25)．あなた自身のあなたのお子さんの 1 人目 (2 人目、3 人目) に対する子育てについてのお気持ちをお聞かせください。(①～⑦について、<利用する前>と<現在>でそれぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください)

①不安やイライラなどの感情を子どもに向けたことがある

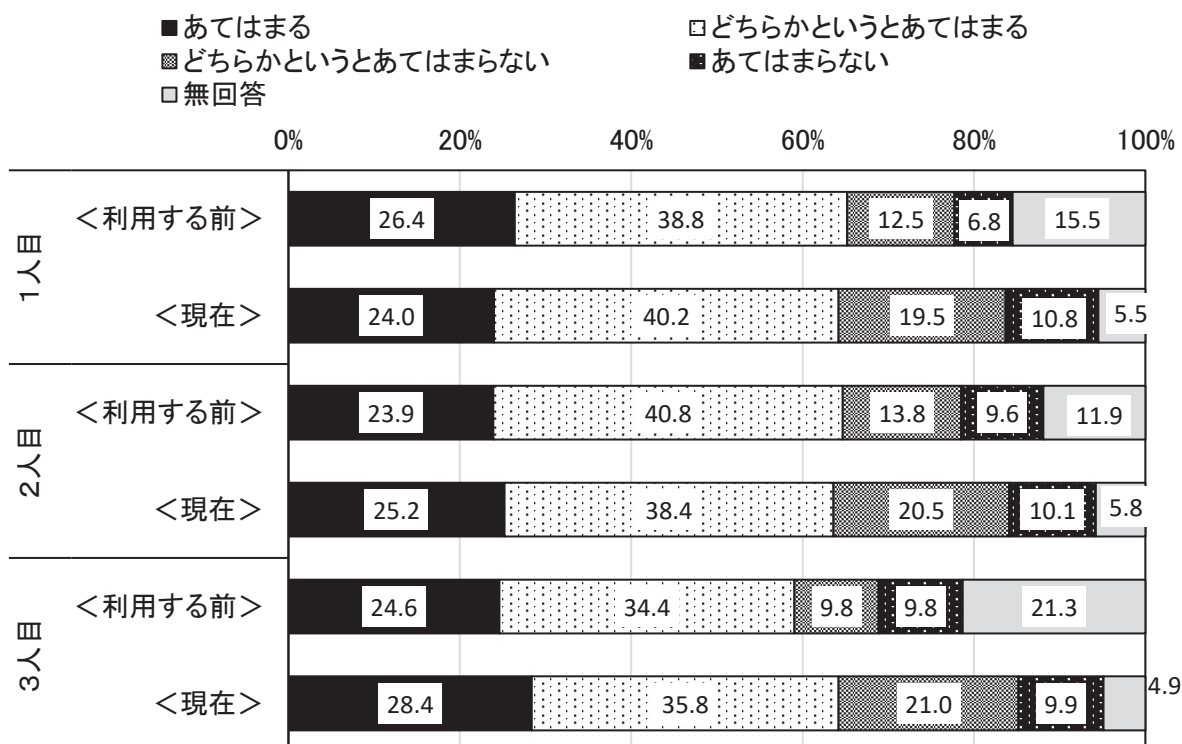


図 119 問 8-① 不安やイライラなどの感情を子どもに向けたことがある

1 番よく行く社会資源の利用前後で回答者が「不安やイライラなどの感情を子どもに向けたことがある」かどうかの変化を見ると、1 人目、2 人目、3 人目の利用前、利用後（現在）ともに「どちらかというにあてはまる」がもっとも回答割合が高くなっている。1 人目の場合「あてはまる」及び「どちらかというにあてはまる」が利用前 65.2%から利用後（現在）64.2%へとやや減少している。2 人目の場合は「あてはまる」及び「どちらかというにあてはまる」が利用前 64.7%から利用後（現在）63.6%へと減少している。3 人目の場合は「あてはまる」及び「どちらかというにあてはまる」が利用前 59.0%から利用後（現在）64.2%へと増加していることがわかる。

②子どもを育てるために我慢している

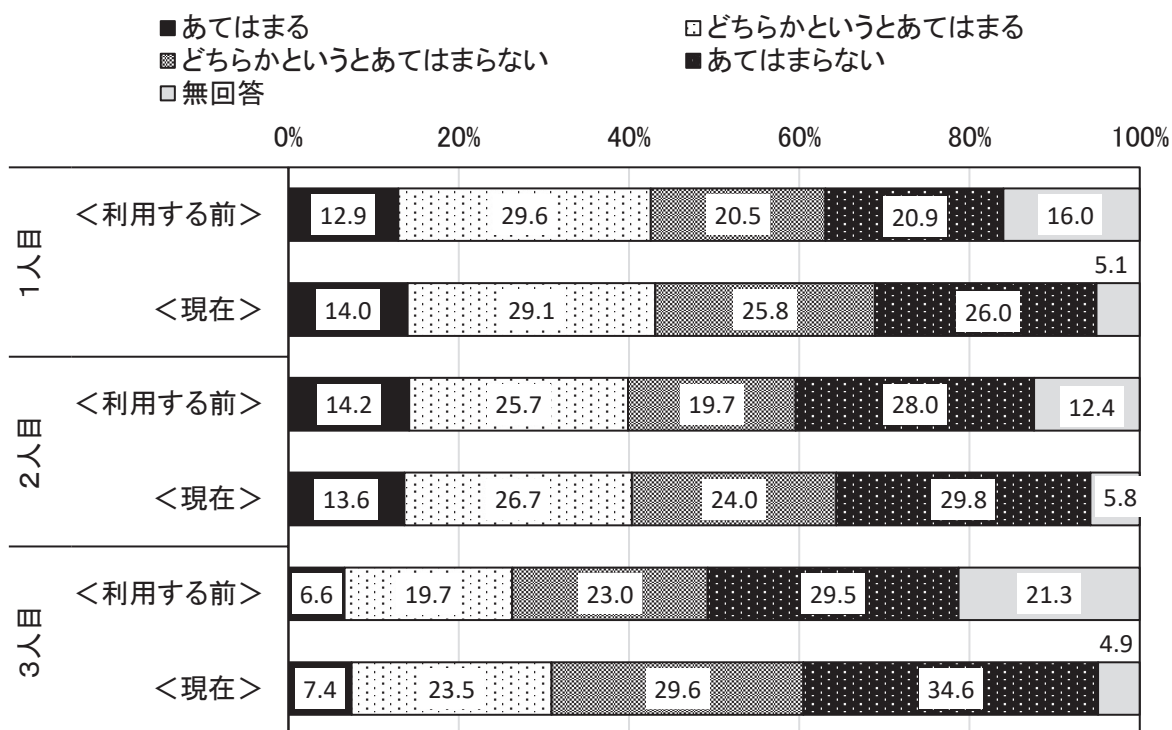


図 120 問 8-② 子どもを育てるために我慢している

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者が「子どもを育てるために我慢している」かどうかの変化を見ると、1人目、2人目、3人目ともに「どちらかというにあてはまらない」及び「あてはまらない」の回答割合が利用前より利用後（現在）が増加していることがわかる。1人目の場合「あてはまらない」及び「どちらかというにあてはまらない」が利用前41.4%から利用後（現在）51.8%へと増加している。2人目も同様に、「あてはまらない」及び「どちらかというにあてはまらない」が利用前47.7%から利用後（現在）53.8%へと増加している。3人目も「あてはまらない」及び「どちらかというにあてはまらない」が利用前52.5%から利用後（現在）64.2%へと増加している。

③自分一人で育てているという圧迫感を感じる

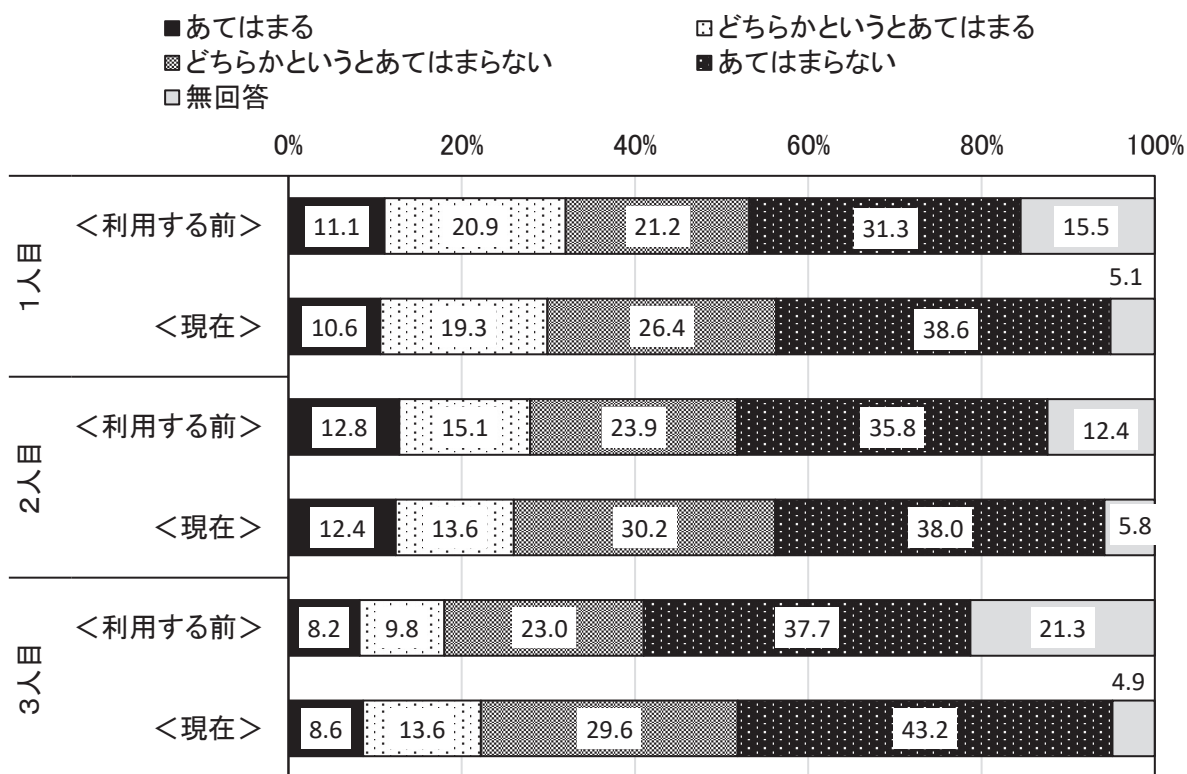


図 121 問 8-③ 自分一人で育てているという圧迫感を感じる

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者が「自分一人で育てているという圧迫感を感じる」かどうかの変化を見ると、1人目、2人目、3人目ともに「あてはまらない」次いで「どちらかというにあてはまらない」の回答割合が高くなっている。1人目の場合「あてはまらない」及び「どちらかというにあてはまらない」が利用前 52.5%から利用後（現在）65.0%へと増加している。2人目も同様に、「あてはまらない」及び「どちらかというにあてはまらない」が利用前 59.7%から利用後（現在）68.2%へと増加している。3人目も「あてはまらない」及び「どちらかというにあてはまらない」が利用前 60.7%から利用後（現在）72.8%へと増加している。

④子どもの世話にはあまり関心がない

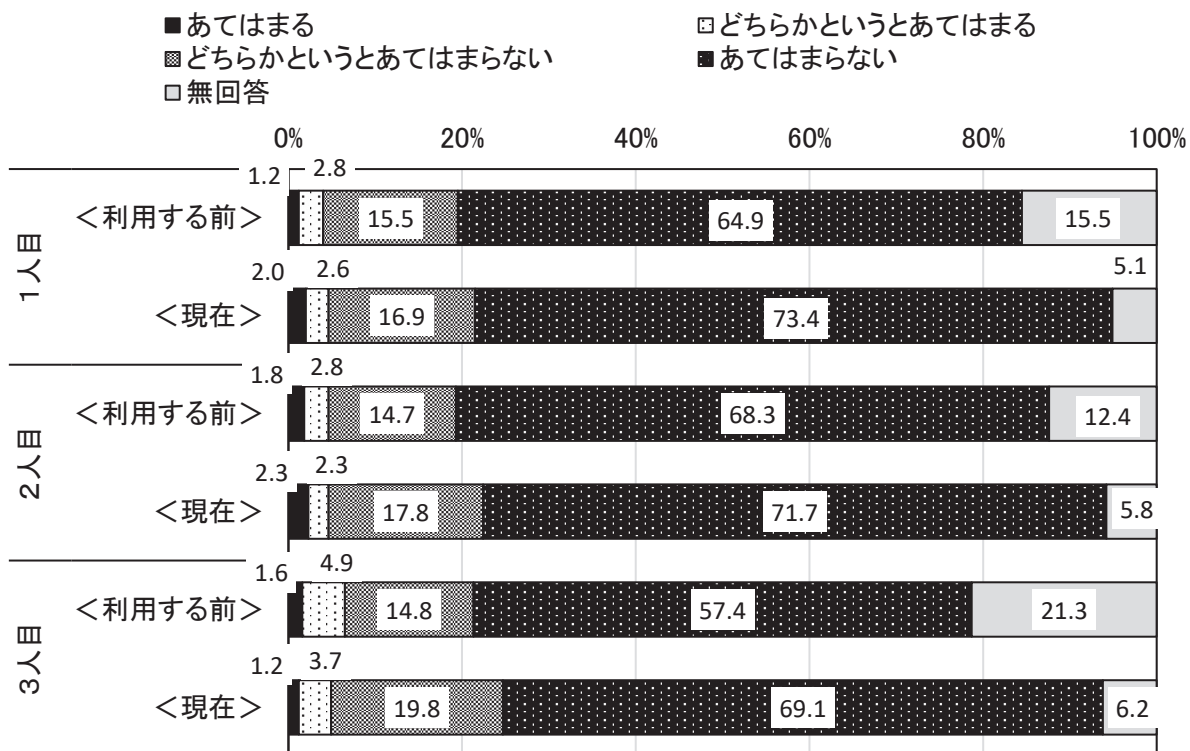


図 122 問 8-④ 子どもの世話にはあまり関心がない

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者が「子どもの世話にはあまり関心がない」かどうかの変化を見ると、1人目、2人目、3人目ともに「あてはまらない」の回答割合が高く、利用前より利用後（現在）の方が回答割合は高い。1人目の場合「あてはまらない」が利用前 64.9%から利用後（現在） 73.4%へと増加している。2人目も同様に、「あてはまらない」が利用前 68.3%から利用後（現在） 71.7%へと増加している。3人目も「あてはまらない」が利用前 57.4%から利用後（現在） 69.1%へと増加している。

⑤近所でふだん世間話をしたり、お子さんの話をしたりする人が数人いる

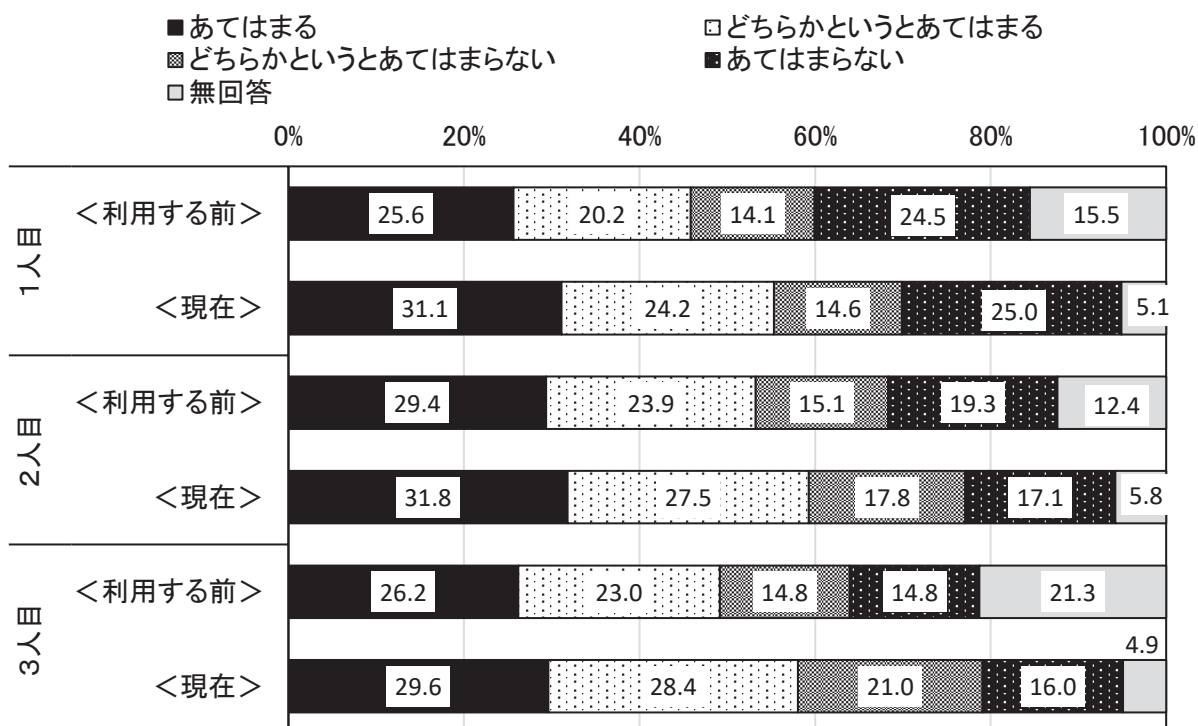


図 123 問 8-⑤ 近所でふだん世間話をしたり、お子さんの話をしたりする人が数人いる

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者が「近所でふだん世間話をしたり、お子さんの話をしたりする人が数人いる」かどうかの変化を見ると、1人目、2人目、3人目ともに「あてはまる」の回答割合が高く、利用前より利用後（現在）の方が回答割合は高い。1人目の場合「あてはまる」が利用前25.6%から利用後（現在）31.1%へと増加している。2人目も同様に、「あてはまる」が利用前29.4%から利用後（現在）31.8%へと増加している。3人目も「あてはまる」が利用前26.2%から利用後（現在）29.6%へと増加している。

⑥育児や家庭のことについて、他の人とおしゃべりすることが好き

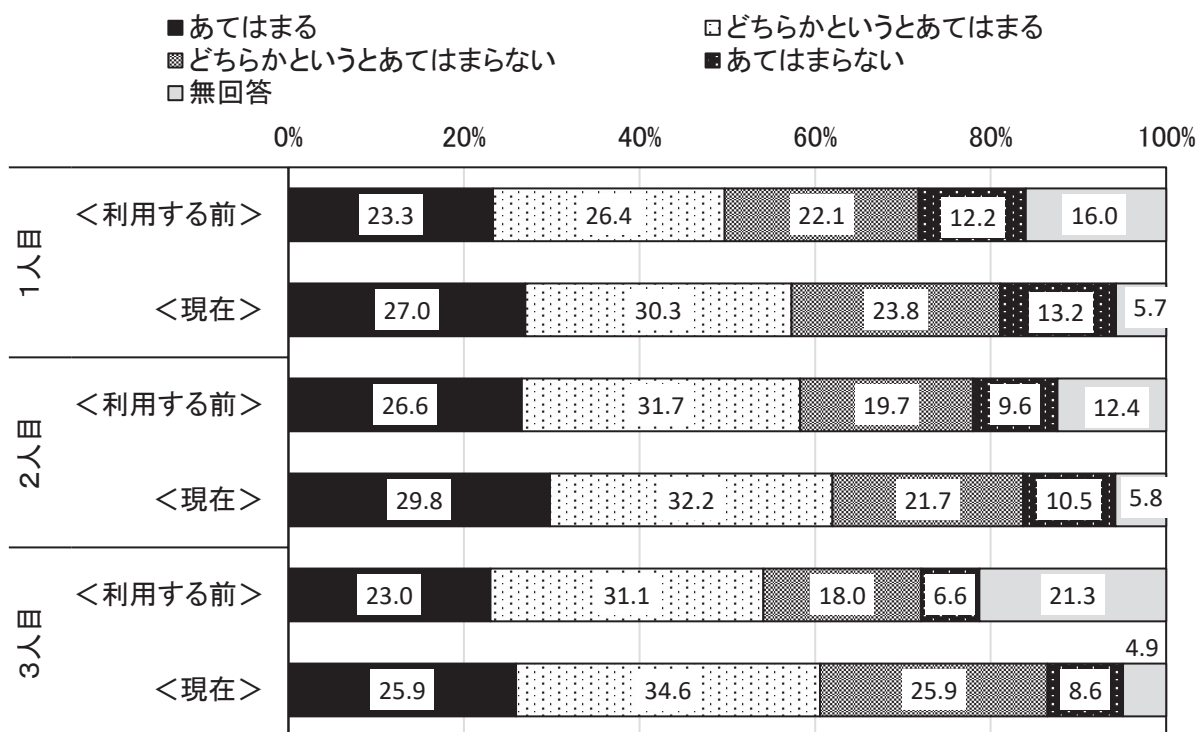


図 124 問 8-⑥ 育児や家庭のことについて、他の人とおしゃべりすることが好き

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者が「育児や家庭のことについて、他の人とおしゃべりすることが好き」かどうかの変化を見ると、1人目、2人目、3人目ともに「どちらかというにあてはまる」の回答割合が高く、「あてはまる」及び「どちらかというにあてはまる」の回答割合が利用前より利用後（現在）の方が高くなっている。1人目の場合「あてはまる」及び「どちらかというにあてはまる」の回答割合が利用前 49.7%から利用後（現在） 57.3%へと増加している。2人目も同様に、「あてはまる」及び「どちらかというにあてはまる」の回答割合が利用前 58.3%から利用後（現在） 62.0%へと増加している。3人目も「あてはまる」及び「どちらかというにあてはまる」の回答割合が利用前 54.1%から利用後（現在） 60.5%へと増加している。

⑦お子さんと離れたい、と思うことがある

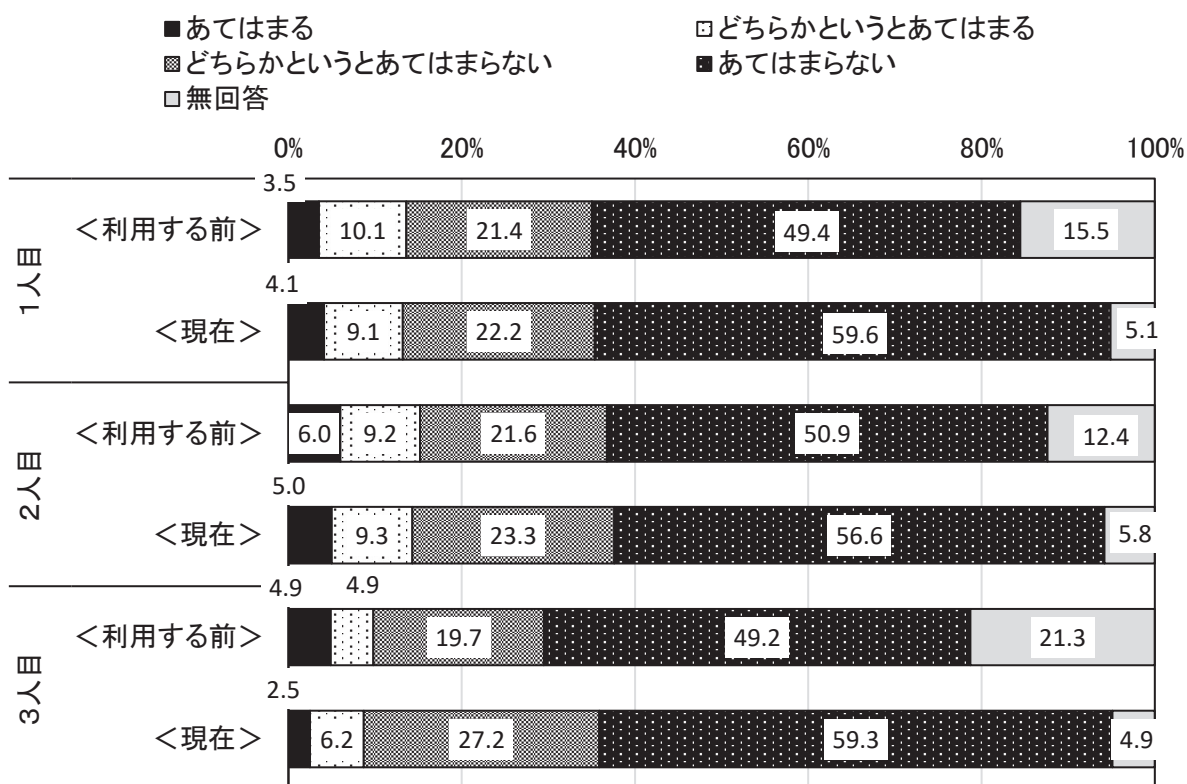


図 125 問 8-⑦ お子さんと離れたい、と思うことがある

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者が「お子さんと離れたい、と思うことがある」かどうかの変化を見ると、1人目、2人目、3人目ともに「あてはまらない」の回答割合が高く、利用前より利用後（現在）の方が回答割合は高い。1人目の場合「あてはまらない」が利用前49.4%から利用後（現在）59.6%へと増加している。2人目も同様に、「あてはまらない」が利用前50.9%から利用後（現在）56.6%へと増加している。3人目も「あてはまらない」が利用前49.2%から利用後（現在）59.3%へと増加している。

【保護者】子どもに関する進路観

問9（問17、問26）. あなたのご家庭では、お子さんの1人目（2人目、3人目）にどの段階までの教育を受けさせたいですか。（＜利用する前＞と＜現在＞でそれぞれあてはまる番号1つに○をつけてください）

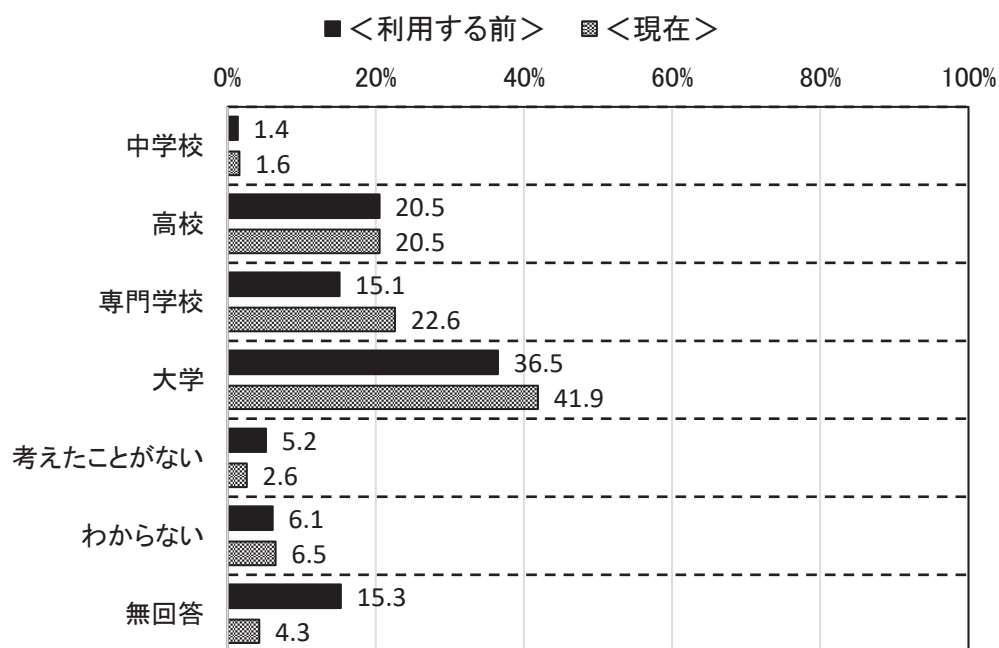


図 126 子どもに関する進路観（1人目）

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者の1人目の「子どもに関する進路観」の変化を見ると、利用後（現在）では「大学」がもっとも回答割合が高くなっている。「大学」が利用前36.5%から利用後（現在）41.9%へと、次いで「専門学校」が利用前15.1%から利用後（現在）22.6%へとそれぞれ増加している。また、「考えたことがない」の回答割合は利用前5.2%から利用後（現在）2.6%へと減少していることがわかる。

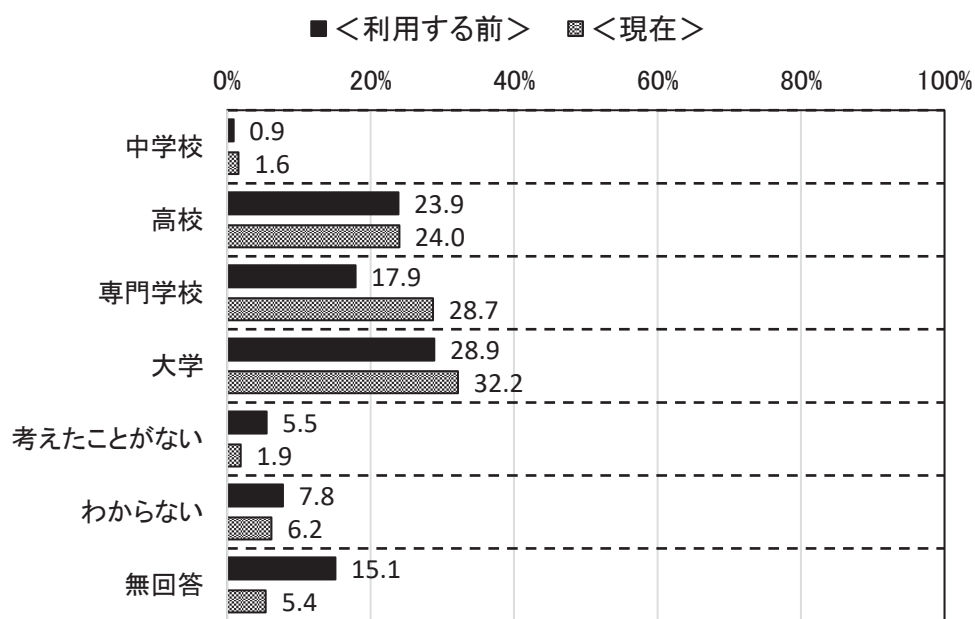


図 127 子どもに関する進路観（2人目）

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者の2人目の「子どもに関する進路観」の変化を見ると、利用後（現在）では「大学」がもっとも回答割合が高くなっている。「大学」が利用前28.9%から利用後（現在）32.2%へと、次いで「専門学校」が利用前17.9%から利用後（現在）28.7%へとそれぞれ増加している。また、「考えたことがない」の回答割合は利用前5.5%から利用後（現在）1.9%へと減少していることがわかる。

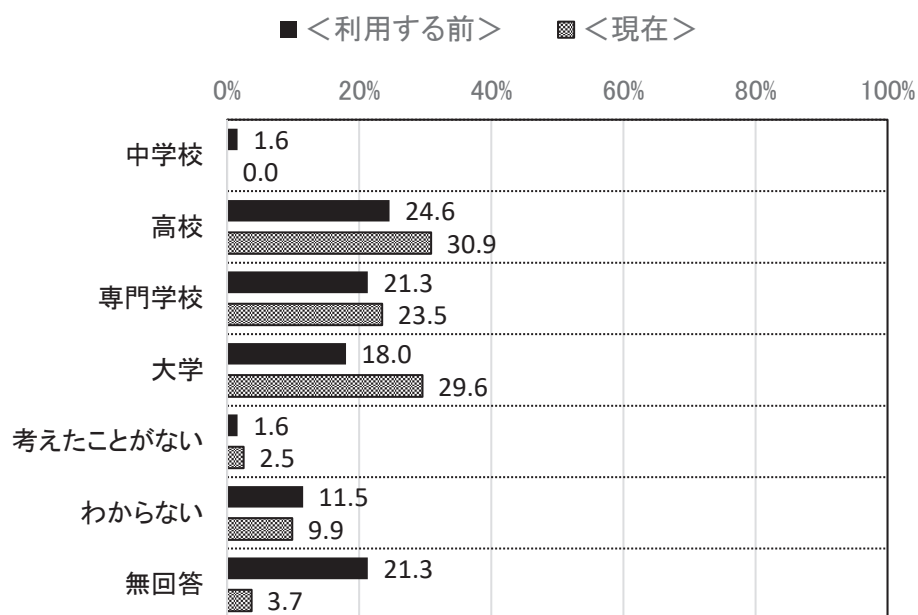


図 128 子どもに関する進路観（3人目）

1番よく行く社会資源の利用前後で回答者の3人目の「子どもに関する進路観」の変化を見ると、利用後（現在）では「高校」がもっとも回答割合が高くなっている。「高校」が利用前24.6%から利用後（現在）30.9%へと、次いで「大学」が利用前18.0%から利用後（現在）29.6%へとそれぞれ増加している。「考えたことがない」の回答割合は利用前1.6%から利用後（現在）2.5%へとやや増加していることがわかる。

4) 支援状況・支援に対する要望（問 31、問 32）

【保護者】支援状況

問 31. あなたは市町村の支援員から支援を受けたことがありますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

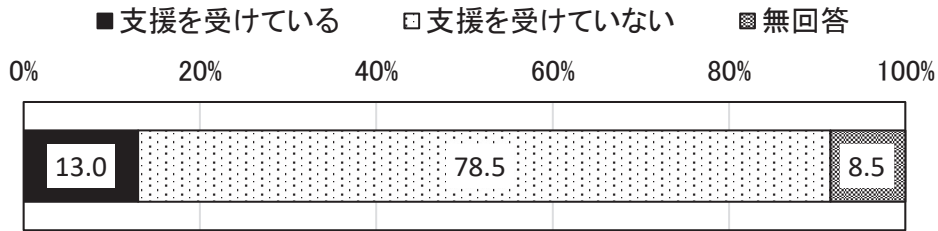


図 129 支援状況

回答者の支援状況を見ると、回答者の 78.5%が「支援を受けていない」ことがわかる。「支援を受けている」と回答した割合は 13.0%となっている。

※ 支援員とは、経済的に困っている世帯などの相談にのったり、必要な支援につなぐ役割をする人のことです。各市町村における支援員の名称は、「子ども支援サポーター」、「子ども支援員」「家庭支援員」などです。

【保護者】子どもに関する要望

問 32. あなたはお子さんに対してどのような支援を望んでいますか。(あてはまるものすべてに○をつけてください)

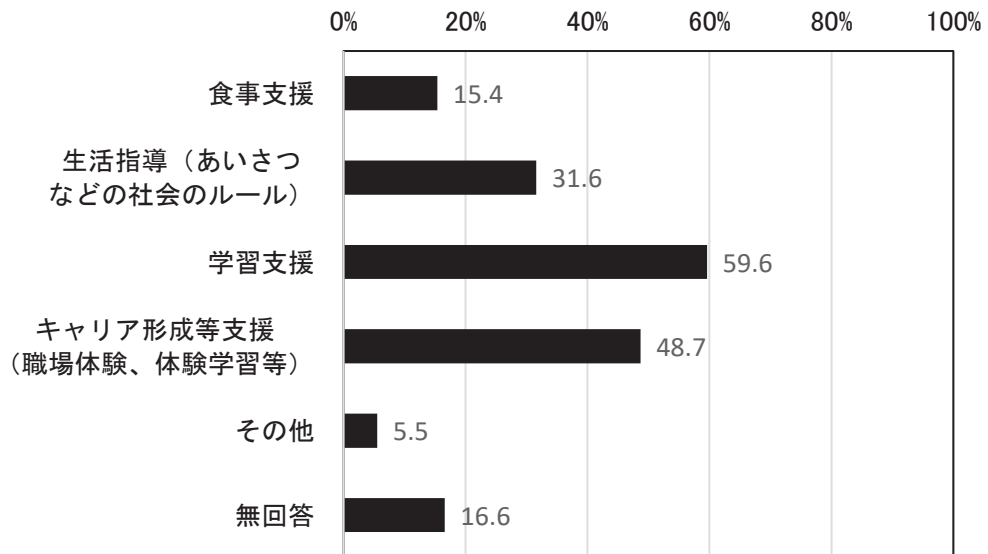


図 130 子どもに関する要望

回答者の子どもに関する要望を見ると、「学習支援」が 59.6%でもっとも回答割合が高くなっている。次いで、「キャリア形成等支援」が 48.7%、「生活指導」が 31.6%となっている。

3. 経済状況別に見た分析結果

これより、保護者票に関するクロス分析を行っていく。分析にあたっては、子ども票とマッチングが可能な保護者票のうち、子どもの生まれ順が特定できた 719 件を対象としている。これまでの保護者票の単純集計分析より件数が増加しているのは、子ども票の件数をベースとして保護者票のマッチングを行ったことによる。また、子どもの生まれ順が特定できたものに限定しているのは、保護者票の設問が子どもの生まれ順別（1 人目から最大 3 人目まで）に聴取する形式となっており、子ども票とのマッチングにあたってはどの生まれ順の子どもについて回答しているかを特定する必要があるためである。

経済状況を測る指標として、大阪府立大学研究チームによって開発されたはく奪指標得点（山野 2019）²を用いる。これは、所得以外の生活上の困窮状況をとらえるために開発された指標であり、経済的理由によってはく奪された経験について等価可処分所得との関連をふまえて重み付けを行い得点化したもので、得点が高いほど貧困状況にあるといえる。本調査においても、経済的な理由による世帯の経験をたずねた保護者票問 28 について、この設問に基づき、大阪府調査と同様の手法ではく奪指標得点を作成した。本調査におけるはく奪指標得点の平均は 14.4 点、中央値は 13 点であった。以降の分析では、このはく奪指標得点を「10 点以下」「11～20 点以下」「21 点以上」の 3 つの群に区分し、クロス軸として用いている。

² 山野則子（2019）『子どもの貧困調査—子どもの生活に関する実態調査から見えてきたもの』明石書店。

1) 子育て意識や進路観との関連

⇒ 経済状況 (問 28) × 子育て意識、進路観 (問 7-①～⑥、問 9)

経済状況と子育て意識、進路観との間の関連性を調べるため、7 のクロス表を作成し、検定を行った。その中で、5%以内のレベルで有意な検定結果は 2 件であり、次のようになる。

読んだ本の感想の話し合い

問 7. あなたとお子さんとの関係について、お聞かせください。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

③ お子さんと読んだ本の感想を話し合ったりしていますか。<現在>

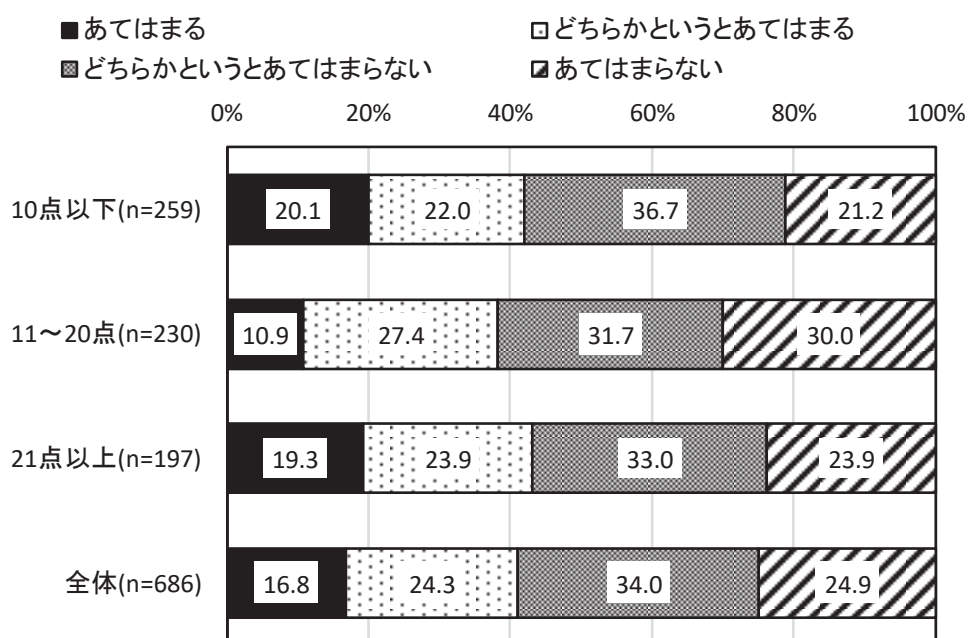


図 131 経済状況別に見た、読んだ本の感想の話し合い<現在>

はく奪指標得点と「読んだ本の感想の話し合い」について、有意な関連を示している ($p < 0.05$)。図 131 で示されたように、「あてはまる」と回答する割合について、はく奪指標得点が「11～20点」の群は 10.9%であり、3つの群の中でもっとも低い。「10点以下」の群は 20.1%であり、3つの群の中でもっとも高い。

子どもに受けさせたい教育

問9. あなたのご家庭では、お子さんにどの段階までの教育を受けさせたいですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください) <現在>

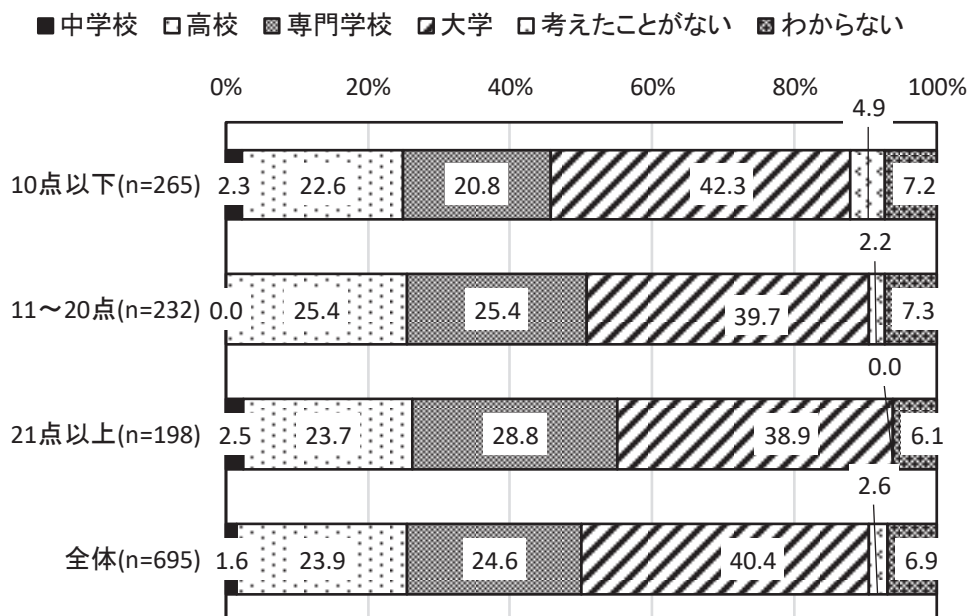


図 132 経済状況別に見た、子どもに受けさせたい教育<現在>

はく奪指標得点と「子どもに受けさせたい教育」について、有意な関連を示している ($p<0.05$)。図 132 で示されたように、「専門学校」と回答する割合について、はく奪指標得点が「21点以上」の群は28.8%であり、3つの群の中で1番高い。「10点以下」の群は20.8%であり、3つの群の中でもっとも低い。

2) 育児負担感（虐待関連、孤立感、孤独、向社会性）との関連

⇒ 経済状況（問 28）×虐待関連（問 8-①～④）

⇒ 経済状況（問 28）×孤立感、孤独、向社会性（問 8-⑤～⑦）

経済状況と育児負担感との間の関連性を調べるため、7 のクロス表を作成し、検定を行った。その中で、5%以内のレベルで有意な検定結果は 3 件であり、次のようになる。

不安やイライラなどの感情を子どもに向けたことがある

問 8. あなた自身のあなたのお子さんに対する子育てについてのお気持ちをお聞かせください。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

① 不安やイライラなどの感情を子どもに向けたことがある<現在>

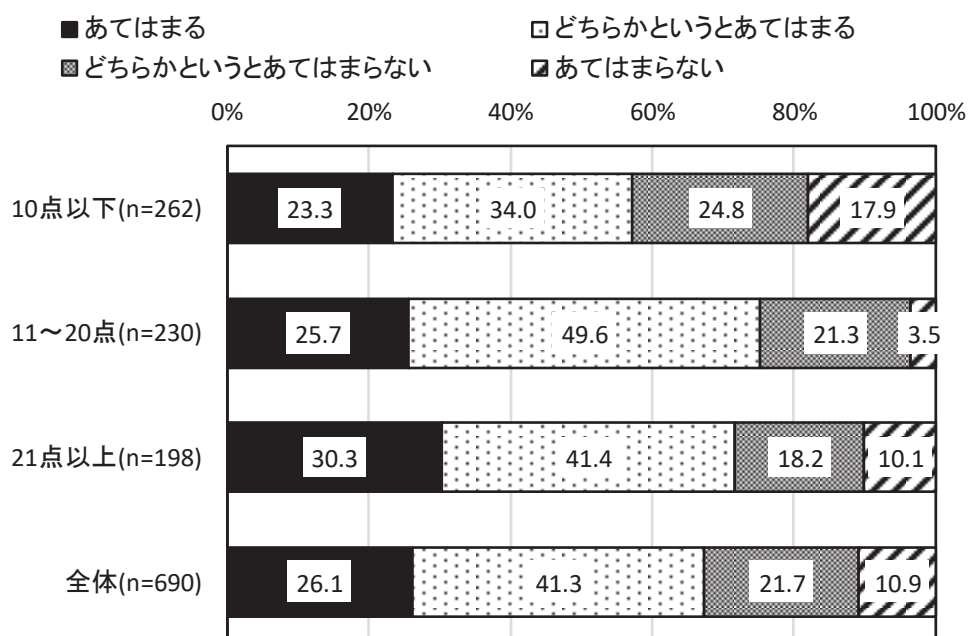


図 133 経済状況別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けたことがある<現在>

はく奪指標得点と「不安やイライラなどの感情を子どもに向けたことがある」について、有意な関連を示している ($p<0.01$)。図 133 で示されたように、「あてはまる」と回答する割合について、はく奪指標得点が「21 点以上」の群では 30.3%であり、3つの群の中でもっとも高い。「10 点以下」の群では 23.3%であり、3つの群の中でもっとも低い。

子どもを育てるために我慢している

問8. あなた自身のあなたのお子さんに対する子育てについてのお気持ちをお聞かせください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

② 子どもを育てるために我慢している<現在>

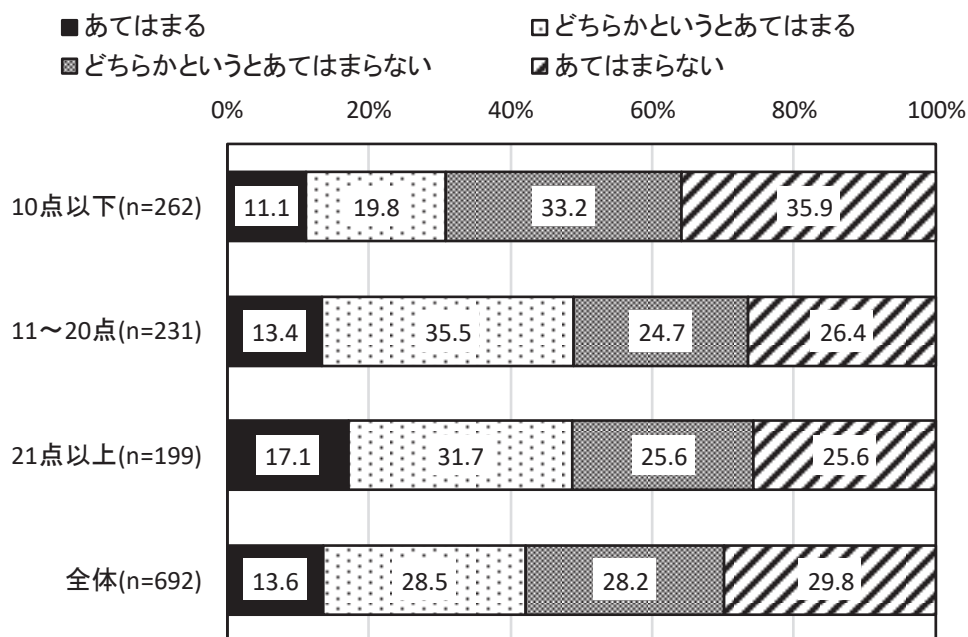


図 134 経済状況別に見た、子どもを育てるために我慢している<現在>

はく奪指標得点と「子どもを育てるために我慢している」について、有意な関連を示している ($p<0.01$)。図 134 で示されたように、「あてはまる」と回答する割合について、はく奪指標得点が「21点以上」の群では17.1%であり、3つの群の中でもっとも高い。「10点以下」の群では11.1%であり、3つの群の中でもっとも低い。

自分一人で育てているという圧迫感を感じる

問8. あなた自身のあなたのお子さんに対する子育てについてのお気持ちをお聞かせください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

③ 自分一人で育てているという圧迫感を感じる<現在>

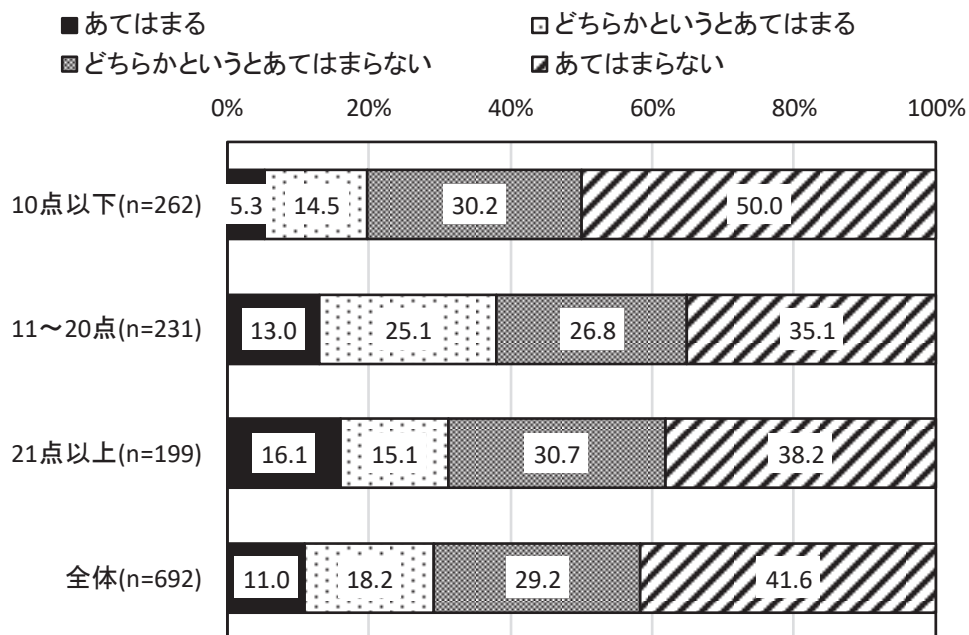


図 135 経済状況別に見た、自分一人で育てているという圧迫感を感じる<現在>

はく奪指標得点と「自分一人で育てているという圧迫感を感じる」について、有意な関連を示している ($p<0.01$)。図 135 で示されたように、「あてはまる」と回答する割合について、はく奪指標得点が「21点以上」の群では16.1%であり、3つの群の中でもっとも高い。「10点以下」の群では5.3%であり、3つの群の中でもっとも低い。

3) 保護者から見た子どもの状況との関連

⇒ 経済状況（問 28）×子どもの生活状況、自己肯定感、学習意欲、進路感（問 6-①～⑤、⑧、⑨）

⇒ 経済状況（問 28）×子どもの社会関係、孤立感（問 4、問 5、問 6-⑥、⑦、6-⑩～⑭）

経済状況と子どもの状況との間の関連性を調べるため、16 のクロス表を作成し、検定を行った。その中で、5%以内のレベルで有意な検定結果は 1 件であり、次のようになる。

自分からすすんでよく他人を手伝う
 問 6. お子さんについて、もっとも近いものを選んでください。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）
 ⑫ 自分からすすんでよく他人を手伝う（親・先生・子どもたちなど）＜現在＞

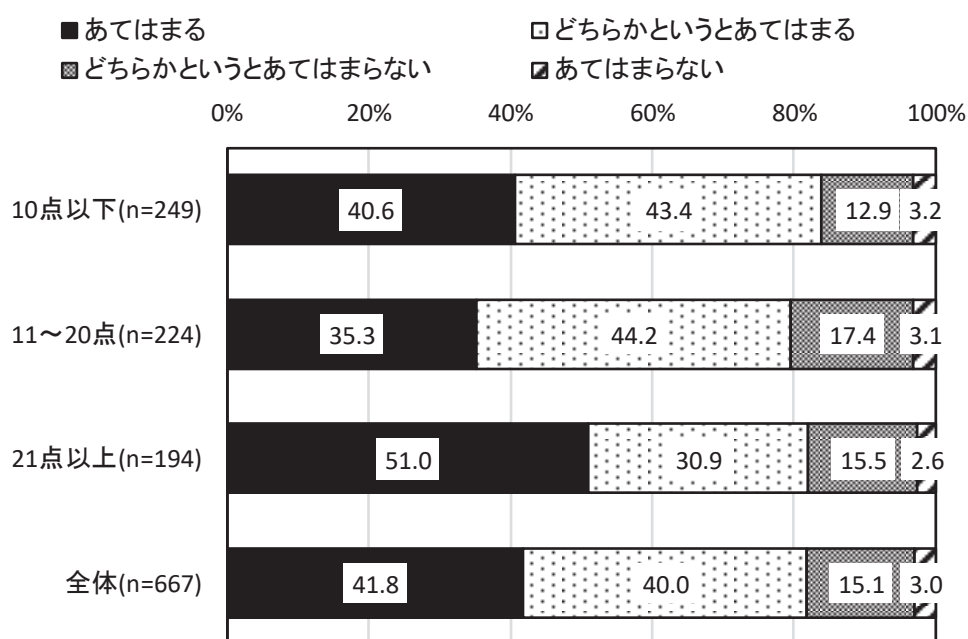


図 136 経済状況別に見た、自分からすすんでよく他人を手伝う＜現在＞

はく奪指標得点と「自分からすすんでよく他人を手伝う」について、有意な関連を示している ($p < 0.05$)。図 136 で示されたように、「あてはまる」と回答する割合について、はく奪指標得点が「21 点以上」の群では 51.0%であり、3つの群の中でもっとも高い。「11～20 点」の群では 35.3%であり、3つの群の中でもっとも低い。

4) 子どもの社会資源の利用状況及び支援状況との関連

⇒ 経済状況（問 28） × 社会資源の利用状況（問 2-1、問 2-2）

⇒ 経済状況（問 28） × 支援状況（問 31）

経済状況と子どもの社会資源の利用状況及び支援状況との間の関連性を調べるため、83 のクロス表を作成し、検定を行った。その中で、5%以内のレベルで有意な検定結果は 12 件であり、次のようになる。

知っている場所

問 2-1-A. それぞれの場所をあなたは知っていますか。左の表の「知らない」、もしくは「知っている」のどちらかに○をつけてください。

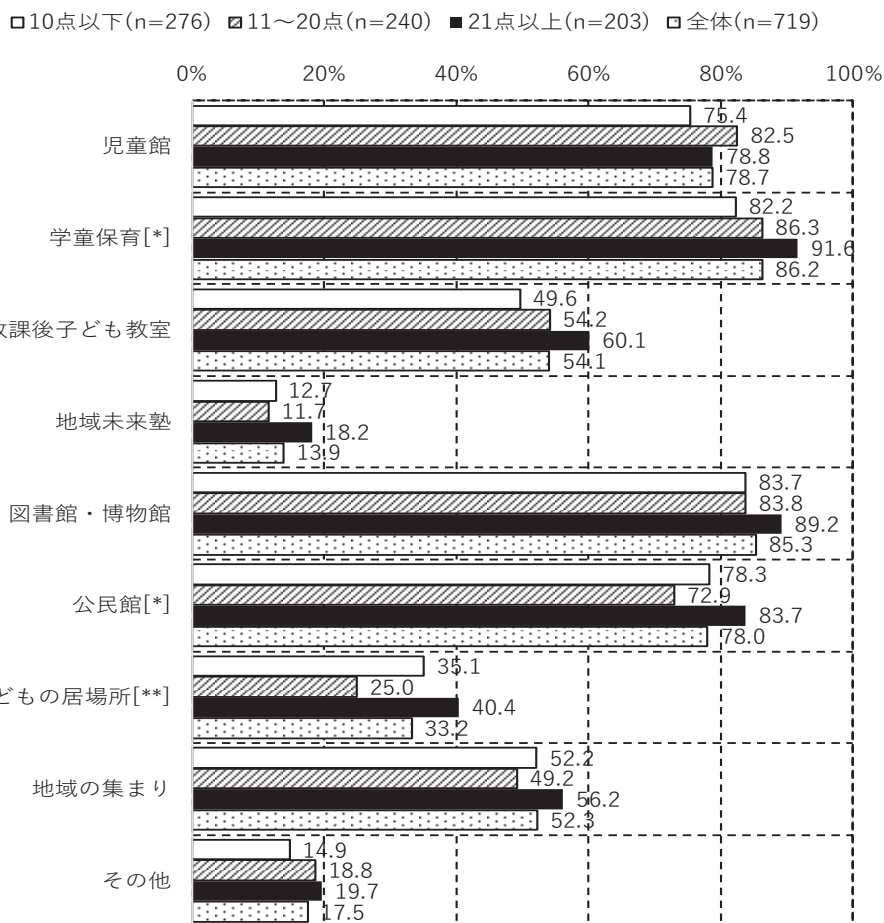


図 137 経済状況別に見た、知っている場所

※[**]: $p<0.01$,[*]: $p<0.05$

はく奪指標得点と「知っている場所」について、「学童保育」「公民館」「子どもの居場所」が有意な関連を示している（「学童保育」「公民館」 $p<0.05$ 、「子どもの居場所」 $p<0.01$ ）。これらの項目について、図 137 で示されたように、はく奪指標得点が「21 点以上」の群で「知っている」の割合がもっとも高い。

利用したことがある場所

問2-1-B. 知っているに○をつけた場合で、お子さんがその場所を利用したことがあるらば右の表に○をつけてください。

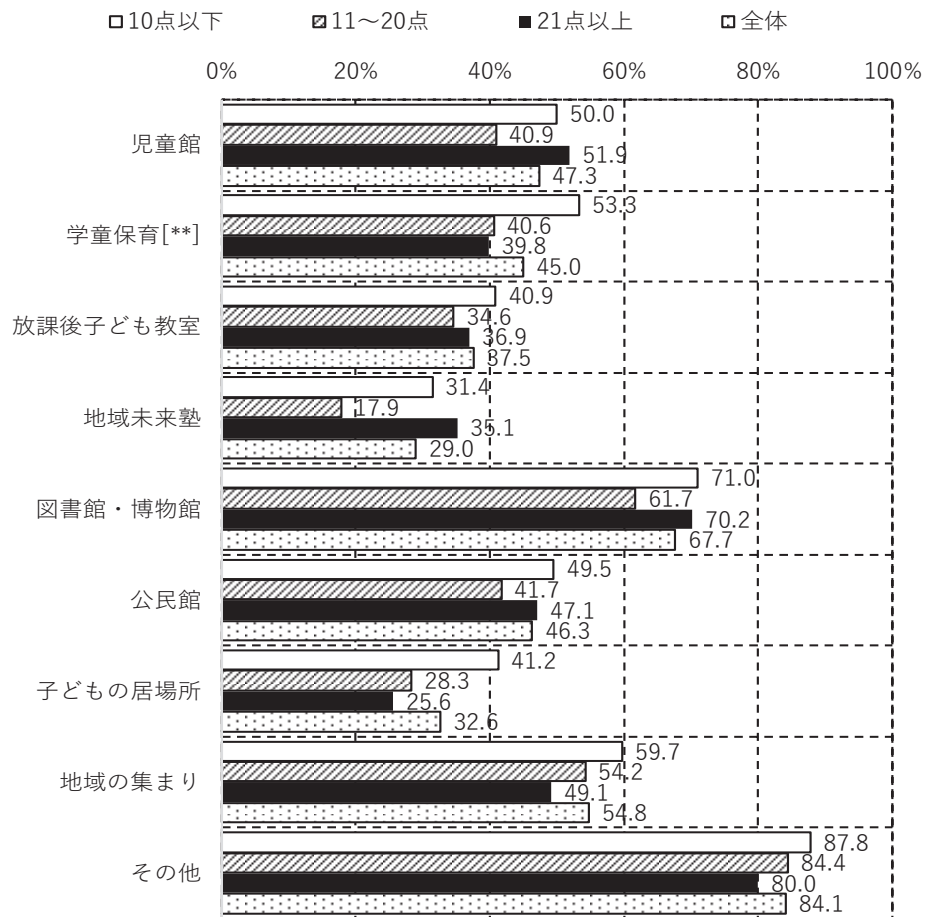


図 138 経済状況別に見た、利用したことがある場所
(対象は問2-1-Aで各項目について「知っている」と回答した者)

※^[**]: $p<0.01$,^[*]: $p<0.05$

はく奪指標得点と「利用したことがある場所」の関連について、問2-1-Aで「知っている」を選択した群ごとにそれぞれの項目の利用状況をみた。各項目によって分母となる数が異なるため、項目ごとの回答者数を下記の表に示した。その結果、「学童保育」との関連のみが有意であった ($p<0.01$)。この項目について、図138で示されたように、はく奪指標得点が「10点以下」の群で学童保育を「利用したことがある」の割合がもっとも高いといえる。

<項目ごとの回答者数>

| | 児童館 | 学童保育 [**] | 放課後子 ども教室 | 地域未来 塾 | 図書館・ 博物館 | 公民館 | 子どもの 居場所 | 地域の集 まり | その他 |
|--------|-----|--------------|--------------|-----------|-------------|-----|-------------|------------|-----|
| 10点以下 | 208 | 227 | 137 | 35 | 231 | 216 | 97 | 144 | 41 |
| 11~20点 | 198 | 207 | 130 | 28 | 201 | 175 | 60 | 118 | 45 |
| 21点以上 | 160 | 186 | 122 | 37 | 181 | 170 | 82 | 114 | 40 |
| 全体 | 566 | 620 | 389 | 100 | 613 | 561 | 239 | 376 | 126 |

利用したことがある場所の数

問2-1-C. 利用したことがある場所の合計の数を書いてください。

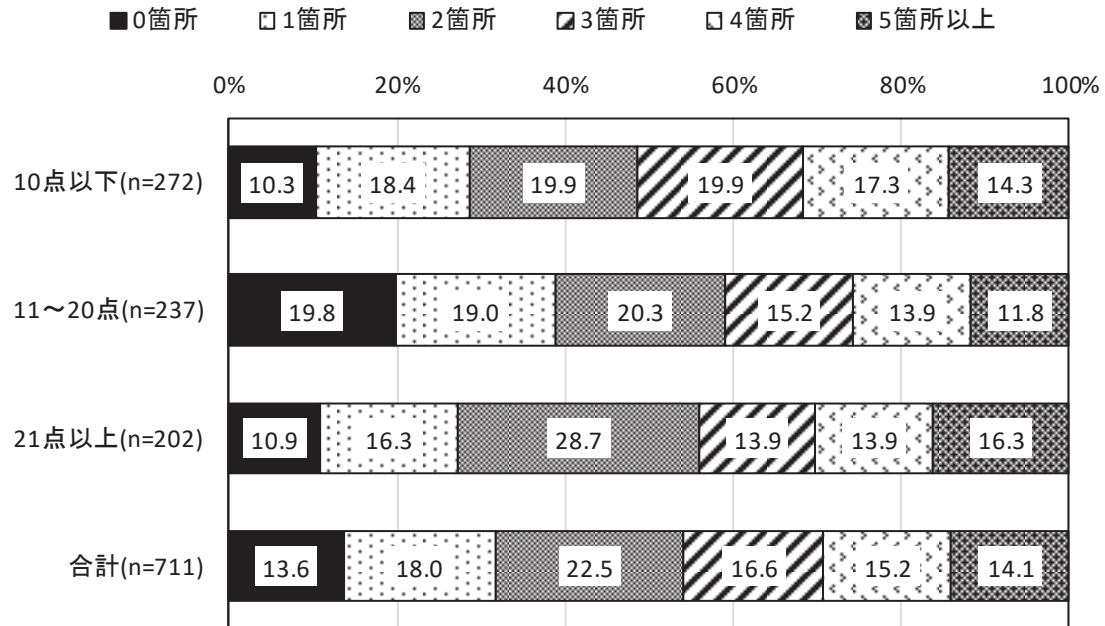


図 139 経済状況別に見た、利用したことがある場所の数

はく奪指標得点と「利用したことがある場所の数」について、有意な関連を示している ($p<0.05$)。図 139 で示されたように、「0 箇所」と回答する割合について、はく奪指標得点が「11～20 点」の群では 19.8%であり、3つの群の中でもっとも高い。「10 点以下」および「21 点以上」の群ではいずれも約 10%である。

知っているが利用しない理由_学童保育

問2-2. 問2-1で、その場所を「知っている」に○をつけたが、「利用したことがある」に○をつけなかった（利用したことがない）場合は、その理由を教えてください。（理由として近い数字すべてに○をつけてください）：学童保育

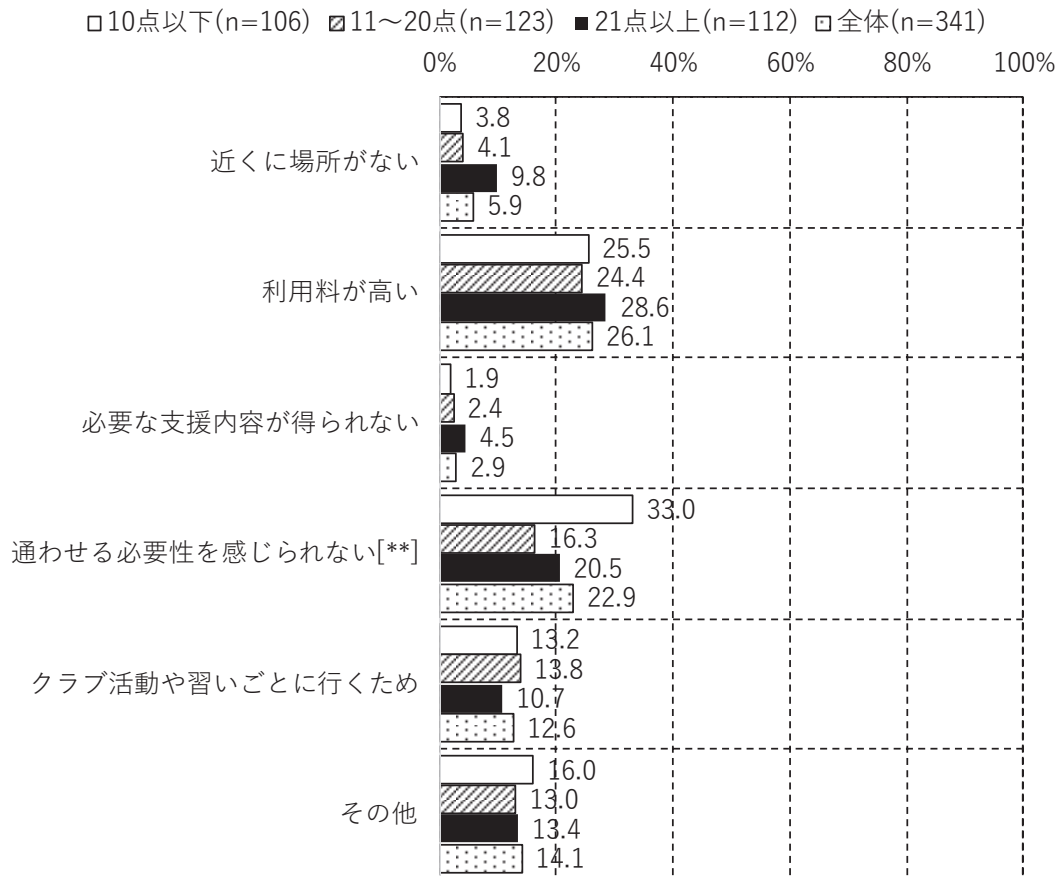


図 140 経済状況別に見た、知っているが利用しない理由_学童保育
 (対象は問2-1-Aで学童保育について「知っている」を選択し、かつ問2-1-Bで「利用したことがない」を選択した者)

※[**]: $p<0.01$,[*]: $p<0.05$

はく奪指標得点と「知っているが利用しない理由_学童保育」について、「通わせる必要性を感じられない」が有意な関連を示している ($p<0.01$)。図 140 で示されたように、「通わせる必要性を感じられない」と回答する割合について、はく奪指標得点が「10点以下」の群では 33.0%であり、3つの群の中でもっとも高い。「11~20点以下」の群では 16.3%であり、3つの群の中でもっとも低い。

知っているが利用しない理由_公民館

問2-2. 問2-1で、その場所を「知っている」に○をつけたが、「利用したことがある」に○をつけなかった（利用したことがない）場合は、その理由を教えてください。（理由として近い数字すべてに○をつけてください）：公民館

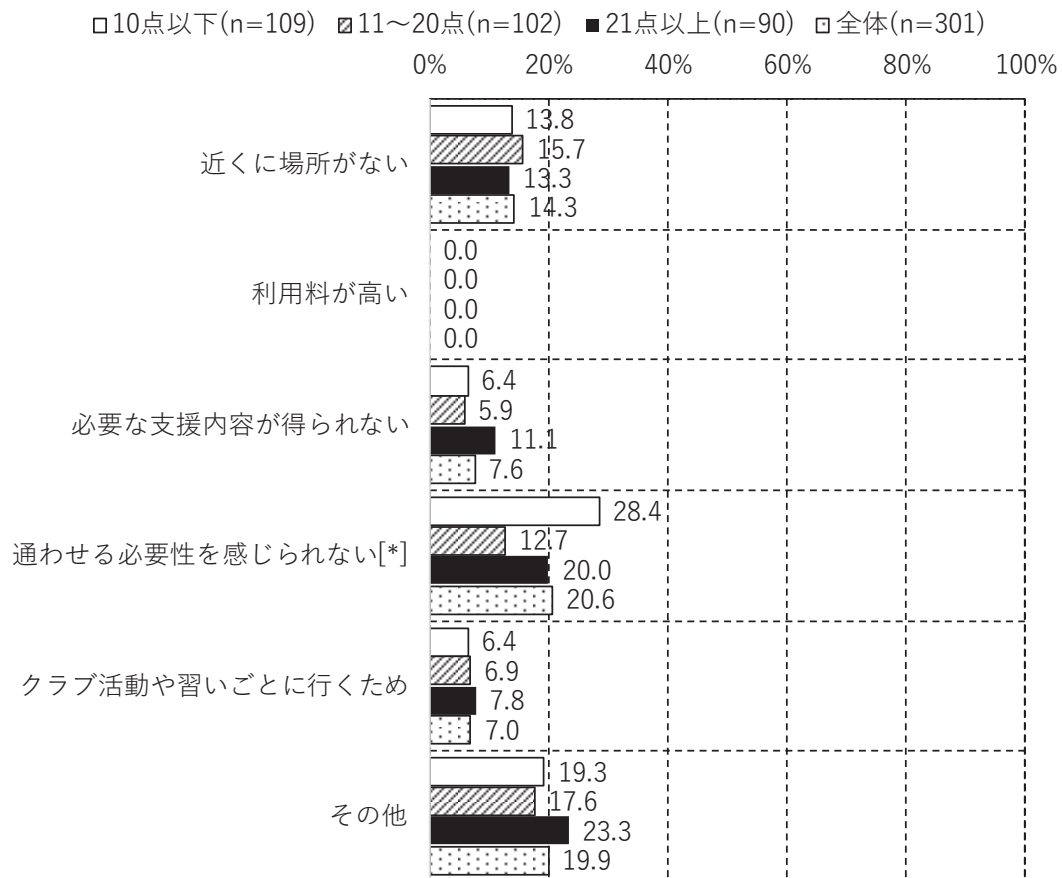


図 141 経済状況別に見た、知っているが利用しない理由_公民館

(対象は問2-1-Aで公民館について「知っている」を選択し、かつ問2-1-Bで「利用したことがない」を選択した者)

※[**]: $p<0.01$,[*]: $p<0.05$

はく奪指標得点と「知っているが利用しない理由_公民館」について、「通わせる必要性を感じられない」が有意な関連を示している ($p<0.05$)。図 141 で示されたように、「通わせる必要性を感じられない」と回答する割合について、はく奪指標得点が「10点以下」の群では 28.4%であり、3つの群の中でもっとも高い。「11~20点以下」の群では 12.7%であり、3つの群の中でもっとも低い。

知っているが利用しない理由_子どもの居場所

問2-2. 問2-1で、その場所を「知っている」に○をつけたが、「利用したことがある」に○をつけなかった（利用したことがない）場合は、その理由を教えてください。（理由として近い数字すべてに○をつけてください）：子どもの居場所

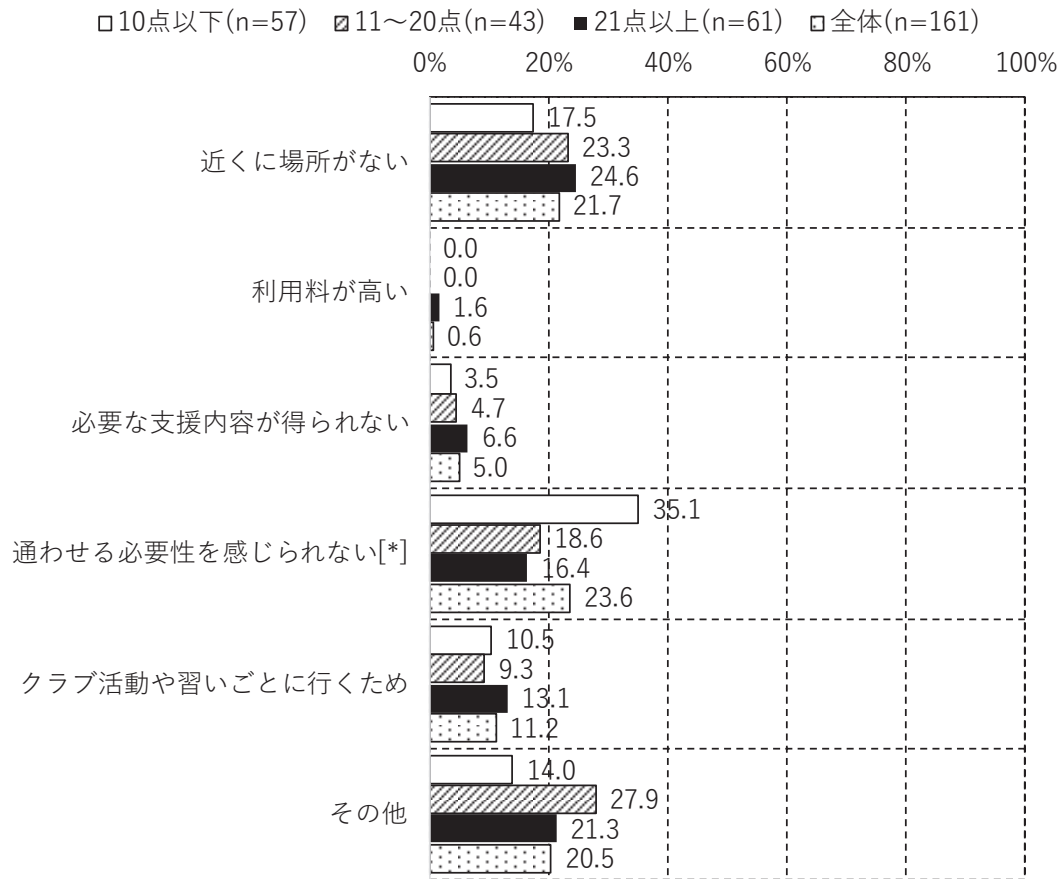


図 142 経済状況別に見た、知っているが利用しない理由_子どもの居場所
(対象は問2-1-Aで子どもの居場所について「知っている」を選択し、かつ問2-1-Bで「利用したことがない」を選択した者)

※[**]: $p<0.01$,[*]: $p<0.05$

はく奪指標得点と「知っているが利用しない理由_子どもの居場所」について、「通わせる必要性を感じられない」が有意な関連を示している ($p<0.05$)。図 142 で示されたように、「通わせる必要性を感じられない」と回答する割合について、はく奪指標得点が「10 点以下」の群では 35.1%であり、3つの群の中でもっとも高い。「21 点以上」の群では 16.4%であり、3つの群の中でもっとも低い。

知っているが利用しない理由_地域の集まり

問2-2. 問2-1で、その場所を「知っている」に○をつけたが、「利用したことがある」に○をつけなかった（利用したことがない）場合は、その理由を教えてください。（理由として近い数字すべてに○をつけてください）：地域の集まり

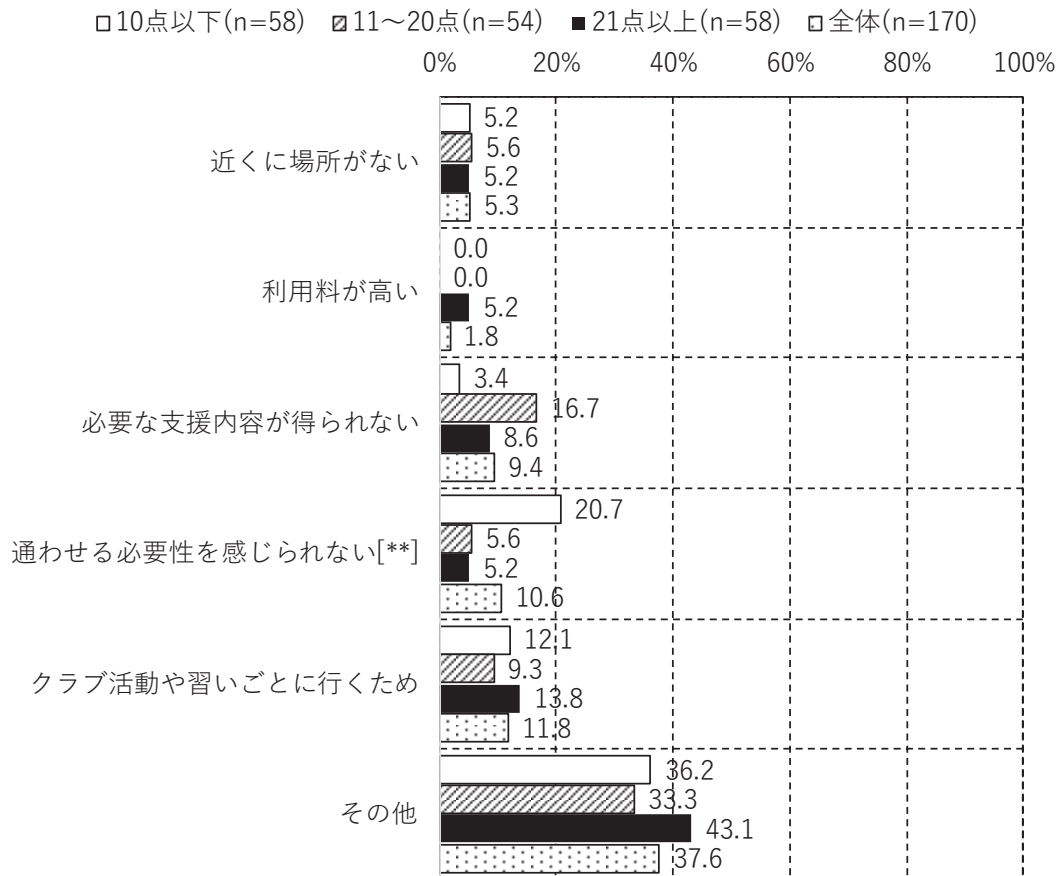


図 143 経済状況別に見た、知っているが利用しない理由_地域の集まり
 (対象は問2-1-Aで地域の集まりについて「知っている」を選択し、かつ問2-1-Bで「利用したことがない」を選択した者)

※**]: $p<0.01$,[*]: $p<0.05$

はく奪指標得点と「知っているが利用しない理由_地域の集まり」について、「通わせる必要性を感じられない」が有意な関連を示している ($p<0.01$)。図 143 で示されたように、「通わせる必要性を感じられない」と回答する割合について、はく奪指標得点が「10 点以下」の群では 20.7%であり、3つの群の中でもっとも高い。「21 点以上」の群では 5.2%であり、3つの群の中でもっとも低い。

市町村の支援員から支援を受けた経験

問 31. あなたは市町村の支援員から支援をうけたことがありますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

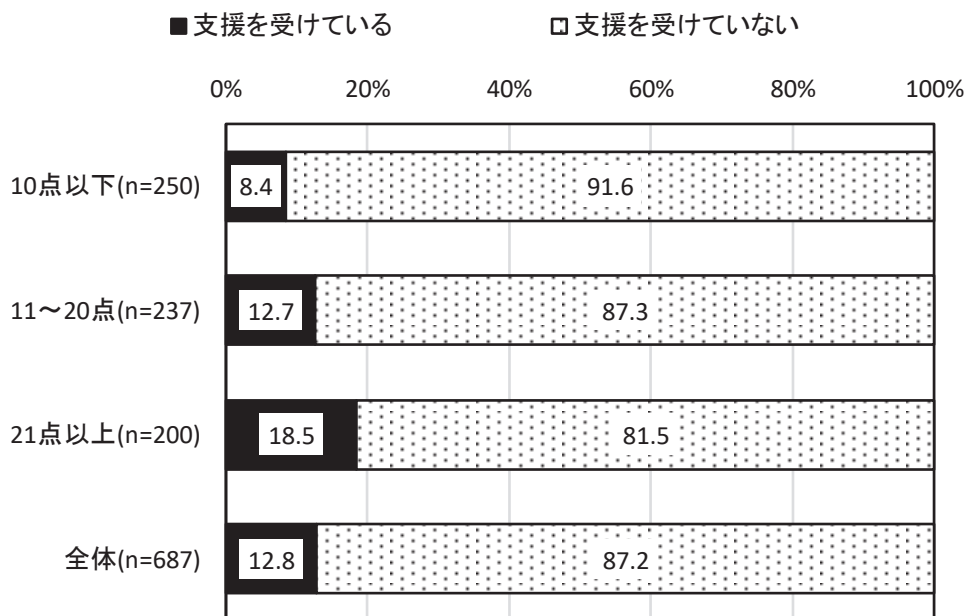


図 144 経済状況別に見た、市町村の支援員から支援を受けた経験

はく奪指標得点と「市町村の支援員から支援を受けた経験」について、有意な関連を示している ($p<0.01$)。図 144 で示されたように、「支援を受けている」と回答する割合について、はく奪指標得点が「21点以上」の群では 18.5%であり、3つの群の中でもっとも高い。「10点以下」の群では 8.4%であり、3つの群の中でもっとも低い。

4. 社会資源の利用状況別に見た分析結果

続いて、社会資源の利用箇所数や利用頻度、利用期間が保護者の子育て意識等に及ぼす効果について検討していく。クロス軸として用いた変数は以下のとおりである。なお、利用頻度と利用期間は保護者票に該当する設問がないため、子ども票の設問を使用している。

- 利用箇所数：保護者票問 2-1「利用したことのある場所の合計の数」を使用。
- 利用頻度：子ども票問 2-3「問 2-1 で「1 番よく行く場所」と答えた場所にどのくらい行っていますか」を使用。
- 利用期間：子ども票問 2-2「問 2-1 で「1 番よく行く場所」と答えた場所に、いつから行っていますか」を使用。

1) 社会資源の利用箇所数別に見た分析結果

(1) 子育て意識や進路観との関連

⇒ 利用箇所数 (問 2-1) × 子育て意識、進路観 (問 7-①～⑥、問 9)

社会資源の利用箇所数と子育て意識、進路感との間の関連性を調べるため、7 のクロス表を作成し、検定を行った。その中で、5%以内のレベルで有意な検定結果は 3 件であり、次のようになる。

読んだ本の感想の話し合い

問 7. あなたとお子さんとの関係について、お聞かせください。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

③ お子さんと読んだ本の感想を話し合ったりしていますか。<現在>

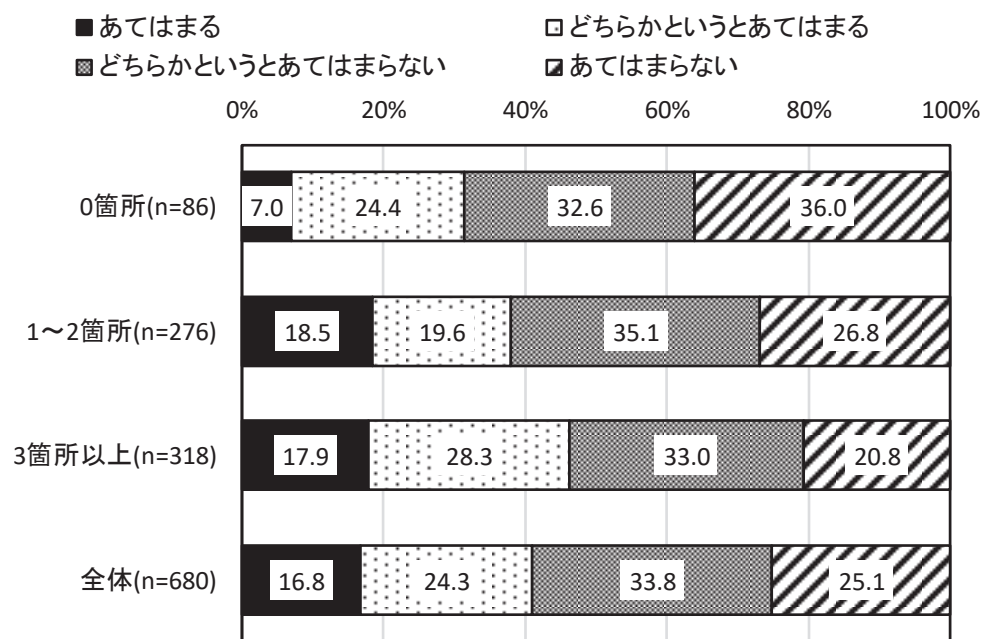


図 145 利用箇所数別に見た、読んだ本の感想の話し合い<現在>

利用箇所数と「読んだ本の感想の話し合い」について、有意な関連を示している ($p < 0.01$)。図 145 で示されたように、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答する割合について、利用箇所数が「3箇所以上」の群では 46.2%であり、3つの群の中でもっとも高い。利用箇所数が「0箇所」の群では 31.4%であり、3つの群の中でもっとも低い。

子どもと図書館に行く

問7. あなたとお子さんとの関係について、お聞かせください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

④ お子さんと一緒に図書館に行きますか<現在>

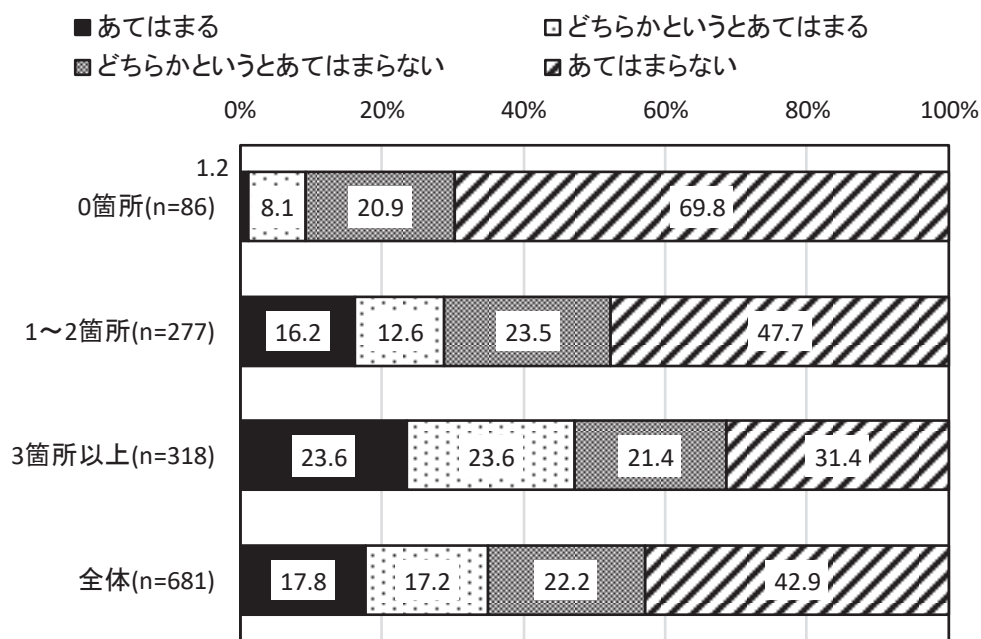


図 146 利用箇所数別に見た、子どもと図書館に行く<現在>

利用箇所数と「子どもと図書館に行く」について、有意な関連を示している ($p<0.01$)。図 146 で示されたように、「あてはまる」と回答する割合について、利用箇所数が「3 箇所以上」の群では 23.6%であり、3つの群の中でもっとも高い。利用箇所数が「0 箇所」の群では 1.2%であり、3つの群の中でもっとも低い。

子どもに受けさせたい教育

問9. あなたのご家庭では、お子さんにどの段階までの教育を受けさせたいですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください) <現在>

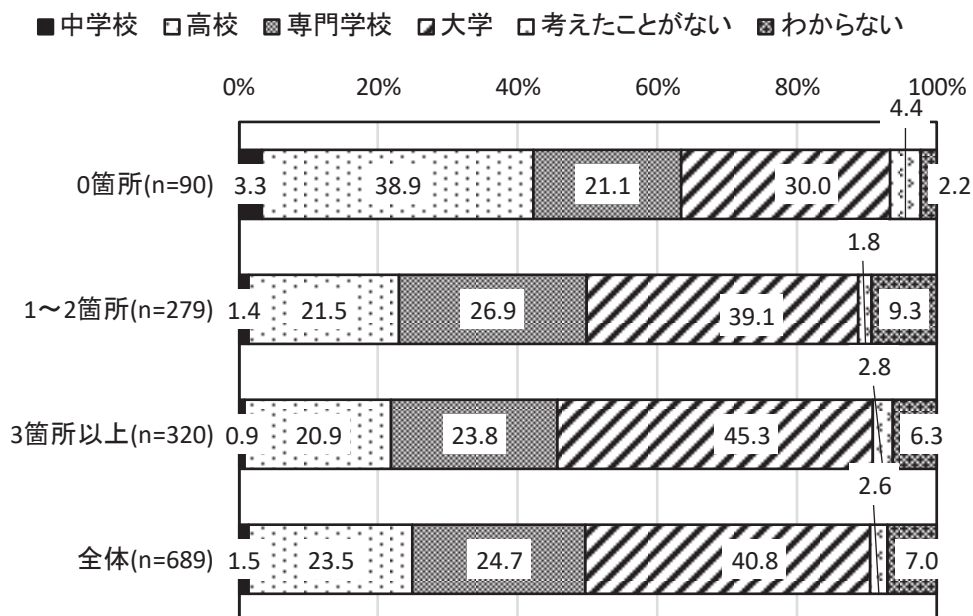


図 147 利用箇所数別に見た、子どもに受けさせたい教育<現在>

利用箇所数と「子どもに受けさせたい教育」について、有意な関連を示している ($p < 0.01$)。図 147 で示されたように、「大学」と回答する割合について、利用箇所数が「3 箇所以上」の群では 45.3%であり、3つの群の中でもっとも高い。利用箇所数が「0 箇所」の群では 30.0%であり、3つの群の中でもっとも低い。

(2) 育児負担感（虐待関連、孤立感、孤独、向社会性）との関連

⇒ 利用箇所数（問 2-1）×虐待関連（問 8-①～④）

⇒ 利用箇所数（問 2-1）×孤立感、孤独、向社会性（問 8-⑤～⑦）

社会資源の利用箇所数と育児負担感との間の関連性を調べるため、7 のクロス表を作成し、検定を行った。その中で、5%以内のレベルで有意な検定結果は 3 件であり、次のようになる。

不安やイライラなどの感情を子どもに向けたことがある

問 8. あなた自身のあなたのお子さんに対する子育てについてのお気持ちをお聞かせください。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

① 不安やイライラなどの感情を子どもに向けたことがある<現在>

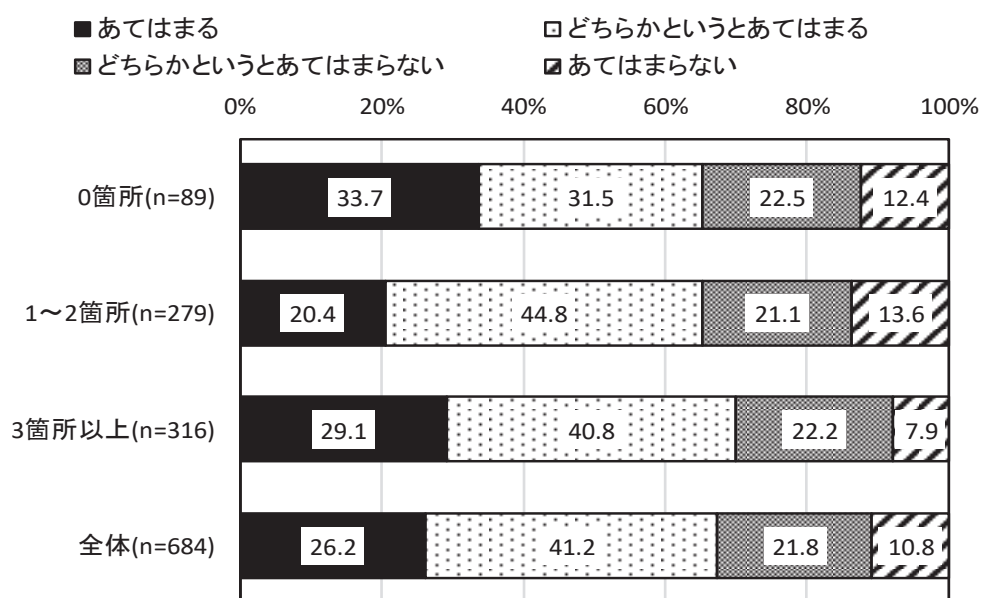


図 148 利用箇所数別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けたことがある<現在>

利用箇所数と「不安やイライラなどの感情を子どもに向けたことがある」について、有意な関連を示している ($p<0.05$)。図 148 で示されたように、「あてはまる」と回答する割合について、利用箇所数が「0 箇所」の群では 33.7%であり、3つの群の中でもっとも高い。利用箇所数が「1~2 箇所」の群では 20.4%であり、3つの群の中でもっとも低い。

近所でふだん世間話をしたり、お子さんの話をしたりする人が数人いる

問8. あなた自身のあなたのお子さんに対する子育てについてのお気持ちをお聞かせください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

⑤ 近所でふだん世間話をしたり、お子さんの話をしたりする人が数人いる<現在>

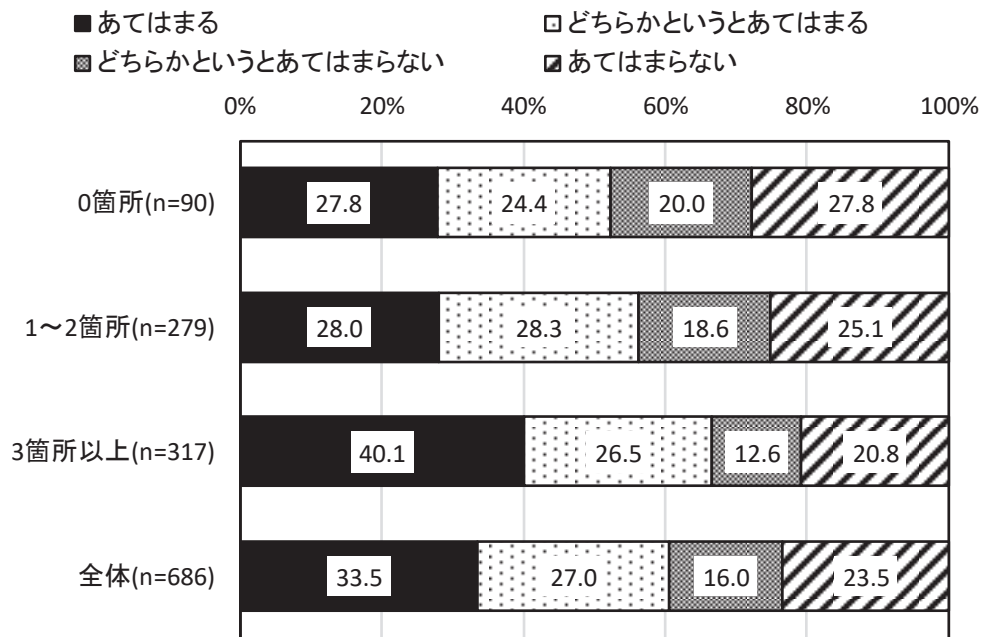


図 149 利用箇所数別に見た、近所でふだん世間話をしたり、お子さんの話をしたりする人が数人いる<現在>

利用箇所数と「近所でふだん世間話をしたり、お子さんの話をしたりする人が数人いる」について、有意な関連を示している ($p<0.05$)。図 149 で示されたように、「あてはまる」と回答する割合について、利用箇所数が「3 箇所以上」の群では 40.1%であり、3つの群の中でもっとも高い。利用箇所数が「0 箇所」の群では 27.8%であり、3つの群の中でもっとも低い。

育児や家庭のことについて、他の人とおしゃべりすることが好き

問8. あなた自身のあなたのお子さんに対する子育てについてのお気持ちをお聞かせください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

⑥ 育児や家庭のことについて、他の人とおしゃべりすることが好き<現在>

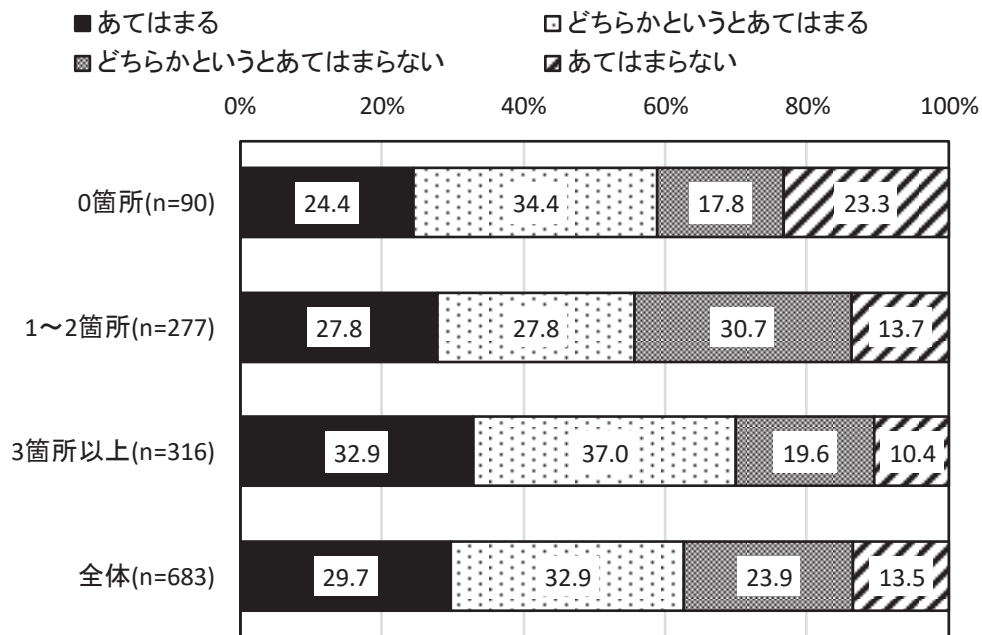


図 150 利用箇所数別に見た、育児や家庭のことについて、他の人とおしゃべりすることが好き<現在>

利用箇所数と「育児や家庭のことについて、他の人とおしゃべりすることが好き」について、有意な関連を示している ($p<0.01$)。図 150 で示されたように、「あてはまる」と回答する割合について、利用箇所数が「3 箇所以上」の群では 32.9%であり、3つの群の中でもっとも高い。利用箇所数が「0 箇所」の群では 24.4%であり、3つの群の中でもっとも低い。

2) 社会資源の利用頻度別に見た分析結果

(1) 子育て意識や進路観との関連

⇒ 利用頻度（子ども問 2-3）×子育て意識、進路観（問 7-①～⑥、問 9）

子どもの社会資源の利用頻度と保護者の子育て意識、進路感との間の関連性を調べるため、7 のクロス表を作成し、検定を行った。その中で、5%以内のレベルで有意な検定結果は1件であり、次のようになる。

子どもと図書館に行く

問 7. あなたとお子さんとの関係について、お聞かせください。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

④ お子さんと一緒に図書館に行きますか<現在>

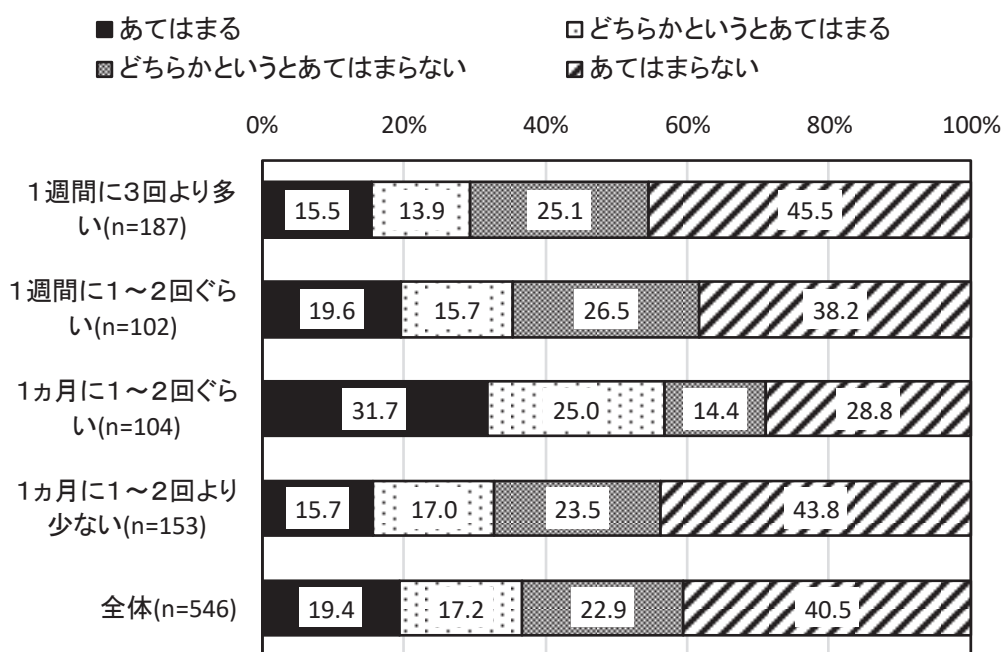


図 151 利用頻度別に見た、子どもと図書館に行く<現在>

子どもの社会資源の利用頻度と保護者の子育て意識を示す項目中、「子どもと図書館に行く」について、有意な関連を示している ($p<0.01$)。図 151 で示されたように、「あてはまる」と回答する割合について、利用頻度が「1 か月に 1～2 回ぐらい」の群では 31.7%であり、4つの群の中でもっとも高い。利用頻度が「1 週間に 3 回より多い」の群では 15.5%であり、4つの群の中でもっとも低い。

(2) 育児負担感（虐待関連、孤立感、孤独、向社会性）との関連

⇒ 利用頻度（子ども問 2-3）×虐待関連（問 8-①～④）

⇒ 利用頻度（子ども問 2-3）×孤立感、孤独、向社会性（問 8-⑤～⑦）

子どもの社会資源の利用頻度と保護者の育児負担感との間の関連性を調べるため、7 のクロス表を作成し、検定を行った。その中で、5%以内のレベルで有意な検定結果は 1 件であり、次のようになる。

自分一人で育てているという圧迫感を感じる

問 8. あなた自身のあなたのお子さんに対する子育てについてのお気持ちをお聞かせください。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

② 自分一人で育てているという圧迫感を感じる<現在>

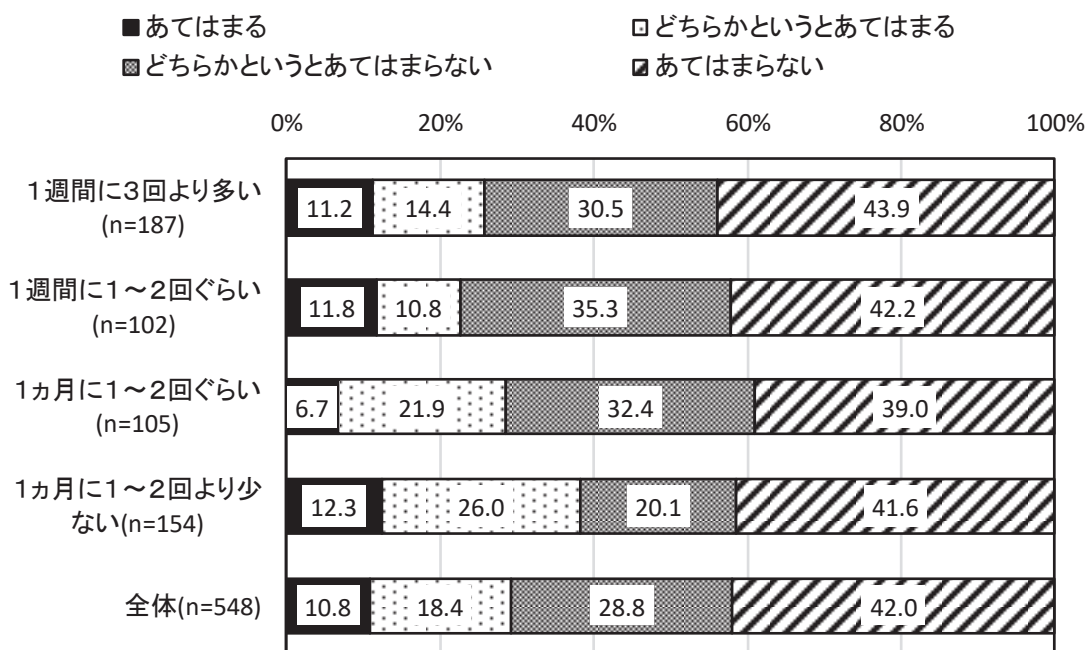


図 152 利用頻度別に見た、自分一人で育てているという圧迫感を感じる<現在>

子どもの社会資源の利用頻度と保護者の育児負担感を示す項目中、「自分一人で育てているという圧迫感を感じる」について、有意な関連を示している ($p < 0.05$)。図 152 で示されたように、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」をあわせた割合について、利用頻度が「1カ月に1～2回より少ない」の群では 38.3%であり、4つの群の中でもっとも高い。利用頻度が「1週間に1～2回ぐらい」の群では 22.6%であり、4つの群の中でもっとも低い。

3) 社会資源の利用期間別に見た分析結果

(1) 子育て意識や進路観との関連

⇒ 利用期間（子ども問 2-2）×子育て意識、進路観（問 7-①～⑥、問 9）

子どもの社会資源の利用期間と保護者の子育て意識、進路感との間の関連性を調べるため、7 のクロス表を作成し、検定を行った。その中で、5%以内のレベルで有意な検定結果は1件であり、次のようになる。

子どもと図書館に行く

問7. あなたとお子さんとの関係について、お聞かせください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

③ お子さんと一緒に図書館に行きますか<現在>

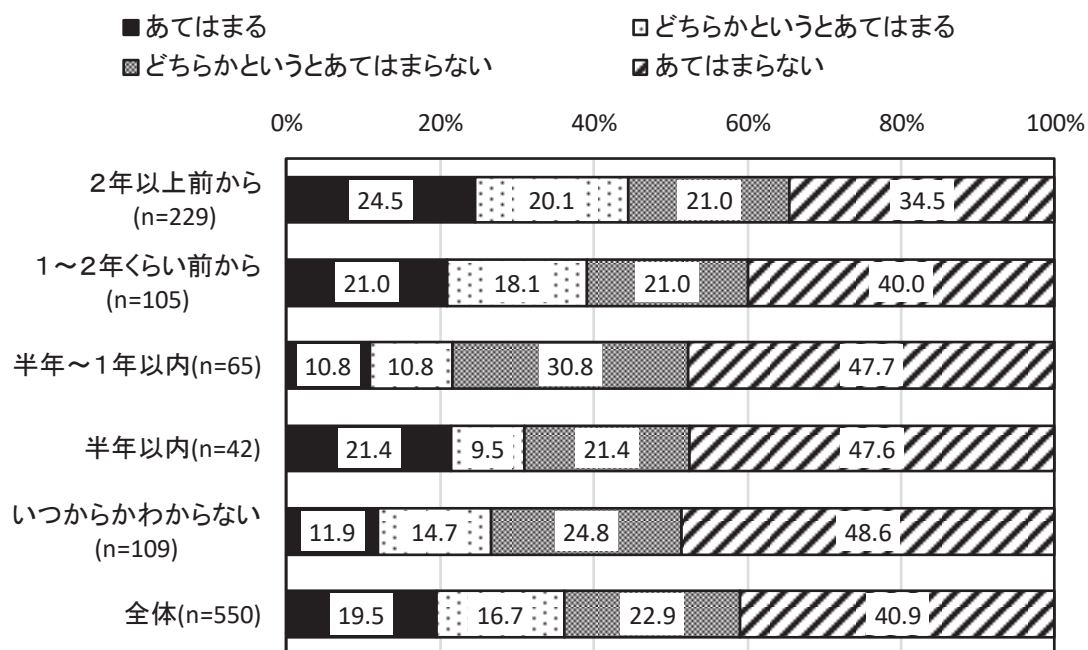


図 153 利用期間別に見た、子どもと図書館に行く<現在>

子どもの社会資源の利用期間と保護者の子育て意識を示す項目中、「子どもと図書館に行く」について、有意な関連を示している ($p<0.05$)。図 153 で示されたように、「あてはまる」と回答する割合について、利用期間が「2年以上前から」の群では24.5%であり、5つの群の中でもっとも高い。利用期間が「半年～1年以内」の群では10.8%であり、5つの群の中でもっとも低い。

(2) 育児負担感（虐待関連、孤立感、孤独、向社会性）との関連

⇒ 利用期間（子ども問 2-2）×虐待関連（問 8-①～④）

⇒ 利用期間（子ども問 2-2）×孤立感、孤独、向社会性（問 8-⑤～⑦）

子どもの社会資源の利用期間と保護者の育児負担感との間の関連性を調べるため、7 のクロス表を作成し、検定を行った。その中で、5%以内のレベルで有意な検定結果は 0 件であり、その関連性を表す項目は発見できなかった。